



UX300h

取扱説明書

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた)

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知つておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
排気ガスに対する注意	38
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	39
チャイルドシート	40
1-3. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの特徴	53
ハイブリッドシステムの注意	57
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	62
オートアラーム	63

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	68
計器類	73
マルチインフォメーションディスプレイ	80
ヘッドアップディスプレイ	82
ディスプレイの表示内容	86

3 運転する前に

3-1. キー	
キー	96
デジタルキー	100

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	103
バックドア	108
スマートエントリー＆スタートシステム	123

3-3. シートの調整	
フロントシート	129
リヤシート	130
ヘッドレスト	131

3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	134
インナーミラー	135
ドアミラー	136

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉	
パワーウィンドウ	139
ムーンルーフ	142

3-6. 好み設定	
パワーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能	145
マイセッティング	150

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	154
荷物を積むときの注意	160

4-2. 運転のしかた	
パワー（イグニッション）スイッチ	162
EV ドライブモード	166
トランスマッision	168
方向指示レバー	174
パーキングブレーキ	175
ブレーキホールド	177
ASC（アクティブサウンドコントロール）	179

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	
ランプスイッチ	181

AHS (アダプティブハイビームシステム)	184	ドライブモードセレクトスイッチ	290
AHB (オートマチックハイビーム)	187	運転を補助する装置	292
フォグランプスイッチ	190	4-6. 運転のアドバイス	
ワイパー & ウオッシャー (フロント)	191	ハイブリッド車運転のアドバイス	299
ワイパー & ウオッシャー (リヤ)	195	寒冷時の運転	301
4-4. 給油のしかた		5 室内装備・機能	
給油口の開け方	197	5-1. レクサスクライメイトコンシェルジュ	
4-5. 運転支援装置について		レクサスクライメイトコンシェルジュ	306
ソフトウェアアップデートを確認する (Lexus Safety System + 装着車)	199	5-2. エアコンの使い方	
Lexus Safety System +	202	オートエアコン	307
PCS (プリクラッシュセーフティ)	208	ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター	315
LTA (レントレーシングアシスト)	217	5-3. 室内灯のつけ方	
LDA (レーンディバーチャーラー)	221	室内灯一覧	318
PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	226	5-4. 収納装備	
発進遅れ告知機能	231	収納装備一覧	321
RSA (ロードサインアシスト)	233	ラゲージルーム内装備	324
レーダークルーズコントロール	236	5-5. その他の室内装備の使い方	
クルーズコントロール	245	その他の室内装備	331
ドライバー異常時対応システム	248	アクセサリーコンセント (AC100V・1500W)	342
ITS Connect	250	非常時給電システム	349
BSM (ブラインドスポットモニター)	256	6 お手入れのしかた	
後方車両への接近警報	261	6-1. お手入れのしかた	
安心降車アシスト	263	外装の手入れ	360
クリアランスソナー	267	内装の手入れ	364
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	273	6-2. 簡単な点検・部品交換	
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	277	ボンネット	367
パーキングサポートブレーキ (前後方静止物)	281	ガレージジャッキ	369
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	283	ウォッシャー液の補充	370
プラスサポート (販売店装着オプション)	285	タイヤについて	371

エアコンフィルターの交換	382	8-2. カスタマイズ機能	
駆動用電池冷却用吸入口の清掃	384	ユーザーカスタマイズ機能	465
電子キーの電池交換	387	8-3. 初期設定	
ヒューズの点検・交換	389	初期設定が必要な項目	482
電球（バルブ）の交換	391	8-4. フリー／オープンソフトウェア	
		フリー／オープンソフトウェア情報	483

7

万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	396
非常点滅灯（ハザードランプ）	397
発炎筒	397
車両を緊急停止するには	398
水没・冠水したときは	399
車中泊が必要なときは	400

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	401
警告灯がついたときは	406
警告メッセージが表示されたときは	415
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）	423
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）	436
パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）	442
ハイブリッドシステムが始動できないときは	443
キーをなくしたときは	445
給油扉が開かないときは	445
電子キーが正常に働かないときは	446
補機バッテリーがあがつたときは	448
オーバーヒートしたときは	453
スタックしたときは	457

8

車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）	460
------------------------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	486
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	488
アルファベット順さくいん	490
五十音順さくいん	492

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないで

ください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

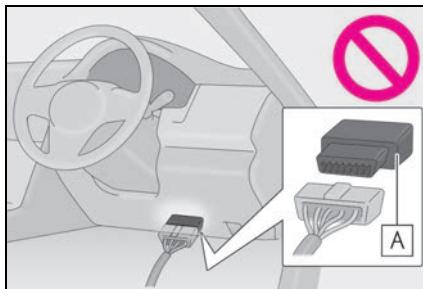
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

レクサス純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してレクサスは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター**A** などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ

※1

※1 グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）

- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）

- 運転支援システムのセンサーのデータ
画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）※2

※2 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはレクサス販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Lexus Safety System +によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Lexus Safety System +により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Lexus Safety System +によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、G-Link ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することができます。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することができます。

● お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

● 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

● トヨタ自動車が訴訟で使用する場合

● 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Lexus Safety System +によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することができます。

● お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。レクサス以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がレクサスに代わり、レクサスから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。

● 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品

質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

● 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合

● 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合

● 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合

● レクサスと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、レクサス販売店にて、消去することができます。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能ですが。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Lexus Safety System +によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My LEXUS より停止いただけます。詳細は、My LEXUS のマイページをご覧ください。

G-Link によるデータの取扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー (EDR) が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態 (SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など) が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・車両の各システムの作動状況
- ・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することができます。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・レクサスが訴訟で使用する場合
- ただし、レクサスは
- ・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
 - ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System +
- ABS (アンチロックブレーキシステム)
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来

の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

レクサス販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.285）の機能が利用可能になります。詳細については、レクサス販売店にお問い合わせください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウエーブの登録商標です。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。
ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにレクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL : <https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。

高電圧部品に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

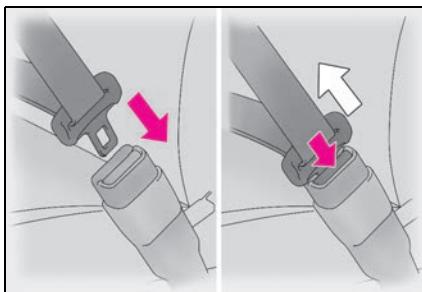
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

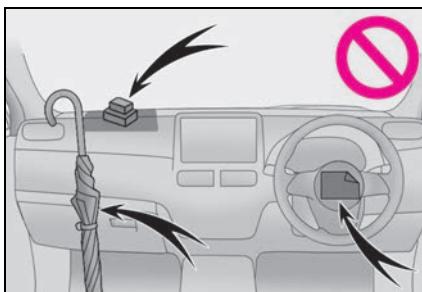
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、 お客様自身と周囲の人々 が死亡、または重大な傷 害につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	注意： お守りいただかないと、 車や装備品の故障や破損 につながるおそれがあ ることを説明していま す。
1 2 3...	操作・作業の手順を示 しています。番号の順に 従ってください。
	機能や操作方法の説明以 外で知っておいていただき たい、知っておいておくと便利なこ とを説明していま す。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す、まわすなど、してい ただきたい操作を示してい ます。
	フタが開くなど、操作後の 作動を示しています。

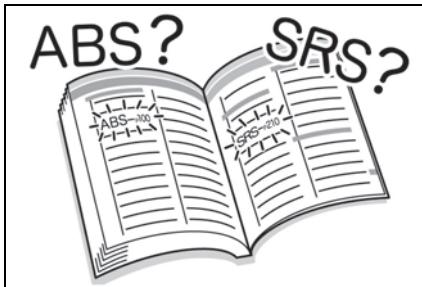


記号	意味
	説明の対象となるもの・場 所を示しています。
	してはいけません、このよ うにしないでください、こ のようなことを起こさない でくださいという意味で す。

検索のしかた

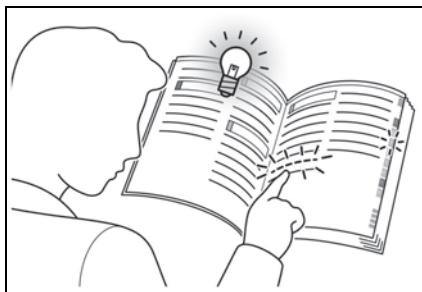
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.492
- アルファベット順さくいん：→P.490



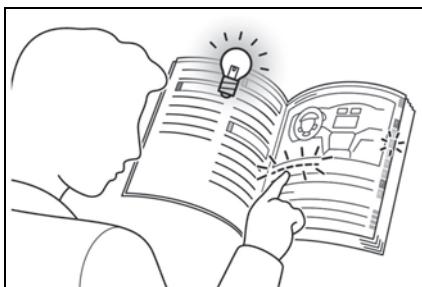
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.14



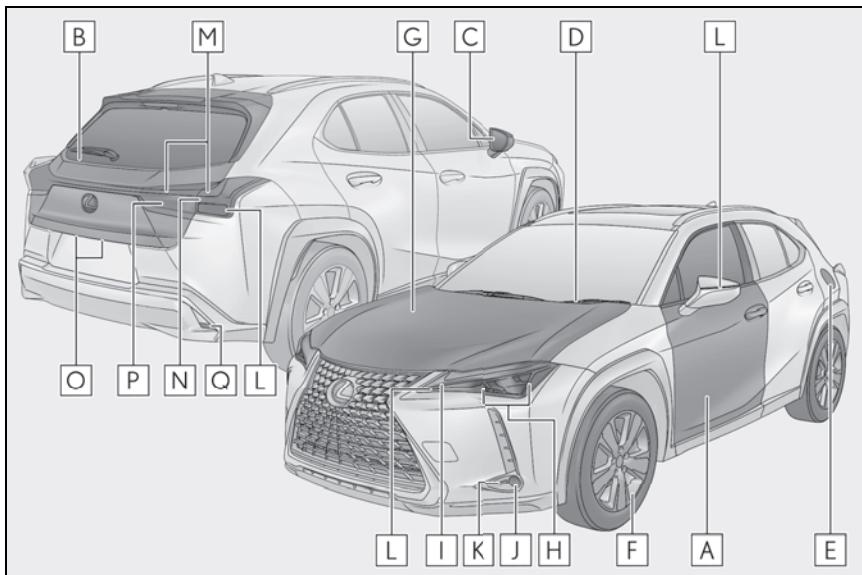
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
→P.486
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
→P.488



イラスト目次

■ 外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。

A	ドア.....	P.103
	施錠／解錠.....	P.103, 106
	ドアガラスの開閉	P.139
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.446
	警告メッセージ	P.415
B	バックドア	P.108
	施錠／解錠	P.110
	開け方／閉め方	P.110
	パワーバックドア★	P.111
	警告メッセージ	P.415
C	ドアミラー	P.136
	鏡面の角度調整	P.136
	ミラーの格納	P.137
	調整位置の登録★	P.146

曇りを取る（ミラーヒーター）	P.308
D ワイパー	P.191
冬季の注意	P.301
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★	P.308
洗車時の注意	P.362
E 給油口	P.197
給油方法	P.197
燃料の種類・燃料タンク容量	P.460
F タイヤ	P.371
サイズ・空気圧	P.464
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.301
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム	P.371
パンク時の対処	P.423, 436, 442
G ボンネット	P.367
開け方	P.367
エンジンオイル	P.460
オーバーヒート時の対処	P.453
警告メッセージ	P.415

走行に関わる外装の電球（バルブ）

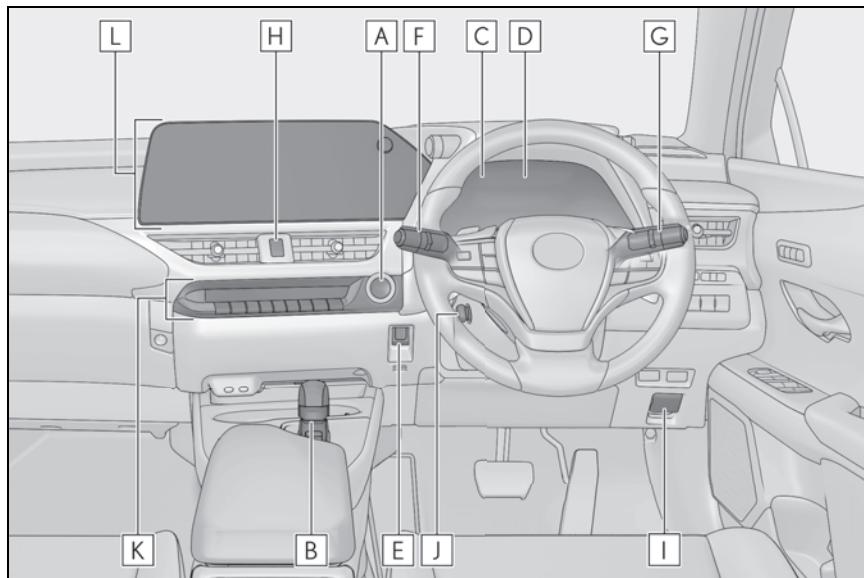
（交換要領：P.391, ワット数：P.464）

H ヘッドライト	P.181
I 車幅灯・デイタイムランニングランプ	P.181
J フロントフォグランプ	P.190
K コーナーリングランプ	P.183
L 方向指示灯	P.174
M 尾灯	P.181
N 制動灯	
緊急ブレーキシグナル	P.293

■ 0	番号灯	P.181
■ P	リヤフォグランプ★	P.190
■ Q	後退灯		
	シフトポジションを R にする	P.168

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



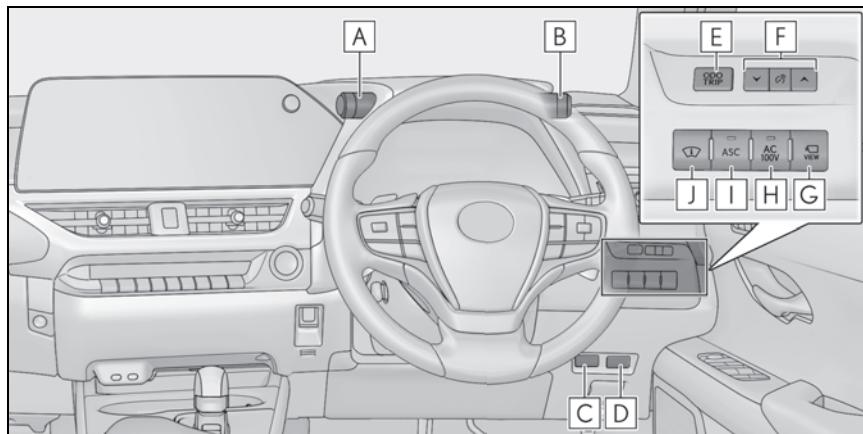
A パワースイッチ	P.162
ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ	P.162, 165
ハイブリッドシステムの緊急停止	P.398
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処	P.443
警告メッセージ	P.415
B シフトレバー	P.168
シフトポジションの切りかえ	P.169
けん引時の注意	P.401
C メーター	P.73
見方・明るさの調整	P.73, 79
警告灯／表示灯	P.68
警告灯点灯時の対処	P.406
D マルチインフォメーションディスプレイ	P.80
表示内容	P.80
エネルギーモニター	P.89

警告メッセージ表示時の対処	P.415
E パーキングブレーキスイッチ	P.175
かける・解除する	P.175
冬季の注意	P.302
警告ブザー・警告メッセージ	P.406, 415
F ワイパー＆ウォッシャースイッチ (フロント)	P.191
ワイパー＆ウォッシャースイッチ (リヤ)	P.195
使い方	P.191, 195
ウォッシャー液の補充	P.370
ヘッドランプクリーナー★	P.191
警告メッセージ	P.415
G 方向指示レバー	P.174
ランプスイッチ	P.181
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・デイタイムランニングランプ	P.181
AHS (アダプティブハイビームシステム) ★	P.184
AHB (オートマチックハイビーム)	P.187
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★	P.190
H 非常点滅灯スイッチ	P.397
I ボンネット解除レバー	P.367
J ハンドル位置調整スイッチ	P.134
調整方法	P.134
調整位置の登録★	P.145
K オートエアコン	P.307
操作方法	P.307
リヤウインドウガラスの曇り取り (リヤウインドウデフッガー) ..	P.308
L オーディオ※	
音楽を聴く※	

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

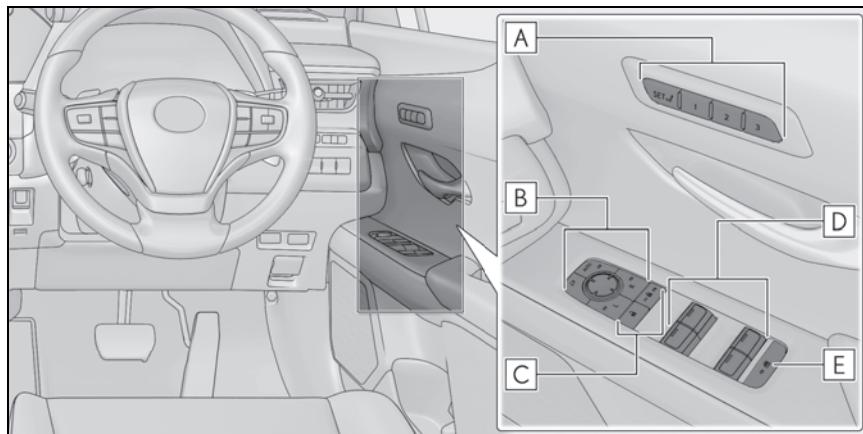
■スイッチ類



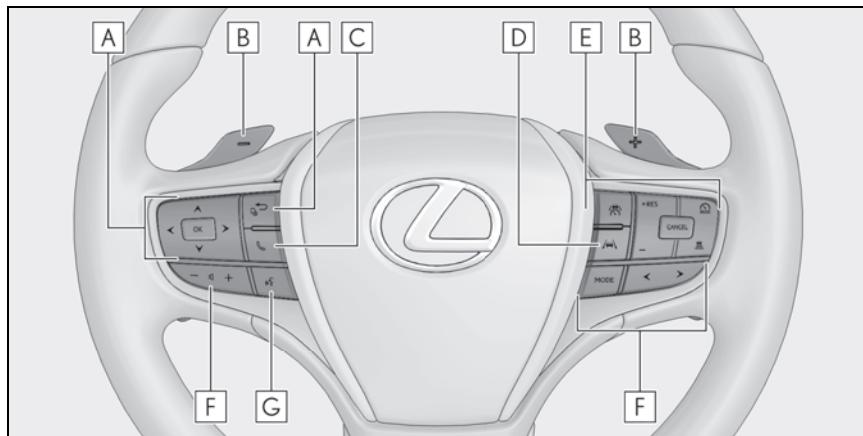
- A** ドライブモードセレクトスイッチ P.290
- B** VSC (ビークルスタビリティコントロール) OFF スイッチ P.294
- C** 給油口オープナースイッチ P.198
- D** パワーバックドアスイッチ★ P.111
- E** ODO TRIP スイッチ P.79
- F** インストルメントパネル照度調整スイッチ P.79
- G** カメラスイッチ★※
- H** AC100V スイッチ★ P.342, 349
- I** ASC (アクティブサウンドコントロール) スイッチ★ P.179
- J** ヘッドアップディスプレイスイッチ★ P.82

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



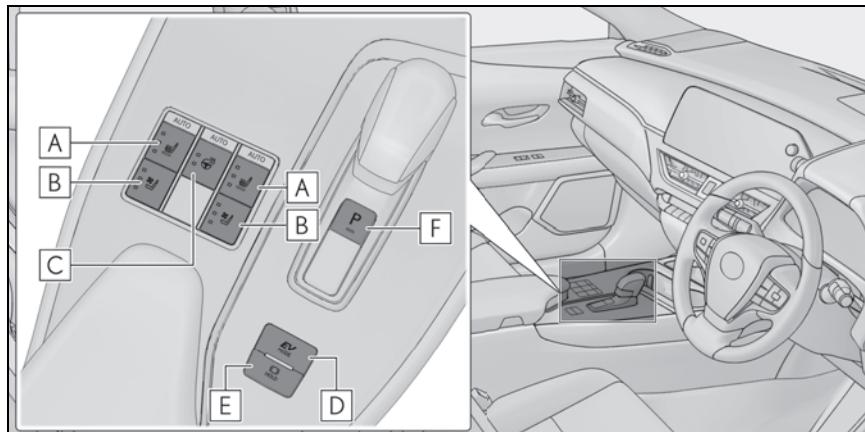
- A** ポジションメモリースイッチ P.146
- B** ドアミラースイッチ P.136
- C** ドアロックスイッチ P.106
- D** パワーウィンドウスイッチ P.139
- E** ウィンドウロックスイッチ P.141



- A** メーター操作スイッチ P.86
- B** パドルシフトスイッチ P.172, 173
- C** 電話スイッチ※

- D** LTA (レーントレーシングアシスト) スイッチ P.217
- E** クルーズコントロールスイッチ
 - レーダークルーズコントロール P.236
- F** オーディオスイッチ *
 - トーカススイッチ *

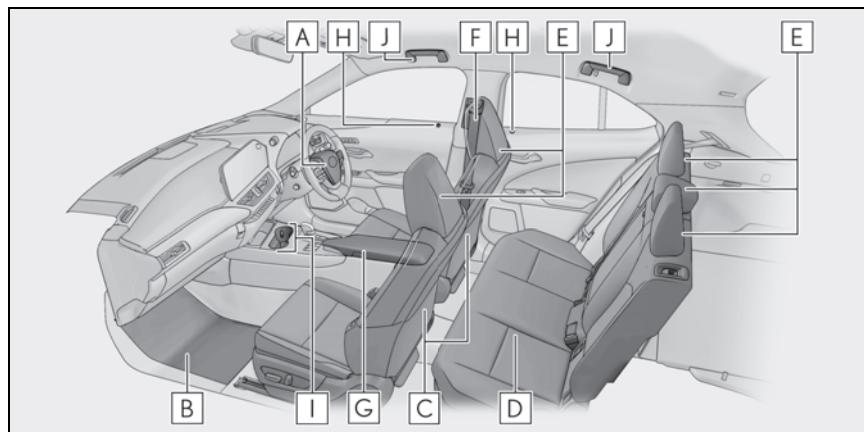
* 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** シートヒータースイッチ P.315
- B** シートベンチレータースイッチ★ P.316
- C** ステアリングヒータースイッチ P.315
- D** EV ドライブモードスイッチ P.166
- E** ブレーキホールドスイッチ P.177
- F** P ポジションスイッチ P.169

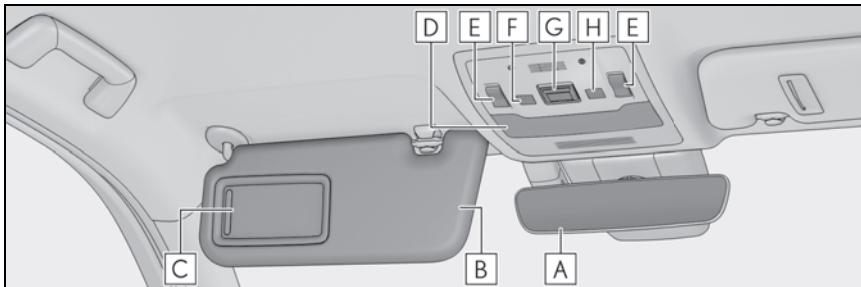
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



- A** SRS エアバッグ P.32
- B** フロアマット P.26
- C** フロントシート P.129
- D** リヤシート P.130
- E** ヘッドレスト P.131
- F** シートベルト P.29
- G** コンソールボックス P.322
- H** ドアロックボタン P.106
- I** カップホルダー P.323
- J** アシストグリップ P.341

■ 天井



- A** インナーミラー P.135
- B** サンバイザー※1 P.331
- C** バニティミラー P.331
- D** インテリアランプ※2
パーソナルランプ P.319
P.320
- E** ムーンルーフスイッチ★ P.142
- F** 侵入センサー OFF スイッチ P.65
- G** ヘルプネットスイッチパネル※3
- H** インテリアランプドア連動スイッチ P.319

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.42)



※2 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
排気ガスに対する注意	38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	39
チャイルドシート	40

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴	53
ハイブリッドシステムの注意	57

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	62
オートアラーム	63

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

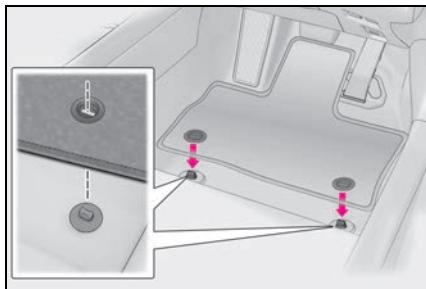
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

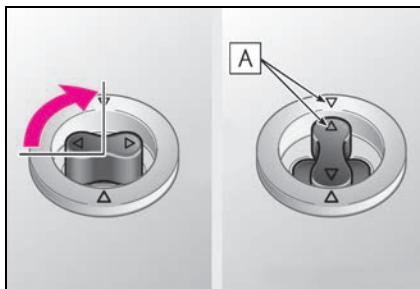
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



※ △マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

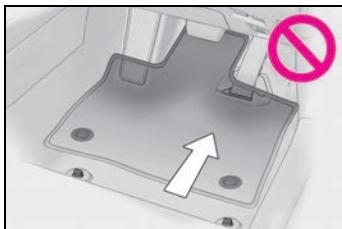
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わずスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

- 運転席にフロアマットを敷くときは
 - レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
 - 運転席専用のフロアマットを使用する
 - 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
 - 他のフロアマット類と重ねて使用しない
 - フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック(クリップ)で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

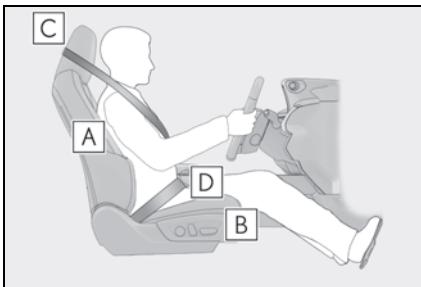


- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→P.129)

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→P.129)

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→P.131)

D シートベルトを正しく着用する
(→P.30)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドラレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを見かねいでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
(→P.40)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.135, 136)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

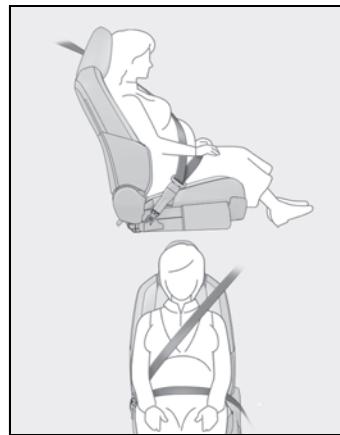
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の
人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシート
ベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体
を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用し
ない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に
密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。 (→P.30) 通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→P.50

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかつたり、肩からはずれないようしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る



- ねじれがないようにする

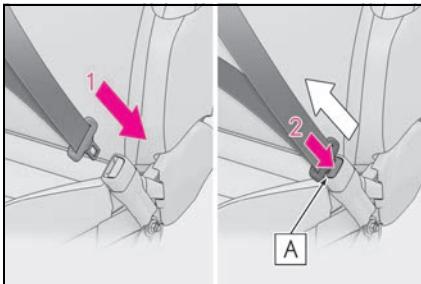
□ 知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持つた人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。 (→P.40)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。 (→P.29)

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“力チッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

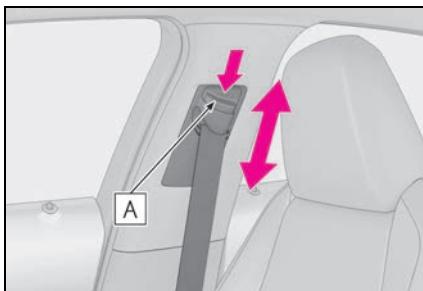
□ 知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

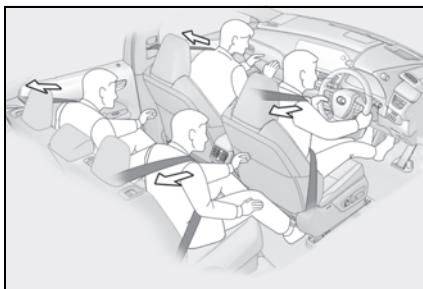
解除ボタン**A**を押しながら、アジャスターを上下に動かして調節する
“カチッ”と音がして固定されるとここまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連續して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

PCS（プリクラッシュセーフティ）によって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

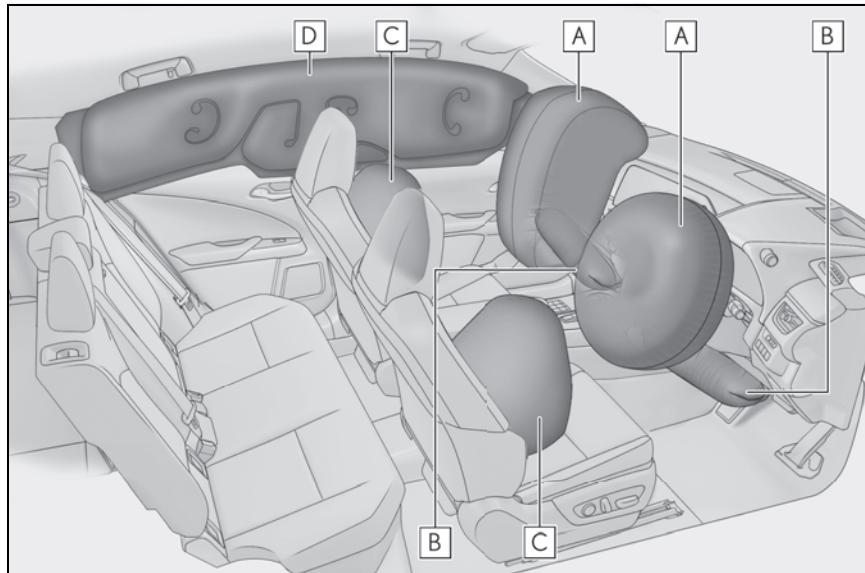
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたとき
にふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩
和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



- A** フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エア
バッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和
- B** SRS サイドエアバッグ
運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助
- C** SRS サイドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和
- D** SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

□ 知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.60）
- すべてのドアが解錠されます。（→P.105）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.293）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.319）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.397）

■ 緊急通報について

- G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 車両に一定以上の衝撃を受けた
- オペレーターからの呼びかけに応答がなくとも、緊急車両などを手配することができます。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ~ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
 - ・ SRS ニーエアバッグ
- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

■ 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。

- ・ シートベルトプリテンショナー

- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ~ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

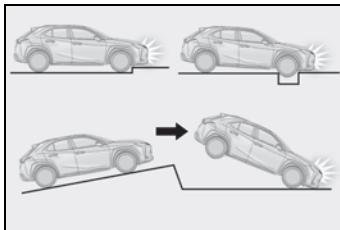
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

- 車両側面のどちらかに衝突があった場合でも、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

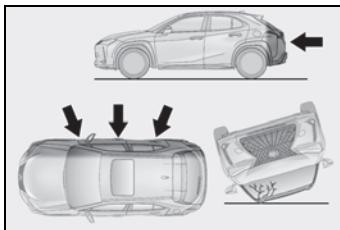
- 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
 - ・ フロント SRS エアバッグ

- ・ SRS ニーエアバッグ
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

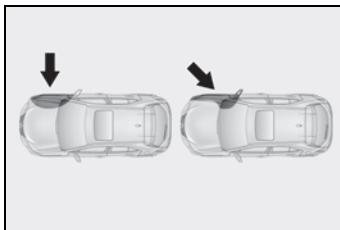


■ SRS エアバッグが作動しないとき

- 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



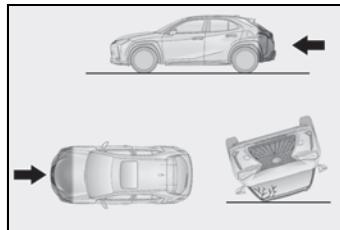
- 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



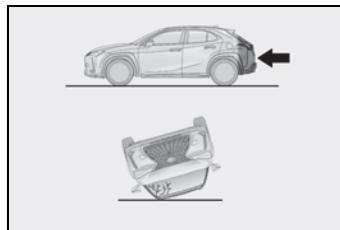
- 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面から

の衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



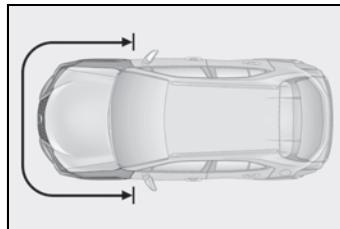
- 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

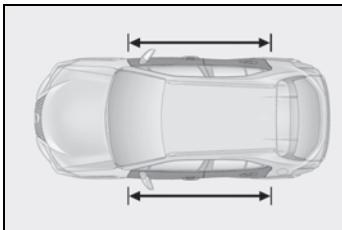
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかつたが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかつたが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突

したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

- ・SRS サイドエアバッグ
- ・SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



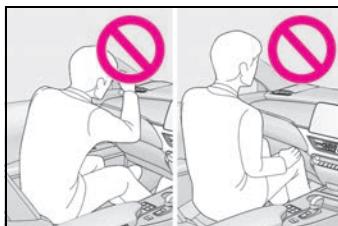
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

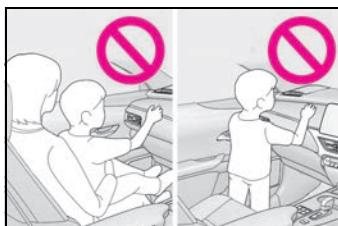
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートができるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしつかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしつかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→P.40）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



⚠ 警告

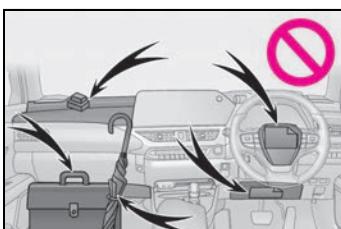
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



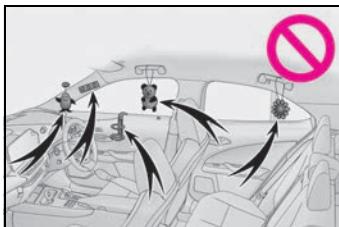
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.429）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ハンドル
 - ・インストルメントパネル
 - ・ダッシュボード
 - ・シート
 - ・シート表皮
 - ・フロントピラー
 - ・センターピラー
 - ・リヤピラー
 - ・ルーフサイドレール
 - ・フロントドアパネル
 - ・フロントドアトリム
 - ・フロントドアスピーカー

- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・フロントフェンダー
 - ・フロントバンパー
 - ・車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・グリルガード
 - ・除雪装置
 - ・ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。

●長時間、ハイブリッドシステムを作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入つてこないことを確認してください。

●降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.40）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗ることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.107）・ウインドウロックスイッチ（→P.141）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まるおそれがある装備類を操作させないでください。



■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.40 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。
レクサス販売店で購入することができます。

目次

知つておいていただきたいこと :

P.40

チャイルドシートを使用するときは : P.41

シート位置別チャイルドシートの適合性について : P.44

チャイルドシートの取り付け方法 : P.48

- ・ シートベルトで固定する : P.49

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する : P.51
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する : P.52

知つておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。



警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないで、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- **チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.44）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用すると きは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

- クッション前端をいちばん下に下げる

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害によ
よぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

● やむを得ず 助手席にチャイルドシート
を取り付ける場合には、チャイルドシート
をうしろ向きに取り付けな
いでください。

うしろ向きに取り付けていると、事
故などで助手席 SRS エアバッグがふ
くらんだとき、重大な傷害によ
よぶか、最悪の場合死亡につながるお
それがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容
のラベルが貼られています。併せて
参照してください。

⚠ 警告



⚠ 警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げる取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



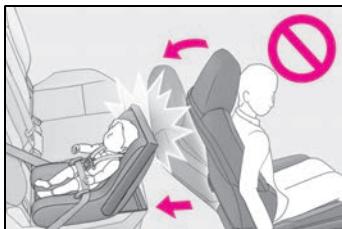
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠ 警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.45）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.47）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

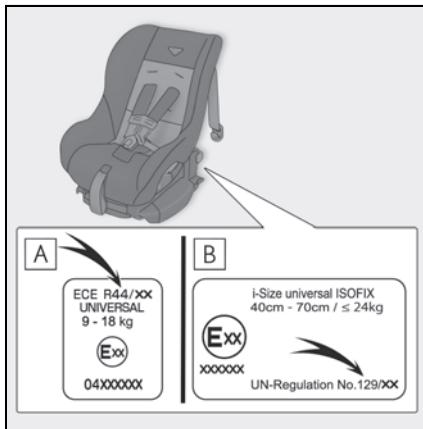
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44^{*1} または、UN

(ECE) R129^{*1} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN (ECE) R44 認可マーク^{*2}
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN (ECE) R129 認可マーク^{*2}

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

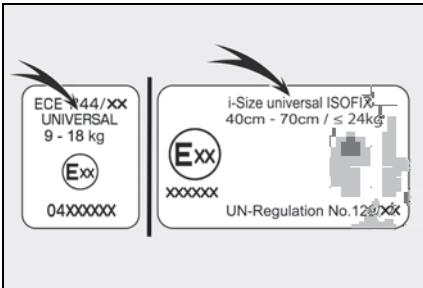
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認

頂くか、または販売業者へ確認してください。

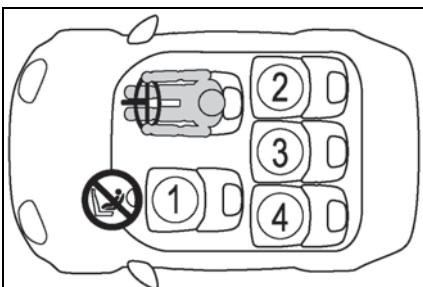
- ユニバーサル「universal (汎用)」
- セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- リストリクティッド「restricted (限定)」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」



※¹UN (ECE) R44、UN (ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ^{※1, 2, 3}	UF ^{※4}
② ^{※2, 3}	U L i-Size ISOFIX
③ ^{※2, 3}	U
④ ^{※2, 3}	U L i-Size ISOFIX



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.47）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



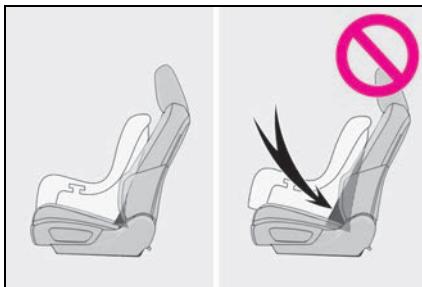
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

さい。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有/無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有/無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	B2, B3 シートベルト固定のみ	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
レクサス純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上 かつ、 身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	×	○
レクサス純正 NEO G-Child Junior	身長：100～ 150cm (体重：15～36kg)	前向き のみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を

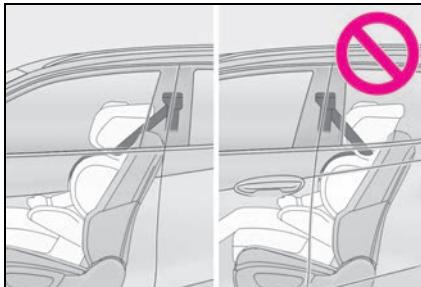
通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認し

てください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないとい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるま

で背もたれを調整してください。

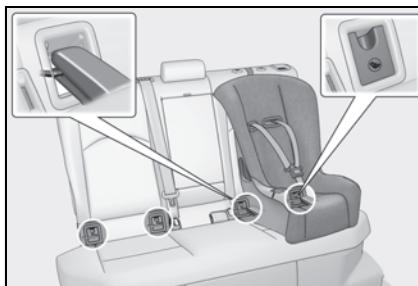
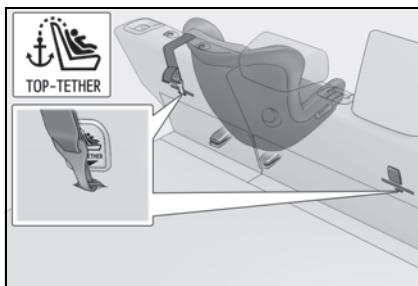
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法	ページ
シートベルトで固定する	 P.49
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 P.51
テザーベルトを固定する	 P.52

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートメーカーが

提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。
(→P.44, 45)

1 助手席：

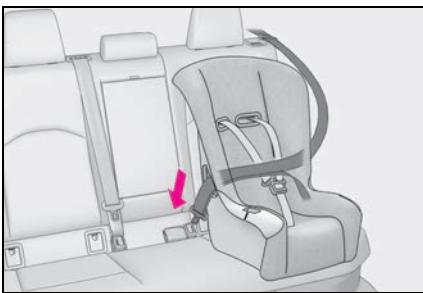
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。
(→P.41)

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正

しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.131)

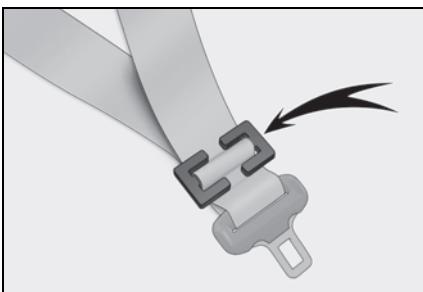
- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番: 73119-22010)



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.50)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一本体が首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていなか確認してください。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。
ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

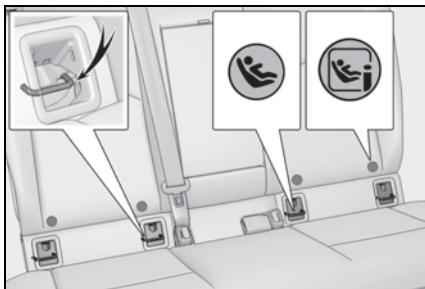
⚠ 警告

- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にはない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

(→P.44, 45)

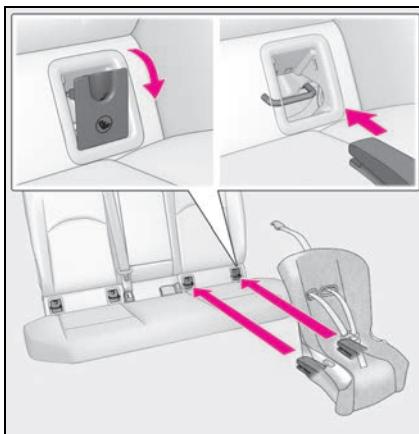
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正

しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.131)

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.50)

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 警告

- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

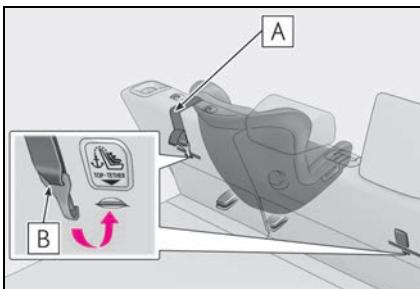
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

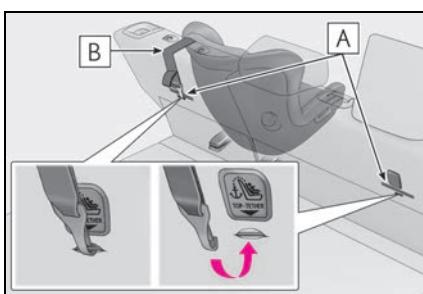
テザーベルトを固定するときに使います。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかりと固定されていることを確認します。（→P.50）



A テザーベルト

B フック



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.131）

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

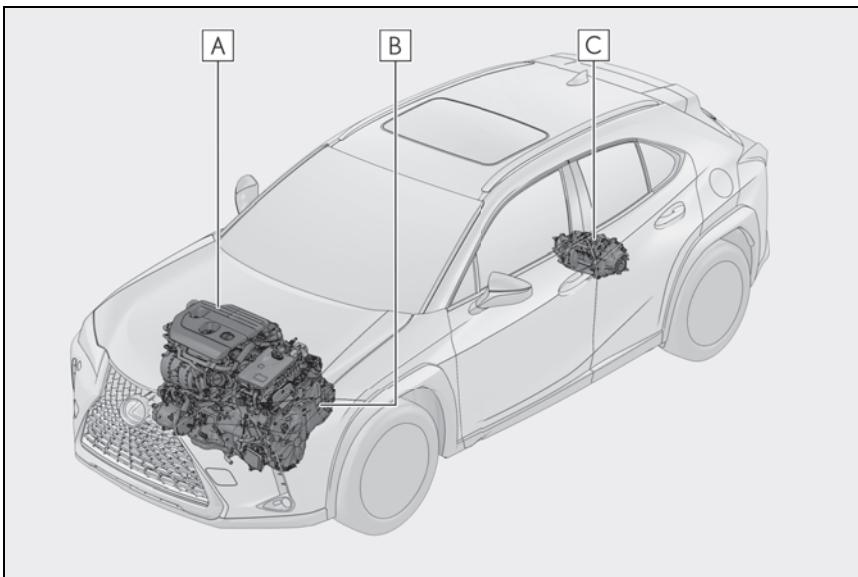
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていなか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ガソリンエンジン
- B** フロント電気モーター
- C** リヤ電気モーター（AWD車）

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モー

ターを使って走行します。

シフトポジションがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

（→P.54）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。



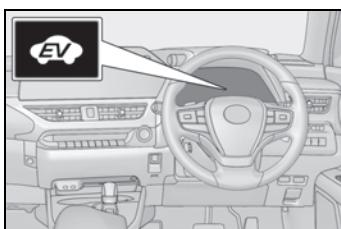
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションが S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

ただし、次のいずれかの状態では自動停止しないことがあります、燃費が低下する場合があります。※

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 急加速・急減速をくり返したとき
- 長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき
- 長い下り坂を走行したとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しづつ放電します。そのため少なくとも、2 ~ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→P.450

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。

自動停止しない状態が 2 ~ 3 日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジルームからのモーター音
 - ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる後席下および駆動用電池からの音
 - ハイブリッドシステム始動時および停止時に後席下から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
 - バックドアを開けたときに聞こえる作動音
 - ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にハイブリッドトランスマッキン付近から聞こえる“コツコツ”、“カタカタ”という音
 - 急加速時のエンジン音
 - ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
 - ガソリンエンジンの始動・停止による振動
 - リヤシートの下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音
- メンテナンスや修理・廃車について
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を

通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

EV インジケーターを点灯しないようにするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.466）

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人間に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。この音は、車内にも聞こえることがあります。車速が約 25km/h をこえると消音します。

□ 知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人間に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください”が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

先読みエコドライブ

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

先読みエコドライブの詳細について

は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、アクセルペダルを離したあとに、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

■ 先読み SOC[※] 制御

ナビゲーションシステムでのルート案内中、電力を効率よく使用して走行するために、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

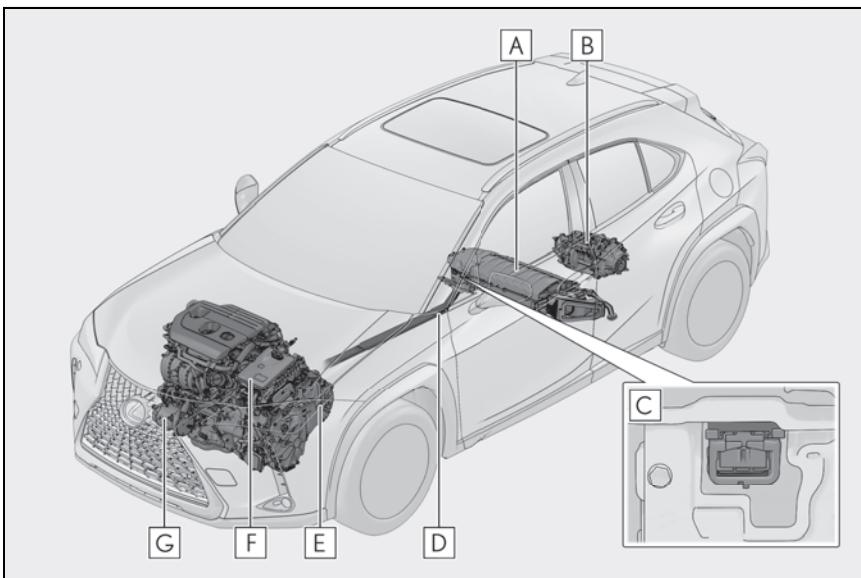
- 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。
- 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけて充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

※ SOC は駆動用電池残量です。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため△表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A 駆動用電池

B リヤ電気モーター（AWD車）

C サービスプラグ

D 高電圧ケーブル（オレンジ色）

E フロント電気モーター

F パワーコントロールユニット

G エアコンコンプレッサー

□ 知識

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.409）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約7.5Lです。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください。）

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30°C以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

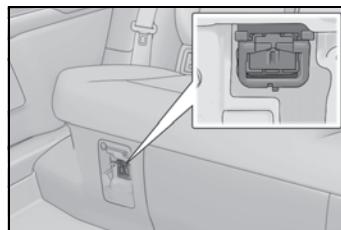
▲ 警告

■ 高電圧、高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを停止する。
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

⚠ 警告

- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれています場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪（FF 車）または 4 輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.401）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。
 - 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
 - ・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
- 特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。

誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下（左側）には駆動用電池冷却用の吸入口があります。

吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



⚠ 注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバー・荷物・カーペットなどで吸入口をふさがないでください。駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

- 吸入口が目つまりしないよう、定期的に清掃してください。（→P.384）

- 吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池を損傷するおそれがあります。

緊急停止システム

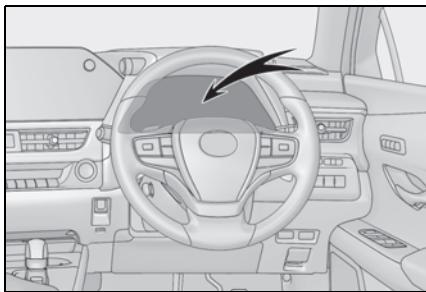
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

- 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

れているとき

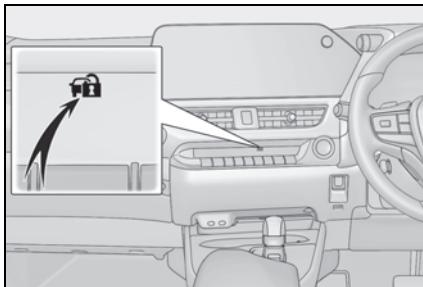
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

! 注意

- イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF になると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON になるとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

□ 知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆わ

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、ご登録のメールアドレスや専用のスマートフォンアプリ「My LEXUS (アプリ)」へお知らせすることができます。G-Linkについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していない

いか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）



■ オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れなどを、ご登録のメールアドレスや専用のスマートフォンアプリ「My LEXUS（アプリ）」へお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエンタリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

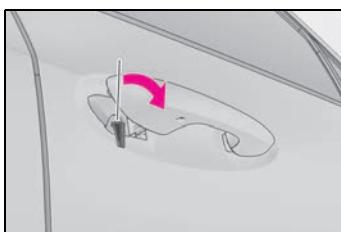
詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行つてください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき

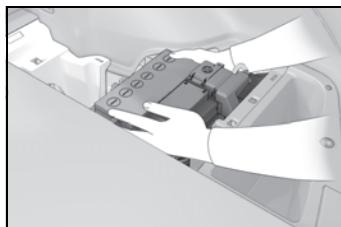


- 車内に残った人が、ドア・バックドア・

ポンネットを開けたり、解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで、補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.450）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき



注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサー

■ 侵入センサーの検知について

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。 (→P.63)

■ 侵入センサーを停止するには

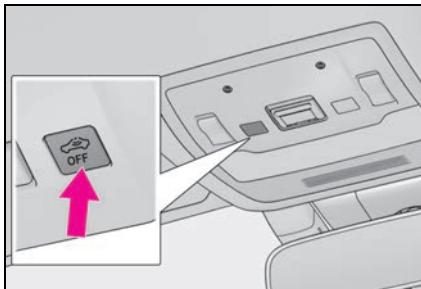
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されま

す。



□ 知識

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

■ 侵入センサーについての留意事項

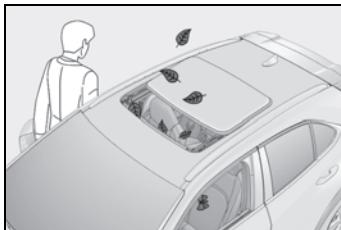
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



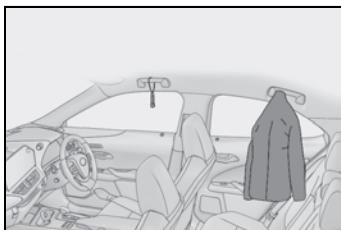
- ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することができます。

- ・室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・室外の歩行者の動き

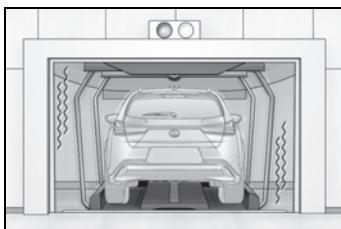


★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

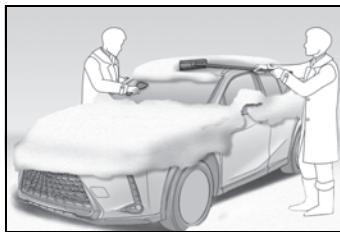
- 蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合
- マスコットやアクセサリーをぶら下げる状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



● 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



● 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

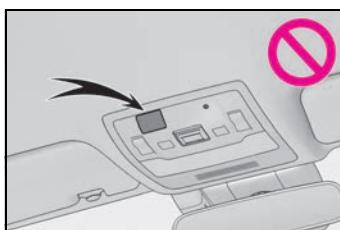


- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	68
計器類	73
マルチインフォメーションディスプレイ	80
ヘッドアップディスプレイ	82
ディスプレイの表示内容	86

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

メーター表示のタイプを選択することができます。(\rightarrow P.466)

▶ タイプ1



▶ タイプ2



▶ タイプ3



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

	ブレーキ警告灯 ^{※1} (→P.406) (赤色)		パワーステアリング警告灯 ^{※1} (→P.408) (赤色)
	充電警告灯 ^{※2} (→P.406)		パワーステアリング警告灯 ^{※1} (→P.408) (黄色)
	油圧警告灯 ^{※2} (→P.406)		スリップ表示灯 ^{※1} (→P.408)
	エンジン警告灯 ^{※1} (→P.406)		パーキングブレーキ表示灯 (→P.408) (点滅)
	高水温警告灯 ^{※2} (→P.407)		ブレーキホールド作動表示灯 ^{※1} (→P.408) (点滅)
	タイヤ空気圧警告灯 ^{※1} (→P.407)		クリアランスソナー OFF 表示 灯 ^{※1} (→P.409)
	ブレーキ警告灯 ^{※1} (→P.407) (黄色)		燃料残量警告灯 (→P.409)
	SRS エアバッグ／プリテン ショナー警告灯 ^{※1} (→P.407)		運転席・助手席シートベルト 非着用警告灯 (→P.409)
	REAR		リヤ席シートベルト非着用警 告灯 (→P.409)
	ABS & ブレーキアシスト警告 灯 ^{※1} (→P.408)		AHS 表示灯★ (→P.410) (黄色)



(黄色)

AHB 表示灯 (→P.410)

ペダル誤操作警告灯 ※2
(→P.410)

PCS 警告灯 ※1 (→P.410)



(黄色)

LTA 表示灯 (→P.410)



(黄色)

LDA 表示灯 (→P.411)



(黄色)

PDA 表示灯 (→P.411)



(黄色)

クルーズコントロール表示灯
(→P.411)

(黄色)

レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.411)

運転支援情報表示灯 ※1
(→P.412)

ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2 (→P.412)

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを
ON にすると点灯し、数秒後またはハイ
ブリッドシステムを始動すると消灯
します。点灯しない場合や点灯したま
まのときはシステム異常のおそれがあ
ります。レクサス販売店で点検を受
けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォ
メーションディスプレイに表示されま
す。



警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置
の警告灯がパワースイッチを ON にし
ても点灯しない場合や点灯したま
まの場合は、事故にあつたときに正しく作
動せず、重大な傷害を受けたり、最悪
の場合死亡につながるおそれがあります。
ただちにレクサス販売店で点検を
受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.174)



尾灯表示灯 (→P.181)



ハイビーム表示灯 (→P.183)



AHS 表示灯★ ※1 (→P.184)



(緑色)

AHB 表示灯 ※1 (→P.187)

フロントフォグランプ表示灯
(→P.190)リヤフォグランプ表示灯★
(→P.190)

PCS 警告灯 ※1, 2 (→P.208)



LTA 表示灯 (→P.220)



LTA 表示灯 (→P.220)



LDA 表示灯 (→P.224)

(緑色)

	LDA 表示灯 (→P.224) (白色)		EV ドライブモード表示灯 (→P.166)
	LDA OFF 表示灯 ※2 (→P.224) (黄色点滅)		パーキングブレーキ表示灯 (→P.175)
	PDA 表示灯 (→P.229) (白色)		ブレーキホールドスタンバイ 表示灯 ※1 (→P.177)
	PDA 表示灯 (→P.229) (緑色)		ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.177)
	クルーズコントロール表示灯 (→P.247) (緑色)		EV インジケーター (→P.54)
	クルーズコントロール表示灯 (→P.247) (白色)		低温表示灯 ※6 (→P.78)
	レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.243) (緑色)		セキュリティ表示灯 ※7 (→P.62, 63)
	レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.243) (白色)		ITS Connect アイコン★ (→P.252)
	運転支援情報表示灯 ※1, 2 (→P.256, 263, 273, 279)		ITS Connect アイコン★ (→P.252)
	ドアミラーインジケーター ※3 (→P.256, 263, 273)		プラスサポート表示灯★ (→P.285)
	クリアランスソナー OFF 表示 灯 ※1, 2 (→P.267)		制動灯表示灯 (→P.72)
	クリアランスソナー検知表示 灯★ ※1, 4 (→P.267)		エコドライブモード表示灯 (→P.290)
	スリップ表示灯 ※1 (→P.293) (点滅)		スポーツモード表示灯★ (→P.290)
	VSC OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.294)		スポーツ S モード表示灯★ (→P.290)
	スマートエントリー & スターティングシステム表示灯 ※5 (→P.162)		スポーツ S+ モード表示灯★ (→P.290)
	READY インジケーター (→P.162)		カスタムモード表示灯★ (→P.290)

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを
ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯
します。点灯しない場合や点灯したま

まのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2システムが OFF のときに点灯します。

※3ドアミラーに表示されます。

※4センターディスプレイまたはリアカメラ非装着車

※5メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※6外気温が約 3° C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※7センターパネルに表示されます。

知識

■ クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両 (→P.267) は、クリアランスソナー機能の ON / OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■ 制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

計器類

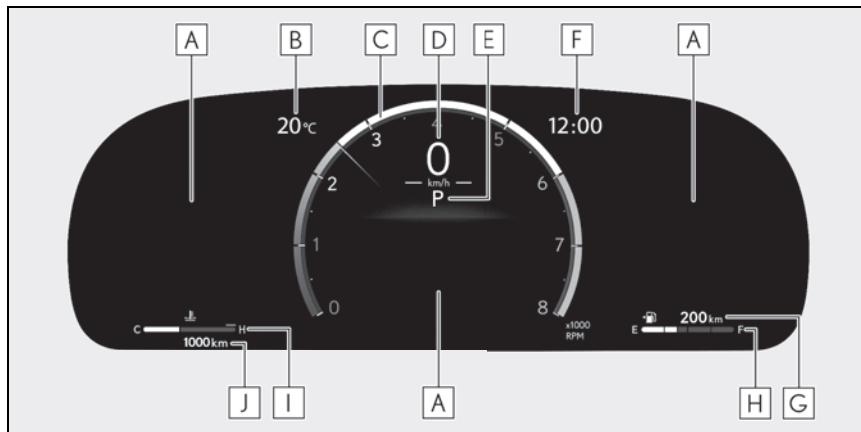
走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置

メーター表示のタイプを選択することができます。 (→P.465)

▶ タイプ1／タイプ3 (F SPORT以外)



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。 (→P.80)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。 (→P.415)

B 外気温 (→P.78)

C アナログメーター (タイプ1のみ)

走行モードや設定によって表示が切りかわります。 (→P.465)

タコメーター：

毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。 (→P.77)

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション／シフトレンジ (→P.168)

F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

【G】航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.78）

【H】燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

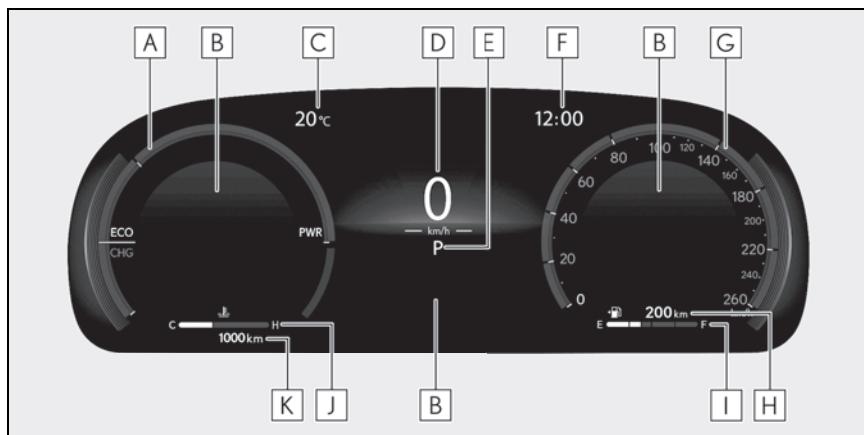
- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

【I】水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

【J】オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.79）

▶ タイプ 2



【A】アナログメーター

走行モードや設定によって表示が切りかわります。（→P.465）

タコメーター：

毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.77）

【B】マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.80）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.415）

C 外気温 (→P.78)

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション／シフトレンジ (→P.168)

F 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G アナログスピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。 (→P.78)

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

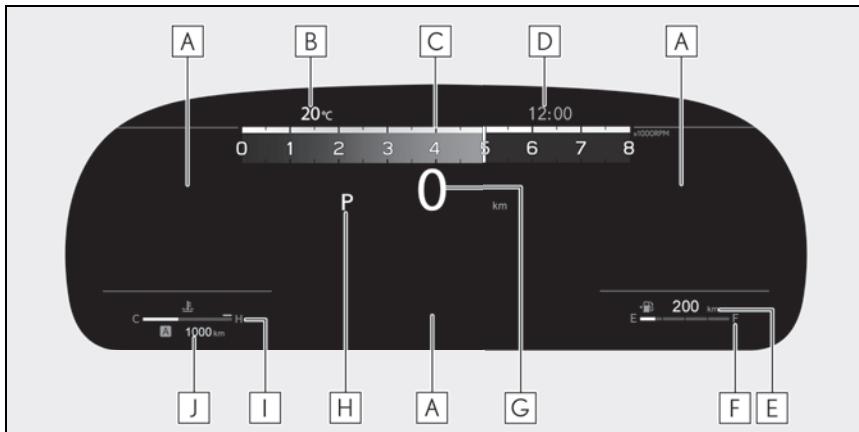
- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

K オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.79)

▶ タイプ 3 (F SPORT)



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(\rightarrow P.80)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(\rightarrow P.415)

[B] 外気温 (\rightarrow P.78)

[C] タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

タコメーター：

毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(\rightarrow P.77)

[D] 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

[E] 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(\rightarrow P.78)

[F] 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

[G] デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

[H] シフトポジション／シフトレンジ (\rightarrow P.168)

[I] 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

[J] オドメーター／トリップメーターディスプレイ (\rightarrow P.79)

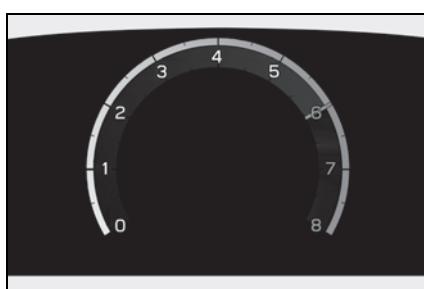
■ REV インジケーター (F SPORT)

▶ リング表示状態

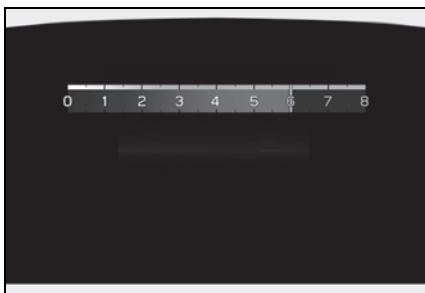
設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーターを強調表示します。

設定したエンジン回転数に到達したときはオレンジ色、レッドゾーンに到達したときは赤色で表示されます。

センターディスプレイで、表示を開始するエンジン回転数を設定できます。
(\rightarrow P.465)



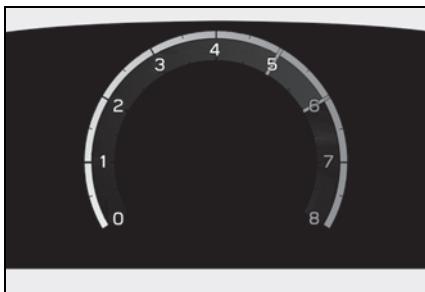
▶ バー表示状態



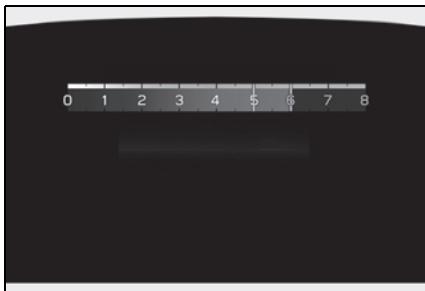
■ REV ピーク (F SPORT)

4000r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーターの残像を約 1 秒間表示します。

▶ リング表示状態



▶ バー表示状態



知識

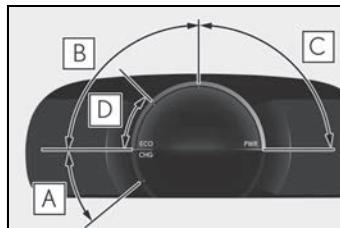
■ メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ ハイブリッドシステムインジケーター



■ A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

■ B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

■ C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

■ D ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジ

ケーターは作動しません。

- READY インジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがDまたはS以外のとき

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.78）
- 「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■ 燃料計と航続可能距離の手動更新について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 ODO TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを OFF にする
- 4 ODO TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 外気温度を -40 ℃～60 ℃のあいだで表示します。
- 外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に  が点滅し、その後点灯します。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかつたり、温度表示の更新が遅くなったりすることがあります。故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.466）



■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

⚠ 警告

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示がHのレッドゾーンに入ったときや、“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。
(→P.453)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

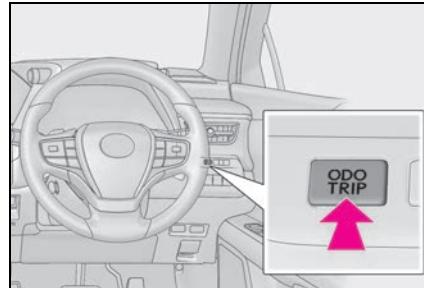
走行した総距離を表示します。

● トリップメーターA／トリップメーターB

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を0にすることができます。



□ 知識

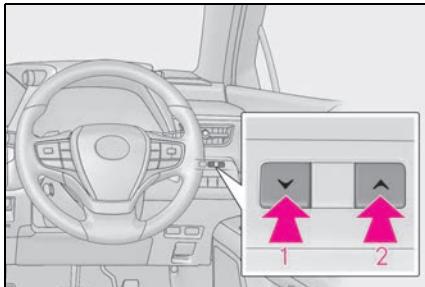
■ 音声対話サービスでのオドメーター／トリップメーター操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、オドメーター・トリップメーターの表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くする
2 明るくする

□ 知識

■ インストルメントパネル照明の照度について（昼照度と夜照度）

インストルメントパネル照明の照度には昼照度と夜照度があり、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

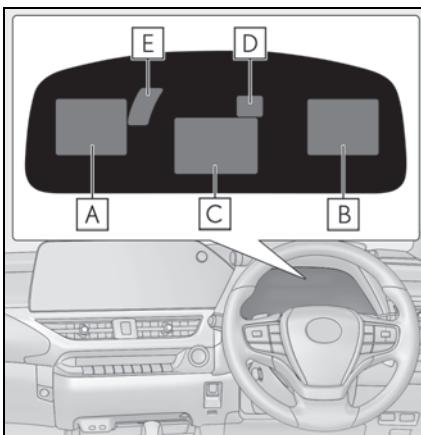
- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、ディスプレイの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示

マルチインフォメーションディスプレイの各エリアには、次の情報が表示されます。



- A コンテンツ表示エリア（左）
 - B コンテンツ表示エリア（右）
 - C コンテンツ表示エリア（中央）
 - D 運転支援システム情報表示エリア
 - E RSA（ロードサインアシスト）表示
- コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を選択している場合は、表示されません。

示エリア (→P.233)

■ コンテンツ表示エリア (中央)

- 運転支援システム情報 (→P.88)
- 地図表示 (→P.88)
- ブランク (→P.91)

■ コンテンツ表示エリア (左／右)

- 燃費グラフ (→P.87)
- EV 走行比率 (→P.87)
- 運転支援システム情報 (→P.88)
- ナビゲーションシステム連携表示 (→P.88)
- オーディオシステム連携表示 (→P.89)
- ドライブインフォメーション (→P.89)
- エネルギーモニター (→P.89)
- G モニター (→P.87)
- ブランク (→P.91)

 知識

■ マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

パワースイッチがONのとき

■ 液晶ディスプレイについて

→P.78

■ 走行モードを切りかえたとき

選択したモードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変化します。 (→P.290)

 警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

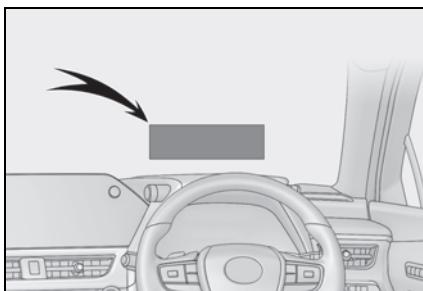
→P.78

ヘッドアップディスプレイ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

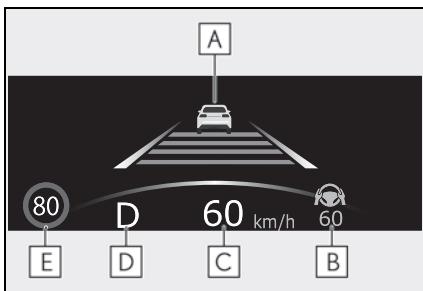
ディスプレイの表示



ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。
(→P.84)

表示内容は、走行状況・走行モードやヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。

■ フル



イラストは説明のための例であり、実際

の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム情報表示エリア

(→P.88) / ナビゲーションシステム連携表示エリア / ハイブリッドシステムインジケーター・タコメーター表示エリア (→P.85)

B 運転支援システム情報表示エリア

(→P.88)

C スピードメーター

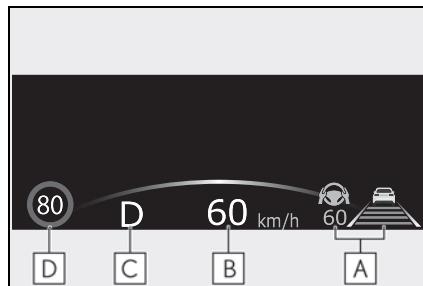
D シフトポジション・シフトレンジ

(→P.168)

E RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア

(→P.233)

■ スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム情報表示エリア

(→P.88)

B スピードメーター

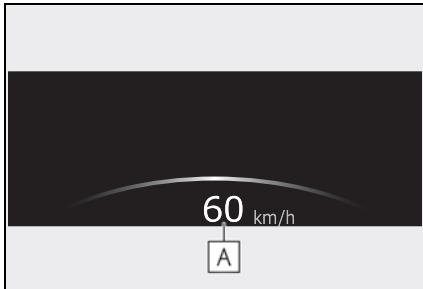
C シフトポジション・シフトレンジ

(→P.168)

D RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア

(→P.233)

■ ミニマム



A スピードメーター

□ 知識

■ ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチがONのとき

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ 交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■ レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前300m以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

▲ 警告

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

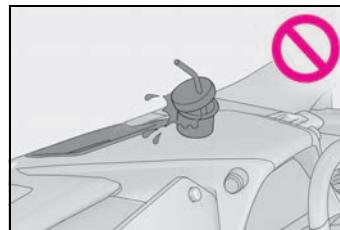
映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

△ 注意

■ ヘッドアップディスプレイ映写部について

映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



■ 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。

ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

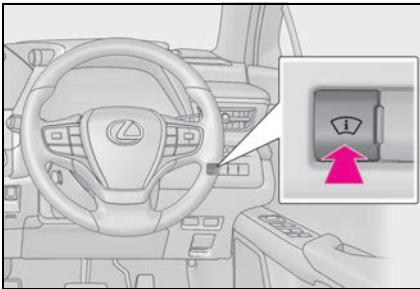
■ 映写部の内部にふれたり、とがつたものを押し付けたりしないでください。

装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示の切りかえ

ヘッドアップディスプレイスイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。



■ ヘッドアップディスプレイの設定

- センターディスプレイの を選択する
- “車両カスタマイズ”を選択する
- “ヘッドアップディスプレイ”を選択する

次の設定を変更することができます。
(→P.465)

● ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

● 表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ
(→P.82) を変更することができます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

● 明るさの設定に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

● ヘッドアップディスプレイ周辺の温度が高温になると、ヘッドアップディスプレイの保護のため、表示の明るさが徐々に暗くなります。周辺の温度が下がると徐々に元に戻ります。

■ ヘッドアップディスプレイ表示の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.150)

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

■ 音声対話サービスでのヘッドアップディスプレイ操作について★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

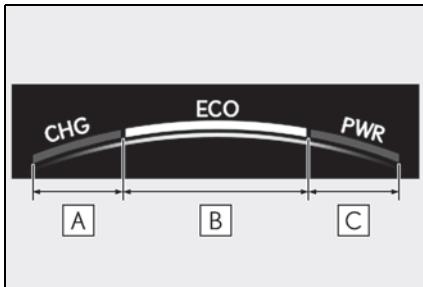
⚠ 注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター表示エリア

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

B エコエリア

C パワーエリア

ハイブリッドシステムの出力や回生レベル

ルを示します。詳しくは、P.77 を参照してください。

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

□ 知識

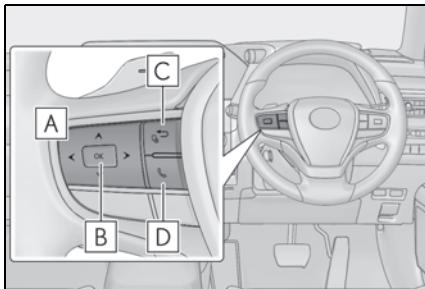
■ ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーターの表示条件

● 次の条件をすべて満たしているときハイブリッドシステムインジケーター／タコメーターが表示されます。

- ・ LTA (レーントレーシングアシスト)、LDA (レーンディバーチャーラート)、レーダークルーズコントロールをOFFにしているとき
- ・ ヘッドアップディスプレイをフル表示（→P.82）しているとき

ディスプレイの表示内容

構成部品／操作について



- A** < / > : ページの切りかえ・カーソル移動
^ / v : 表示項目の切りかえ・ページ送り

- B** 短押し : 決定
長押し : リセット・詳細項目表示・カーソル表示

- C** ひとつ前の画面にもどる

- D** 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

走行に関する情報について

走行に関する情報は次のディスプレイに表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイ
 - ヘッドアップディスプレイ★
 - センターディスプレイ
- 表示される項目は、ディスプレイに

よって異なります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえるには

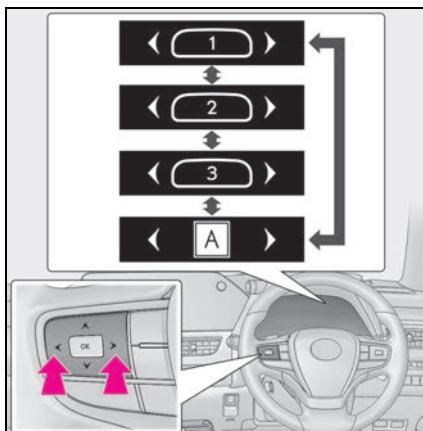
■ メーター表示タイプの切りかえ

センターディスプレイの から、メーター表示タイプを切りかえることができます。(→P.465)

■ ページの切りかえ

3 エリアのコンテンツ表示を、3 ページ分の組み合わせから選択することができます。

メーター操作スイッチの < または > を押してページを切りかえます。



A 警告メッセージ

非表示にした警告メッセージを確認することができます。

警告メッセージがない場合は表示されません。(→P.92)

■ コンテンツ表示項目の切りかえ

コンテンツ表示エリア（左／中央／右）の項目を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押してページを選択する
- 2 メーター操作スイッチの OK を長押しして、コンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる
- 3 < または > を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する
- 4 ^ または v を押して表示項目を選択する

燃費グラフ



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B リセット間平均燃費 ※

センターディスプレイの燃費履歴画面で“履歴削除”を選択すると、燃費データがリセットされます。

※ 表示される燃費は参考として利用してください。

EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

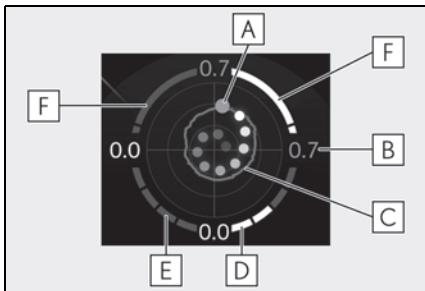
※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

G モニター

マルチインフォメーションディスプレイに車両にかかる前後左右の G (加速度) を表示します。

また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。



- A** 車両にかかる G
- B** 現在の G 値（前後左右に分解した値）
- C** 最大 G の軌跡
- D** アクセル開度量
- E** ブレーキ液圧
- F** ステアリング操作量

● 最大 G の軌跡のリセット

ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。



■ G モニターの表示について

- 傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でも G 値が 0 にならない場合があります。
- 車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ液圧の表示が最大にならない場合があります。

- 補機バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）(→P.217)
- LDA（レーンディバーチャーラート）(→P.221)
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）(→P.226)
- レーダークルーズコントロール(→P.236)
- クルーズコントロール(→P.245)

地図表示

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに地図情報などを表示します。

ナビゲーションシステム表示について

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

● 目的地案内

● レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

● コンパス



■ レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点

形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

ドライブインフォメーション

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

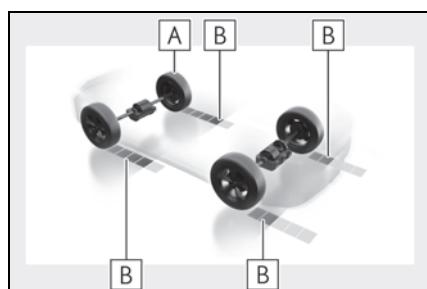
AWD 作動状態表示 (AWD 車)

AWD の作動状態がセンターディスプレイに表示できます。

■ センターディスプレイに AWD 作動状態表示を表示させるには

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “AWD” を選択する

■ AWD 作動状態



A 操舵表示

前輪の表示の変化により、ハンドルの操作量と操作方向を表示します。

B 駆動力表示

0～5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。

■ センターディスプレイにタイヤ空気圧を表示させるには

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “タイヤ空気圧” を選択する

□ 知識

■ タイヤ空気圧表示について

→P.373

エネルギーモニター

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況をセンターディスプレイで確認できます。

■ 表示のしかた

メインメニューの  にタッチし、サブメニューの “エネルギーフロー” にタッチする

センターディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

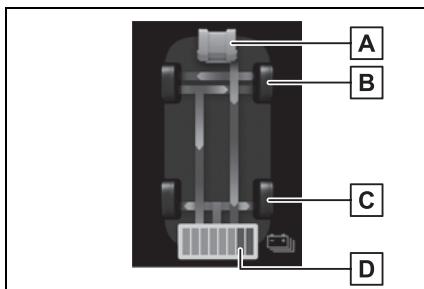
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ

矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B フロントタイヤ

C リヤタイヤ

D 駆動用電池

- ▶ センターディスプレイ

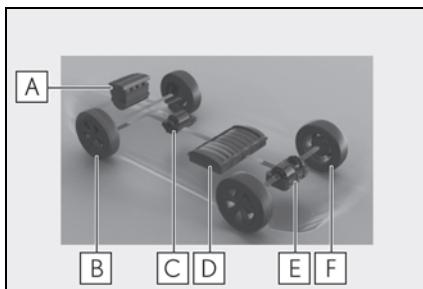
矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

緑：電気エネルギーを使用しているとき

紫：ガソリンエンジンの動力を使用

しているとき



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B フロントタイヤ

C フロント電気モーター

D 駆動用電池

E リヤ電気モーター (AWD 車)

F リヤタイヤ

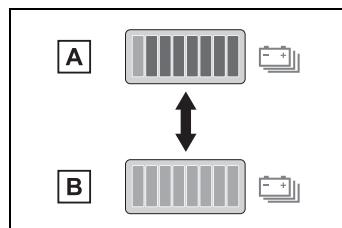
□ 知識

■ 駆動用電池の表示について

駆動用電池の残量に応じて、8段階で表示されます。

●図は例として、マルチインフォメーションディスプレイで説明します。

●実際の表示内容とは異なる場合があります。



A 少ない

B 多い

■ 駆動用電池の残量警告について

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

ランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにランク画面を表示します。

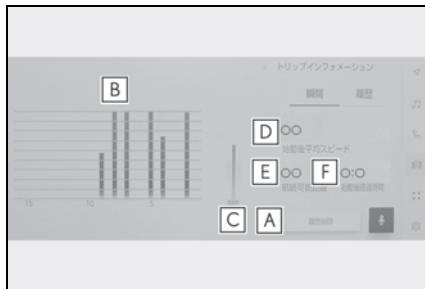
瞬間燃費／燃費履歴画面

燃費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

■ センターディスプレイに瞬間燃費／燃費履歴画面を表示させるには

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する
- 3 “瞬間” または “履歴” を選択する

■ 瞬間燃費画面



A 過去15分間の1分ごとの燃費（平均燃費）

B 瞬間燃費

C 過去平均燃費表示

D ハイブリッドシステム始動後平均車速

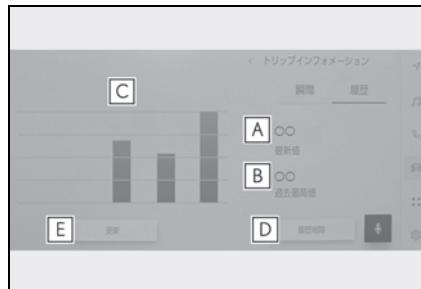
E 航続可能距離

F ハイブリッドシステム始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴画面



A 瞬間燃費

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 過去最低値表示

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴削除”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

優先的に表示される情報

状況に応じて、マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ★に割り込み表示されます。

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■運転支援システム

状況に応じて、次のシステムの警告・注意喚起・通知・作動状況を割り込み表示します。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディバーチャーラート）
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

●安心降車アシスト

●発進遅れ告知機能

●後方車両への接近警報

●ITS Connect★

●ドライバー異常時対応システム

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■警告メッセージ

状況に応じて、警告メッセージが割り込み表示されます。

警告メッセージは機能切りかえスイッチを長押しすることで非表示にすることができます。（→P.86）

■ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

■提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにハンドル上のスイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

●ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチをOFFにしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

●窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき“YES”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

●窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “YES” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ステアリングスイッチ操作表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに、オーディオ操作の表示がされます。

■ ナビゲーションシステム連携情報

状況に応じて、ナビゲーションシステムと連携した次の項目を表示します。

● 目的地案内

● レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

パワースイッチを OFF にしたときに表示される項目

パワースイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

● 始動後走行距離 ※

● 始動後走行時間 ※

● 始動後 EV 走行比率 ※

● 始動後平均燃費 ※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

3-1. キー

キー	96
デジタルキー	100

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	103
バックドア	108
スマートエントリー&スタートシステム	123

3-3. シートの調整

フロントシート	129
リヤシート	130
ヘッドレスト	131

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	134
インナーミラー	135
ドアミラー	136

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウィンドウ	139
ムーンルーフ	142

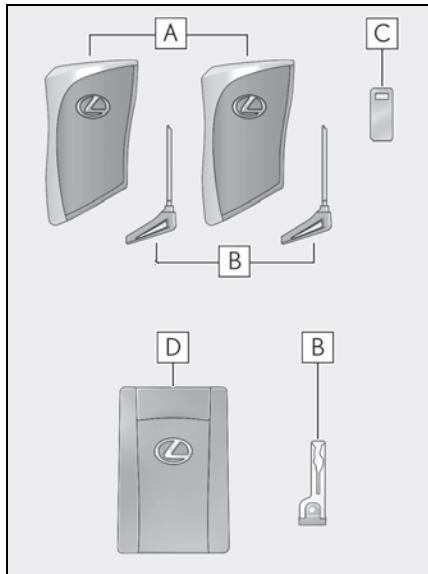
3-6. お好み設定

パワーアイージーアクセスシステム／ ポジションメモリー／メモリー コール機能	145
マイセッティング	150

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動 (→P.123)
- ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動 (→P.123)

知識

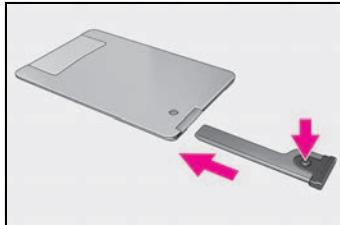
■ カードキーについて

- カードキーは防水です。
- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

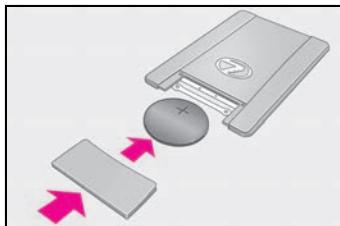
さい。

● メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

● メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



● 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすことがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
(カードキーは1～1年半で消耗します)
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッ

ドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。→P.124)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。→P.387)

- ・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・作動範囲が狭くなつた
- ・電子キーのLEDが点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます(→P.387)が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

- ・TV
- ・パソコン
- ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・電気スタンド
- ・電磁調理器

●スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り

忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従つてすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください”が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。→P.387)

■電池の交換方法

→P.387

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続けます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00



■ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗つたりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.446

■電子キーを紛失したとき

→P.445

■カードキーの取り扱いについて

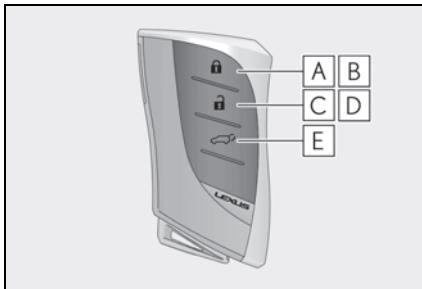
- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持つて引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

⚠ 注意

- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



- A** 全ドアを施錠する (→P.103)
- B** ドアガラスとムーンルーフ★を閉める * (→P.103)
- C** 全ドアを解錠する (→P.103)
- D** ドアガラスとムーンルーフ★を開く * (→P.103)
- E** パワーバックドア★を開閉する (→P.111)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

* レクサス販売店での設定変更が必要です。

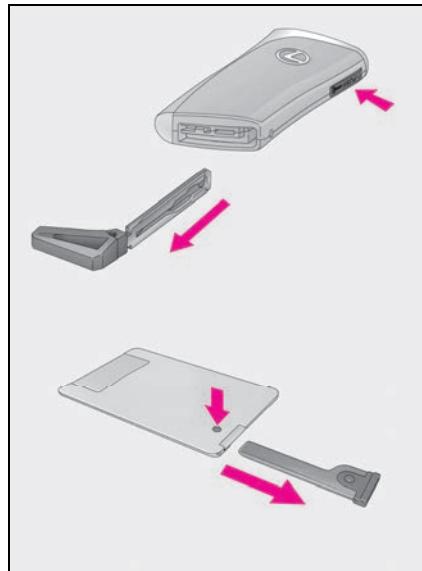
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

(→P.446)



知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠
(→P.322) します。

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

→P.445

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。

また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただくまでの注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL : https://toyota.jp/digital_key/

QR コード :



 知識

■ デジタルキーの取り扱い

JP

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、G-Link に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はレクサス販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客様のご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

- ・ スマートフォンが故障した場合
- ・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合

・ スマートフォンのバッテリー残量が無くなつた場合

・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ないとお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエンタリーアンドスタートシステムに関するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエンタリーアンドスタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運

転席のドアハンドルに触れて下さい。

- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やハイブリッドシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。
万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにレクサスオーナーズデスク、レクサス販売店にご相談ください。
- 点検や修理などでレクサス販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、パワーバックドア★のクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能、スマートエントリー＆スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

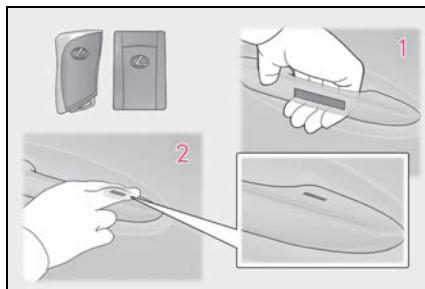
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のハンドルを握って解錠する

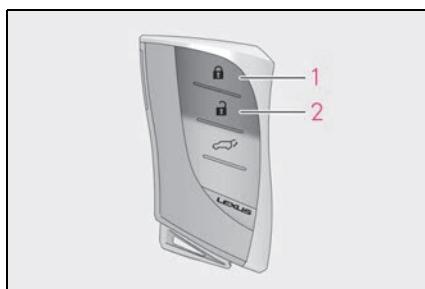
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後3秒間に解錠できません。

2 フロント席のドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■ 降車オートロック機能※1, 2

※1 レクサス販売店での設定変更が必要です。

※2 デジタルキー★のみでは降車オートロック機能は使用できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。
車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.124）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れるすべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.105）

約1分間電子キーの作動範囲から離れなかつたときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。
この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■ パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの閉作動中※1にも、

降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。※2

※1 バックドアハンドルを使用したときは作動しません。

※2 レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ 降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する

■ 接近時オートアンロック機能※

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

- すべてのドアが閉まっている
 - すべてのドアが施錠されている
- ※ レクサス販売店での設定変更が必要です

■ 接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 オートアラームの侵入センサーを停止する

(操作中のオートアラーム誤作動防止: →P.65)

- 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、
 または  のいずれかを約

5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォ メーションディス プレイ表示 / ブ ザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” (3回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” (2回)	運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。→P.63)

■キーを使わずに車外からフロント席を施錠をするときは

- 1 ドアロックボタンを押し下げる
→P.106)
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがACCまたはONのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

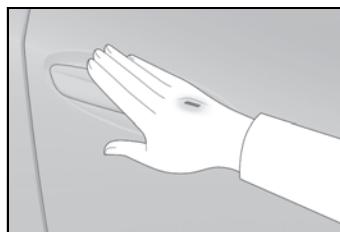
■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。→P.63)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.125

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。→P.446)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。→P.387)

■補機バッテリーがあがつたときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。→P.446)

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物などの置き忘れを防ぐために、次のいずれかの操作を行つたあとにパワースイッチをOFFにすると、ブザーが鳴り、約6秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - ・リヤドアを開閉したあと約10分以内にハイブリッドシステムを始動した
 - ・ハイブリッドシステムが始動している

状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約2秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しない可能性があります。

- リヤシートリマインダーは、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断する機能です。そのため、状況によっては、リヤシートリマインダー機能が作動せず、リヤシートに荷物などを置き忘れたり、正しく作動しなくなったりする可能性があります。
- リヤシートリマインダーの作動・非作動を切りかえることができます。
(→P.478)

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧: →P.467)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

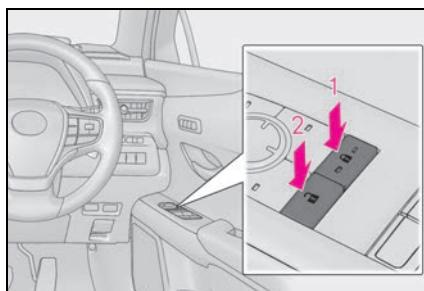
■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

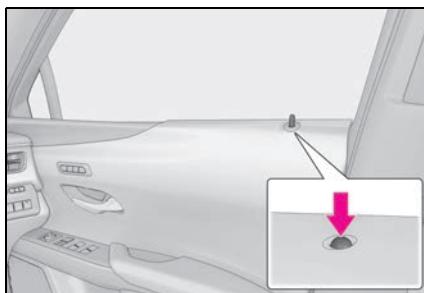


1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



■ ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

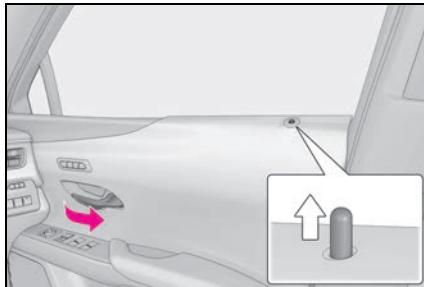
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がりります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がりります。



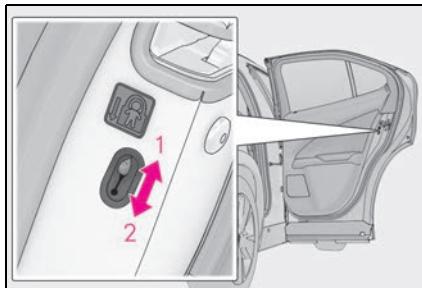
□ 知識

■ 半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約5km/hをこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

□ 知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.465を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。

完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたつたり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたつたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

● お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

● バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

● 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

● 強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。

特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

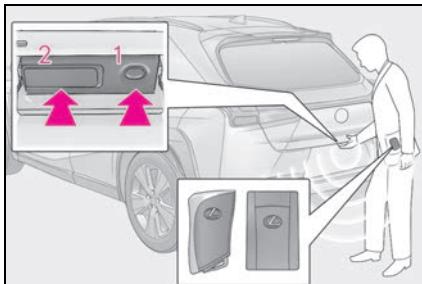
⚠ 警告

- バックドアダンパーステー（パワー・バックドア非装着車）（→P.111）または、スピンドルユニット（パワー・バックドア装着車）（→P.121）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がつたりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワー・バックドア非装着車）または、スピンドルユニット（パワー・バックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

車外から施錠／解錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.99

車内から施錠／解錠するには

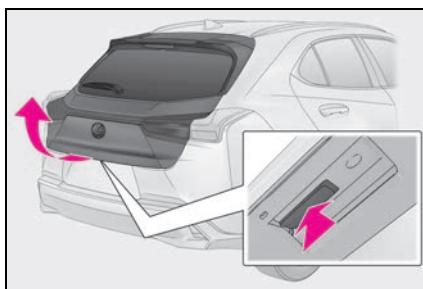
■ ドアロックスイッチを使用する

→P.106

バックドアを開閉するには（パワー・バックドア非装着車）

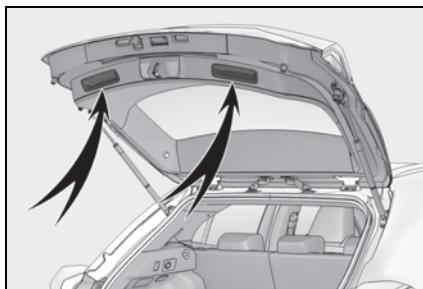
■ 開ける

バックドア解錠時に、バックドアオープنسイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



■ 閉める

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



□ 知識

■ ラゲージルームランプ

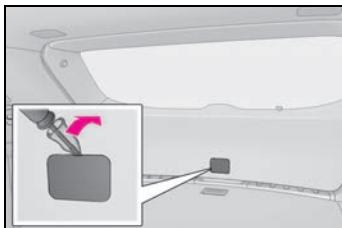
- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ バックドアが開かないときは

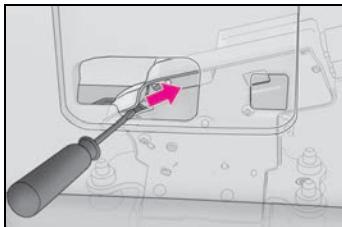
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



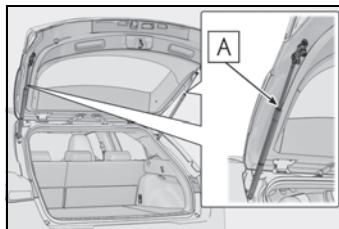
2 レバーを押す



△ 注意

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステー **A** が取り付けられています。ダンパーステー **A** の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品をつけてない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

バックドア解錠時[※] に作動させることができます。

[※] カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。



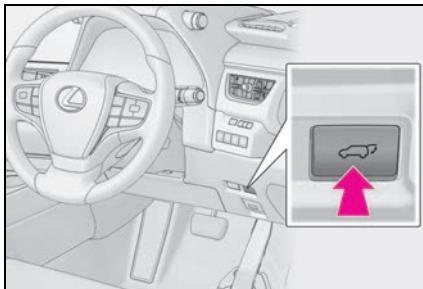
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約1秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約1秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

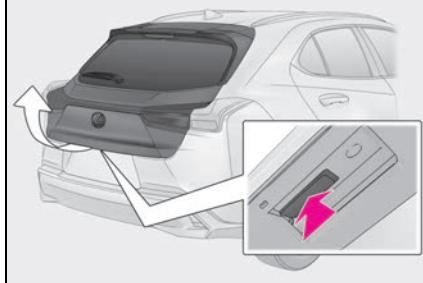
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオーブンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオーブンスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

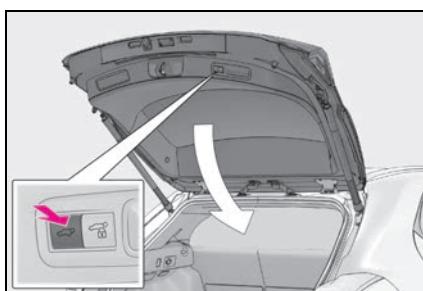


● 閉じる

バックドア下部の スイッチを押す
ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中で スイッチを押すと、作動を停止します。

再度 スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



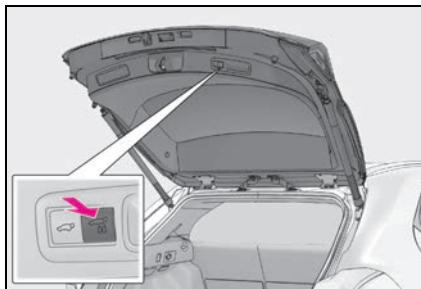
● バックドアから離れて閉じたあと 全ドアを施錠する（クローズ& ロック [ウォークアウェイ] 機 能）※

※ レクサス販売店での設定変更が必要で
す。

- 1 バックドア以外のすべてのドアを
閉じて、電子キーを携帯してバッ
クドア下部の スイッチを押
す

通常ブザーとは異なるブザー音が断続的

に鳴り、クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。



2 ブザーが鳴っているあいだに、 バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。

バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉ると同時に施錠されます。

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.105）

約30秒間バックドアから離れなかつたときは、待機状態が解除されます。

再度作動させるには、手順1からやり直してください。

バックドアが閉作動中に電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.105）

作動が停止した状態から再度 スイッチを押すと、再びクローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ＆ロック機能）

バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部の

スイッチを押す

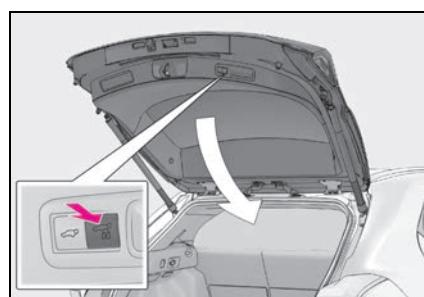
通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワー・バックドアが自動で閉まります。閉まるとき同時にすべてのドアが施錠されることを示す合図でお知らせします。

（→P.105）

パワー・バックドアが閉まる途中で

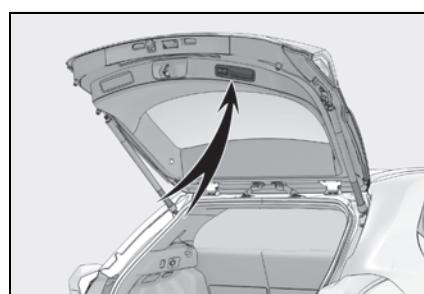
スイッチを押すと、作動を停止します。

再度 スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。



■ バックドアグリップを使用して閉じる

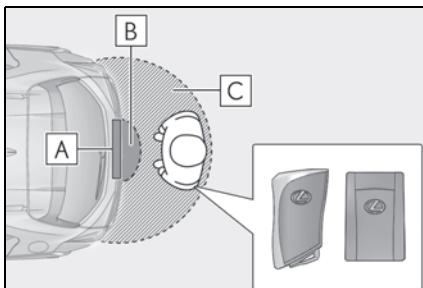
バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げるとき、ブザーが鳴り、バックドアが自動で閉まります。



■ ハンズフリーパワー・バックドアを使用して開閉する

1 電子キーを携帯し、スマートエンタリーアンドスタートシステムの作動

範囲内でリヤバンパーから約 50
~ 70cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

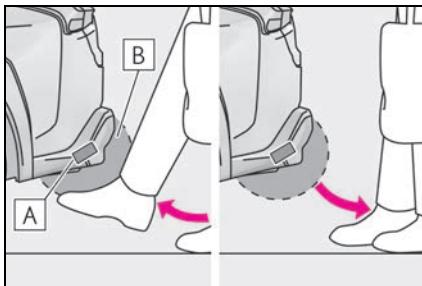
B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア
(→P.124)

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く

- ・足を近付けて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
- ・足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
- ・リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
- ・車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。
- ・ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行ってく

ださい。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

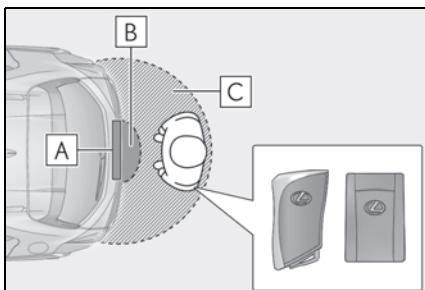
■ キックセンサーを使用してバックドアから離れたあとに閉じて施錠する（ハンズフリークローズ＆ロック [ウォークアウェイ] 機能）*

* レクサス販売店での設定変更が必要です。

リヤバンパー運転席側の下部に足を近付けて離す動作をし、バックドアから十分に離れることで、バックドアを自動で閉じたあと全ドアを施錠することができます。キックセンサーを使用するときは、パワースイッチが OFF、かつキックセンサーの作動が ON で (→P.122)、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、スマートエンブリーザー＆スタートシステムの作動

範囲内でリヤバンパーから約30～50cm離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

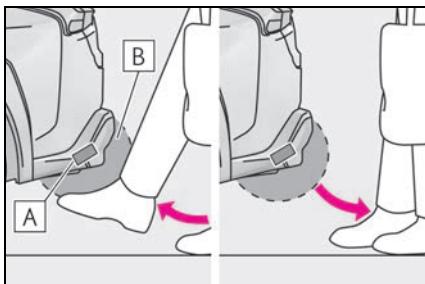
C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア
(→P.124)

2 足をリヤバンパーから約10cmの距離になるまで近付けて引く
足を近付けて引く動作を1秒以内に行つてください。

足先をリヤバンパーの下に入れたまでは作動しません。

リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をセンサーが検知すると、通常ブザーとは異なるブザー音が鳴りハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

4 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まるとき同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。
(→P.105)

約30秒間バックドアから離れなかつたときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順**1**からやり直してください。

バックドアが閉まる途中で電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。
(→P.105) 作動が停止した状態から再度ハンズフリーパワーバックドアを作動させると、バックドアは自動で閉まります。

□ 知識

■ ラゲージルームランプ

- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- パワースイッチがOFFの場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動がONで、次のときに自動で開閉できます。

- バックドアが解錠されているとき、ただし次のときはバックドアが施錠されてもパワーバックドアは作動します。
- ・ 電子キーを携帯してバックドアオーブンスイッチを押したとき
- ・ ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき
- パワースイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。
 - ・ パーキングブレーキがかかっている
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいる
 - ・ シフトポジションがPの位置にある

■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

- ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定がONのとき
- 電子キーを携帯して作動範囲内にあるとき (→P.124)

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
- パワーバックドアの作動がOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感じると、作動が停止します。

知すると、作動が停止します。

■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

- 1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う (→P.103) またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う (→P.99)

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。挟み込み防止機能やキー閉じ込み防止機能により施錠されない場合があります。

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

- クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動がONのとき
- 車内に電子キーがない
- バックドア以外のドアがすべて閉じている
- パワースイッチがOFFのとき
- 電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が正常に作動しない状況

次のような状況では正常に作動しないことがあります。

- スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき
- クローズ＆ロック機能が正常に作動しないとき
- クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

■ クローズ＆ロック機能[※]の作動条件

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

次の作動条件を満たしているときに作動します。

- 車内に電子キーがない
- バックドア以外のドアがすべて閉じている
- パワースイッチが OFF のとき

■ クローズ＆ロック機能[※]が正常に作動しない状況

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

- 電子キーを持った手でパワーバックドア下部の  スイッチ（→P.112）を押したとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の  スイッチ（→P.112）を押したとき

- パワーバックドア下部の  スイッチ（→P.112）から離れた位置から押したとき

■ ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります

す。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき
リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.125）

- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき

- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

- リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定を OFF にしてください。

■ ハンズフリーパワーバックドアの誤動作を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やポールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取り動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき
誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定を OFF にしてください。
- ハンズフリークローズ&ロック
(ウォークアウェイ) 機能の作動条件
次の作動条件を満たしているときに作動します。
- ハンズフリークローズ&ロック
(ウォークアウェイ) 機能の作動が ON のとき^{*}
- ハンズフリーパワーバックドアの作動が ON のとき

- 車内に電子キーがない
- パックドア以外のドアがすべて閉じている
- パワースイッチが OFF のとき
- 電子キーが作動検知エリア内にあるとき

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ ハンズフリークローズ&ロック

(ウォークアウェイ) 機能^{*}が正常に作動しない状況

次のような状況では正常に作動しないことがあります。

- スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき
- クローズ&ロック機能が正常に作動しないとき
- ハンズフリークローズ&ロック
(ウォークアウェイ) 機能が待機状態でパックドアからすばやく離れたとき
- ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しないとき

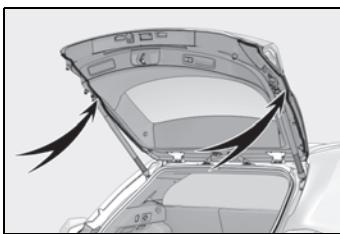
※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ 補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてパックドアを手動で一度全閉にしてください。

■ 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

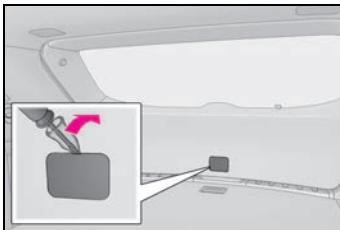


■ バックドアが開かないときは

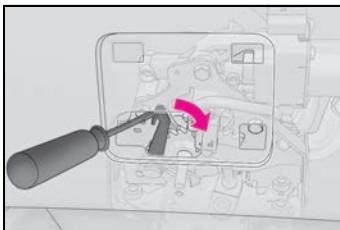
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを押す



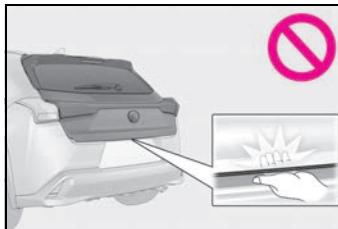
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧:→P.468)

⚠ 警告

■ バックドアイージークローザーについて

● バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



● バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動がOFFのときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

● 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

● 自動開閉中にパワーバックドアの作動をOFFにすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

⚠️ 警告

- 自動開閉中に作動可能条件
(→P.116) を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるもののが形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ ハンズフリーパワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

⚠ 警告

■ クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能・ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能※について

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

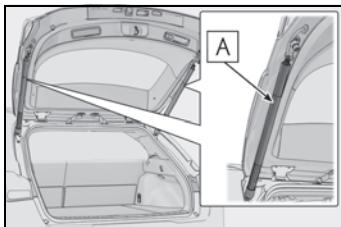
バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

⚠ 注意

■ スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニット[A]が取り付けられています。スピンドルユニット[A]の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付けがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかるている状態で作動させると、故障の原因になります。

- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

- パワーバックドア左右端部のセンサー(→P.118)を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■ クローズ＆ロック機能※について

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことを作動の合図でお知らせします。(→P.105)

車から離れるときは、作動の合図を確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

⚠ 注意

■ ハンズフリーパワーバックドアについて

ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
 - ・ キックセンサーヤやその周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない

パワーバックドアの設定を変更するには（パワーバックドア装着車）

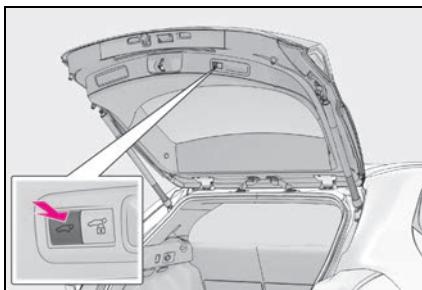
センターディスプレイからパワーバックドアの設定を変更することができます。

OFFを選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ONにしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

パワーバックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.112）
- 2 バックドア下部のスイッチを約2秒間押し続ける
 - ・ 設定が完了するとブザーが4回鳴ります。
 - ・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

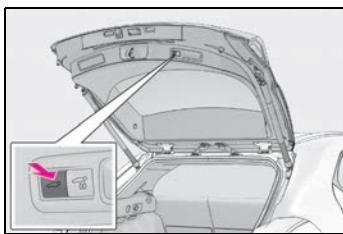


知識

■ バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約7秒間押し続ける。

ブザーが4回鳴ったあと、さらに2回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



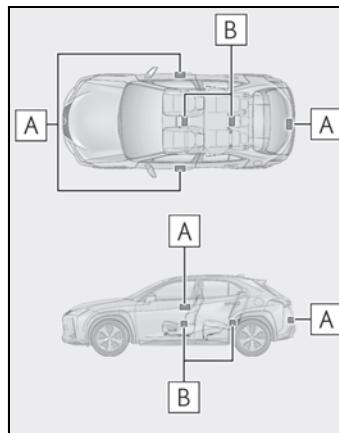
スマートエントリー＆スマートスタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する
(→P.103)
- パックドアを解錠・施錠する
(→P.110)
- ハイブリッドシステムを始動する
(→P.162)

知識

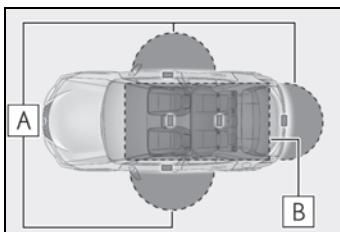
■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



■ A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・バックドアオープنسイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

■ B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

■ 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

■ 車内から警告音が“ボーン、ボーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■ マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されたときは

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドドライブが点灯しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。

- ・車の周辺に一定時間電子キーを放置した
- ・5日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかつた

●14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかつた場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子

キーの電池の消耗を抑えることができます。

- 電子キーの  を押しながら、
 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします

■ 電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑るために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンス

タンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん
- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ CDやDVDなどのメディア

- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
- ・ 他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・ パソコンや携帯情報端末（PDAなど）
- ・ デジタルオーディオプレーヤー
- ・ ポータブルゲーム機器

- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。
(→P.446)

また、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムが始動で

きない場合は、P.447 を参照してください。

■ ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている
 - ・ ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できことがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することができます。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤ

レスリモコンを使用すると解錠できます）

- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
 - ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.124）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■ 降車オートロック機能^{※1}についてご留意いただきたいこと

- 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐため

に、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

- すべてのドアを閉めたあと（パワー バックドア閉作動中も含む※2）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

- ・ブレーキペダルを踏む
- ・パワースイッチを押す
- ・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワー バックドア閉作動も含む※2）してください。

- 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。※2

- すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。※2

- 電池残量が少ないとときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

※1 レクサス販売店での設定変更が必要です。

※2 パワー バックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.103）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。

- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.469）

- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.124）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤つて警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■電子キーが正常に働かないときは

- ドアの施錠・施錠（→P.446）

- ハイブリッドシステムの始動（→P.447）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.465）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.103, 446）

- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.447

- ハイブリッドシステムの停止：→P.164



警告

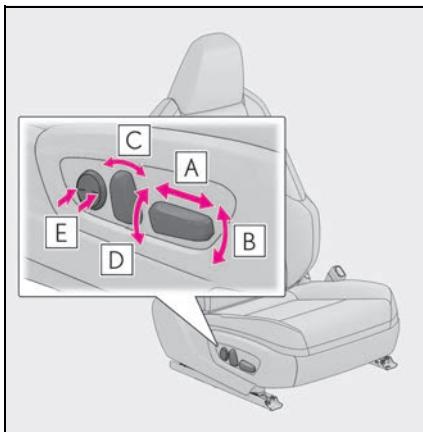
- 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）
 - 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.123）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
 - 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

フロントシート

レバー操作もしくはスイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。（→P.27）

調整するには



A 前後位置調整

B クッション前端の上下調整

C リクライニング調整

D シート全体の上下調整

E 腰部調整（ランバーサポート）
(運転席のみ)

□ 知識

■ シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。
- ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。

■ パワーアクセスシステム

パワースイッチのモード切り替え・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→P.145）

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、またはパワーアクセスシステムの作動中に、シートの後ろに異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し前方に少し移動します。

挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

▲ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

レバー操作により、リヤシートの背もたれを倒すことができます。

背もたれを倒すには

■ 操作する前に

- 車を安全な場所に駐車する
しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。
(→P.175)
- フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する (→P.129)

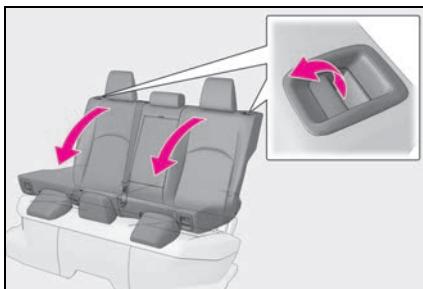
フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れないと、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

- リヤシートのヘッドレストを下げる (→P.131)
- リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する (→P.340)

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

■ 前に倒すときは

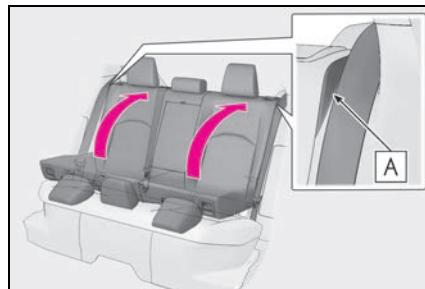
ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す



■ 背もたれをもとにもどすときは

シートベルトをシートベルトガイド

Aにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



⚠ 警告

■ 背もたれを前倒しするときや、前倒したあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

⚠ 警告

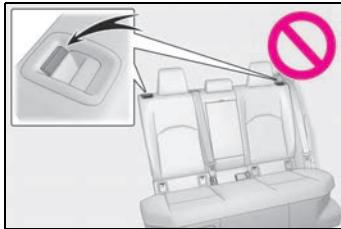
■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていることを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

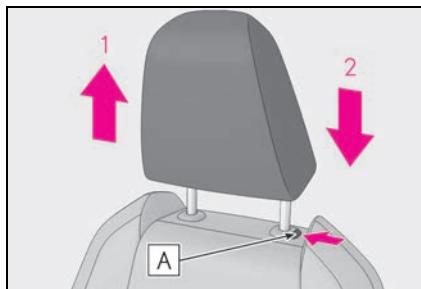
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席

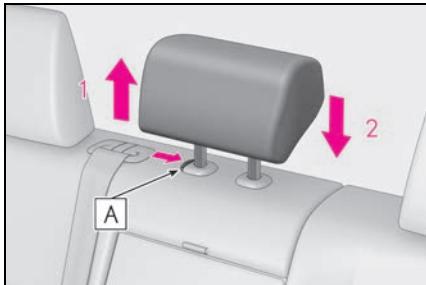


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作します。

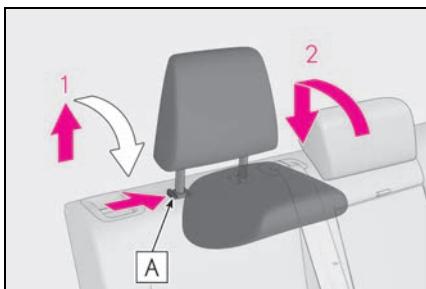
■ リヤ中央席



- 1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作します。

■ リヤ外側席



- 1 前へ倒す

解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げ、前方へ倒します。

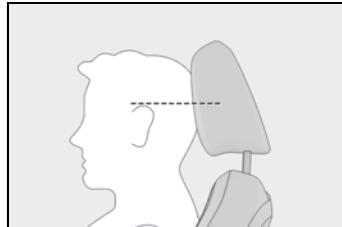
2 使用する

ヘッドレストを起こしロック位置まで押し下げる

知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤ中央席について

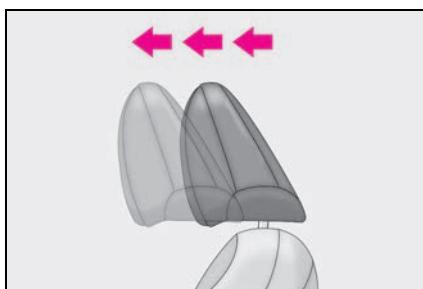
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

前後調整するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント席ヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



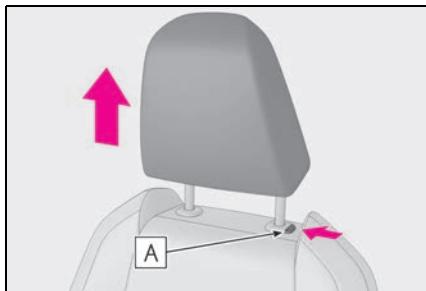
ヘッドレストを取りはずすには

▶ フロント席、リヤ中央席

解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

(→P.129, 130)

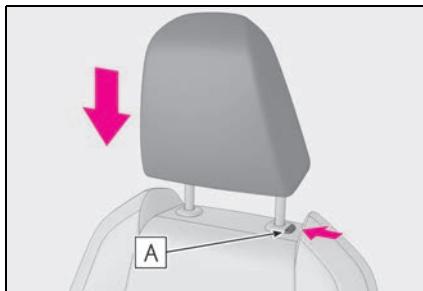


► リヤ外側席

解除ボタン**A**を押しながらヘッドレストを引き上げます。

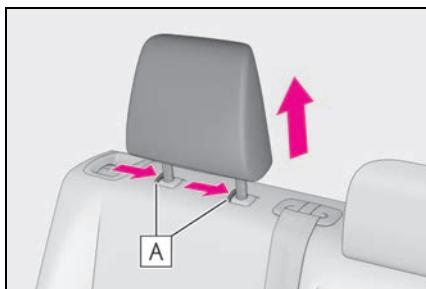
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

(→P.130)



► リヤ外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。



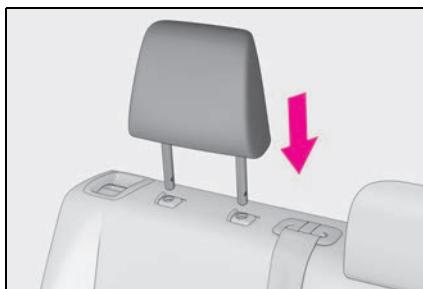
ヘッドレストを取り付けるには

► フロント席、リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン

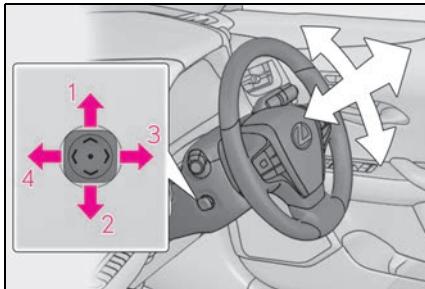
Aを押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ



■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがACC、またはONのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。
(→P.145)

■パワーアシストシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。
(→P.145)

■カスタマイズ機能

ハンドル作動の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.470)

警告

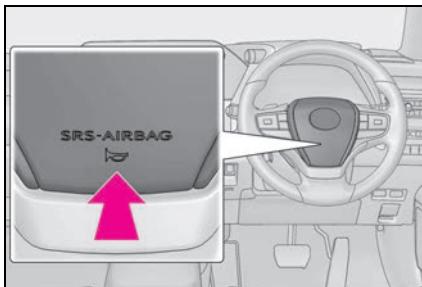
■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



インナーミラー

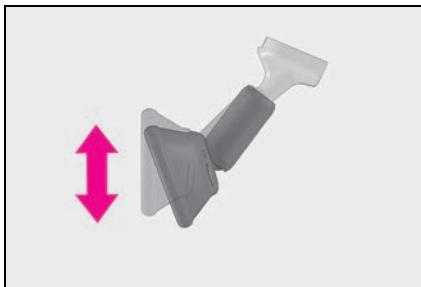
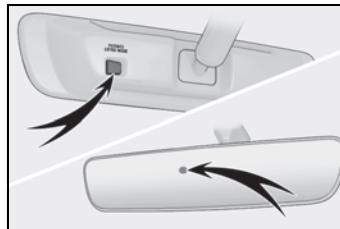
後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

ください。



警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能を使うには

後続車のヘッドライトのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆つたりしないで

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■ 走行中の留意事項

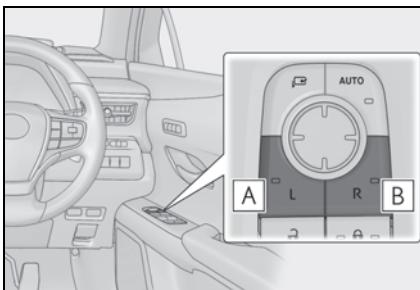
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤つて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶ

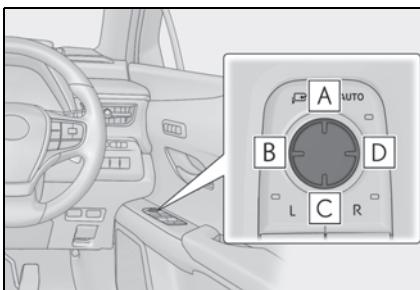


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 左

C 下

D 右

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデオッガーを作動させ

ると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.308）

■自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、運転席側のドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→P.135）

■ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.145）

⚠ 警告

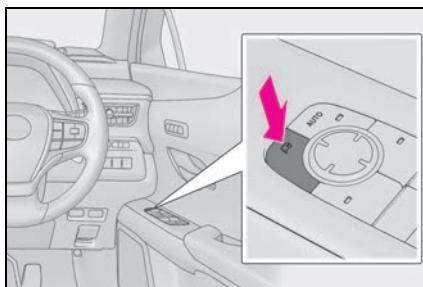
■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので心配ないでください。

ドアミラーを格納するには

■マニュアル作動での格納・復帰ボタンを押す

もう一度押すと元に戻ります。



■オート作動での格納・復帰

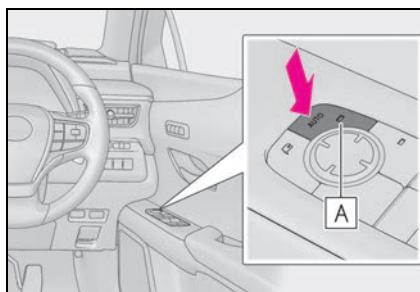
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター

A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



□ 知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFFの状態にもどります。機能をONにするときは、再度、オート電動格納機能のON・OFF切り替えを行ってください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。

（カスタマイズ一覧：→P.470）

⚠ 警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にし

てください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

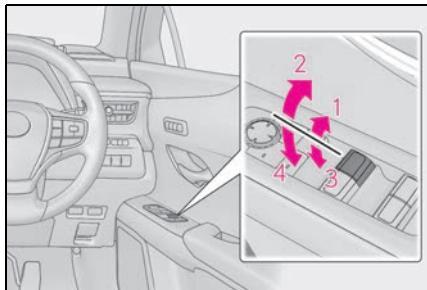
次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウィンドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いつたんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

- 5 いつたんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約4秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→P.447)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→P.103)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.63)

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■ 窓開警告ブザー

パワースイッチがOFFでドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“窓が開いています”が表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧: →P.471)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.141)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

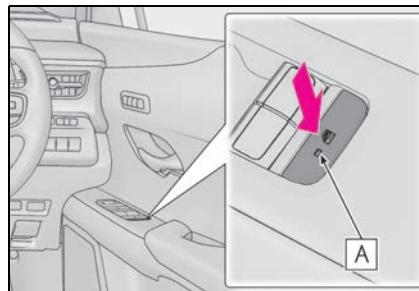
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯しておさまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

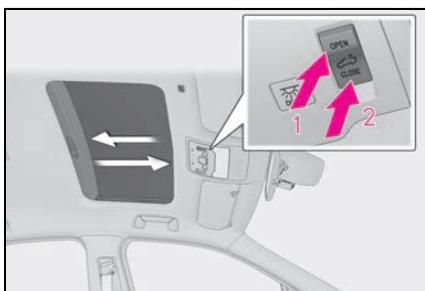
ムーンルーフ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ/ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ ムーンルーフを開閉するには



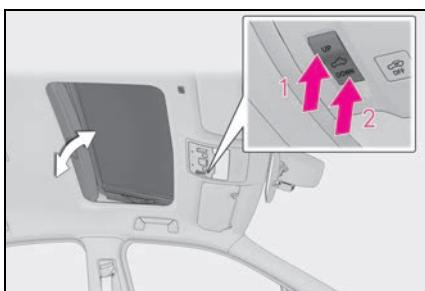
1 開ける*

チルトアップしてから開きます。

2 閉める*

* 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウンするには



1 チルトアップする*

2 チルトダウンする*

* 途中で停止するときは、ムーンルーフ

スイッチを軽く押します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチがONのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをACCまたはOFFにしたあとでも、約45秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ムーンルーフの開閉をすることができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

● メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。* (→P.447)

● ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。* (→P.99)

● オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.63)

* レクサス販売店での設定変更が必要で

す。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に動かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に動かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “DOWN” 側を押し続ける※

ムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。その後開いて閉じ、チルトアップしたあとチルトダウンして全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に動かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに “ムー

ンルーフが開いています” が表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.471)

■警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているときは

●走行中はルーフから手や顔を出さない

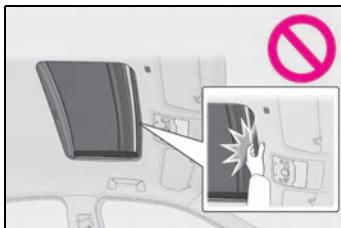
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。

またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自動で運転席・ハンドルの位置・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイ★を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

マイセッティングが ON の場合：

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者とゲストにそれぞれ 3 パターンまで登録できます。

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。(メモリーコール機能)

マイセッティングが OFF の場合：

ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。(メモリーコール機能)

マイセッティングについては、P.150 を参照してください。

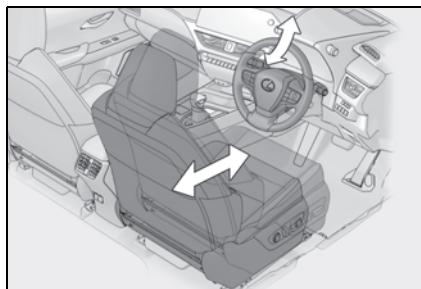
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入る
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

□ 知識

■ パワーイージーアクセスシステムの動作について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■ 挟み込み防止機能

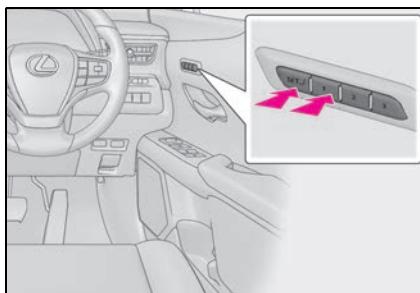
パワーイージーアクセスシステム作動中に、シートの後ろおよび前に異物の挟み

込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧: →P.470)



▲ 警告

■ パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションを登録するには

- 1 シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ~ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ 登録できるシート位置 (→P.129)

腰部調整 (ランバーサポート) 以外の位置が登録できます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じことがあります。

▲ 警告

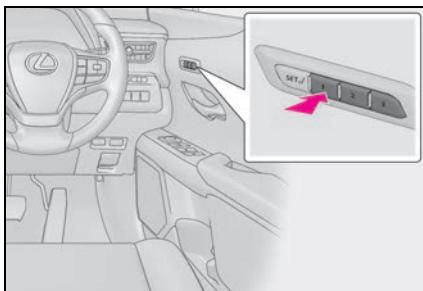
■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

- 1 シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする

- 3 1～3のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



□ 知識

- ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1～3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

- 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- ドライビングポジションの登録
- ドライビングポジションの呼び出し（シフトポジションが P の位置にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込み

を検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ 警告

■ 挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

■ 乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）

■ マイセッティングが ON（電子キーで個人を特定）の場合

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

■ ドライビングポジションの呼び出し方法

- マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

- パワースイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示★（パワースイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● メモリーコール機能の解除方法

マイセッティングで運転者の登録内容を初期化する

初期化方法については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ マイセッティングが OFF の場合

お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● ドライビングポジションの登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1～3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

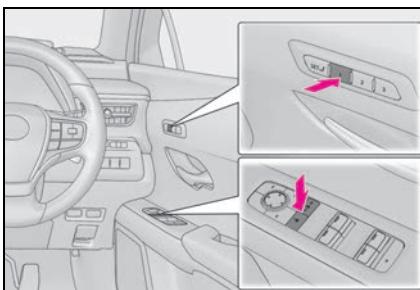
登録させたいキーのみ携帯して、運転席

ドアを閉めてください。

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- パワースイッチを ON にする
- 登録させたいドライビングポジション（1～3）を呼び出す
- 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



● ドライビングポジションの呼び出し方法

- ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 パワースイッチを ACC または ON にするか、運転席シートベルトを着用する

シート・ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★（パワースイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● メモリーコール機能の解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON にする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

□ 知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

● 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

● 運転席ドア以外のドアをスマートエンタリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しが行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込み

を検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。

（カスタマイズ一覧：→P.470）

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動切り替え、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。 (→P.96)

● デジタルキー★

スマートエントリー＆スタートシステムがデジタルキーを検出することで個人を特定します。 (→P.100)

● Bluetooth デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth® デバイスがマルチメディアシステムに接続されることで個人を特定します。

電子キーを検出して個人を特定したときは、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、次の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションをPにしたとき）のドライビングポジションを再生します。

・ 電子キーで個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開けます。

・ デジタルキー★で個人を特定：スマートエントリー＆スタートシステムで解錠してドアを開けたとき

● メーター表示／ヘッドアップディスプレイ★表示／マルチメディア設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチをOFFにしたときの表示設定を再生します。

● センターディスプレイで設定可能な車両設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチをOFFにしたときの車両設定を再生します。

● 安全運転支援機能※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※ 一部の設定項目を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	154
荷物を積むときの注意	160

4-2. 運転のしかた

パワー (イグニッション) スイッチ	162
EV ドライブモード	166
トランスミッション	168
方向指示レバー	174
パーキングブレーキ	175
ブレーキホールド	177
ASC (アクティブサウンドコントロール)	179

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	181
AHS (アダプティブハイビームシステム)	184
AHB (オートマチックハイビーム)	187
フォグランプスイッチ	190
ワイパー & ウオッシャー (フロント)	191
ワイパー & ウオッシャー (リヤ)	195

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	197
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する (Lexus Safety System + 装着車)	199
Lexus Safety System +	202
PCS (プリクラッシュセーフティ)	208

LTA (レントレーシングアシスト)	217
--------------------------	-----

LDA (レーンディバーチャーラート)	221
---------------------------	-----

PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	226
-------------------------------	-----

発進遅れ告知機能	231
----------------	-----

RSA (ロードサインアシスト)	233
------------------------	-----

レーダークルーズコントロール	236
----------------------	-----

クルーズコントロール	245
------------------	-----

ドライバー異常時対応システム	248
----------------------	-----

ITS Connect	250
-------------------	-----

BSM (ブラインドスポットモニター)	256
---------------------------	-----

後方車両への接近警報	261
------------------	-----

安心降車アシスト	263
----------------	-----

クリアランスソナー	267
-----------------	-----

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	273
------------------------------	-----

PKSB (パーキングサポートブレーキ)	277
----------------------------	-----

パーキングサポートブレーキ (前後方静止物)	281
------------------------------	-----

パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	283
------------------------------	-----

プラスサポート (販売店装着オプション)	285
----------------------------	-----

ドライブモードセレクトスイッチ	290
-----------------------	-----

運転を補助する装置	292
-----------------	-----

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス	299
-----------------------	-----

寒冷時の運転	301
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従つて走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.162

■ 発進する

- ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする
シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。
- パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→P.175)
- ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- ブレーキペダルを踏む
- 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。 (→P.169)

■ 駐車する

- ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける (→P.175)
- シフトポジションを P にする (→P.169)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
- ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- ブレーキペダルをしつかり踏み、シフトポジションを D にする
ヒルスタートアシストコントロールが作動します。
- パーキングブレーキをかける (→P.175)
- ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する
- 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除して発進する (→P.175)

□ 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。 (→P.292)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。 (→P.299)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇つたり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。
- ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）
 - アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
 - ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

! 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.398 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。 (→P.168)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- AWD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。
- シフトポジションを変更するとき
- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中にシフトポジションを N になると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 繼続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

● 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
- プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

● ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

● フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。

吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれないと、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは (AWD 車)

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わず事故につながるおそれがあります。

⚠️ 注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

⚠ 注意

- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.423, 436, 442をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合

- エンジン・ハイブリッドトランスマッティションなどのオイルやフルードの量および質の変化

- 各ペアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することができます。

- Rに切りかえたとき※

- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

□ 知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRC の作動を停止（→P.294）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.294）

- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

- 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.465）

- ・ パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

- ・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

⚠ 警告

- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・運転席足元
 - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・トノカバー
 - ・インストルメントパネル
 - ・ダッシュボード
 - ・センターディスプレイの前
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷物の重量・荷重のかけ方について
 - 荷物を積み過ぎないでください。
 - 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ルーフレール★を使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

 - 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

- 車両の大きさ（全長、全幅）をこえる荷物を積まないでください。
 - 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
 - ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
 - 80kg以上の荷物を積まないでください。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

- 荷物を積むとき

ムーンルーフ★に荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー (イグニッショ n) スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す
(→P.175)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。
表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

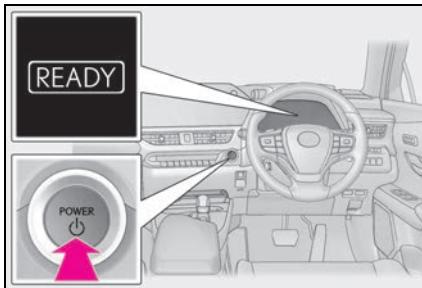
シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。(→P.169)

- 3 パワースイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
パワースイッチのどのモードからでもハ

イブリッドシステムを始動できます。



- 4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、P.285 も併せて参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- 運転席または、助手席のドアが開いているとき、もしくはパワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ照明が暗く点灯します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が明るく点灯します。
- パワースイッチが ACC または ON のときは、パワースイッチ照明が点灯します。
- ハイブリッドシステムが始動しないときは
 - イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P.62)
レクサス販売店へご連絡ください。
 - 始動操作に関するメッセージがマルチ

インフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.447 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.106）はハイブリッドシステムを始動できます。

■ 外気温が低いときは

- ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.55

■ 捕機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.448 を参照してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.96

■ スマートエントリー＆スタートシステムが正常に動かないおそれのある状況

→P.125

■ ご留意いただきたいこと

→P.126

■ マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.60

■ 電子キーの電池交換

→P.387

■ パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切り替えやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.446 を参照してください。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける (→P.175)
- 3 P ポジションスイッチを押す (→P.169)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

- 5 ブレーキペダルから足を離して、メーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

□ 知識

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にできる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。 (→P.398)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

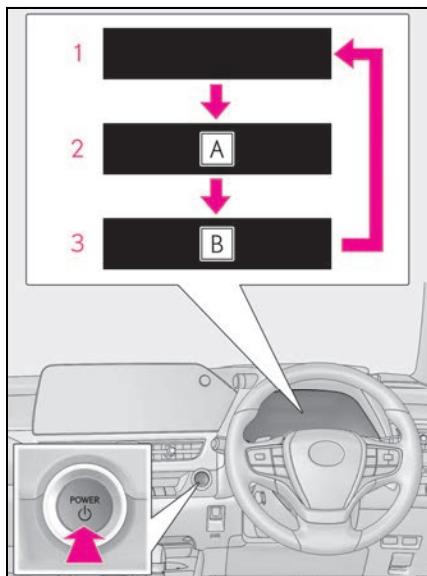
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを N にし、パワースイッチを短く確実に押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A アクセサリー

B パワー ON

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。

メーターに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに“パワー ON”が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。(→P.465)

□ 知識

■ ACC カスタマイズが“OFF”的とき

● パワースイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

● 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■ 自動電源 OFF 機能

● シフトポジションが P にあるとき、約 20 分以上パワースイッチを ACC または ON (ハイブリッドシステムが始動していない状態) のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

● シフトポジションが P およびパワースイッチが ACC または ON (ハイブリッドシステムが始動していない状態) のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

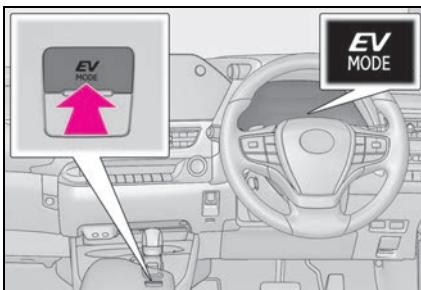
 **注意**

- 補機バッテリーあがりを防止するために
 - ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
 - ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になつていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ



EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

 **知識**

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
長時間駐車したあとなど

- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.89）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ ガソリンエンジンが冷えているときのEV ドライブモードの切りかえについて
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前にEV ドライブモードスイッチを押してください。ただし、車両状況によってはEV ドライブモードが解除され、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどる場合があります。

■ EV ドライブモードの自動解除について
EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.89）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によってはEV ドライブモードが使用できない場合があります。

■ 燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EV モードに現在切りかえできません”と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EV モードが解除されました”と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

▲ 警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

トランスマッision

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2 (→P.173)

※¹燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※²Sモードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- DポジションまたはSモードで走行中に5または4レンジにシフトダウンしたとき (→P.172, 173)

- Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき (→P.290)

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.159

■ シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■ 補機バッテリーを脱着したとき

→P.450

! 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

! 注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

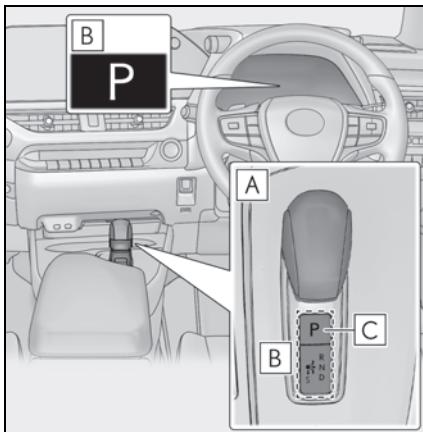
⚠ 注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき
(→P.416)
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方 法と表示について



【A】シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

Nに切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフト

レバーが定位置（●）にもどります。

Sへの切りかえは、シフトポジションがDのときのみ可能です。

PからN・D・R、およびN・D・S・RからPへ、またはD・SからR、およびRからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

【B】シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

【C】Pポジションスイッチ

Pポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、Pポジションスイッチを押してください。

シフトポジションをPにすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯がPであることを必ず確認してください。

□ 知識

■ パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- パワースイッチがOFFまたはACCのときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチがONで、READYインジケーターが消灯しているときは、Nのみに切りかえが可能です。
- READYインジケーターが点灯中は、Pから、D・N・Rを選択できます。

- READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを S に切りかえることはできません。

■ シフトポジションを切りかえられなかった場合

- 次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかつたことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。
- ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

- アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

- P または N から、S を選択した
- 走行中に、P ポジションスイッチを押した
極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■ シフトポジションが自動的に N に切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

● 車両が前進しているときに R を選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

● 車両が後退しているときに D を選択した

低速走行時は D に切りかわることがあります。

● R から S を選択した

■ 走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくとも N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ 自動 P ポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

- パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき(シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります)※

- シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

- ・ パワースイッチが ON

- 運転席シートベルトを着用していない
- ブレーキペダルを踏んでいない
- シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき
- シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき
- 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。
- シフトポジションが P から切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.448 を参照してください。

警告

シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなつて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

P ポジションスイッチについて

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

注意

車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

- 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでのあいだ、自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1 停車する

2 ブレーキホールドシステムを OFF にする (→P.177)

3 ハイブリッドシステムが始まっているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

- 4 シフトレバーを定位置（●）にもどす
- 5 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する
- 6 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のままハイブリッドシステムが停止します*

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“N 保持中 解除するには P スイッチを押してください”が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください。

* この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

走行モードの選択

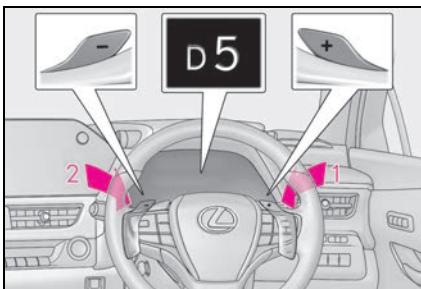
→P.290

D ポジションでレンジ選択するには

シフトポジションを D で走行中、パドルシフトスイッチの“-”側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

レンジを選択することで、使用する

レンジの上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

レンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

□ 知識

■ D ポジションでパドルシフトスイッチの“-”側を操作したとき

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

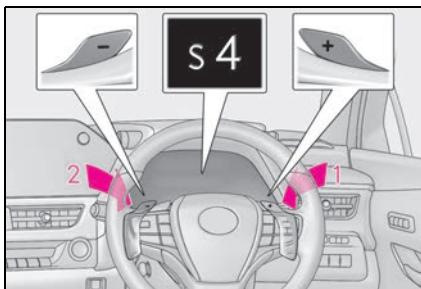
- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトポジションを D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの “+” 側を長押ししたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

S モードでのシフトレンジを選択するには

シフトポジションを S にすると、S モードに切りかわります。シフトポジションまたはパドルシフトスイッチの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、4 レンジまたは 5 レンジに設定されます。

■シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

□ 知識

■S モードについて

- S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると S6 レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

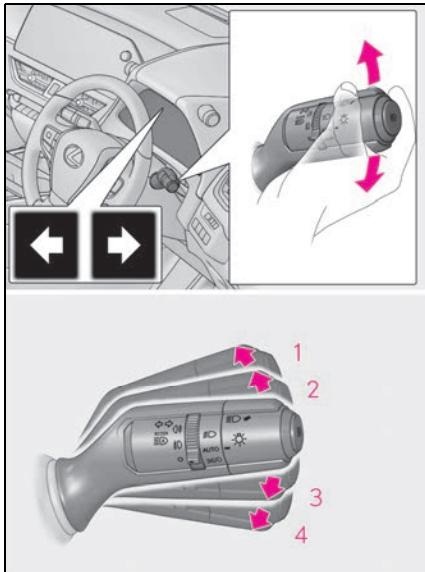
■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
左側方向指示灯が 5 回点滅します。
- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
右側方向指示灯が 5 回点滅します。
- 4 右折

□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

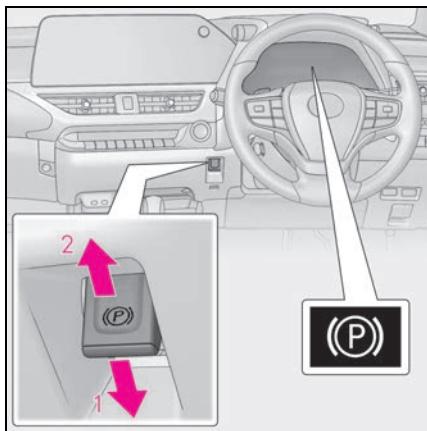
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトポジションの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。 (→P.176)

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

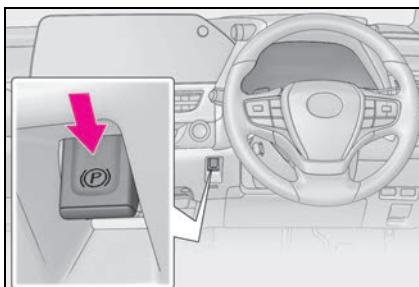
2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

- ・ ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・ パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

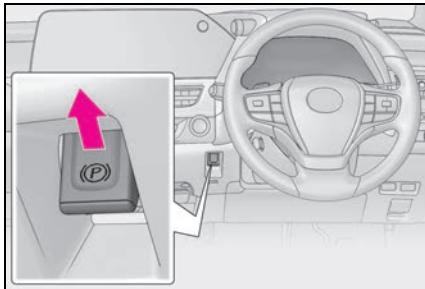
● シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトポジションおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出る

までスイッチを引き続ける



□ 知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■ パーキングブレーキ自動解除について

オートモード：

シフトポジションを P から P 以外 にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが D、S または R のとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。

ます。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウイーン”という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.154

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” と表示されます

(車速が 5km/h をこえたとき)

■ ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.407

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.302



■ 駐車するとき

お子さまでけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

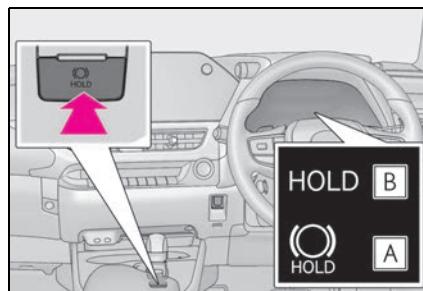
シフトポジションが D・S・N または P でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯

A (緑) が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 B (黄) が点灯します。



■ 知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

● 運転席ドアが閉まっていない

● 運転席シートベルトを着用していない

● マルチインフォメーションディスプレイに、 “EPB 現在 使用できません” や “EPB 故障 販売店で点検してください”

さい”が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。
- パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチをOFFにしてください。
- ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき
発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。
- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、ブレーキ

ングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
(→P.175)

■ レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.408

⚠ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

⚠ 警告

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

⚠ 注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF になると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ASC (アクティブサウンドコントロール) ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ASC は、車室の前方から車内に向けて特殊な音を付加し、実際のエンジン音や排気音などと協調させることで、運転者が加速感やエンジンの状態を、より実感しやすくなるためのシステムです。

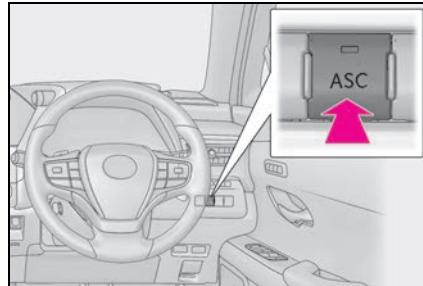
設定のしかた

ASC スイッチを押す

ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

走行モード (→P.290) がエコドライブモード／カスタムモード (パワートレイン制御が ECO)、または EV ドライブモード (→P.166) が ON のときは、インジケーターが点灯していても ASC は作動しません。



□ 知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

●EV ドライブモード (→P.166) が OFF のとき

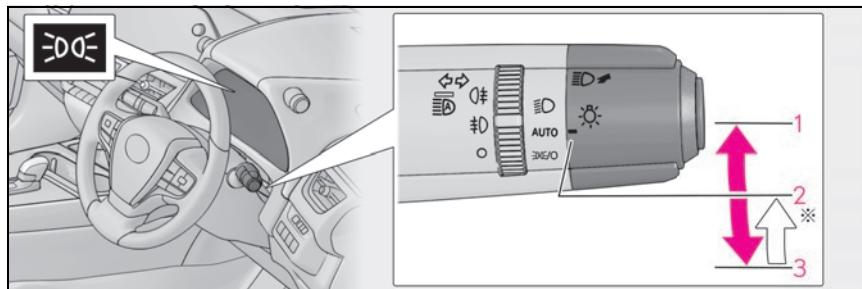
●走行モード (→P.290) が、エコドライブモードまたはカスタムモード (パートトレーン制御が ECO) 以外のとき

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



4

解説

* スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドライト・スマートランプが点灯	
2  ^{※1}	デイタイムランニングランプ (→P.182) が点灯	ヘッドライト・スマートランプ が点灯
3  ^{※1}	スマートランプが点灯	スマートランプが点灯 ^{※2}

上記の表のスマートランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

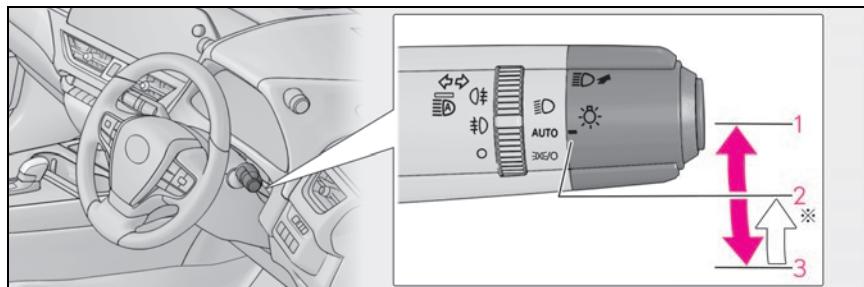
※1 操作するたびに、**2**  による点灯状態と **3**  による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2**  による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



* スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 	ヘッドライト・スマートランプ・デイタイムランニングランプ (→P.182) が消灯	ヘッドライト・スマートランプが消灯*

* 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

□ 知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ デイタイムランニングランプ

日中の走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO になると、デイタイムランニングランプが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

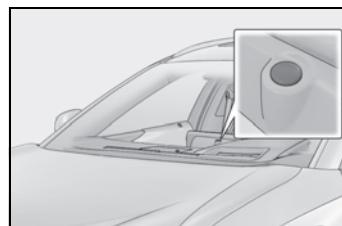
デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドライトが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または

の位置にします。

■オートレベルシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドライトまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■おもてなし照明

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ワイパー連動ヘッドライト点灯機能

日中の走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドライトが自動点灯します。

■マルチインフォメーションディスプレイに“ヘッドライトシステム故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

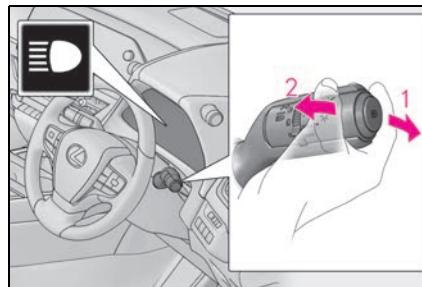
ライトセンターの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.465)

注意

■補機バッテリーあがりを防止するため

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



- 1 ヘッドライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドライト（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションが R のとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

■ コーナリングランプ制御について

- 車速が約 30 km/h 以下のときに点灯します。ただし、約 35 km/h 以上になると消灯します。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

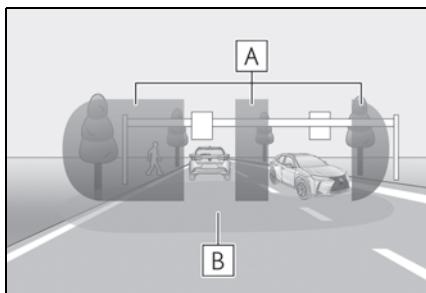
■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.202

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

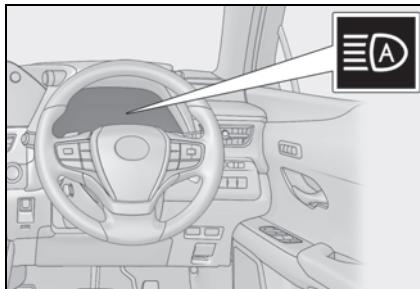


A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上 *
 - ・ 車両前方が暗い
- * 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。

- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

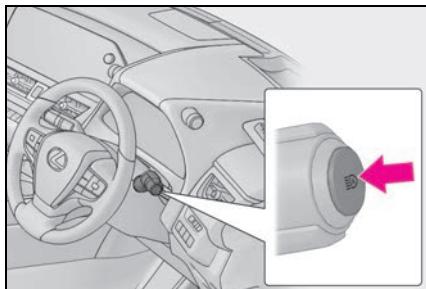
- ・ 車速が約 12km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両の台数が多い
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき

アダプティブハイビームシステムを使うには

- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたは

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

- ・連続するカーブや中央分離帯・街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・前方車両が無灯火のとき
 - ・前方車両のランプ類の照度が低いとき
 - ・前方車両が自車のヘッドライトなどの強い光を反射しているとき
 - ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206
- 前方車両のフォグラランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- ・前方車両のランプの明るさ
 - ・前方車両の動きや向き
 - ・前方車両との車間距離
 - ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・前方車両が二輪車のとき
 - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・乗車人数や荷物の量
- ヘッドライトの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
- ・周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
 - ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
 - ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
 - ・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
 - ・システムを OFF にする必要があるとき：→P.202
 - ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.465）

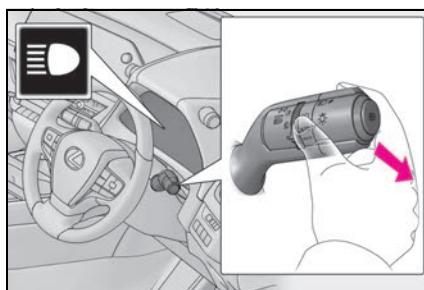
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

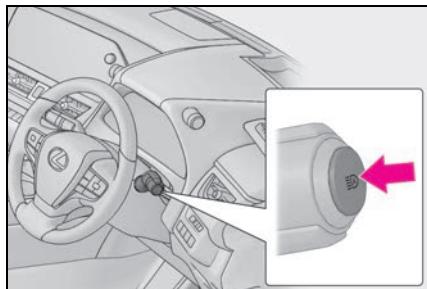


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

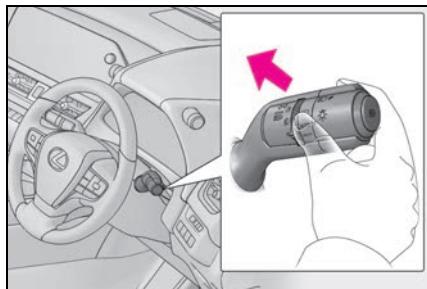


一時的なロービームへの切り替え

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB (オートマチックハイビーム)

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

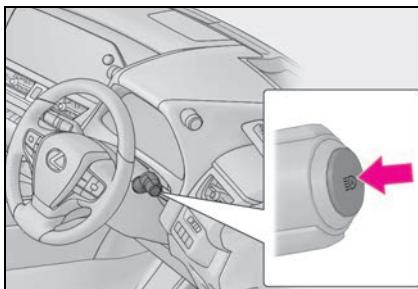
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.202

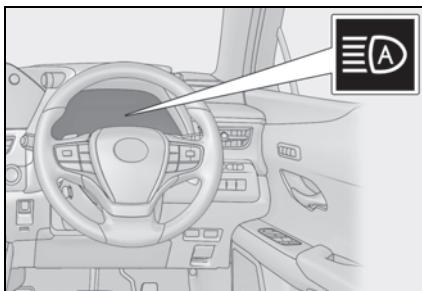
オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは OFFの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



□ 知識

■ ハイビームとロービームの自動切り替え条件

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・車速が約 30km/h 以上
- ・車両前方が暗い
- ・前方にランプを点灯した車両がない
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

● 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・車速が約 25km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- ・前方車両がランプを点灯している
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ 前方カメラの検知について

● 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・車両が割り込んできたとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が遠方を走行しているとき
- ・前方車両が無灯火のとき
- ・前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・前方車両が自車のヘッドライトなどの

強い光を反射しているとき

- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき : →P.206

● 前方車両のフォグラントにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

● 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・前方車両のランプの明るさ
- ・前方車両の動きや向き
- ・前方車両との車間距離
- ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・前方車両が二輪車のとき
- ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・乗車人数や荷物の量

● ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

● 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩

行者の迷惑になると思われるとき

- ・システムを OFF にする必要があるとき : →P.202
- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき : →P.206

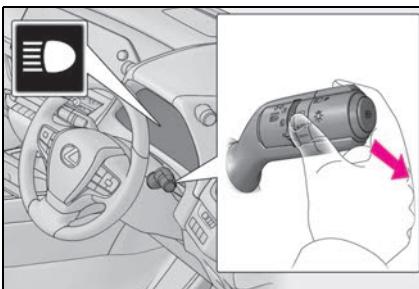
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

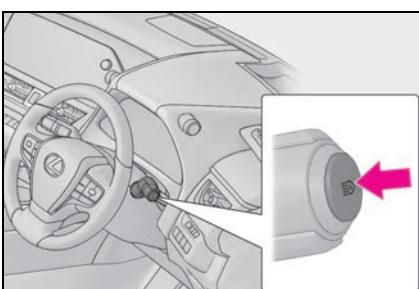


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

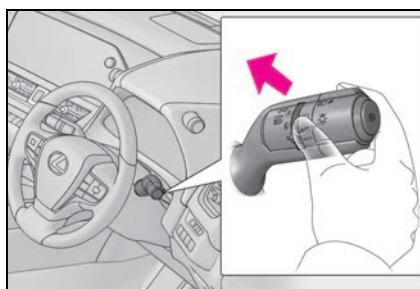


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



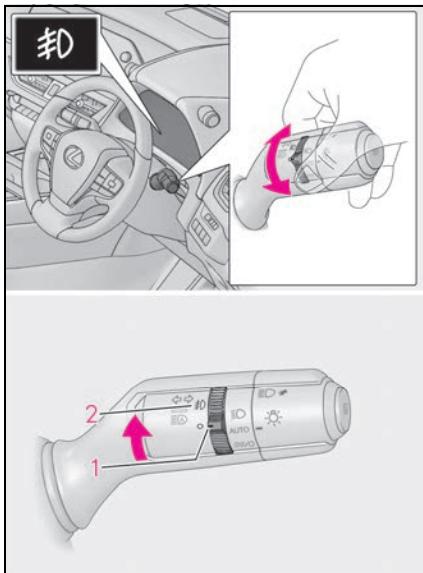
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプ★を点灯させます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

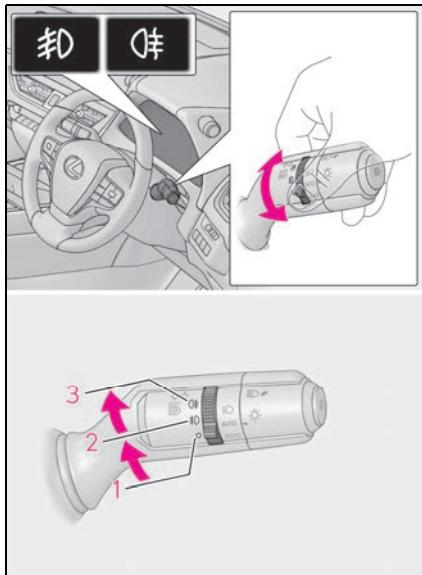
▶ フロントフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 **OK** 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 **OK** フロントフォグランプを点灯する

3 **OK** フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと**OK**の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

□ 知識

■ 点灯条件

▶ フロントフォグランプ装着車

ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用で

きます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するため

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウオッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

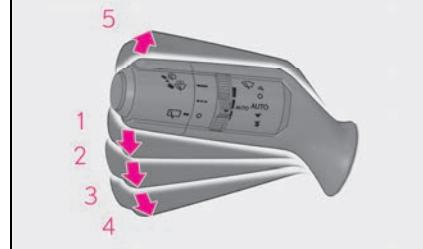
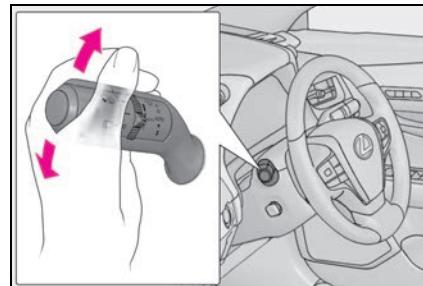
■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

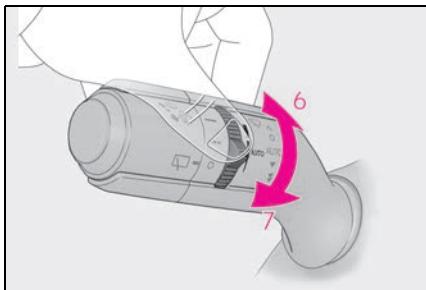
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

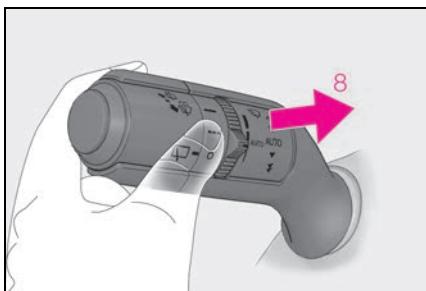


- 1 ○ 停止
- 2 AUTO AUTO モード
- 3 ▼ 低速作動
- 4 ▼ 高速作動
- 5 △ 一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 6 雨滴センサーの感度調整（高）
- 7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）

ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときに5回

連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチがONのとき

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- ワイパーを1回のみ作動
- フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

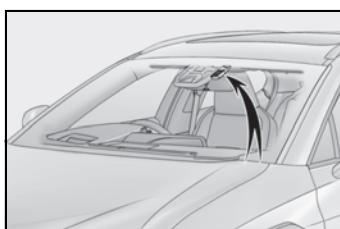
■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチがONのときにワイパースイッチをAUTOにすると、動作確認の

ためワイパーが1回作動します。

- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO以外でワイパーを使用してください。

■ ウオッシャー液が出ないときは

ウオッシャー液量が不足していないのにウオッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ ドア開運動ワイパー停止機能

AUTOモード選択中にシフトポジションがPの状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

▲ 警告

■ AUTOモード時のワイパー作動について

AUTOモードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウオッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウオッシャー液を使用しないでください。ウオッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 注意

■ ウオッシャー液が出ないときは

ウオッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまたときは

ノズルがつまたときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

4

車両

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。

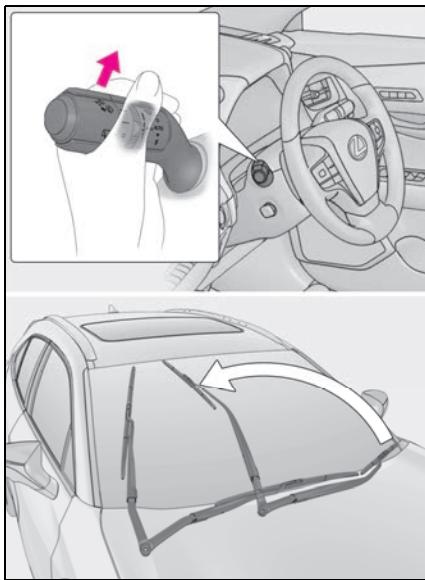
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

パワースイッチをOFFにしたあと、約45秒以内にワイパースイッチを

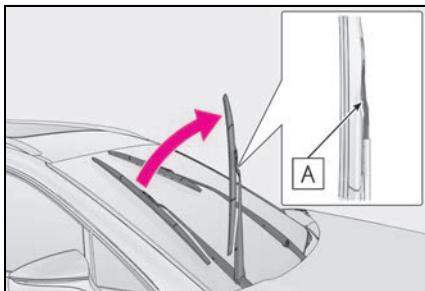
△の位置で約2秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部 **A** を持つてガラス面から引き上げる



■ ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。パワースイッチが OFF のときにワイパーがずれてしまっていても、作動後は正常な位置にもどります。

■ 音声対話サービスでの操作★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、サービスポジションへ切りかえることができます。

(停車中およびワイパースイッチが ○ の位置のみ操作可能)

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



注意

■ ワイパーを立てるときは

- ワイパーがポンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとポンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパープレードのみを持ってワイパーを立てないでください。プレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがポンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

ワイパー & ウオッシャー (リヤ)

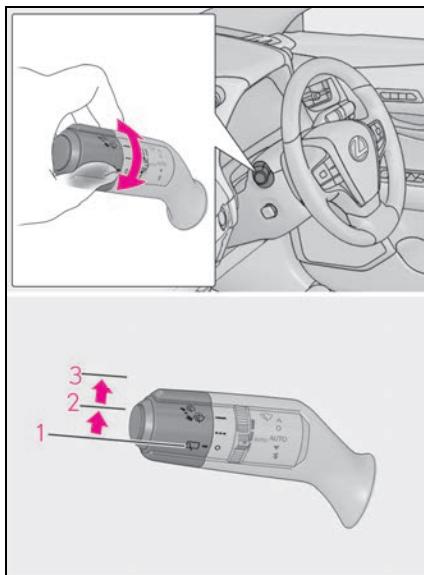
レバー・スイッチ操作でリヤワイパーやウォッシャーを作動させることができます。

⚠ 注意

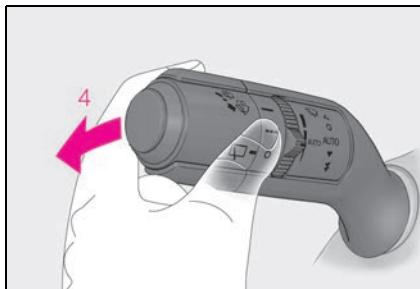
- リヤウインドウガラスが乾いているときは
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 --- 間欠作動
- 3 — 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- リヤワイパーを 1 回のみ作動
- ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトポジションを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

■ バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動している

ときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ カスタマイズ機能

リバース連動機能などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧:→P.465)



注意

■ ウオッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまつたときは

ノズルがつまつたときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するため

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワー・スイッチをOFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

□ 知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率10%以下、またはETBEの混合率22%以下のガソリン（酸素含有率3.7%以下）を使用することができます。



警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボディなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどつたり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 噸煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 繰ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

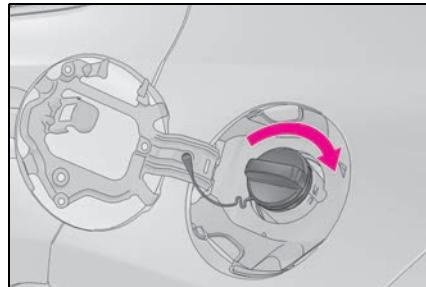
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノックング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

⚠ 注意

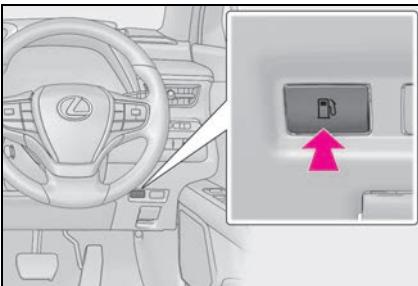
- 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

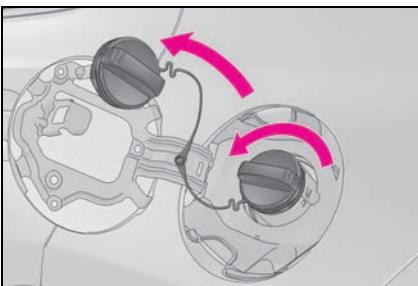


給油口を開けるには

- 1 給油口オープナースイッチを押す



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



⚠ 警告

- キャップが正常に閉まらないとき
必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま
使用したり、純正品以外のキャップを
使用すると、火災などを引き起こし、
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。

□ 知識

- 給油扉が開かないとき

→P.445

給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がする
までまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しも
どります。

ソフトウェアアップデートを確認する (Lexus Safety System + 装着車)

G-Link ご利用契約中のお客様は通信モジュール (DCM) を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。



警告

■ 安全にお使いいただくために

- Lexus Safety System + は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System + の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3までの情報を記載しています。Lexus Safety System + 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。



知識

■ ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- G-Link 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Lexus Safety System + のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、レクサス公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ センターディスプレイ※／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

1 メインメニューの にタッチする

2 “運転支援アップデート” にタッチする

※ マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

■ 自車の Lexus Safety System + のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.lexus.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する



■ デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、センターディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。



■ ソフトウェアアップデートについて留意事項

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前

回の続きから再開します。

- ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します。
- ソフトウェアアップデートの実施中でも Lexus Safety System + を使用することができます。
- 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。
 - ・ システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき[※]
 - ・ 法規上の問題が発生したとき[※]
 - ・ 取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

[※] すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■ 運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。



警告

■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

● システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● お客様ご自身で作動テストを行わないでください。

対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 過積載やパンクで車両が傾いているとき

● 過度な高速走行をしているとき

● けん引時

● トラック／船舶／列車などに積載するとき

● 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき

● 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

● オフロード走行やスポーツ走行をするとき

● 洗車機を使用するとき

● センサーライトやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれいるとき、変形しているとき

● センサーライトやセンサーをさえぎるような装備品を装着しているとき

⚠️ 警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

- AHS (アダプティブハイビームシステム) ★
→P.184
- AHB (オートマチックハイビーム)
→P.187
- PCS (プリクラッシュセーフティ)
→P.208
- LTA (レーントレーシングアシスト)
→P.217
- LDA (レーンディバーチャーラート)
→P.221
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト)
→P.226
- 発進遅れ告知機能
→P.231
- RSA (ロードサインアシスト)
→P.233

■ レーダークルーズコントロール

→P.236

■ クルーズコントロール

→P.245

■ ドライバー異常時対応システム

→P.248

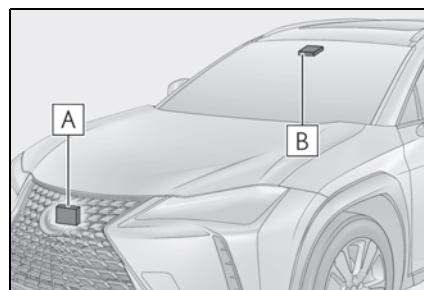
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Lexus Safety System+ で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

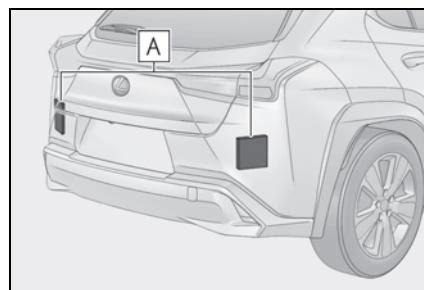
▶ フロント



A 前方レーダー

B 前方カメラ

▶ リヤ



A 後側方レーダー

⚠️ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

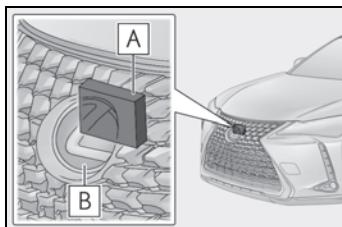
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼つたりしない

● レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

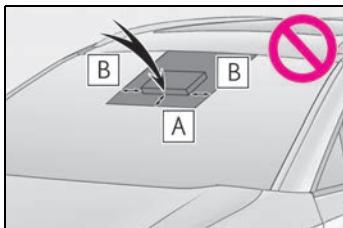
・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

⚠️ 警告

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



■ A 約 4cm

■ B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇つたり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパークリーナーを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない

- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

- 前方カメラを分解しない

- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

- ヘッドライトなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

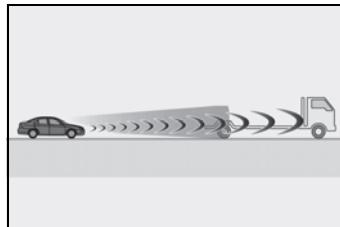
知識

- センサー やシステムが正しく作動しないおそれがあるとき
 - 車両の高さや傾きが変わらるような改造をしているとき
 - フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
 - 外気温が高温または低温のとき
 - センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
 - 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
 - 前方に水／雪／土ほこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
 - 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドライトを点灯していないとき
 - ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いとき
 - ヘッドライトの光軸がずれているとき
 - ヘッドライトが故障しているとき
 - 対向車のヘッドライト光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
 - 急激な明るさの変化があるとき
 - テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
 - ワイパー ブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
 - 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トランク
 - ・ 砂利道
 - ・ 輻のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トランク
 - ・ マンホール

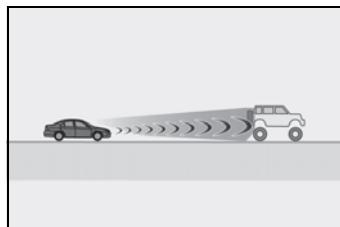
- ・ ガードレール

- ・ 鉄板

- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トランクタ・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれているとき
- 対象車両に雪や泥などが付着しているとき
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

- 変化する道
- 左右に傾きのある道
- 路面に深いわだちがある道
- 整備されていない荒れた道
- 起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定なとき
- 車線内の自車の位置が一定でないとき
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき
- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- レーダーの取り扱い
- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき
- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC 等の安全システムが作動時
- VSC、TRC 等の安全システムが OFF のとき
- ブレーキの作動音や踏み応えの変化について
- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわつたりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.208）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まると判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON／OFFや、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.216）

！ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 安全にお使いいただくために：
→P.202

■ プリクラッシュセーフティをOFFにするとき

システムをOFFにする必要があるとき：→P.202

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車※
- 歩行者
- 自動二輪車※
- 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

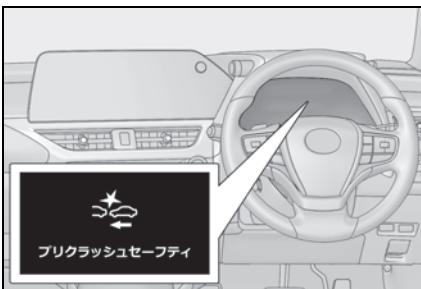
機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をう

ながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

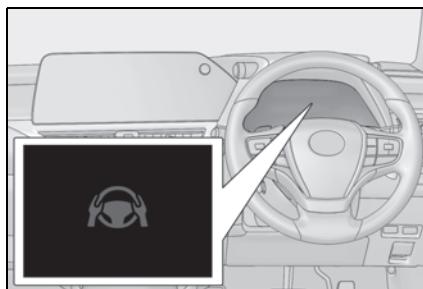
システムが次の条件を全て満たした

と判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があつた

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

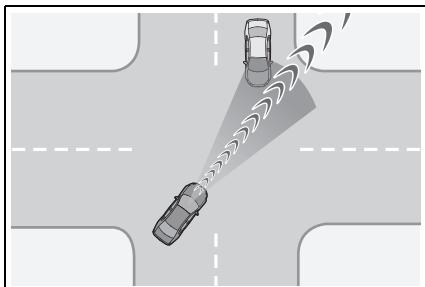


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

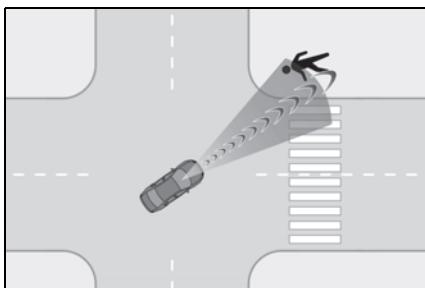
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき



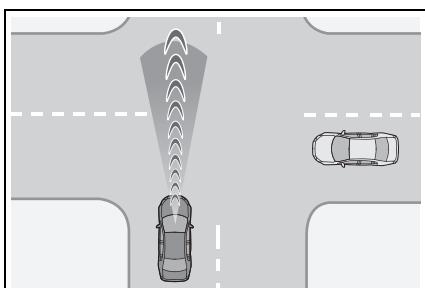
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



- 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



- 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く

踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS (→P.292) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- プリクラッシュブレーキについて
 - プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
 - プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

⚠️ 警告

- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
- 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

 知識

■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティがONで、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションがRのとき
- VSC OFF表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180km/h	約5～180km/h
対向車両	約30～180km/h	約80～220km/h
自転車	約5～80km/h	約5～80km/h
歩行者	約5～80km/h	約5～80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180km/h	約5～80km/h
対向自動二輪車	約30～180km/h	約30～180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約30～180km/h	約10～180km/h
自転車	約30～80km/h	約30～80km/h
歩行者	約30～80km/h	約30～80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約30～180km/h	約10～80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180km/h	約5～180km/h
対向車両	約30～180km/h	約80～220km/h
自転車	約5～80km/h	約5～80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 5 ~ 80km/h	約 5 ~ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ~ 180km/h	約 5 ~ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ~ 180km/h	約 30 ~ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ~ 80km/h	約 40 ~ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ~ 40km/h	約 5 ~ 75km/h	約 10 ~ 115km/h
歩行者	約 5 ~ 30km/h	—	約 5 ~ 40km/h
自転車	約 5 ~ 30km/h	—	約 5 ~ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ~ 40km/h	約 5 ~ 75km/h	約 10 ~ 115km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ~ 60km/h	・自車速度以下 ・約 40km/h 以下	約 5 ~ 60km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ~ 15km/h	約 0 ~ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

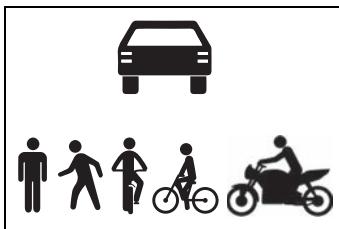
- ・アクセルペダルを離す
- ・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

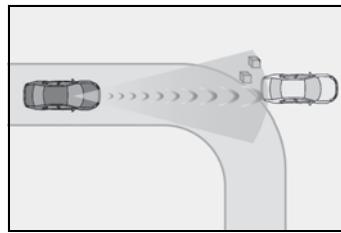
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



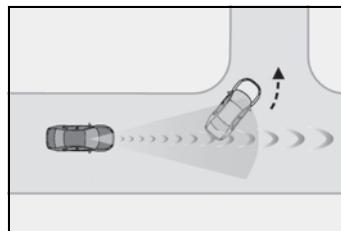
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

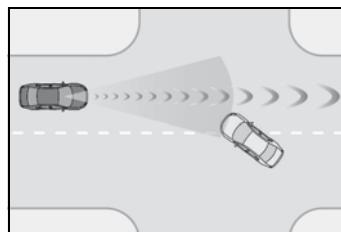
- ・作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・作動対象などに急接近したとき
- ・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



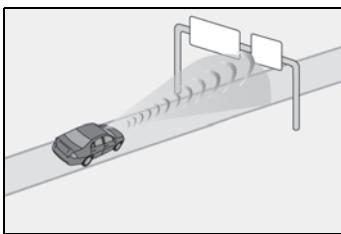
- ・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



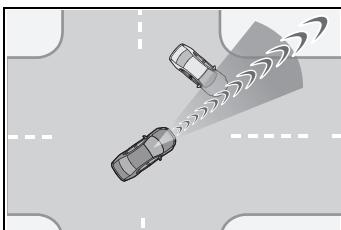
- ・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



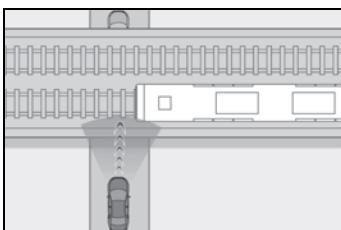
- ・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
- 交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



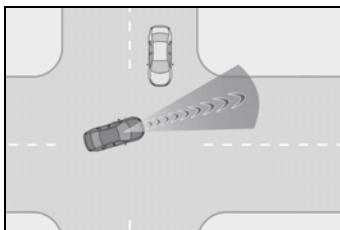
- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- 道路上方／下方を移動するものがあるとき



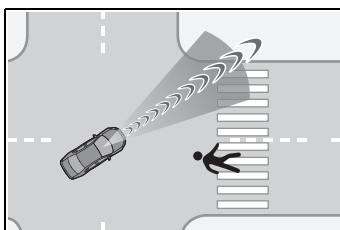
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- 自車や作動対象がぶらついているとき
- 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車の移動速度が速いとき

- 歩行者がペビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- 右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも3つ以上離れた車線を走行しているとき
- 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



- 交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - 作動対象に近づきすぎたとき
 - 回避するための十分なスペースがない、

または回避先に物があるとき

- 対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。

- ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
- 壁が傾いていたり、高さが低いとき
- 壁がポールなど幅の狭いもののとき
- 壁が生垣など草木のとき
- 壁に路面などが映りこんでいるとき
- 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.465）

パワースイッチがONになるとシステムはONになります。

● システムをOFFにすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。（→P.465）

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

“遅い”を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

● レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

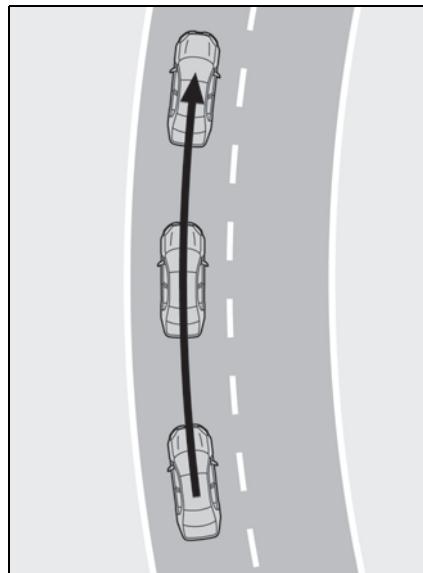
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

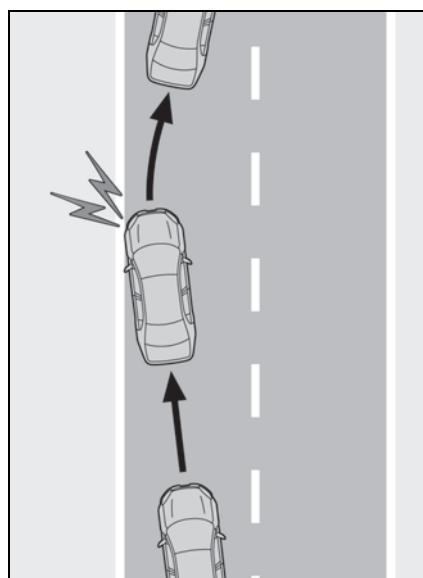
ハンドル操作をしなかつたり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



- 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかつたり、注意を怠つたりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。



知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- 車線の幅が約 3 ~ 4m のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.218）が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

■ 機能の一時解除

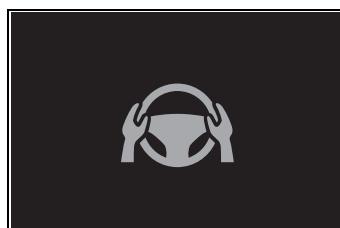
- 機能の作動条件（→P.218）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■ LTA 中の車線逸脱警報について

- LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■ 手放し運転に対する注意喚起について

- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

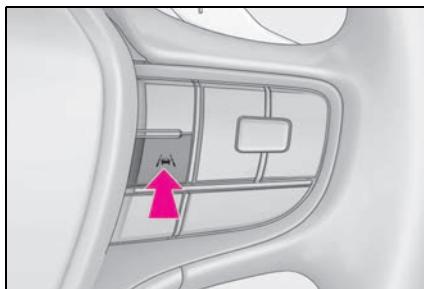
続いたときも同様に注意喚起が行われます。

- 手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき
- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON / OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。



■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.207
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.202

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
			LTA がスタンバイ中
			LTA が作動中
			車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA (レーンディバー チャーアラート)

基本機能

車線または走路[※]からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路[※]からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路[※]を前方カメラで認識します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

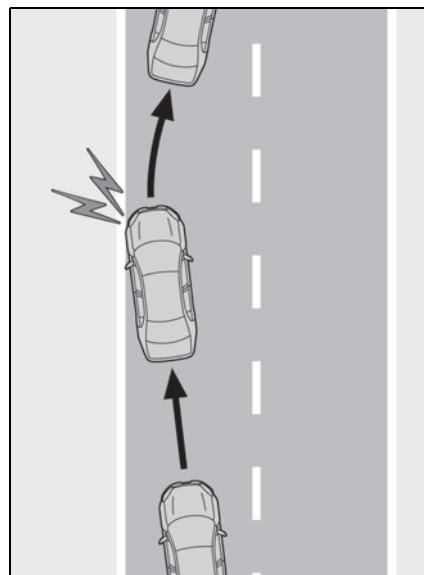
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



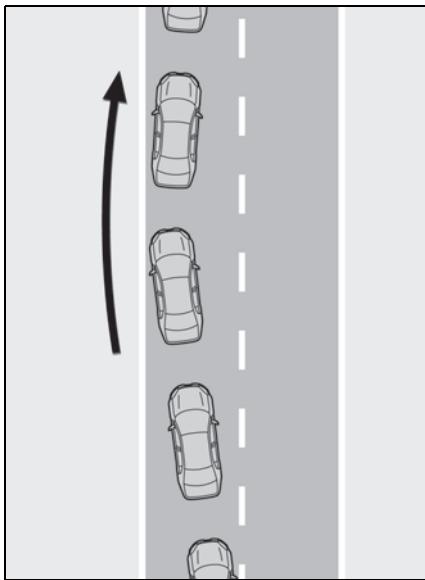
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかつたり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

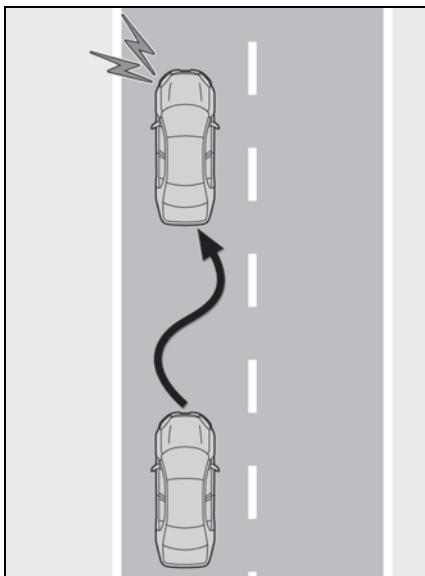
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



■ 警告

■ LDAをお使いになる前に

- LDAを過信しないでください。LDAは自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)

- ・ システムが車線または走路[※]を認識しているとき（車線または走路[※]が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

- ・VSC または TRC を OFF にしていないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件 (→P.222) が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかつたり、車線逸脱抑制機能が作動しなかつたりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※ がはつきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

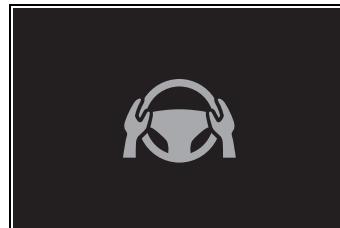
●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルを

しっかりと握ってください。



●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかつたり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

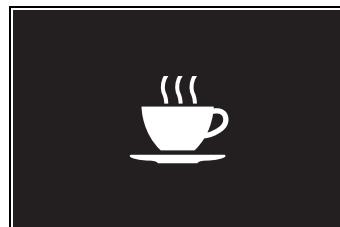
■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

●LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。 (→P.465)

●カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。 (→P.465)

⚠ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

● アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき

- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.207
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.202

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色点滅	 黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色点滅	 黄色点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.226）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.228）

● プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼つたり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

● わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にすると

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.202

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に

応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト(OAA)	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
		ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	
減速アシスト(DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト(SA)	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

□ 知識

■ システムの作動車速

● 道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ~ 60km/h

● 道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ~ 60km/h

● 先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

● カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

● 信号のある交差点に対する右左折時の

減速支援

約 30km/h ~ 80km/h (信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき)

● 車線に対する操舵支援

約 10 ~ 140km/h

■ システムの作動が停止するとき

● 次のときシステムは作動を停止します。

- ・ レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき

・ PCS が OFF のとき

- ・ システムの一部もしくは全てが作動しないとき : →P.207

- ・シフトポジションがP、RまたはNのとき
- ・運転席シートベルトを着用していないとき
- 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。
 - ・車速が約15km/h以下のとき
 - ・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき
- 次のときシステムは作動を停止する場合があります。
 - ・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例: プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
 - ・作動対象が遠ざかつたとシステムが判断した場合
 - ・車線が検出できなくなった場合
 - ・ブレーキ操作を行った場合
 - ・アクセル操作を行った場合
 - ・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
 - ・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき(信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く)

⚠ 警告

- システムが正常に作動しないおそれがあるとき
 - ・車線を検知できないおそれがあるとき: →P.207
 - ・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
 - ・ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
 - ・車線を変更して作動対象などを追っこすとき
 - ・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

- 物体(ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど)が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物(天井の低いトンネル・道路標識・看板など)がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がぶらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき(方向転換、急加速、急減速など)
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき(大きな荷物や傘、またはガードレールなど)
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドライトなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出したりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき

⚠️ 警告

- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約4m以上あるとき

- 車線幅が約2.5m以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

4

解説

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.465）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.465）

システムの作動表示

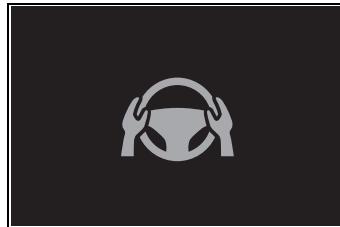
状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	<ul style="list-style-type: none"> ●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	<ul style="list-style-type: none"> ●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ●操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中



■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

□ 知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションが N で停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき

- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.465）

システムのON／OFFを変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.465）

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■ RSA を使用してはいけない状況

システムを OFF にする必要があるとき：→P.202

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.206

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

□ 知識

■ 標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき
- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■ 表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
 - 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
 - 工事などの通行規制区間に標識があるとき
 - 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
 - ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
 - ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■ 告知機能の作動条件

- 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき

- 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

- 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約 20 ~ 70km/h のとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

■ 告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

- ・ 右左折等により標識が検知できないとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 信号機が点滅信号のとき
- ・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき

- ・交差点間の距離が近いとき
- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
- ・標識が通常とは異なる大きさのとき
- ・標識や信号機が多数あるとき
- ・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- ・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- ・信号機の灯色が黄色のとき
- ・信号機が矢印信号のとき
- ・予告信号があるとき

	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.465)

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

- 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.241

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従つて注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼つたり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

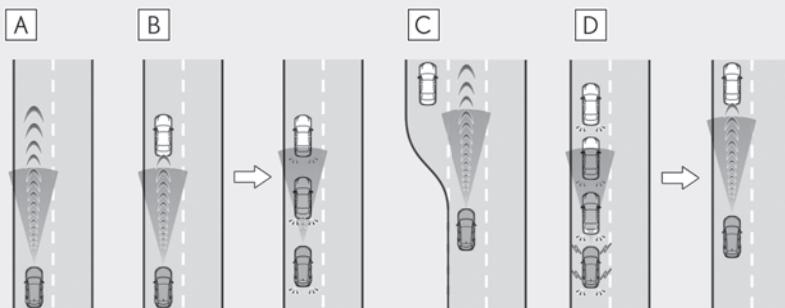
⚠ 警告

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき : →P.206
- システムを OFF にする必要があるとき : →P.202

基本機能



- A** 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

[B] 減速走行一追従走行 :

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

[C] 加速走行 :

設定した速度より、遅い先行車がいなくなつたとき

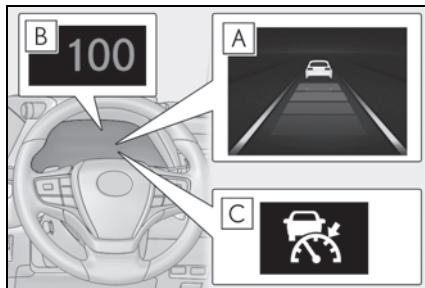
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

[D] 発進 :

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、RESスイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかつた場合は、制御停車を続けます。

システムの構成部品

■ メーター表示

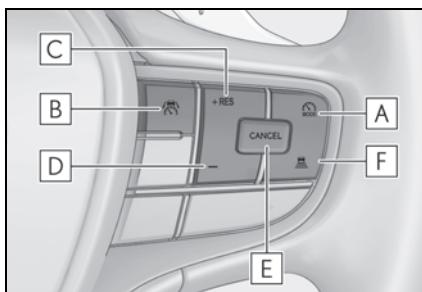


[A] マルチインフォメーションディスプレイ

[B] 設定速度

[C] 表示灯

■ 操作スイッチ



[A] 走行支援モード選択スイッチ

[B] 走行支援スイッチ

[C] +スイッチ、RESスイッチ

[D] -スイッチ

[E] キャンセルスイッチ

[F] 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロール を使用する

■ 速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押して、レーダークルーズモードを選択する

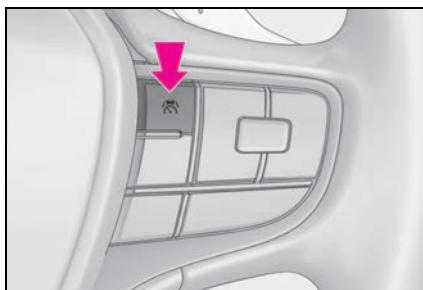
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

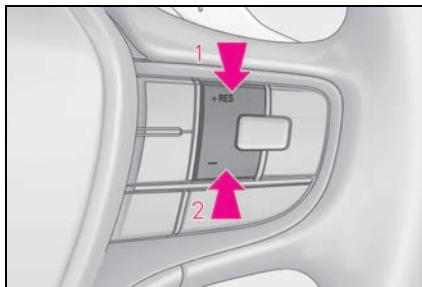


■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチまたは

− スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作することに1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/hずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

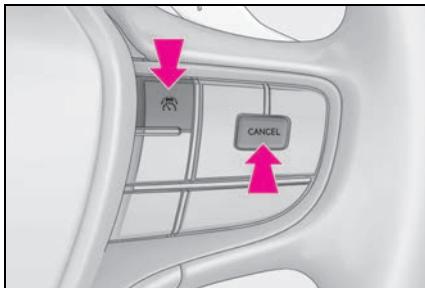
2 + スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを

踏んでも解除されません)

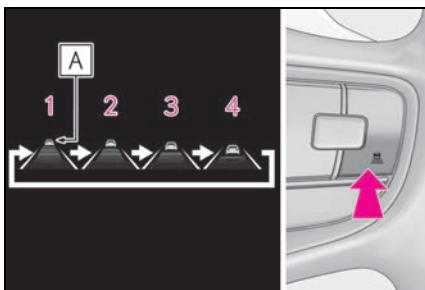


2 制御を復帰させるには、RESスイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク[A]も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/hの場合）
1	最長	約70m
2	長	約60m
3	中	約45m
4	短	約30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

■ 音声対話サービスでの操作

音声対話サービスを使用して、次の

操作を音声で行うことができます。
音声対話サービスについては、別冊
「マルチメディア取扱説明書」を参照
してください。

- 設定速度の変更
- 車間距離の変更

□ 知識

■ 設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できます。
- 車速が約30km/h以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- ・ 車速が約30km/h未満のときに設定すると、約30km/hに設定されます。
- ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中にRESスイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

- パーキングブレーキが作動したとき
- 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- ブリクラッシュセーフティが OFF のとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した
 自動でパーキングブレーキがかかることがあります。
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき : →P.207

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために : →P.202

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報 (→P.241) も作動しないおそれがあります。

- 割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■ システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけたとき
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

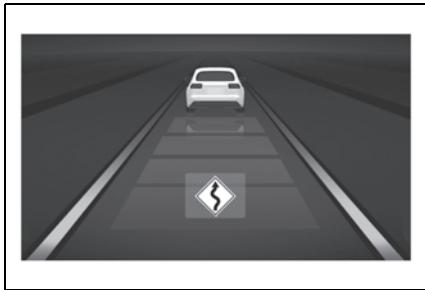
- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



□ 知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

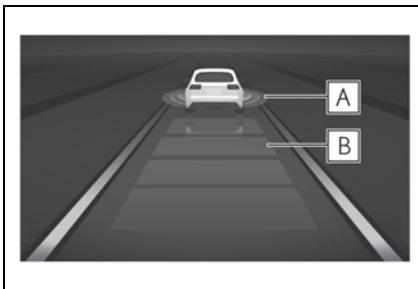
約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール (ITS Connect 装着車)

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識で

きなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

□ 知識

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコ

ントロールに切りかわる場合があります。

- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車のGPS受信状態や通信状態が悪化しているとき

- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

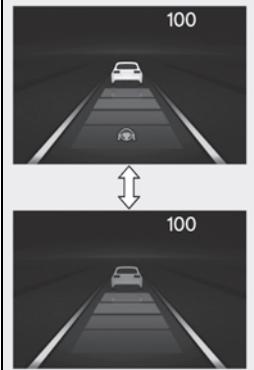
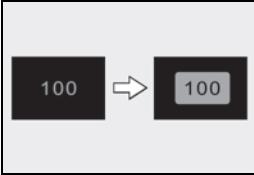
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。 (→P.465)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 白色		設定車間距離：灰色 レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色 追従走行

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 緑色		設定車間距離：橙色 点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅 接近警報
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色 アクセルペダルによる加速中
 緑色		設定速度：緑色反転表示 設定速度超過時
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色 制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。



警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

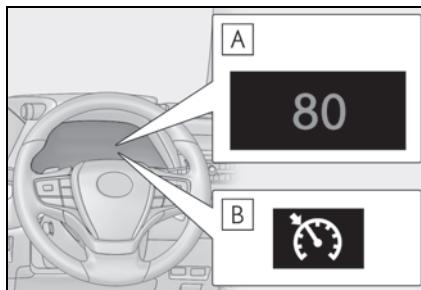
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.202

システムの構成部品

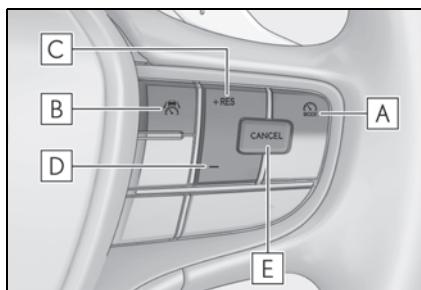
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C + スイッチ、RES スイッチ

D - スイッチ

E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

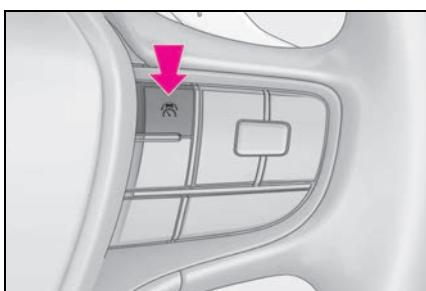
- 1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択する

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

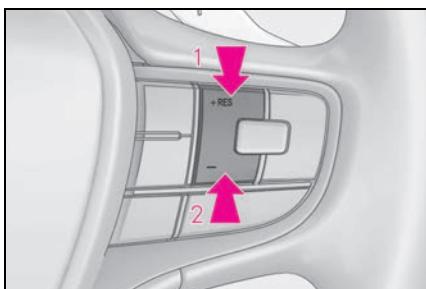
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチまたは - スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

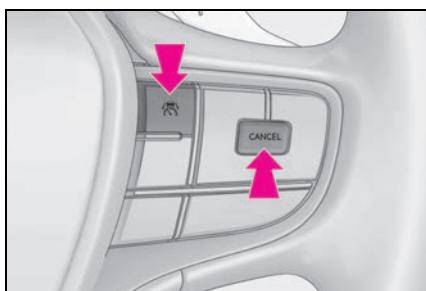
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 + スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

□ 知識

■ クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

● 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

● 車速が約 30km/h 未満になったとき

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例: プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき: →P.207
- パーキングブレーキが作動したとき

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 白色		なし クルーズコントロール OFF
 緑色	 100	設定速度: 緑色 定速走行
 緑色	 100 → 100	設定速度: 緑色反転表示 設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。



警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは4つの状態に分けられます。「警告1フェーズ」、「警告2フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。



知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- システムが自動車専用道路と認識しているとき
- システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。
- LTAをONにしているとき

- 自車速が約50km/h以上

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

- LTA制御がキャンセルされたとき（LTAスイッチを押した場合など）
- レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき
- ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、非常点滅灯スイッチ操作、方向指示レバー操作）
- 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
- 停止保持中、シフトポジションをPにした状態で走行支援スイッチを押したとき
- パワースイッチをONからOFFにしたとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.207

■作動解除時のLTA制御

システムの作動が解除された場合、LTA制御がキャンセルされる場合があります。

警告1フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告2フェーズに移行します。

警告2フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約

時のみ）を行います。

□ 知識

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■ 作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

● LTA

▲ 警告

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

ITS Connect ★

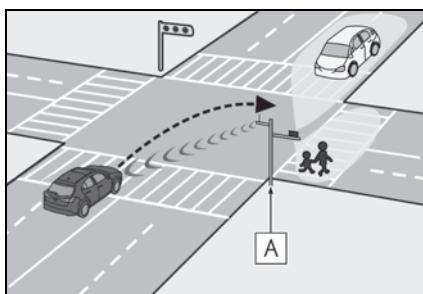
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

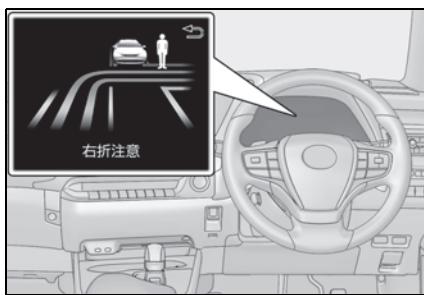
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS* 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。



※ DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスマートな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細はP.242 を参照してください。



■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用して います。
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合して います。
機種名 : DTU-1030
型式認定番号 : 10008
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込 んだ場合はその国の関連法規に違反す る場合があります。

■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



警告

■ 安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかかり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」(→P.254) をお読みいただけ、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
 - ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
 - ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

⚠ 警告

- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起 (DSSS 用路側装置との通信) について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。

そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」(→P.252) をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起 (通信機を搭載した車両との通信)・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかつたり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠ 注意

■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

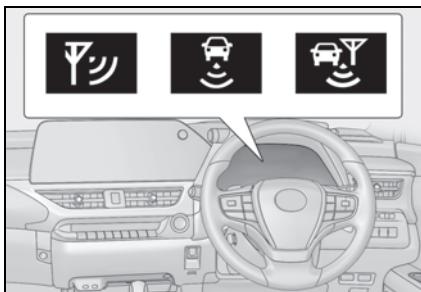
- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのでがさないでください。

- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能など

き、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取り得ている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起 (DSSS 用路側装置との通信)

交差点で右側方向指示灯を点滅させ

て右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

- ▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



- ▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



□ 知識

■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えは次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあ

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかかるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかかることを表します。

- ります。
- ・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
- ・トンネルや高架下を通過しているとき
- ・ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ
- 例えは次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
- ・通信を妨害する電波が発せられているとき
- ・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
- ・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
- ・他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- ・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
- ・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
- ・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
- ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・遅い速度で走行しているとき
- ・停車しているとき
- ・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
- ・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
- ・停車していないとき
- ・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
- ・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
- ・立体交差付近を走行しているとき
- ・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

センターディスプレイのカスタマイズ設定から、ITS Connect の設定を変更することができます。

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング（早い／遅い）を切り替えることができます。※1（初期設定：早い）

- ・赤信号注意喚起
 - ・出会い頭注意喚起

● 信号情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。※2 (初期設定: ON)

- ・赤信号注意喚起
 - ・信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。※2 (初期設定 : ON)

- ・右折時注意喚起
 - ・出会い頭注意喚起

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON / OFF を切り替えることができます。(初期設定 : ON)

● 通信利用型クルーズ

通信利用型レーダークルーズコントロールのON／OFFを切り替えることができます。(初期設定:ON)

※¹各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

※2 信号情報または道路環境情報に含まれる各機能を個別に ON / OFF することはできません。

BSM（ブラインドスポットモニター）

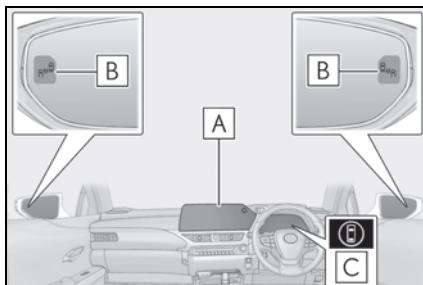
ブライムドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者があります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
 - ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A センターディスプレイ

ブラインドスポットモニターのON／OFFを切り替えます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター(→P.70)が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯**■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて**

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



C3-000-1

**警告****■ システムを正しく作動させるために**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

ブラインドスポットモニターがOFFのときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

 **知識**
■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

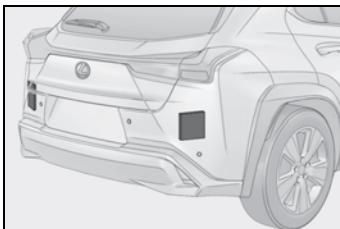
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.465)

⚠️ 警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM機能の作動条件（→P.260）でしばらく走行してください（目安：約10分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサー やセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明などを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなることがあります。

次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサー やセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサー やセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

- センサー やリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON／OFFを切りかえるには

ブラインドスポットモニターのON／OFFは、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.465）

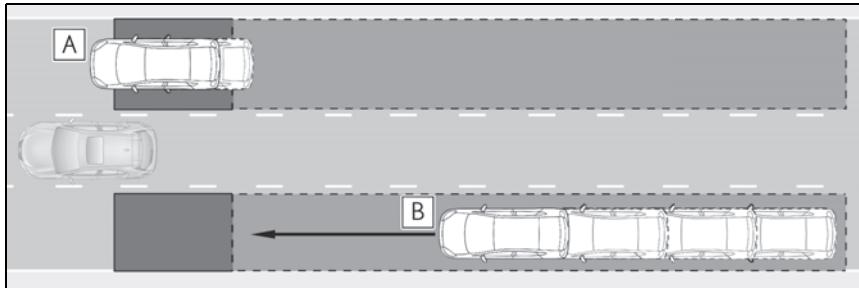
ブラインドスポットモニターがOFFになると、運転支援情報表示灯（→P.70）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチがONになるたび、ブラインドスポットモニターはONになります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

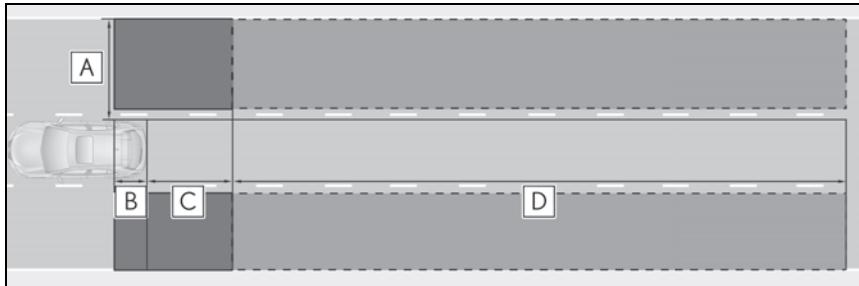
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域
※1
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ~ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能がLDA（レーンディバーチャーラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細についてはP.221を参照してください。



知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチがONのとき
- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションがR以外のとき
- 車速が約10km/h以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※

- 2つ隣の車線を走行する他車※

- 大きい速度差で自車が追いこす他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・センサーがセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

- ・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ブラインドスポットモニターをONにした直後
- ・けん引しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・けん引しているとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

■ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

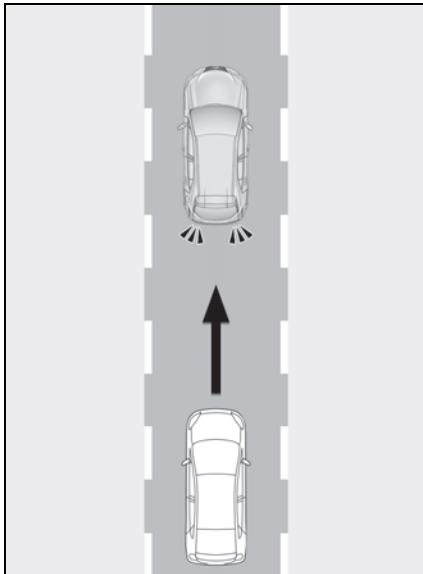
■ システムを正しく作動させるために

→P.257

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車

両の接近を運転者に知らせます。



□ 知識

■ 後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ~ 100km/h のあいだ
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としませ

ん。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

- 対向車

- 隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ 後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

● 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いかりすぎるとき

- 特に次のような状況では、衝突の可能性がなくともシステムが作動するおそれがあります。

- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・けん引しているとき
- ・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- ・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
- ・後方車両が近距離から自車を追いこしたとき
- ・後方車両が近距離まで急接近したとき
- ・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

安心降車アシスト

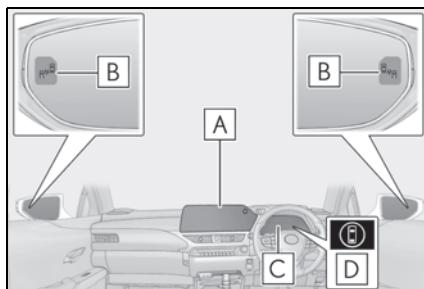
安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

■ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



■ A センターディスプレイ

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえます。

■ B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.70）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

■ C マルチインフォメーションディスプレイ

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

■ D 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

□ 知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.465）



■ システムを正しく作動させるために

→P.257

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.465）

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

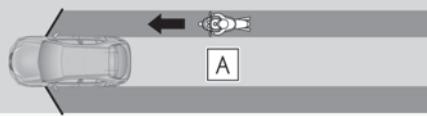
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示によってその車両の存在を乗員に知らせます。



- A** ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



- A** フロントドアから後方約 45m の領域※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。



知識

■ 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

- 安心降車アシストが ON のとき

- 停車中

- シフトポジションが R 以外のとき

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
- ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき※

- ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※
- 真うしろから接近する車両・自転車※
- 前方から接近する車両・自転車※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 歩行者・動物など※

※状況によっては検知をすることがあります。

- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
- ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- 自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有效地に検知しないおそれがあります。
- センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサー やセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
- 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
- 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- 発進した直後の車両や自転車
- バックドアが開いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリー やスロープを装着しているとき
- 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- 道路に対して傾いて停車しているとき
- 接近する車両や自転車の周囲に走行す

る車両があるとき

- 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- 車両や自転車が高速で接近するとき
- けん引しているとき
- 急勾配の坂道に停車しているとき
- カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

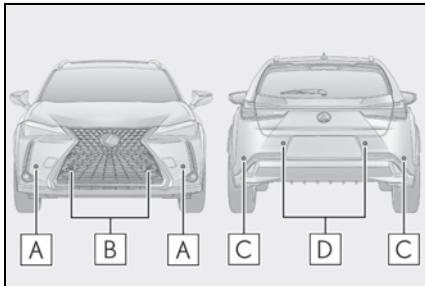
- センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- 道路に対して傾いて停車しているとき
- 斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- バックドアが開いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリー やスロープを装着しているとき
- 車両や自転車が高速で接近するとき
- けん引しているとき
- 急勾配の坂道に停車しているとき
- カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- 隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、センターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、センターディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

► センターディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.267) が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。 (→P.465)

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.70) が点灯します。

OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー (→P.465) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。

(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定 자체は変更されません。



警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあります、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。

- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。



知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF (非作動) に設定している場合でも、自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約30cm以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

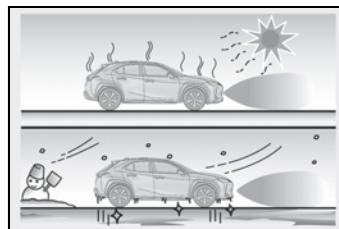
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
 - 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
 - 鋭角的な形のもの
 - 背の低いもの
 - 背が高く上部が張り出しているもの
- 特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
 - センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
- 特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があつても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



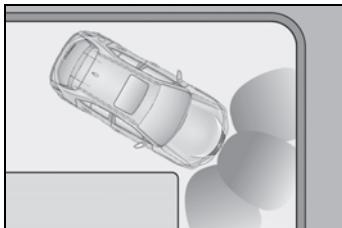
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき

- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

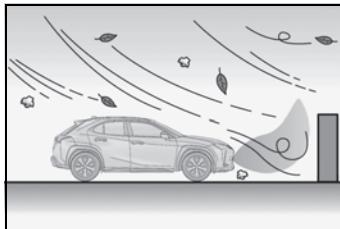
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



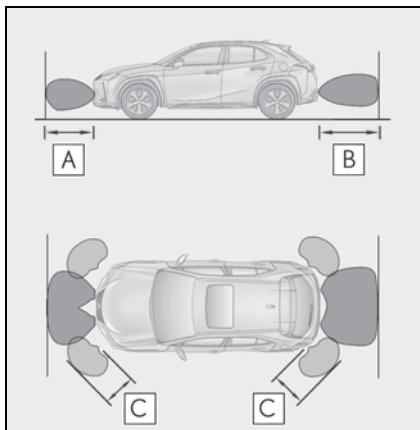
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



■ A 約 100cm

■ B 約 150cm

■ C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ~ 60cm*	
リヤセンターセンサー： 約 150cm ~ 60cm*	断続音
約 60cm ~ 45cm*	速い断続音
約 45cm ~ 30cm*	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

* 自動ミュート機能あり (→P.272)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。
静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)



知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA の音量を一括で切りかえることができます。(\rightarrow P.465)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

センターディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。一時ミュート（消音）スイッチを選択すると、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
 - ・シフトポジションを切りかえたとき
 - ・車速が一定値以上になったとき
 - ・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
 - ・使用中の機能を OFF にしたとき

- ・パワースイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA機能は自車の右後方または左後方から接近てくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

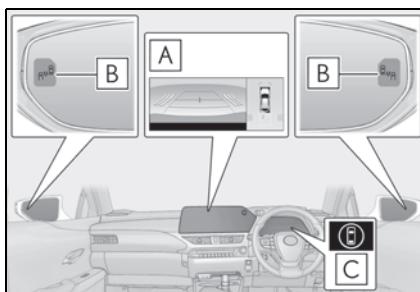
RCTA機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.257

システムの構成部品



A センターディスプレイ

センターディスプレイ上で RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

また、自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.274) が点灯します。

イラスト※は両後方から車両が接近している例です。

※表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター (→P.70) が点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。 (→P.465)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.70) が点灯し、マ

ルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチがONになるたび、RCTA機能はONになります。

□ 知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

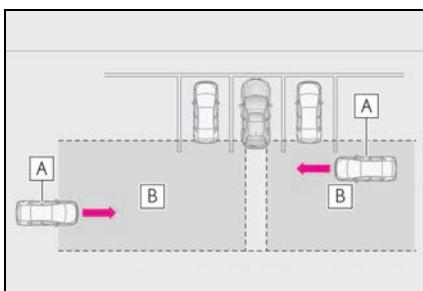
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.257

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



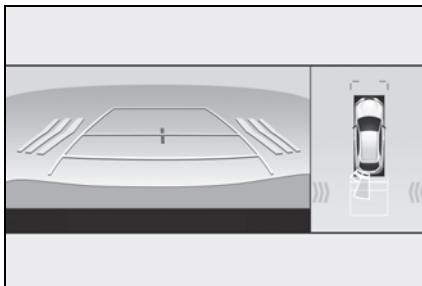
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

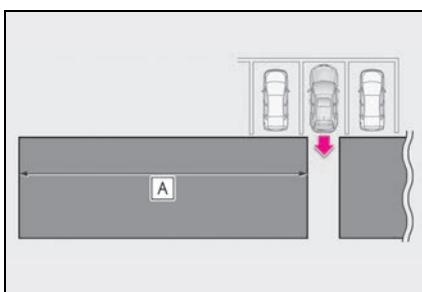
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

□ 知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 56km/h のあいだのとき

■ ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナーの音量を一括で切りかえることができます。→P.465)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

これを押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

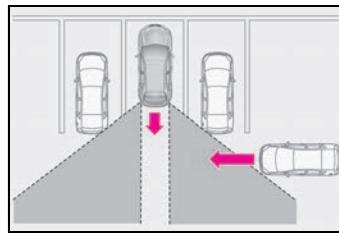
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

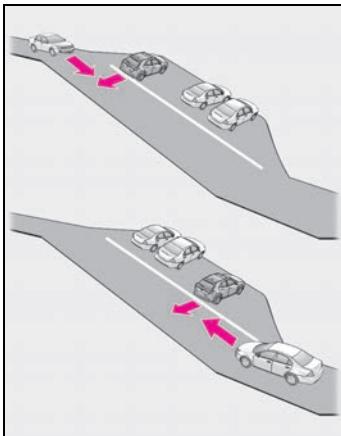
※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ システムが正常に作動しないおそれがある状況

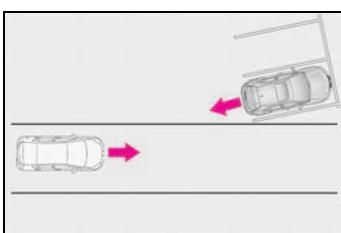
RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーヤやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーヤやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退している

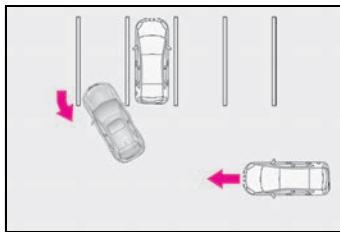
とき



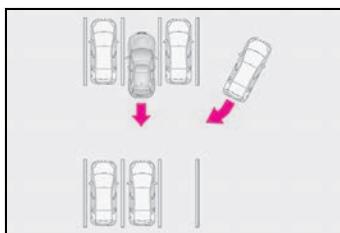
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
- 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



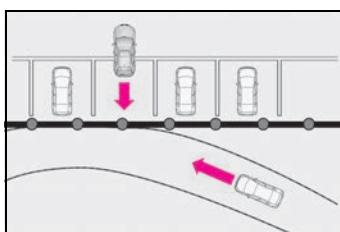
- 旋回しながら車両が近付いてきたとき



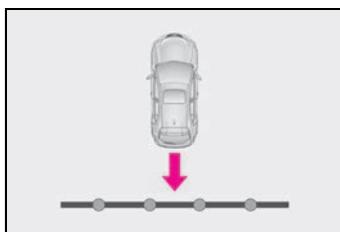
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



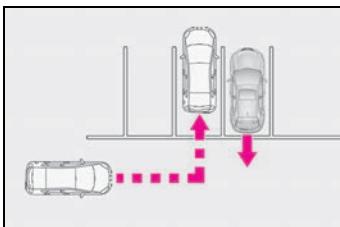
- センサー付近にけん引フック・バンパー・プロテクター・バンパー・トリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

- グレーチングや側溝

- 炎天下や寒冷時

- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- けん引しているとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前方静止物）：→P.281
- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）：→P.283

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。
- パーキングサポートブレーキをOFFにするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFFにしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

 - 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
 - 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
 - ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパー・プロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤバンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキのON／OFFは、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.465)

PKSB（パーキングサポートブレーキ）がOFFのとき、運転支援情報表示灯（→P.70）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー

(→P.465) から ON (作動) にしないとシステムは復帰しません。
(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示：表示なし
マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示例（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま
ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示例（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示例（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています
ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

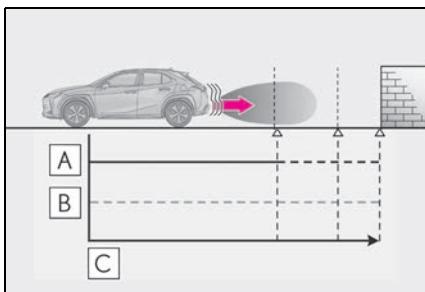
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図3）

● 図 1 (PKSB [パーキングサポートブレーキ] 非作動時)

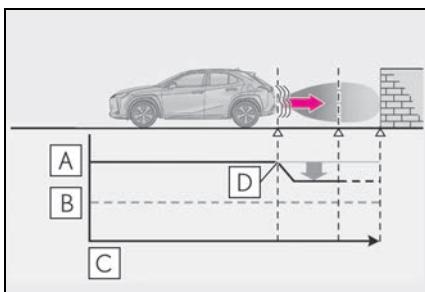


[A] ハイブリッドシステム出力

[B] 制動力

[C] 時間

● 図 2 (ハイブリッドシステム出力抑制制御時)



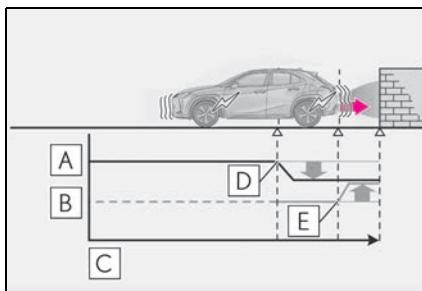
[A] ハイブリッドシステム出力

[B] 制動力

[C] 時間

[D] ハイブリッドシステム出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

● 図 3 (ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時)



[A] ハイブリッドシステム出力

[B] 制動力

[C] 時間

[D] ハイブリッドシステム出力抑制制御開始 (作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

[E] ブレーキ制御開始 (作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき)

■ 知識

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) 作動後の復帰について

システム作動により PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止したときに、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を復帰させたい場合は、再度 PKSB (パー

キングサポートブレーキ)をONにするか、パワースイッチをいったんOFFにしてから、再度ONにしてください。

また、次の状況でも自動的にPKSB(パーキングサポートブレーキ)が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。
(→P.70)

- シフトポジションをPにする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる
- クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーのON／OFFに関係なく(→P.267)、PKSB(パーキングサポートブレーキ)を停止させていなければ(→P.278)、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

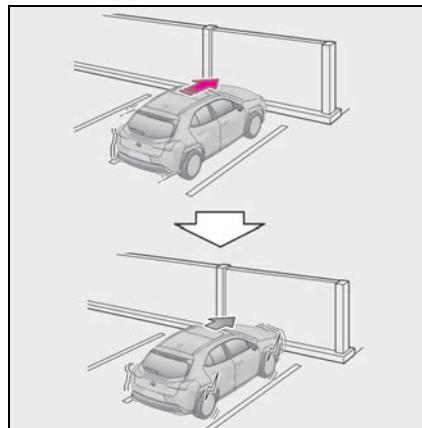
パーキングサポートブレーキ(前後方静止物)

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

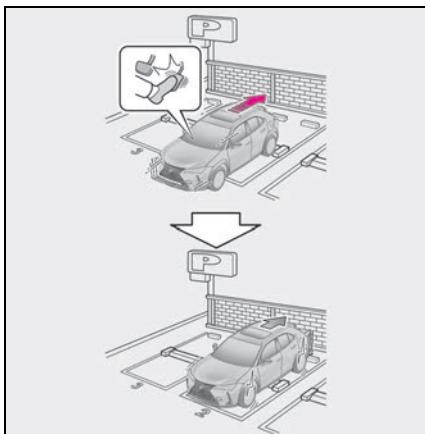
システム作動例(前後方静止物)

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

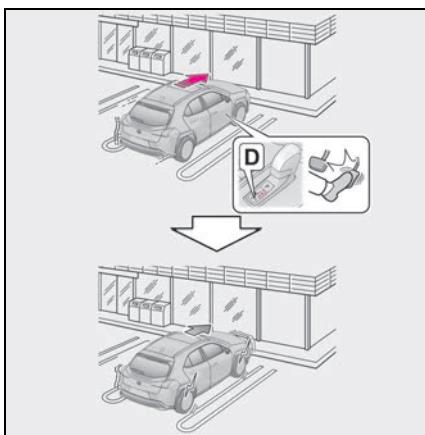
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.267

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.268

■ 万一、踏切内などで PKSB (パーキングサポートブレーキ) が誤って作動したときは

→P.280

■ 洗車時の注意

→P.268

知識

■ パーキングサポートブレーキ (前後方静止物) の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯 (→P.68) しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
- ・ PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON (作動) しているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき (約 2 ~ 4m 先まで)
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ (前後方静止物) の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB (パーキングサポートブレーキ) を OFF (非作動) にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき (約 2 ~ 4m 先まで)

● ブレーキ制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止して約2秒が経過したとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約2～4m先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.271）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.269

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.270

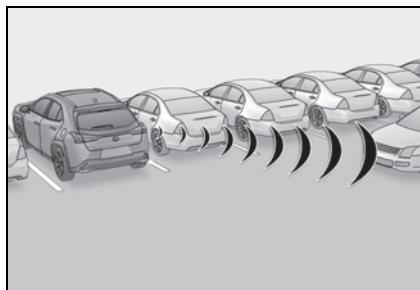
■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

■ システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ センサーの種類

→P.257

▲ 警告

- システムを正しく作動させるために
→P.257

 知識**■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.68）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をON（作動）にしているとき
- ・車速が約15km/h以下
- ・後側方から接近する車両の車速が約8km/h以上
- ・シフトポジションがRのとき
- ・後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
- ・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・自車後側方への接近車両がなくなったとき

● ブレーキ制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止して約2秒が経過したとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.275

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.276

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起
- 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）

- LDA（レーンディバーチャーラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

知識

■ カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

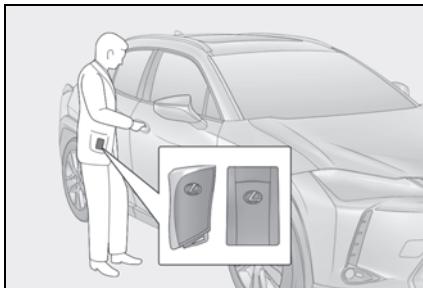
プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する
(→P.96, 103)

パワースイッチがOFF以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作

動可能なりません。



- 2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する (→P.162)
- 3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



- 4 メーター操作スイッチの  を押してメッセージを非表示にする
メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、

またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

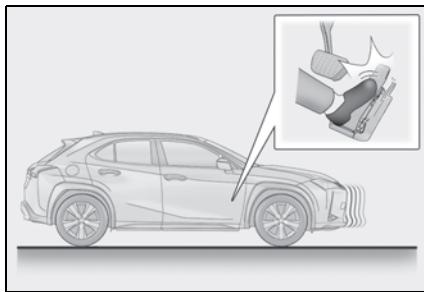
■ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するため

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください (→P.70)。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行 (約 30km/h 以下) 中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

● 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

● 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転するためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

● お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



□ 知識

■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
 - 車速が約 30km/h 以下のとき
 - アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）
- 次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※までゆるやかに加速します。
- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
 - 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、ま

たはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）

- 急な上り坂に自車がいるとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

● 車両姿勢の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■ 加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

● 車両姿勢の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき

- ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき
- 運転操作の影響
 - ・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅せずに急いで加速しようとしたとき
 - ・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
 - ・ETC ゲート通過後に急加速したとき
 - ・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ~ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ~ 30km/h	約 25km/h 以上

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

4

運転

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 交差点対向車注意喚起の作動条件

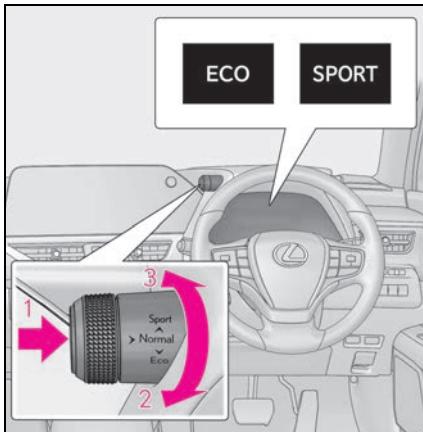
方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



1 ノーマルモード

燃費性能、静肅性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

2 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前まわすと、エコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

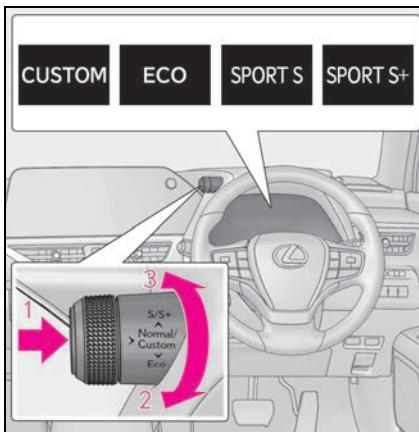
3 スポーツモード

ステアリングの応答性、およびハイブ

リッドシステムの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツモードに切りかわり、スポーツモード表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。（→P.73）

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



1 ノーマル／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、カスタムモード表示灯が点灯します。ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ ノーマルモード

燃費性能、静肅性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

・ カスタムモード

パワートレーン制御、サスペンション制御、ステアリング制御またはエアコン動作の機能をお好みで設定し、走行するこ

とができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。
(→P.465)

2 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前にまわすと、エコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

- ・ スポーツ S モード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、スポーツ S モード表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります (→P.73)

- ・ スポーツ S + モード

ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより優れた安定感の確保に貢献し、スポーティな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S + モードに切りかわり、スポーツ S + モード表示灯が点灯します。

□ 知識

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいと

きは、次の操作を行ってください。

- ・ エコ空調モードを OFF にする
(→P.311)
- ・ 風量を調整する (→P.307, 310)
- ・ エコドライブモードを解除する

■ スポーツ／カスタムモードの自動解除

スポーツ／カスタムモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON にした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

■ 走行モードを選択しているときのマルチインフォメーションディスプレイ表示

選択した走行モードによって、マルチインフォメーションディスプレイの表示が切りかわる場合があります。

■ カスタマイズ機能 (NAVI・AI-AVS 装着車)

カスタムモードの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧: →P.465)

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB (電子制御ブレーキシステム)

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC (ビーグルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC (ステアリングアシステッドビーグルスタビリティコントロール)

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト(ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four (電気式 AWD システム) (AWD 車)

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じてFF(前輪駆動)走行状態からAWD(全輪駆動)走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ NAVI・AI-AVS (AVS:アダプティブイブパリアブルサスペンションシステム) ★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に

貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツS+モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。

(→P.290)

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

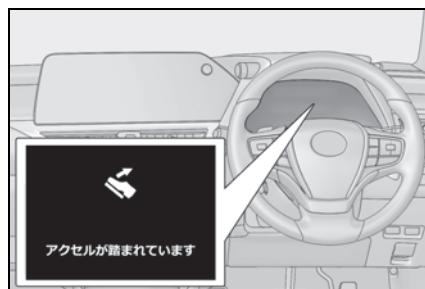
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRSエアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



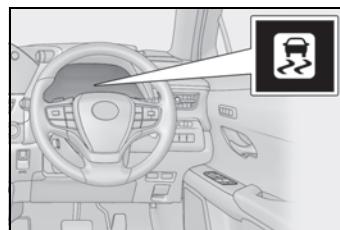
■ ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）

旋回開始時に後内輪にブレーキ制御をおこなうことで、急なロール姿勢の変化を抑え、快適な姿勢を保てるようサポートします。



■ TRC・VSC・ABSが作動しているとき

TRC・VSC・ABSが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■ TRCを停止するには

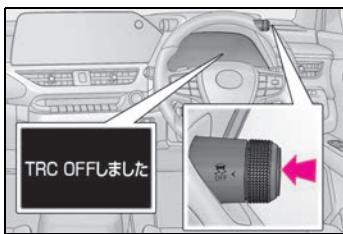
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでハイブリッドシステムの出力が上がりせず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF <スイッチを押すことで、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するには OFF <スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

もう一度 OFF <スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。※

もう一度 スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します（衝突警報のみ作動可能状態になります）。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

(→P.212)

■ スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

● シフトポジションの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

● 車両停止状態

● アクセルペダルを踏んでいない

● パーキングブレーキがかかっていない

● パワースイッチが ON

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

● シフトポジションを P または N の位置にした

● アクセルペダルを踏んだ

● ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた

● ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

● パワースイッチが OFF

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

● ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ・車体やハンドルに振動を感じる
- ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。

● ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

● 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

● ハイブリッドシステム停止後 1～2 分後経過時に、エンジンルームから聞こえ

る作動音（“力チ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。

10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと

- 車速 55km/h 以上

- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

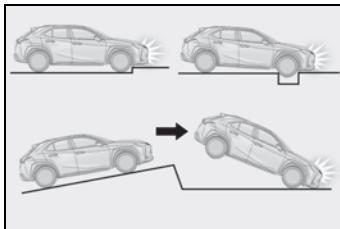
- ・車速が約 60km/h 以下のとき
- ・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
- ・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
- ・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ
※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

- 次のような状況では衝突していなくて

も、システムが作動する場合があります。

- ・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■ NAVI・AI-AVS★の NAVI 協調機能について

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめショックアブリーバーの減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■ ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）の作動条件

次のときシステムが作動します。

- 車速が約 40km/h 以上 120km/h 未満
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 一定以上のハンドル操作をシステムが検出したとき
- スリップ表示灯が点灯、点滅していないとき（ABS や VSC, TRC など車両安定化制御中は作動しません）

■ ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）の解除条件

次のときシステムが解除されます。

- VSC/TRC が作動禁止状態
- ブレーキペダルを踏んでいる（レーダークルーズコントロールなどの自動ブレーキ中も作動しません）

■ マルチインフォメーションディスプレイに AWD システムに関するメッセージが表示されたときは（AWD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

- “AWD システム高温 高負荷走行を控えてください”

AWD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “AWD システム高温 2WD 走行に切替わりました”

過熱のため AWD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば、AWD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “AWD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検”

AWD システムに異常が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

- アクティブコーナリングアシストがひんぱんに作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

⚠ 警告

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なるタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSCなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 衝突時の急加速抑制

● 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P.290）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。

（→P.77）

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。

減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているとき

は、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・エンジンオイル
 - ・冷却水
 - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- ランフラット非装着車：冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前2輪）を使用してください。タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.371）
- ランフラット装着車：ランフラットの冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前2輪）を使用することをおすすめします。タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください（タイヤについて：→P.371）

□ 知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う

- 前2輪に取り付ける

● タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レントレーシングアシスト）を使用しない

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したレクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。(タイヤについての詳しい説明は P.371 を参照してください)

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

□ 知識

■ 寒冷地用ワイパープレードについて

● 雪期に使用する寒冷地用ワイパープレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆っています。レクサス販売店で各車指定のプレードをお求めください。

● 高速走行時は、通常のワイパープレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わ

ぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションをPにしたあとにパーキングブレーキを解除してください。

(→P.175)

- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままになると、凍結するおそれがあります。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。(→P.193)

5-1. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 306

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン 307

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 315

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 318

5-4. 収納装備

収納装備一覧 321

ラゲージルーム内装備 324

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 331

アクセサリーコンセント
(AC100V・1500W) 342

非常時給電システム 349

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやベンチレーター★、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。

各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

エアコン操作スイッチ
(→P.307) とセンターディスプレイのエアコン操作画面
(→P.310) で操作します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クライメイトコンシェルジュを使用する

クライメイトコンシェルジュはエアコン AUTO スイッチに連動して作動します。

- 1 センターディスプレイのメインメニューから  を選択する
- 2 “エアコン”を選択する
- 3 “オプション”を選択する
- 4 “クライメイトコンシェルジュ”を選択する
- 5 AUTO スイッチを押す

各システムの作動について

■ エアコン (→P.307)

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ シートヒーター／ベンチレーター ★ (フロント席) (→P.315)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。

助手席のシートヒーター／ベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ステアリングヒーター (→P.315)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

□ 知識

■ シートヒーター／ベンチレーターの作動について

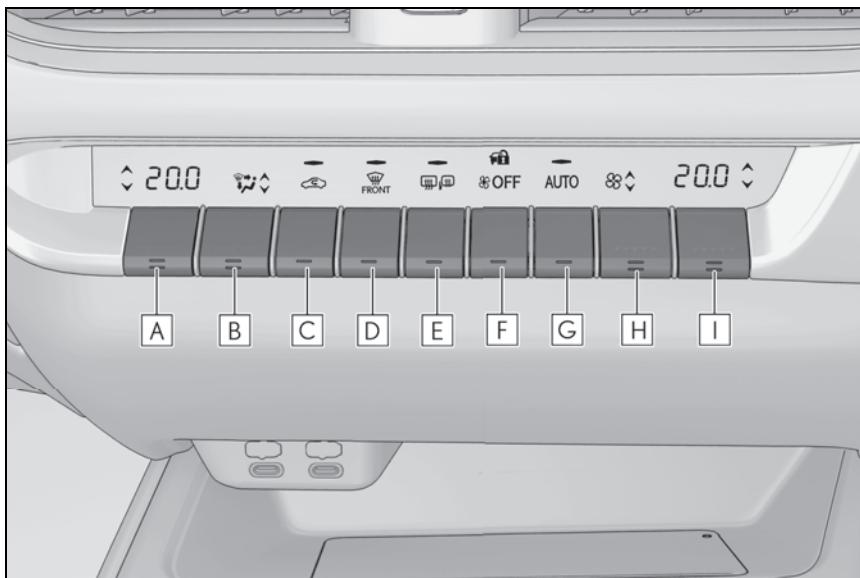
シートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作パネルと、センターディスプレイのエアコン操作画面
(→P.310) で操作します。

エアコン操作スイッチについて



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** 吹き出し口切りかえスイッチ
- C** 内外気切りかえスイッチ
- D** フロントデフロスタースイッチ
- E** リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチ
- F** OFFスイッチ
- G** AUTOスイッチ
- H** 風量調整スイッチ
- I** 運転席側温度調整スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

■ 風量を切りかえる

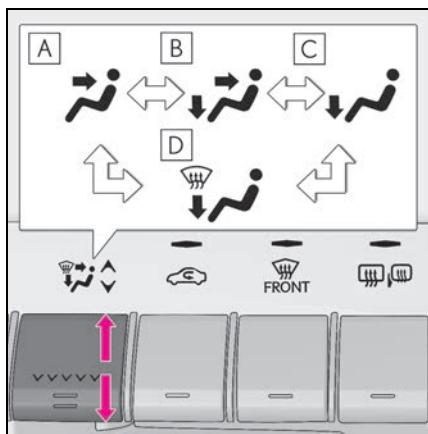
風量を増やすときは風量調整スイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFFスイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

スイッチを操作するたびに吹き出し口が切りかわります。



A 上半身に送風

B 上半身と足元に送風

C 足元に送風

D 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取り

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取りときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ ウィンドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパープレードの凍結を防ぐために使用してください。ウィンドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的にOFFになります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C”をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

- “A/C” を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 電子キーによるエアコン設定の記憶制御

- 電子キーでドアを解錠してパワースイッチを ON にすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。

- パワースイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。

- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

- スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ※ ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

- ・ エコ空調モードを OFF にする
(→P.311)

- ・ 風量を調整する。

- ・ エコドライブモードを解除する。
(→P.290)

■ 外気温度が 0 ℃ 近くまで下がったとき

- “A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時または花粉除去モードが ON の時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■ 音声対話サービスについて

- 音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ エアコンフィルターについて

→P.382

■ カスタマイズ機能

AUTOスイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.478）

■ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスターのスイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ 注意

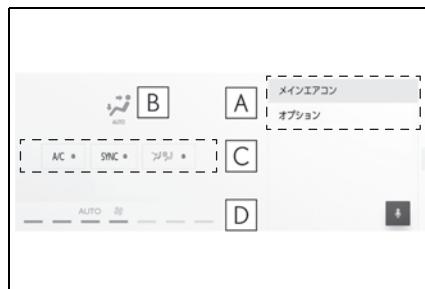
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

エアコン操作画面について

■ エアコン操作画面

- 1 センターディスプレイのメインメニューから  を選択する
 - 2 “エアコン”を選択する
- オプション画面が表示されたときは、“メインエアコン”を選択します。



■ A サブメニュー

画面表示を切りかえることができます。

“メインエアコン”：エアコン操作画面を表示する

“オプション”：オプション画面を表示する

■ B 吹き出し口を切りかえる

選択するたびに、吹き出し口が切りかわります。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

- ### ■ C 各機能のON/OFFを切りかえる
- 次の機能のON/OFFを、それぞれ切りかえることができます。

機能がONのとき、表示灯が点灯します。

“A/C”：冷房・除湿する

“SYNC”：運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.312）

 ：フロント席集中送風モード

(S-FLOW) を設定する (→P.313)

■ 風量表示

現在の風量が表示されます。

■ オプション画面

エアコン操作画面 (→P.310) の “オプション” を選択する

次の機能の  (作動) /  (非作動) を切りかえることができます。



A クライメイトコンシェルジュを作動させる (→P.306)

B エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

C フロントウインドウガラスとワイパークリアードの凍結を防ぐ (ワインドシールドデアイサー) ★

D ナノイーX※を作動させる

ナノイーXとはナノイーX発生装置のことです。

E 花粉を除去する (花粉除去モード)

※ nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニックホールディングス株式会社の商標です。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードがONになります。エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードがOFFになる場合があります。

■ 花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的にOFFになります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードがOFFのときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ ナノイーX※^{1, 2}について

エアコンにはナノイーX発生装置が搭載されています。この装置は運転席右側の吹き出し口からナノイーXを放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます^{※3}。

● ナノイーXがONのとき、ファンが作動すると、自動的にナノイーX発生装置が作動します。

● ナノイーX発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。

・ 吹き出し口が  、  または

 のとき

・ 運転席右側の吹き出し口が開いているとき

● ナノイーX作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがあります。故障ではありません。
- ・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
- ・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

※¹nanoe、ナノイーおよびnanoeマークは、パナソニックホールディングス株式会社の商標です。

※²ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※³温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。



警告

■ ウィンドシールドデアイサー★が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなつておらず、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、売店にお問い合わせください。



注意

■ ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

運転席右側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼つたりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、“AUTO”をONにした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードがONになります。

- “SYNC”がONの時に、エアコン操作画面で“SYNC”を選択する

● 助手席の設定温度を変更する

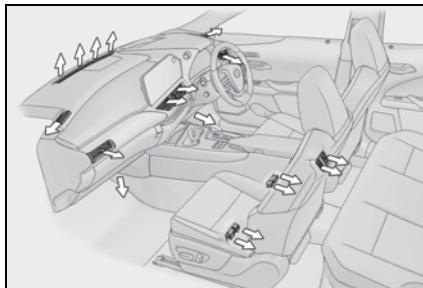
左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が消灯します。

作動表示灯が消灯しているときに“SYNC”を選択すると、作動表示灯が点灯して独立モードがOFFになり、助手席の設定温度が運転席と同じ温度になります。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

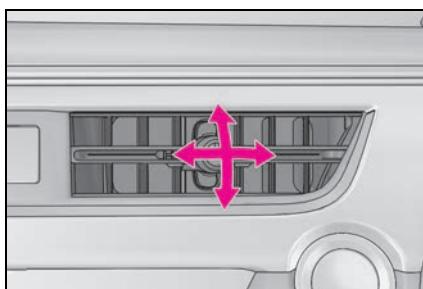
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



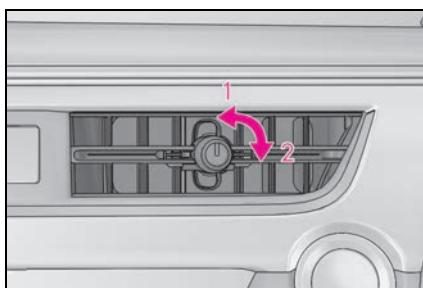
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

風向きの調整



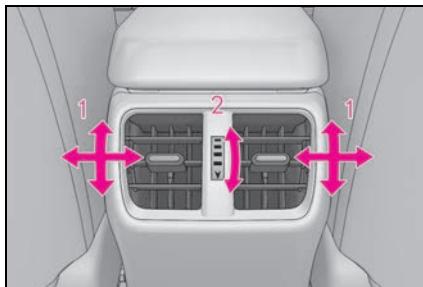
吹き出し口の開閉



1 開ける

2 閉じる

▶ リヤ



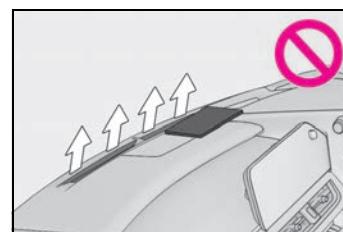
1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。フロント席集中送風モード作動時は、リヤ席への送風を止めて無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

● 花粉除去モードが作動していない

作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作画面（→P.310）の

を選択し、送風を切りかえます。

● 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風

● 表示灯が消灯：全席への送風



知識

■ 送風の自動制御について

● 車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

● ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

● 車室内が非常に高温または低温などの場合は、車室内全体に空調を効かせるため、フロント席集中モードが作動していても助手席やリヤ席に送風されることがあります。

● フロント席集中送風モードを非作動にしても、長時間ハイブリッドシステムを停止したあとにハイブリッドシステムを始動するとフロント席集中送風モードが作動することがあります。

このときリヤドアを開けるとフロント席

集中送風モードが非作動になります。

● 手動でフロント席集中送風モードを作動させた場合は、リヤドアを開閉してもリヤ席に送風されません。

リヤ席に送風するには手動でフロント席集中送風モードを非作動にしてください。

■ 乗員の検知について

● リヤ席の乗員はリヤドアの開閉で検知します。

一度乗員ありと判定すると、その運転中は乗員なし判定になりません。

■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。



警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方



注意

■ シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 捕機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

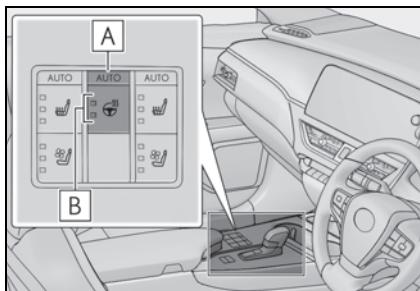
ステアリングヒーター

システムの ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) → 強 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF (消灯)

作動中は AUTO インジケーター **A**、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ カスタマイズ機能

ステアリングヒーター AUTO モード時の温度を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.479）

シートヒーター／シートベンチレーター（フロント席）

■ シートヒーター

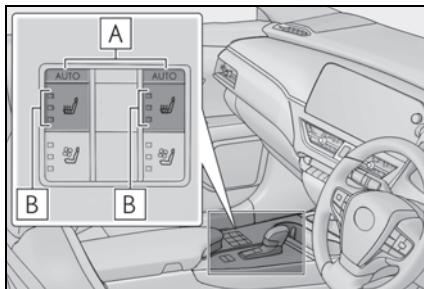
システムの ON / OFF を切りかえ

る

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は AUTO インジケーター **A**、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



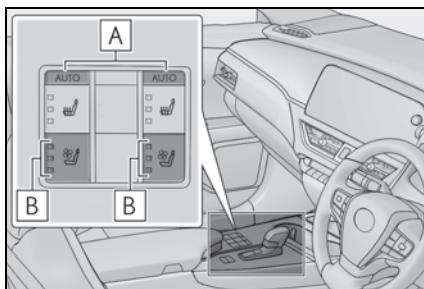
■ シートベンチレーター

システムの ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO (点灯) → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は AUTO インジケーター **A**、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■ カスタマイズ機能

シートヒーター／ベンチレーターのオート設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧: →P.479)

警告

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しない
- 毛布・クッションなどを使用しない

操作画面について

- 1 センターディスプレイのメインメニューから  を選択する
- 2 “シート空調” を選択する



- A** シートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター (青) が次のように

に切りかわります。

強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱
(1 個点灯) →OFF

[B] シートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態と
レベルインジケーター（赤）が次のように
切りかわります。

強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱
(1 個点灯) →OFF

**[C] ステアリングヒーターの温度を調
整する**

スイッチを選択するたびに、作動状態と
レベルインジケーター（赤）が次のように
切りかわります。

強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

**[D] 各機能を AUTO モードに切りか
える**

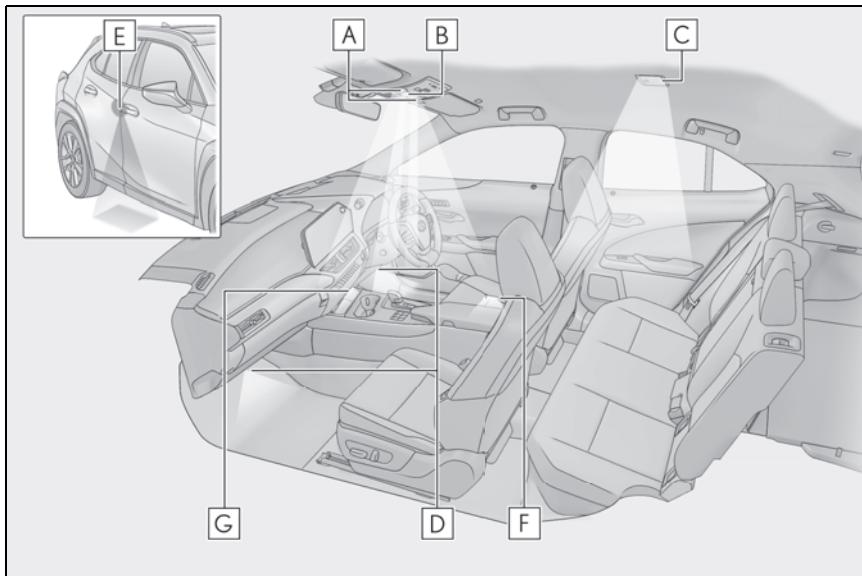
次の機能を、それぞれ AUTO モードに切
りかえることができます。

AUTO モードが ON のとき、スイッチが
点灯します。

- ・ 運転席のシートヒーター／ベンチレー
ター
- ・ 助手席のシートヒーター／ベンチレー
ター
- ・ ステアリングヒーター

室内灯一覧

室内灯の位置



- A** パーソナルランプ (→P.320)
- B** フロントインテリアランプ (→P.319)
- C** リヤインテリアランプ (→P.319)
- D** 足元照明
- E** アウトサイドドアハンドル照明
- F** ドアカーテシランプ
- G** 小物入れ照明

知識

- **イルミネーテッドエントリーシステム**
電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。また、シフト操作と連動して照度が自動的に調整されます。

■ 各部照明の自動点灯／消灯について

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエントリーシステム)
- パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後

に自動消灯します。

■ フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しない状況について

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。 (→P.479)



注意

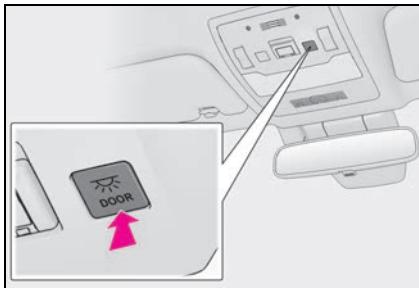
■ ランプのレンズの取り外しについて

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

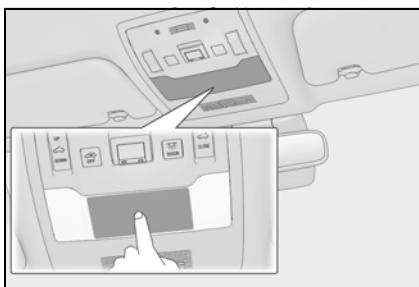


■ ランプを点灯・消灯する

▶ フロント

ランプを点灯・消灯する (ランプにタッチする)

ドアポジション (ドア連動) が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する

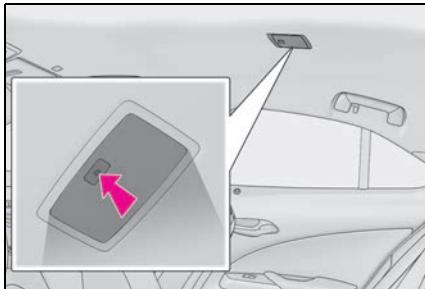
フロントインテリアランプに連動しても点灯・消灯します。

ドアポジション (ドア連動) が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

インテリアランプを操作するには

■ ドアポジション (ドア連動) を ON にする

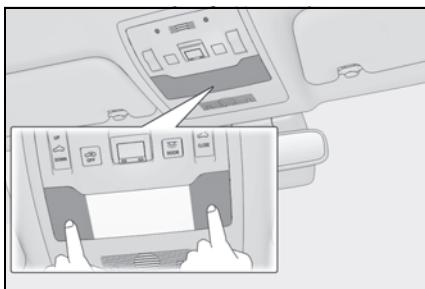
ドア連動スイッチを押す



パーソナルランプを操作するには

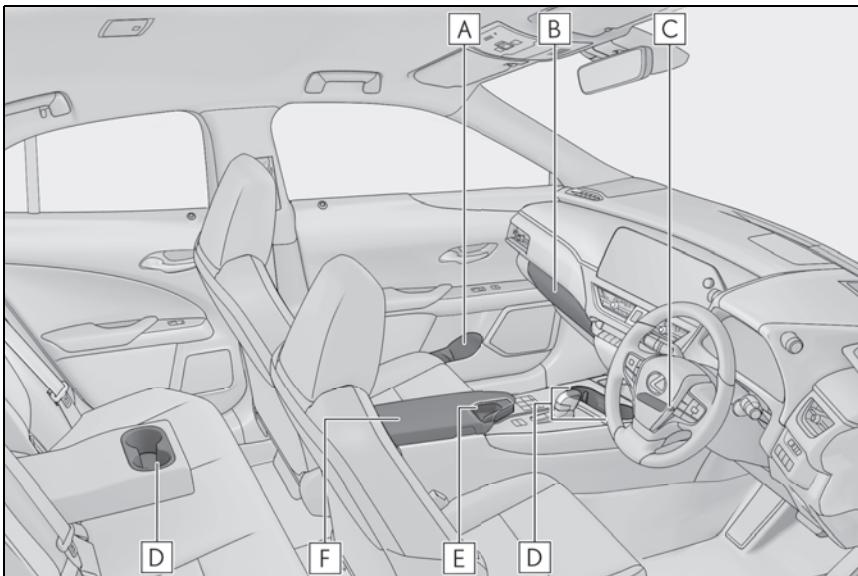
■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



収納装備一覧

収納装備の位置



- A** ボトルホルダー (→P.323)
- B** グローブボックス (→P.322)
- C** 小物入れ／ワイヤレス充電器★ (→P.333)
- D** カップホルダー (→P.323)
- E** コインホルダー (→P.323)
- F** コンソールボックス (→P.322)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

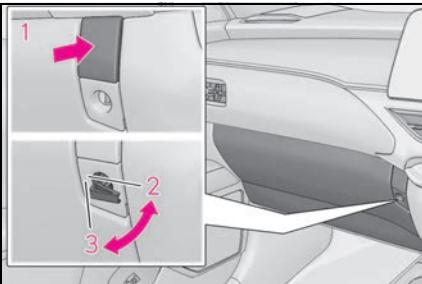
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■ 収納装備を使わないときは

グローブボックスまたはコンソールボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



- 1 開ける
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

□ 知識

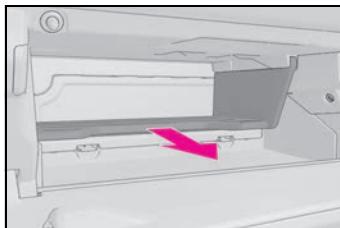
■ グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■ 仕切り板について

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。

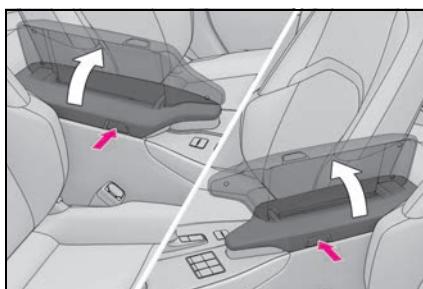
仕切り板を引き抜く



コンソールボックスを使うには

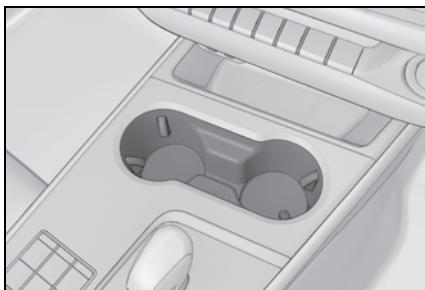
ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

両側から開けることができます。



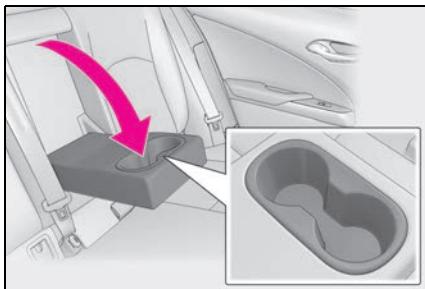
カップホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ

リヤアームレストを手前に倒す



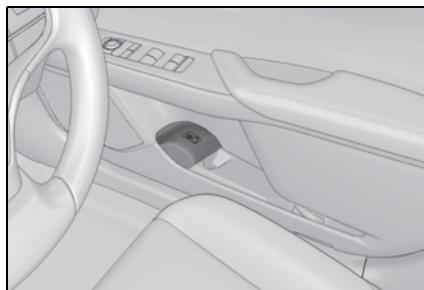
警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー



知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

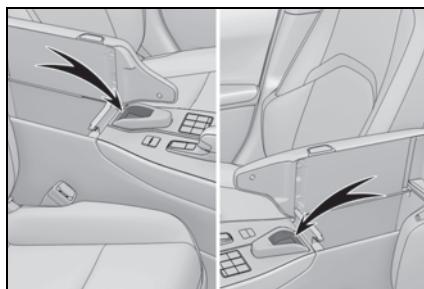
■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。

ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コインホルダー

コンソールボックスを開ける
(→P.322)



⚠ 注意

■コインホルダーについて

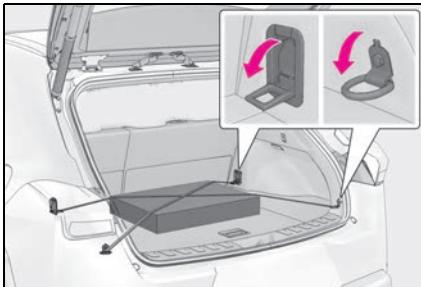
トレイの高さ以上にコインを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



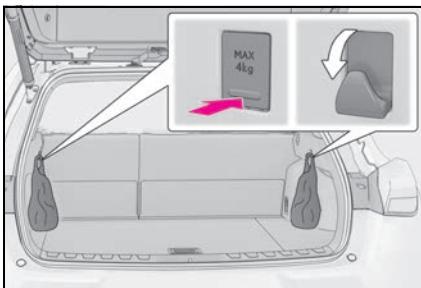
⚠ 警告

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フックを使うには

下側を押してフックを起こす



⚠ 注意

■買い物フックの破損を防ぐには

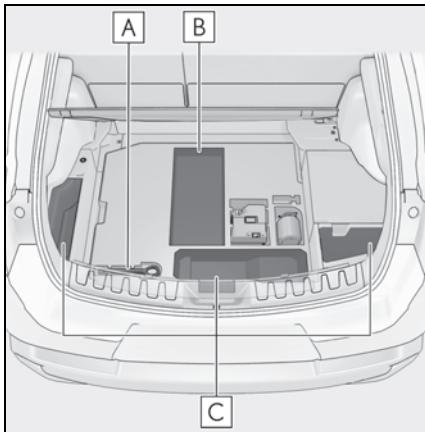
4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

デッキアンダートレイを使うには

デッキボードを持ち上げて留めひもで固定し（→P.326）、次のものを収納することができます。

■ 応急用タイヤ非装着車

▶ アクセサリーコンセント非装着車（FF 車）



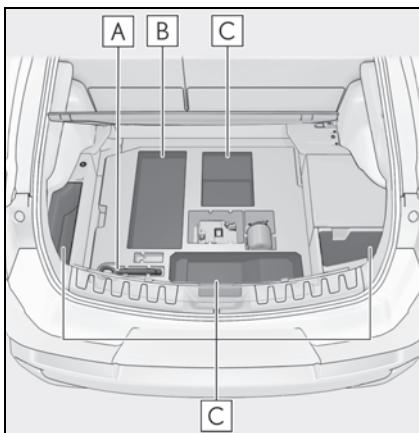
A けん引フック

B 停止表示板※

C 小物など

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

▶ アクセサリーコンセント装着車（FF 車）／AWD 車



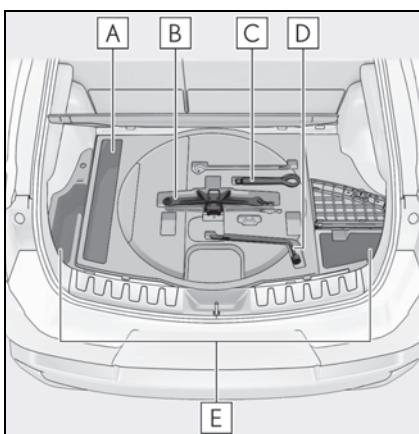
A けん引フック

B 停止表示板※

C 小物など

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

■ 応急用タイヤ装着車



A 停止表示板※

B ジャッキ

C けん引フック

□ ホイールナットレンチ

■ 小物など

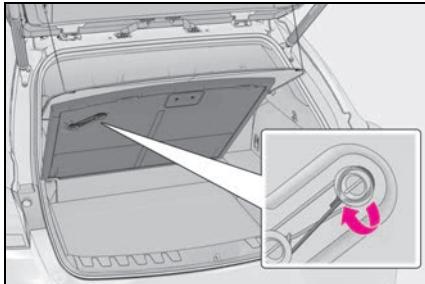
※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。



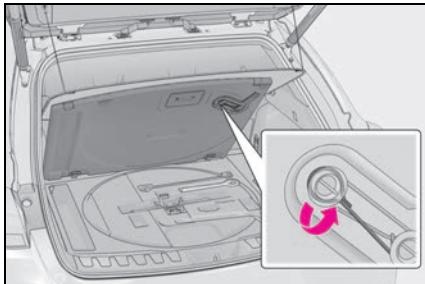
■ 停止表示板について

ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

応急用タイヤ非装着車：



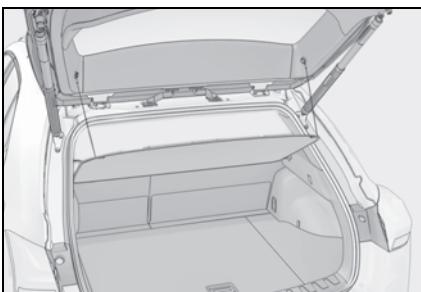
応急用タイヤ装着車：



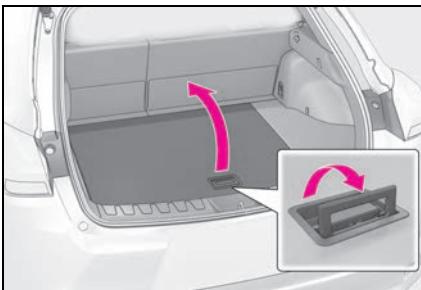
デッキボードを開けるには

▶ 中央

1 バックドアを開ける



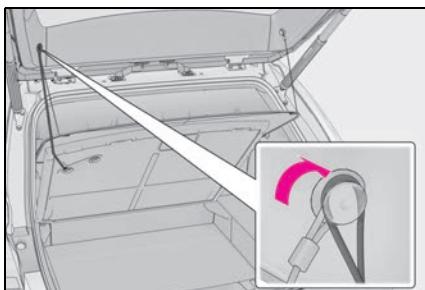
2 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



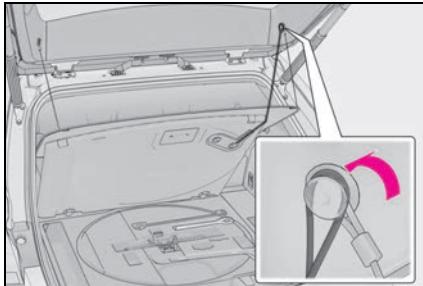
3 裏面の留めひもをはずす

4 留めひもをバックドアにあるフックに引っかけて固定する

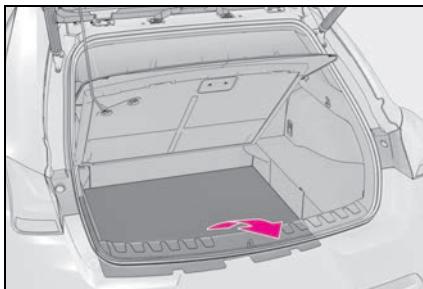
応急用タイヤ非装着車：



応急用タイヤ装着車：

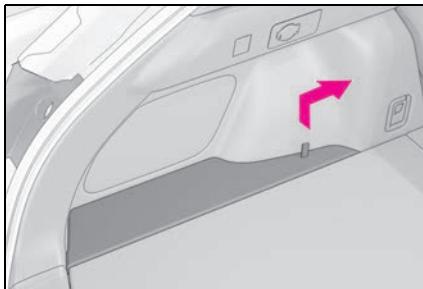


- 5 デッキマットを取りはずす（応急用タイヤ非装着車）



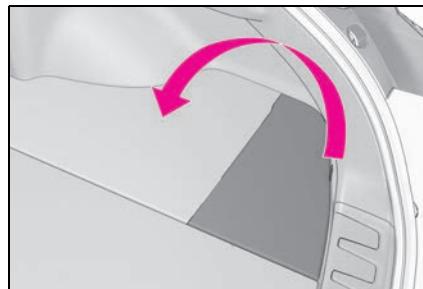
▶ 左側

ストラップを持ってサイドデッキ
ボードを持ち上げ、取りはずす



▶ 右側

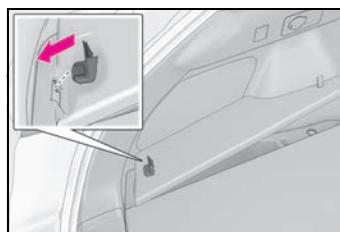
ストラップを持ってサイドデッキ
ボードを折りたたむ



□ 知識

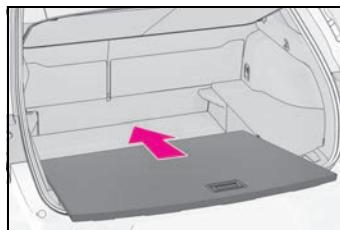
■ サイドデッキボード（左側）を取り付けるときは

ツメを差し込んでから取り付けて下さい。



■ デッキボードについて（応急用タイヤ非装着車）

背の高い荷物などを積むために、デッキ
ボードを収納することができます。

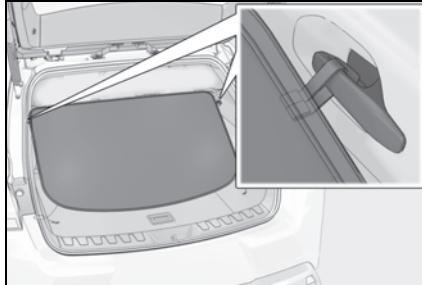


⚠ 警告

■ デッキボードを開けたり取りはずしたときは

走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

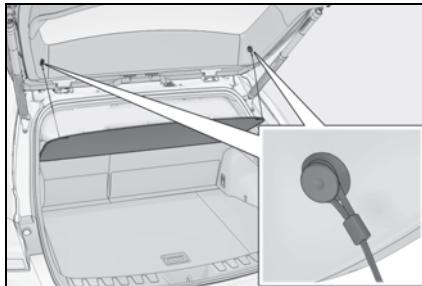
取り付けてください。



⚠ 注意

■ デッキボードの損傷を防ぐために

バックドアを閉めるときは、デッキボードの留めひもをフックにかけたままにしないでください。



トノカバー

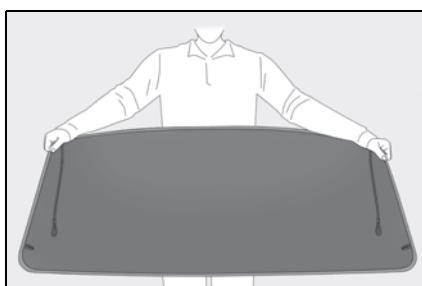
■ トノカバーを取り付けるときは

- 1 袋からトノカバーを取り出す
- 2 トノカバーをゆっくり広げる
- 3 留めひもをトノカバーフックにかける

ひもが縫い付けられている面を下にして

■ トノカバーを収納するときは

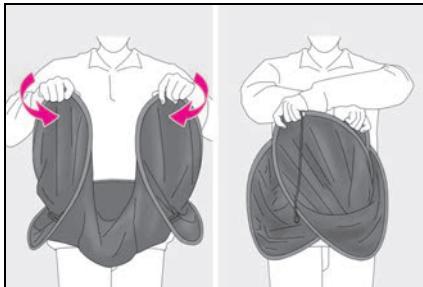
- 1 長い留めひもがある側の角を持つ



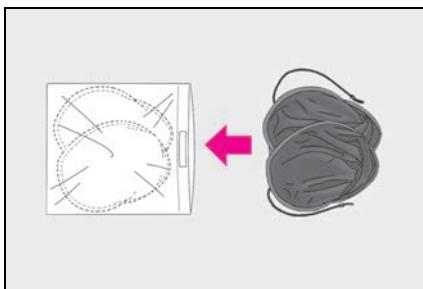
- 2 半分に曲げる



3 手首をひねりながらたたむ



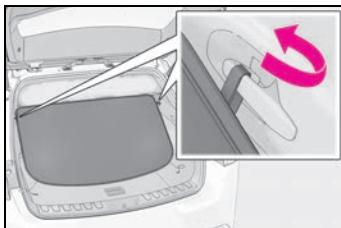
4 トノカバーを袋に入れる



□ 知識

■ トノカバーを取りはずすときは

短い留めひもは、いったん手前に引いてから取りはずしてください。



⚠ 警告

■ トノカバーを取り出したり広げたりするときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、トノカバーが急に広がり、けがをするおそれがあります。

- 袋から取り出すときは、トノカバーの縁を手でしっかりと押さえながら、ゆっくり取り出してください。
- トノカバーを広げるときは両手でしっかりと持ってゆっくり広げてください。
- 顔の近くでトノカバーを広げないでください。
- トノカバーを広げているときに手を離さないでください。
- 近くに人がいるときはトノカバーを広げないでください。

■ トノカバーを取り付けるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 視界のさまたげにならないよう、トノカバーの後端部を水平にして取り付けてください。
- 留めひもを正しく取り付けてください。

⚠ 注意

■ トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上に物を置かないでください。トノカバーが変形するおそれがあります。

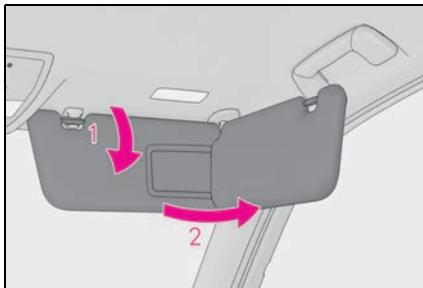
- 留めひもがはずれた状態でバックドアの開閉をしないでください。トノカバーが破損するおそれがあります。

 注意

- トノカバーフックにトノカバーとデッキボードの留めひも以外のものを掛けないでください。フックやバックドアが破損するおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには

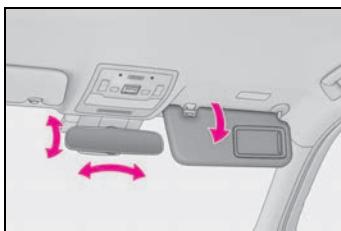


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

知識

■ インナーミラーを調整するときは

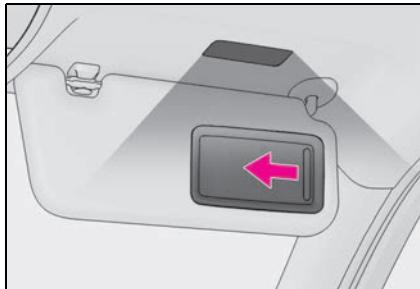
サンバイザー使用時に干渉しない範囲で、後方を十分に確認できるように調整してください。



バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■ 自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**
ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリーソケットを使うには

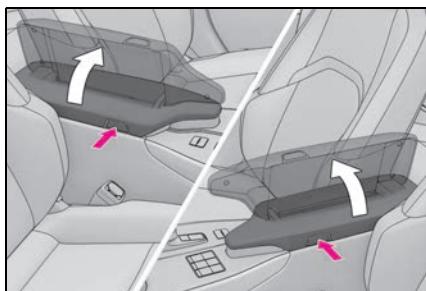
DC12 V/10 A (消費電力 120 W)
未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120 W 未満にしてください。

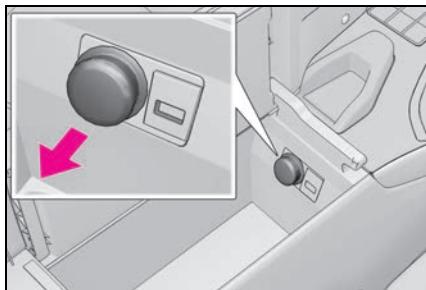
► コンソールボックス

ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

両側から開くことができます。



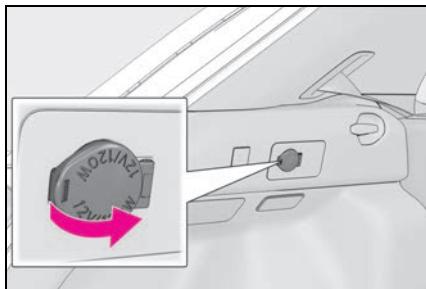
フタを開ける



▶ リヤ★

フタを開ける

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。



□ 知識

■ アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチが ACC 、 ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を

備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかかつたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ 搭機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

■ 誤作動を防ぐために

パワースイッチを OFF にするときは、充電機能をもつ電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすおそれがあります。

- ドアが施錠できない
- メーターのオープニング画面が表示される
- 室内灯やインストルメントパネル照明などが点灯する

充電用 USB Type-C 端子

DC5 V/3 A (消費電力 15.75 W)
の電源としてお使いください。

この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用USB Type-C 端子を使用するには

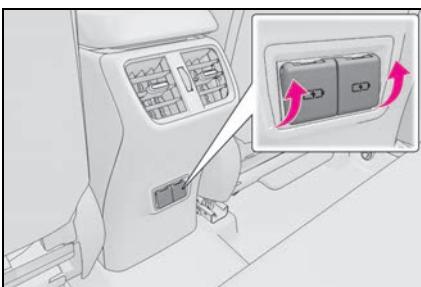
▶ フロント



▶ コンソール後方★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フタを開けて使用する



■ 充電用 USBType-C 端子の作動条件

パワースイッチが ACC 、 ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 充電用 USBType-C 端子が正常に動かないおそれのある状況

● DC5 V/3 A (消費電力 15.75 W) をこえる電力を要求する機器を接続したとき

● パソコンと通信を行う機器を接続したとき

● 接続機器の電源が OFF のとき (機器により異なります)

● 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。



注意

■ 充電用 USBType-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- コンソール後方★ : 充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 搭載バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USBType-C 端子を長時間使用しないでください。

■ ワイヤレス充電器 (おくだけ充電) を使うには★

★ : グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

適合機器は WPC のホームページ (<https://www.wirelesspowerconsortium.com/>) でご確認いただけます。

ワイヤレス充電器より大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の商標です。

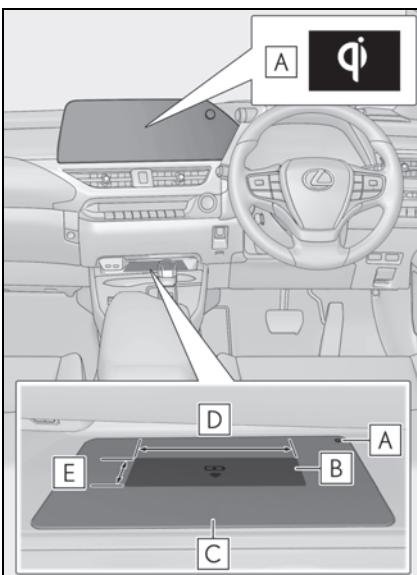


■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア※

C 充電トレイ

D 約 10cm

E 約 2.5cm

※ ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入つていれば充電が可能です。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充

電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

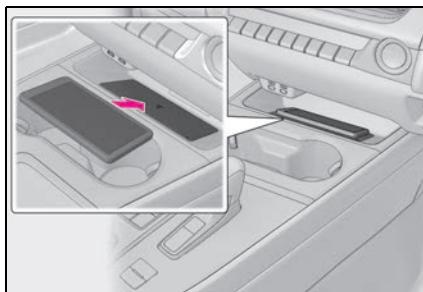
携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るよう置いください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、「機能が正常に働かないおそれのある状況」(→P.338)をご確認ください。

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

● 充電が完了し、充電停止状態が一

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯		状況
充電トレイ側	センターディスプレイ側	
消灯	非表示	マルチメディア電源が OFF、またはパワースイッチが OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※1
		充電完了時※2
橙（点灯）	青	充電中

※1 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電エリア

に置いても、加熱されることはありません。

※2携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	センターディスプレイ側	
橙（1秒間に1回の点滅をくり返す）	灰	<p>車両とワイヤレス充電器の通信不良 → ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。</p> <p>パワースイッチのモードがACCのときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。 (→P.162)</p>
緑（1秒間に1回の点滅をくり返す）	非表示※	<p>ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 → ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。</p> <p>パワースイッチのモードがACCのときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。 (→P.162)</p>
緑（点灯）	青	<p>AM放送局を自動選局している → AM放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。</p> <p>スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行っている。 → 電子キーの検出が完了するのをお待ちください。</p>

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	センターディスプレイ側	
緑（点灯）	灰	<p>異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。</p> <p>携帯機器のずれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、又はケースが厚いため、異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、5秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。</p>
		<p>携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した → 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。</p> <p>電子キーの検出状態が継続： 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された → パワースイッチを ACC または ON にして、キーを確定させてください。</p>
橙（4回連続の点滅をくり返す）	灰	<p>ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電エリアから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。</p>

※ 异常状態によっては、センターディスプレイの表示が灰になる場合もあります。



■ 使用条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.3.2 以降に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものでは

ありません。

- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした5W以下の低電力給電を対象としています。
- ただし、次の携帯機器に対しては、5Wをこえる充電に対応しています。
 - ・7.5Wの充電に対応したiPhoneに対しては、7.5W以下の充電に対応しています。
 - ・Galaxy独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W以下の充電に対応しています。
 - ・WPC規格のVer1.3.2に規定されているEPP出力に準拠した携帯機器に対しては、15W以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー&スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムが電子キーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。電子キーが検出されると、充電は自動的に再開します。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中のAMラジオ放送連携機能

- 充電中、AMラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。
- AMラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■充電中についての留意事項

- 車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなつたときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がつてから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがあります。異常ではありません。

■作動中の音について

パワースイッチを押してACCまたはONに変更したとき、および携帯機器を検出中は“ジー”や“カチッ”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.364

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電エリア付近の温度が35℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充

- 電コイルが充電エリアからはずれいるとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが車内にないとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー
 - ・ 充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
 - ・ 厚みがあるデコレーション
 - ・ 指リングやストラップなどのアクセサリー
- 携帯機器の充電面にカメラなどの突起があり、携帯機器の充電面と充電エリアとのあいだにすき間ができるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属製のデコレーション
 - ・ 金属製のケースやカバー
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置いたとき
- S ペン (Galaxy 端末付属のタッチペン) 内蔵の端末 (Note シリーズ等) をご利用の場合、S ペンを挿入したままトレ

イに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■商標について

- iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

⚠ 警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■ 故障やデータ破損を防止するために

● 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

● 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。

● 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

■ 携帯機器のバッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。

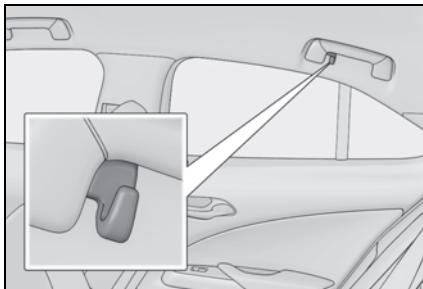


⚠ 注意

- アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

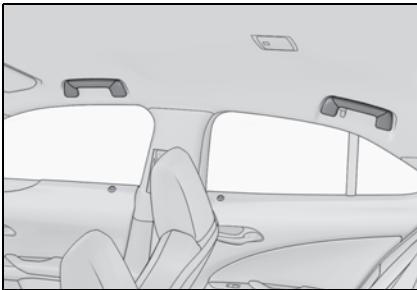


⚠ 警告

- コートフックへかけてはいけないもの

コートフックにハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッジがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。



⚠ 警告

- アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がるときに使用しないでください。

⚠ 注意

- アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

アクセサリーコンセント (AC100V・1500W) ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

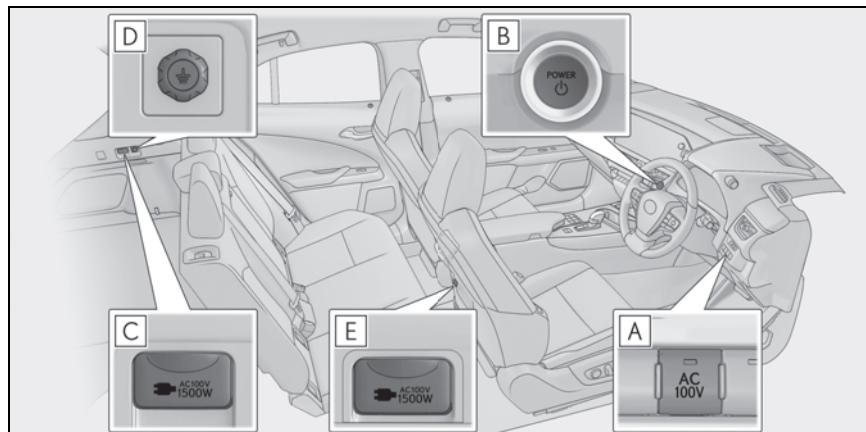
車内において、AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること
- 輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションがPになっていること
- パワースイッチがOFFになっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



A AC100Vスイッチ

B パワースイッチ (→P.162)

■ **C** ラゲージルーム内コンセント

■ **D** アース端子

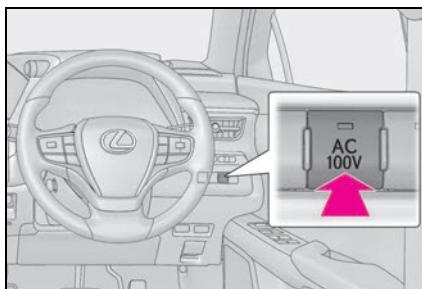
■ **E** 室内コンセント

コンセントをONするとき

- 1 パーキングブレーキがかかるついていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す (→P.162)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押す

AC100Vスイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100Vスイッチを押すたびにコンセントのON／OFFが切りかわります。



電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

- 1 電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源がOFFになっていることを確認する
- 2 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかりと挿し込む

コンセントは室内とラゲージルーム内の2カ所にあります。

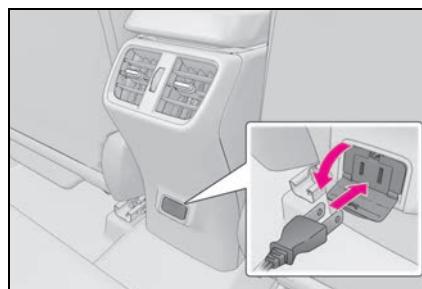
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

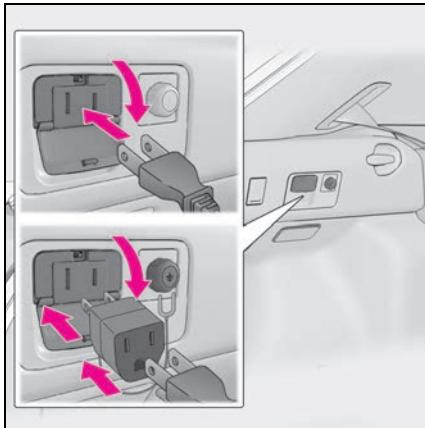
- ・ 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかりと挿し込めない
- ・ 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

▶ 室内コンセント



▶ ラゲージルーム内コンセント



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める



■ 使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では駐車または停車中にエンジンを始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ アクセサリーコンセントについて

● AC100V で最大消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

● 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

● 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。

● コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえることがあります。

この場合、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

● コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

● コンセントの使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100Vスイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が1500W以下になっているかを確認し、再度AC100Vスイッチを押してください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度AC100Vスイッチを押してください。

- 駆動用電池の残量を確認してください。
(→P.90) 残量が少ない場合は、シフトレバーをPにして、駆動用電池の残量を回復させ、再度AC100Vスイッチを押してください。

- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100Vスイッチを押してください。

- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用

できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。



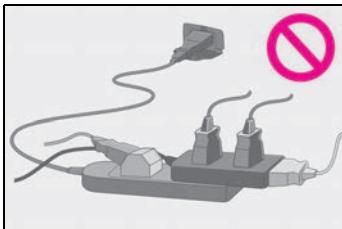
■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない、と思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿したり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

⚠ 警告

- コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

■接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、60Hzに設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ(50/60Hz)機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

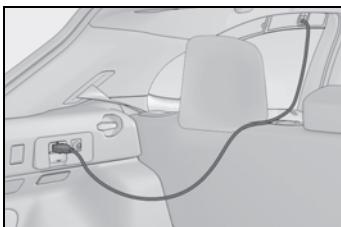
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

⚠ 警告

- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ・ 雨水の侵入などに注意する
 コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
 - ・ コードを窓やドアで挟まない
 - ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- ・ 誤って車両を発進させない
- 給油や洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■ 走行中に使用するとき

- 次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
 - ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
 - ・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

 **警告**

- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電気製品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、停車した状態で窓を開けて使用してください。

 **注意****■ ショートや故障を防ぐために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかつたり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。
熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかつたりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

非常時給電システム★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用することができるシステムです。

燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

非常時給電システムを使用するときの重要確認事項

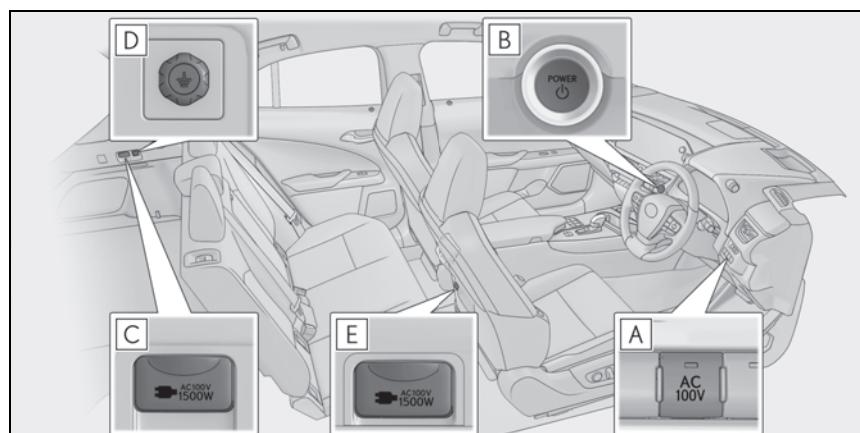
必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションがPになっていること
- パワースイッチがOFFになっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

システムの構成部品



- A** AC100V スイッチ
- B** パワースイッチ (→P.162)
- C** ラゲージルーム内コンセント
- D** アース端子
- E** 室内コンセント

非常時給電システムを使用するには

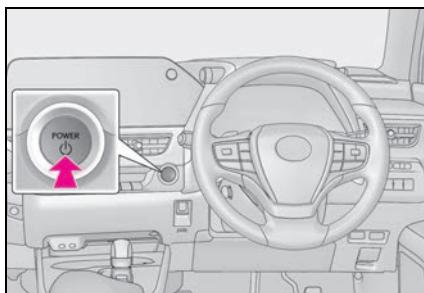
■ 非常時給電システムを起動するとき

- 1 パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す※ (→P.165)

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

※ ACC カスタマイズの設定状態により異なります。



- 2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディス

プレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

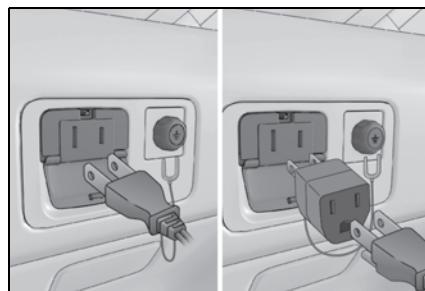


- 3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかりと挿し込む (→P.351)

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源をOFFにする
- 2 AC100Vスイッチを押してOFFにする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める
- 5 パワースイッチをOFFにする



▶ 室内コンセント

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源がOFFになっていることを確認してください。

- 1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかりと挿し込む

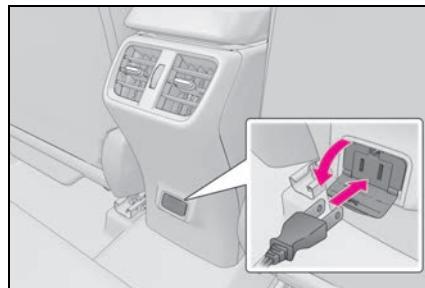
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合には、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

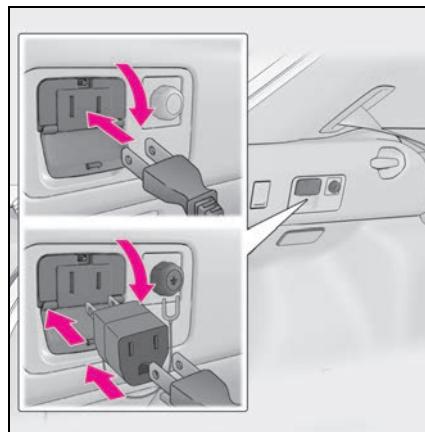
- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかりと挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



▶ ラゲージルーム内コンセント



□ 知識

■ 非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえるときがあります。この場合、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントを使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがあります、異常ではありません。
- 非常時給電システムの使用中は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動

でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では駐車または停車中にエンジンを始動した場合、条例にふれる可能性があります。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ 非常時給電システムを使用するとき

- スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- 非常時給電システム起動後はメカニカルキー（→P.99）で施錠・解錠することができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません キーの所在を確認してください”と表示されたりすることができます。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドライトなどが点灯します。ランプについてはP.181を参照してください。

■ 警告

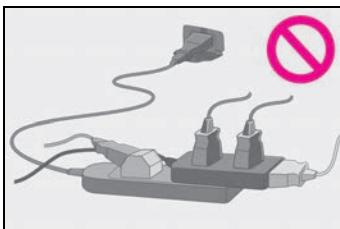
■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症・低体温症になるおそれがあります。

⚠ 警告

- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿したり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントにはこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引つ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
 - コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

■接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

⚠ 警告

■ 電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、60Hzに設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ 非常時給電システムを使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。

● 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

● 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

● 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

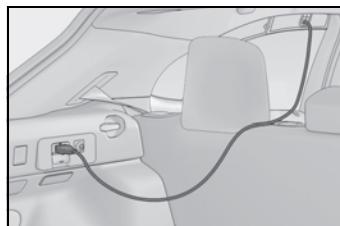
● 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

● 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

- 雨水の侵入などに注意する

コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

- コードを窓やドアで挟まない
- たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- 誤って車両を発進させない

- 給油や洗車は行わないでください。

⚠ 警告

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囮まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかつたり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

● 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。

● コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。

コンセントに異物が入ったり、飲料水などかかかたりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■ 非常時給電システムを使用するとき

● 長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがあります。異常ではありません。

● 特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からおいが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチがACCになっている	<p>パワースイッチがOFFの状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチをONにしてください。 (→P.162)</p> <p>マルチインフォメーションディスプレイに“POWER ON”と表示されていることを確認してください。</p>
AC100Vスイッチを押す間隔が長すぎる、またはAC100Vスイッチを3回よりも多く押している	AC100Vスイッチは1秒以上間隔をあけずに3回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	<p>しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。</p> <p>電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。</p>

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が1500Wを超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が1500W以下になっているかを確認後、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。 <ul style="list-style-type: none">・ ピンなどの異物が挿さっていないか・ 飲料水、雨水、雪などが付着していないか・ ほこりやゴミが付着していないか

■ “燃料の残量低下により給電停止しました”と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなつた	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

非常時給電システムに関するメッセージが表示されたとき

メッセージに従って、それぞれ必要な処置を行ってください。

6-1. お手入れのしかた

- | | |
|--------------|-----|
| 外装の手入れ | 360 |
| 内装の手入れ | 364 |

6-2. 簡単な点検・部品交換

- | | |
|----------------------|-----|
| ポンネット | 367 |
| ガレージジャッキ | 369 |
| ウォッシャー液の補充 | 370 |
| タイヤについて | 371 |
| タイヤ空気圧について | 381 |
| エアコンフィルターの交換 | 382 |
| 駆動用電池冷却用吸入口の清掃 | 384 |
| 電子キーの電池交換 | 387 |
| ヒューズの点検・交換 | 389 |
| 電球（バルブ）の交換 | 391 |

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあつた適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなつたときは、ワックス掛けを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

□ 知識

- セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

 - 新車時から5~8年のあいだ、効果が持続します。
 - 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。

なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合が

あります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■ 自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワーバックドア★を停止する
 - 走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
 - ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
 - 洗車機によっては、リヤスปойラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
 - 自走式洗車機を利用するときなど、Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.171を参照してください。
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ スマートエントリー＆スタートシステムについて

- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ・ 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する
- (電子キーの盗難に注意してください)

- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.124）

- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されることがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - 硬いブラシを使用しない
 - 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキキャリパーの塗装について（F SPORT 専用オレンジブレーキキャリパー装着車）

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ パンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

- 金属製の道具で霜取りをしない

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る



警告

■ 洗車をするときは

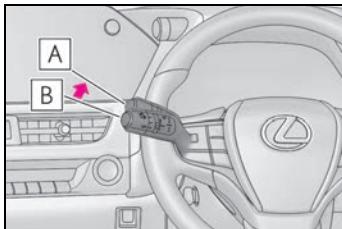
エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパーースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパー・ブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM
- 後方車両への接近警報
- RCTA
- PKSB
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。



注意

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスかけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

- ワイパーースイッチを OFF にしてください。（→P.191）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパープレードなどを損傷するおそれがあります。

■高压洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高压洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

● ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

● モール、バンパーなど樹脂部品は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

● フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

● 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあつた適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

□ 知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーをご利用になります。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパーUVカットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

! 警告

■ 車両への水の浸入

● 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→P.60）駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です

- SRSエアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.32）電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→P.333）をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボーテーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
(→P.203)

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 热線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、热線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

- 热線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパーUVカットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

□ 知識

■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

革部分の手入れをするには

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約5%にうすめて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などではこりを取り除く
- 汚れがついた場合は、柔らかい布に水を含ませ固くしぼりふき取る
- 水拭きで取れない汚れは、本革シート用クリーナーを使用しふき取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ 合成皮革部分の汚れについて

長い間放置し染みついた汚れはふき取りにくくなるため、定期的にお手入れをおすすめします。



注意

■ 革の傷みを避けるために

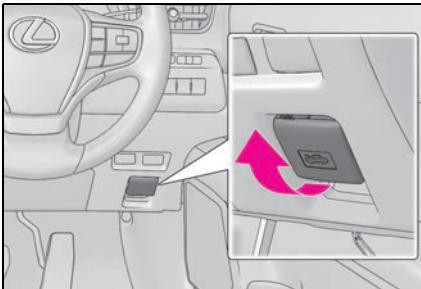
皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワッカス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

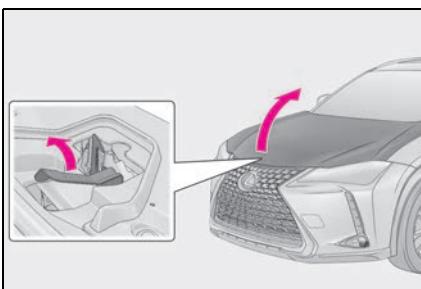
ポンネット

ポンネットを開けるには

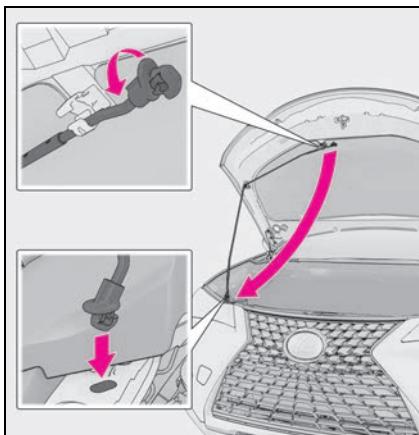
- 1 ポンネット解除レバーを引く
ポンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げてポンネットを開ける



- 3 ポンネットステーをステー穴に挿し込む

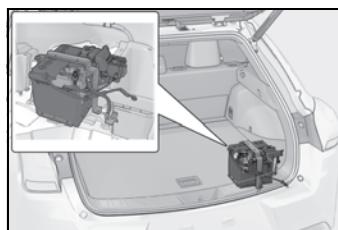


□ 知識

■ 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがつてしまつたときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。
(→P.448)



⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットを開けるときは

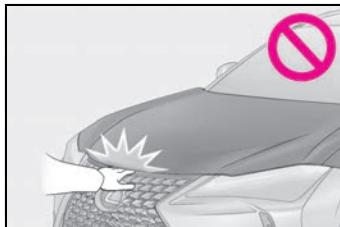
ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

→P.452

⚠ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

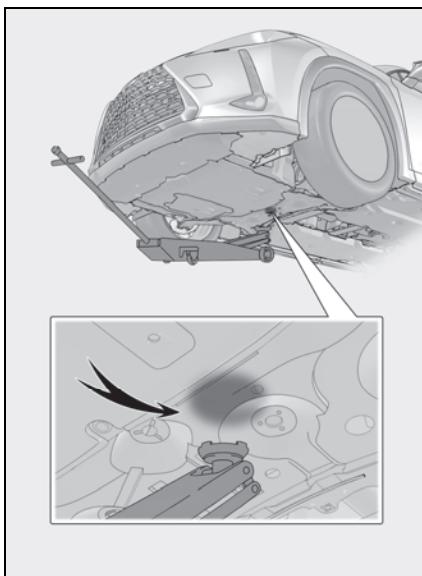
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

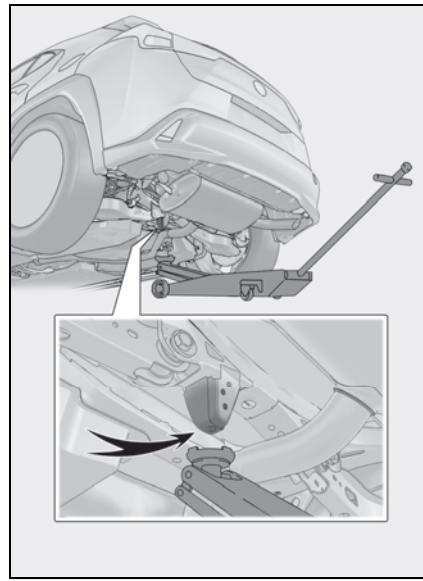
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

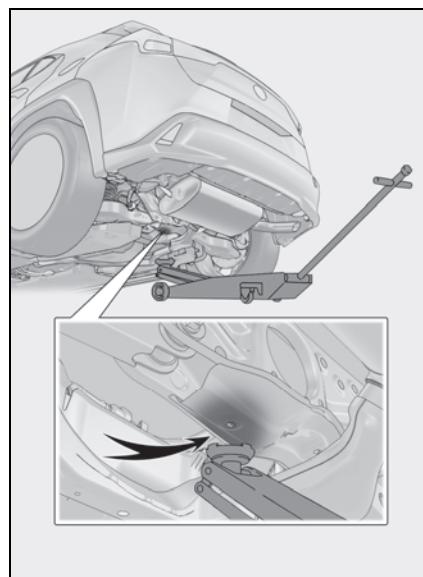


■ リヤ側

▶ FF 車



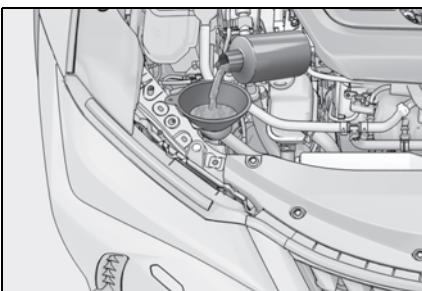
▶ AWD 車



ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかつたり、マルチインフォメーションディスプレイに“ウォッシャー液を補充してください”が表示されたら、ウォッシャー液を補充する



■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。



注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せつけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

□ 知識

■ タイヤ空気圧の数値

► 17インチタイヤ

前輪：250kPa (2.5kg/cm²) *

後輪：250kPa (2.5kg/cm²) *

► 18インチタイヤ

前輪：230kPa (2.3kg/cm²) *

後輪：230kPa (2.3kg/cm²) *

► 応急用タイヤ★

420kPa (4.2kg/cm²) *

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

* タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤの交換について（ランフラット装着車）

お客様の車には、タイヤ交換に使用する次の工具とジャッキが搭載されていないことがあります。その場合、ランフラットタイヤ以外のタイヤに交換するときは、工具とジャッキを購入してください。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

⚠ 警告

■ 点検・交換時に警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じことがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら（ランフラットタイヤ非装着車）

走行を続けれでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

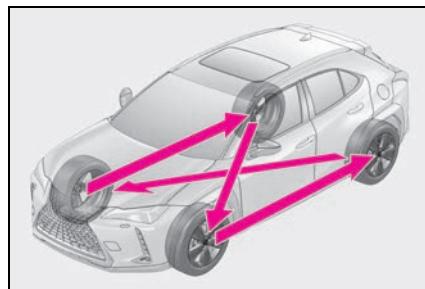
■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

□ 知識

■ タイヤローテーションを行うとき

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

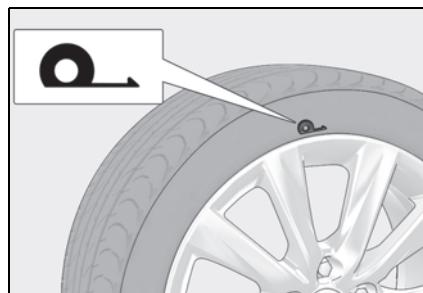
ランフラットタイヤ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても 80km/h をこえない速度で、約 160km まで走行することが可能です。(ただし、気候や走行状況などによっては 80km/h までスピードを出せないこともあります)

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に  マークが付いています。

160km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。



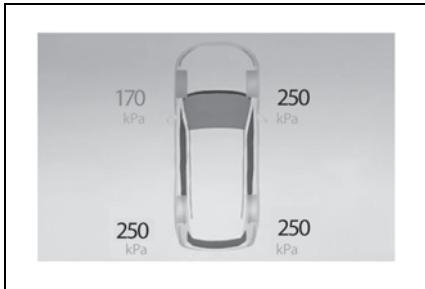
タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 2 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。(\rightarrow P.407)
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ



▶ センターディスプレイ



- マルチインフォメーションディスプレイに“空気圧を調整してください”が表示されたとき

通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイに“すみやかに安全な場所でタイヤ点検”が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。（→P.89）



知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチをONにしたあと、空気圧が表示されるまで約3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表

示が更新されるまで約3分かかります。

- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況が変わることで正しく表示されること

があります。

- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.378）



知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。



注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。

レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

● ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

● バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

● バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ位置を登録するには

■ タイヤ位置の登録が必要なとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折しながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤ位置の登録のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する
- 2 ハイブリッドシステムを始動する車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

- 3 センターディスプレイの  を選択する
- 4 “車両カスタマイズ” を選択する
- 5 “タイヤ空気圧” を選択する
- 6 “タイヤローテーション” を選択する
- 7 “OK” を選択する

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が “---” になり、タイヤの位置判定を開始します。

- 8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ~ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、パワースイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

知識

■ タイヤ位置を登録するとき

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。

- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■ タイヤ位置登録の操作について

- タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。

- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ位置登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。

- ・ 約 40km/h 以上で走行していない
- ・ 未舗装の場所を走行した

- 1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

- タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。 (→P.377)

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

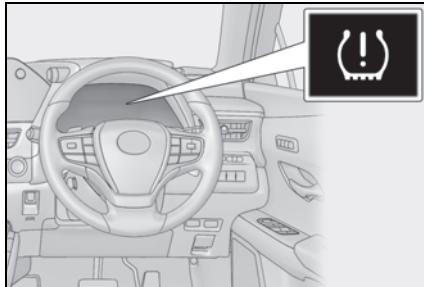
(→P.377)

■ 指定空気圧での設定のしかた

- 1 ハイブリッドシステムを始動する
車両が動いているときは、空気圧は設定できません。
- 2 センターディスプレイの⚙を選択する
- 3 “車両カスタマイズ”を選択する
- 4 “タイヤ空気圧”を選択する
- 5 “指定空気圧設定”を選択し、
フロントタイヤとリヤタイヤの空
気圧を選択する
- 6 “OK”を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチイン
フォメーションディスプレイに設定完了
のメッセージが表示されます。



■ 現在の空気圧での設定のしかた

- 1 タイヤの空気圧を適切な値に調整する
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。
- 2 ハイブリッドシステムを始動する
車両が動いているときは、空気圧は設定できません。
- 3 センターディスプレイの⚙を選択する

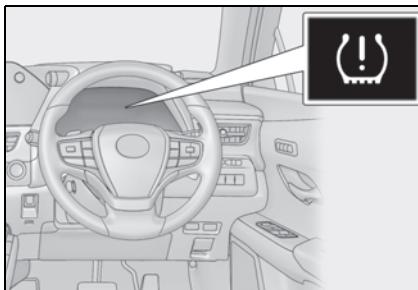
- 4 “車両カスタマイズ”を選択する

- 5 “タイヤ空気圧”を選択する
- 6 “現在の空気圧を設定”を選択する

- 7 “継続”を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチイン
フォメーションディスプレイに設定完了
のメッセージが表示されます。



□ 知識

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度について（現在の空気圧で設定するとき）

- 現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。
- 必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

- 空気圧設定の操作について（現在の空気圧で設定するとき）
- 空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。
- 空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。
- タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき
 - 現在の空気圧で設定をする場合、通常約 3 分で終了します。
 - 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
 - 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。



警告

■ 現在の空気圧で設定するとき

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

め、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コードの登録のしかた

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

- 1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する
- 2 ハイブリッドシステムを始動する
車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。
- 3 センターディスプレイの を選択する
- 4 “車両カスタマイズ” を選択する
- 5 “タイヤ空気圧” を選択する
- 6 セット選択に表示されているセット（“セット 1” または “セット 2”）を確認する

表示されているセットに ID コードを登録します。

登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットをタッチし、登録したいセットを選択します。

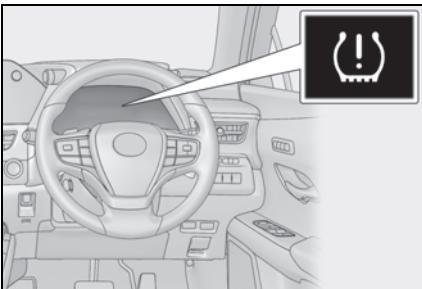
すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているた

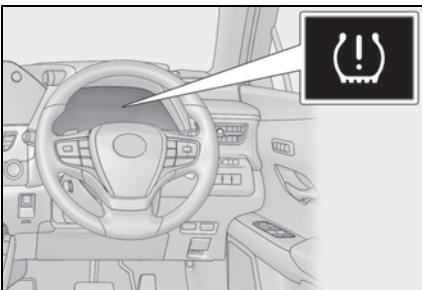
示されます。



- 7 “新規タイヤ登録”を選択する
8 “OK”を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。IDコードの切りかえが中止され、登録を開始します。

IDコードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になります。



- 9 約40km/h以上で適度に右左折や直進をしながら約10～30分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約40km/h以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しま

すが、1時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

10 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する(→P.376)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

■ 知識

■ IDコードの登録をするとき

- 通常は約30分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われます。
- IDコードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- すでにIDコードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.380)

■ IDコードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、IDコードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・走行前に約15分以上駐車していない
 - ・約40km/h以上で走行していない
 - ・未舗装の場所を走行した
 - ・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 1時間以上走行しても登録できない場合

は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

- 登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、レクサス販売店にご依頼ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、センターディスプレイの “新規タイヤ登録” を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、“新規タイヤ登録” を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

- この機能は 2 セット目（セット 2）のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、“セット 2（未登録）” と表示され、選択しても切りかえはできません。

ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。（→P.378）

● ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。

- ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

ID コードの切りかえかた

- 1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する
- 2 センターディスプレイの  を選択する
- 3 “車両カスタマイズ” を選択する
- 4 “タイヤ空気圧” を選択する
- 5 セット選択に表示されているセット（“セット 1” または “セット 2”）を選択する
- 6 登録したいセットを選択し、“OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

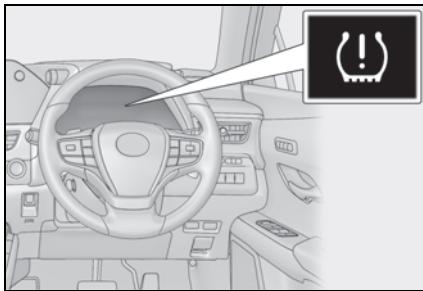
ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、

切りかえ手順を最初からやり直してください。



- 7 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する（→P.376）

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

- 8 タイヤの位置を登録する
(→P.375)

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

- タイヤの性能を発揮するために
適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていない
と、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の
場合死亡につながるおそれがあります。
- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだから空
気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の
増大（路上障害物、道路のつなぎ目
や段差など）

⚠ 注意

- タイヤ空気圧の点検・調整をしたあ
とは
タイヤのバルブキャップを取り付けてください。

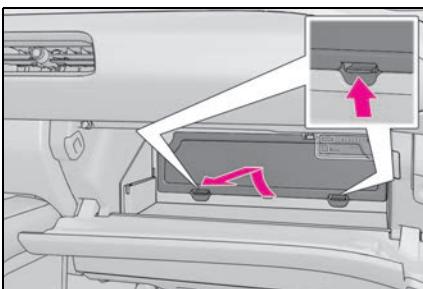
バルブキャップをはずしていると、ほ
こりや水分がバルブに入り空気がもれ、
タイヤの空気圧が低下するおそれがあ
ります。

エアコンフィルターの交換

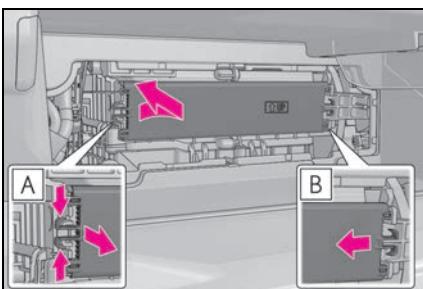
エアコンを快適にお使いいただく
ために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

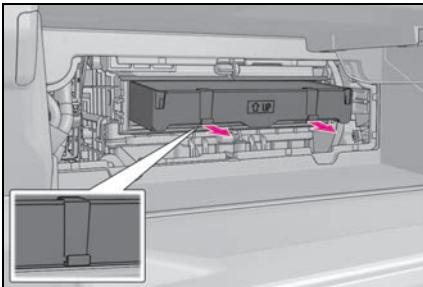
- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開け、仕切り
板をはずす（→P.322）
- 3 パネルを取りはずす



- 4 フィルターカバーのロックをはず
し（A）、ツメからフィルターカ
バーを抜き（B）、フィルターカ
バーを取りはずす

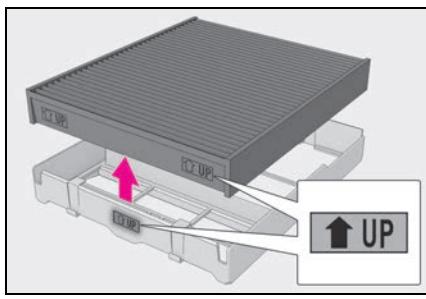


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP”マークの矢印が上を向くように取り付けます。



□ 知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km [7500km^{※1}] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{※2}

※¹大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※²芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられます

で、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

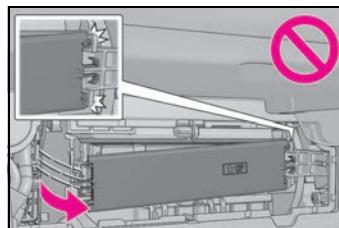
■ エアコンを使用するときの注意

● フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

● フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐため

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかかるないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。

ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

□ 知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。



注意

■マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは

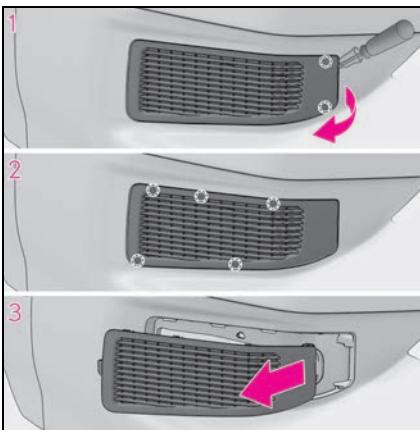
すみやかに清掃してください。

警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

清掃のしかた

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 マイナスドライバーを使って吸入口カバーを取りはずす

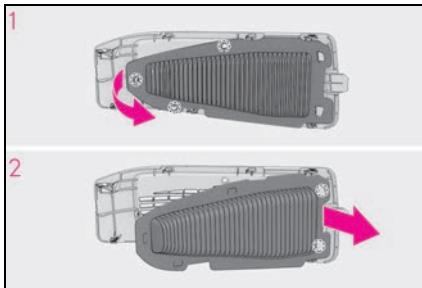
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 1 吸入口カバーを手前に引いて、図で示すツメをはずす
- 2 図で示す残り 5カ所のツメを右端からはずす
- 3 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす
- 3 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

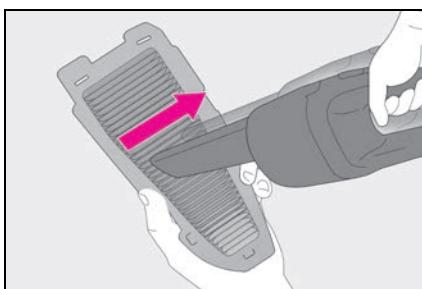
吸入口カバーにほこりがたまっていると

きは、掃除機などで取り除いてください。



- 1 図で示すツメからフィルターをはずす
- 2 吸入口カバーから残り 2カ所のツメを外してフィルターを取りはずす
- 4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

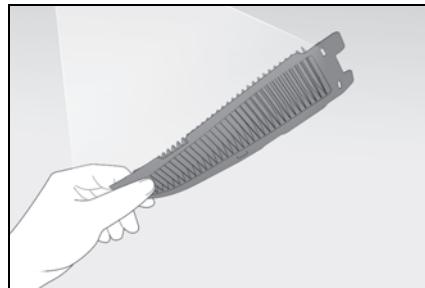
掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



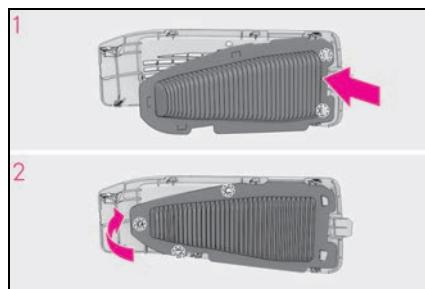
- 5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないとき

は、レクサス販売店にご相談ください。



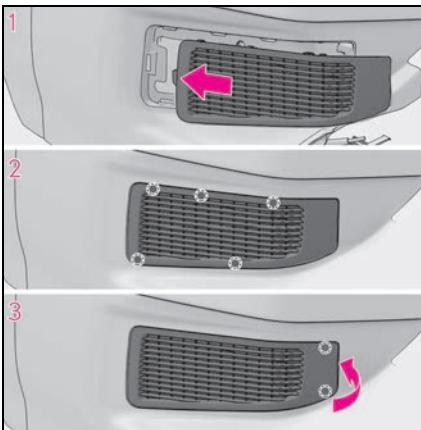
- 6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける



- 1 図で示す 2カ所のツメにフィルターを引っかける
- 2 残りのツメにフィルターを取り付ける

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

7 吸入口カバーを取り付ける



- 1 吸入口カバー左端のツメを差し込む
 - 2 図で示す5ヶ所のツメを取り付ける
 - 3 図で示す残りのツメを取り付ける
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”と表示されていたとき
- 8 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約20分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

□ 知識

■ フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

▲ 警告

■ 吸入口の清掃をするときは

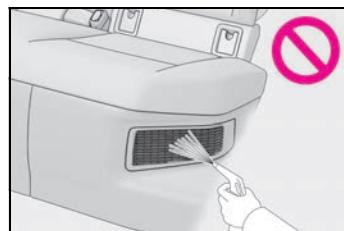
- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチをOFFにしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

△ 注意

■ 吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■ 車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける

⚠ 注意

- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない
- フィルターの損傷を防ぐために次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、レクサス販売店で新しいフィルターに交換してください。
- エアプローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

□ 知識

- 電子キーの電池が消耗していると次のような状態になります。
 - スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
 - 作動距離が短くなる
- カードキーの電池交換が必要なときはカードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

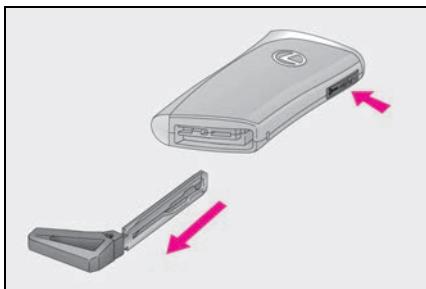
□ 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

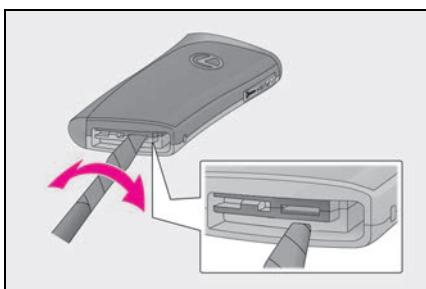
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



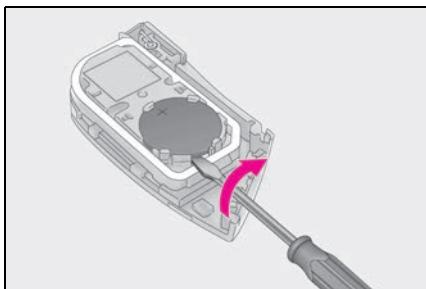
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 小さいマイナスドライバーを使って消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかりと閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なるタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

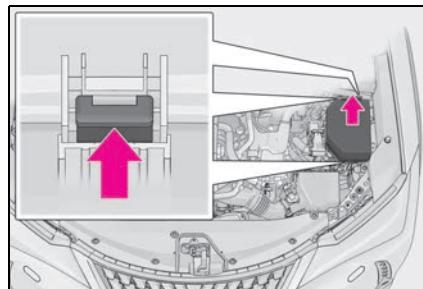
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

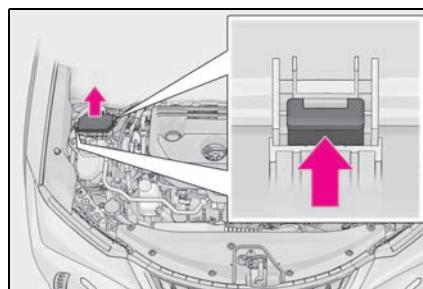
- 1 パワースイッチを OFF にする
 - 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ エンジルーム (1)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



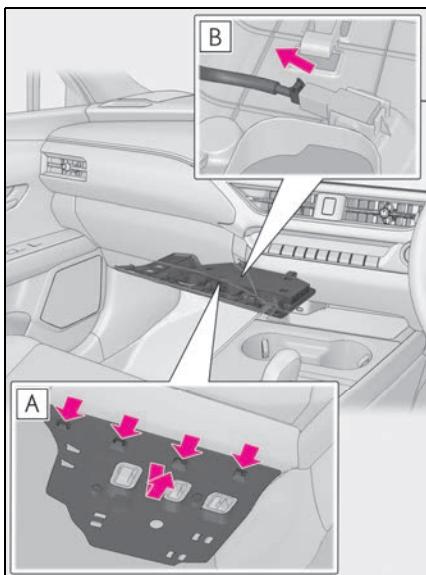
▶ エンジルーム (2)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

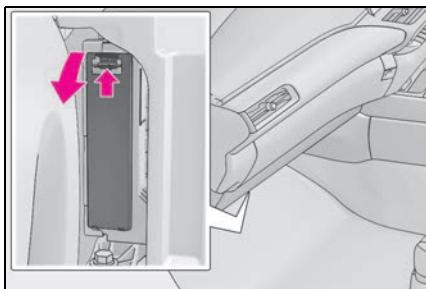


▶ 助手席足元

足元のカバー **A** を取りはずし、足元照明のコネクター **B** を取りはずす

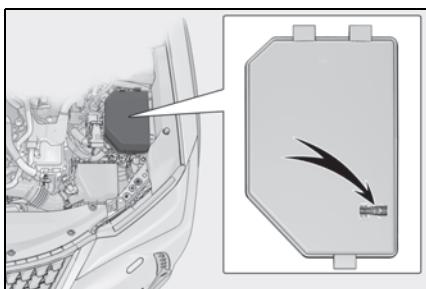


ヒューズボックスカバーを取りはずす



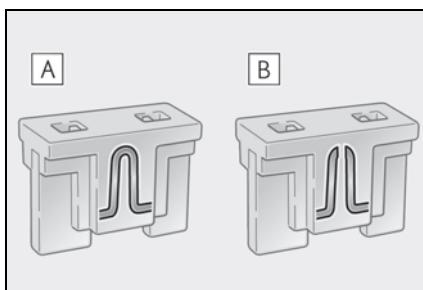
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

■ 知識

■ ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P.446)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。

取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

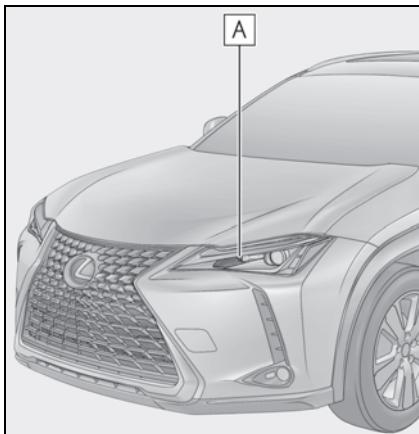
■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。交換する前に、切れた電球のW（ワット）数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の位置



A フロント方向指示灯／非常点滅灯
(単眼ヘッドライト装着車)

■ レクサス販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、
レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト (前照灯)
- 車幅灯／デイタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
(三眼ヘッドライト装着車)
- フロントフォグランプ
- コーナーリングランプ

- サイド方向指示灯／非常点滅灯
 - 尾灯
 - 制動灯
 - 尾灯／制動灯
 - リヤ方向指示灯／非常点滅灯
 - リヤフォグランプ★
 - 後退灯
 - ハイマウントストップランプ
 - 番号灯
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ LED ランプについて

単眼ヘッドライト装着車 :

フロント方向指示灯／非常点滅灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

三眼ヘッドライト装着車 :

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

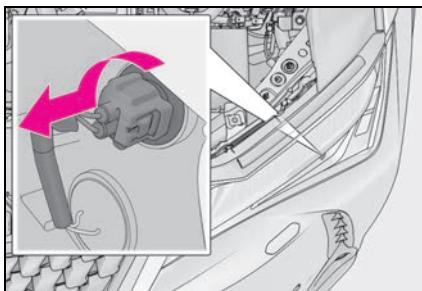
■ 電球（バルブ）を交換するとき

→P.390

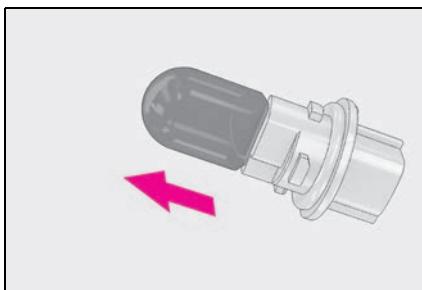
電球交換をするには

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯 (単眼ヘッドライト装着車)

- 1 ソケットを左にまわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす



- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の順序で取り付ける

⚠ 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

 **警告**

- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持つください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
 - 電球や電球を固定するための部品はしっかりと取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- お車の故障や火災を防ぐために
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

7-1. まず初めに

故障したときは.....	396
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	397
発炎筒.....	397
車両を緊急停止するには.....	398
水没・冠水したときは.....	399
車中泊が必要なときは.....	400

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	401
警告灯がついたときは.....	406
警告メッセージが表示されたときは.....	415
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....	423
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....	436
パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）.....	442
ハイブリッドシステムが始動できないときは.....	443
キーをなくしたときは.....	445
給油扉が開かないときは.....	445
電子キーが正常に働かないときは.....	446
補機バッテリーがあがつたときは.....	448
オーバーヒートしたときは.....	453
スタックしたときは.....	457

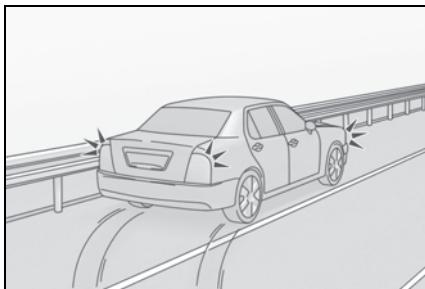
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.397）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

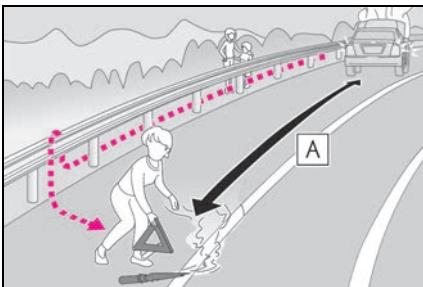
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の 50m 以上後方 **A** に発炎筒（→P.397）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
- ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネ

ル内では使用しないでください。

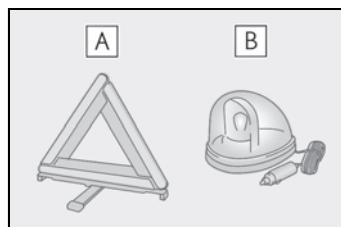


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

□ 知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

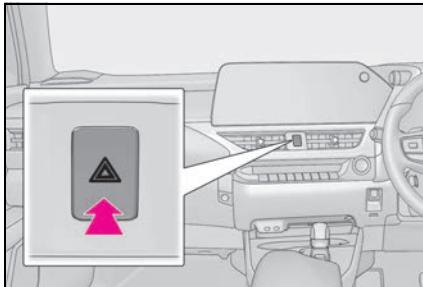
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



□ 知識

■ 非常点滅灯について

- ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがかかるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

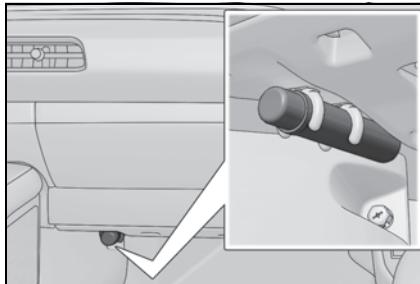
発炎筒

高速道路や踏切などの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

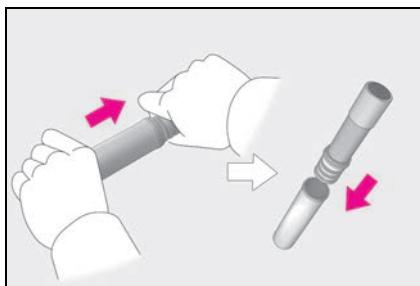
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

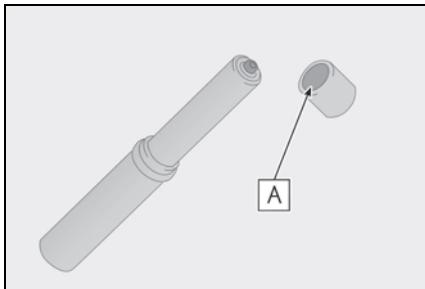


3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



□ 知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかつたり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内

- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N に入れる

▶ シフトポジションが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは

走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前に操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

□ 知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

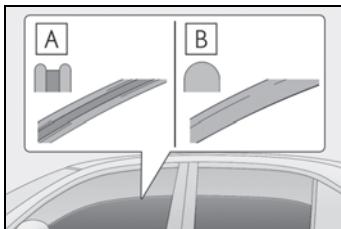
この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問合せください。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。



A 合わせガラス

B 強化ガラス

!**警告**

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

!**警告**

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

[https://lexus.jp/news/bousai/
#help_book](https://lexus.jp/news/bousai/#help_book)



けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき (→P.164, 416)
- イモビライザーシステムに異常があるとき (→P.62)
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき (→P.446)
- 補機バッテリーがあがつたとき (→P.448)

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えら

れるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 异常な音がする

レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは (FF 車)



パーキングブレーキを解除する

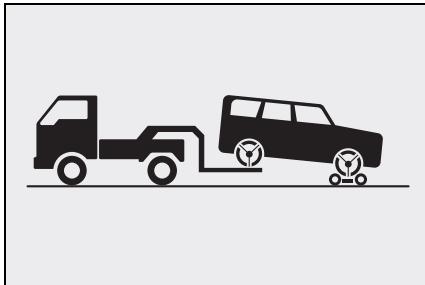
オートモードを OFF にしてください。
(→P.175)

- ▶ 前向きにけん引するときは (AWD 車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

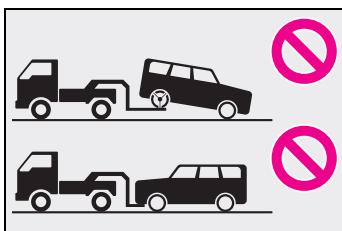
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

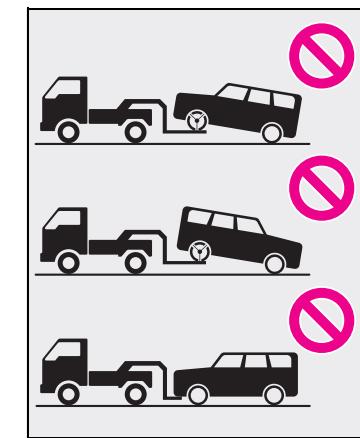
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ AWD 車

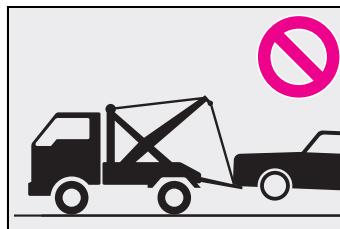
4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

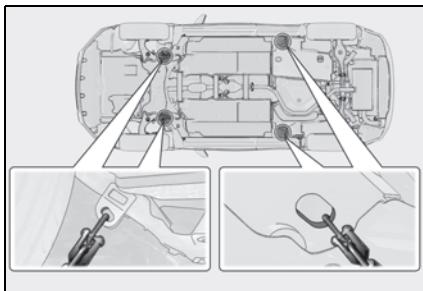
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

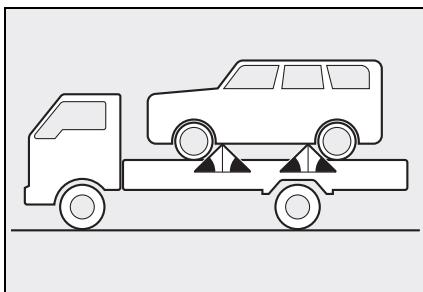


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



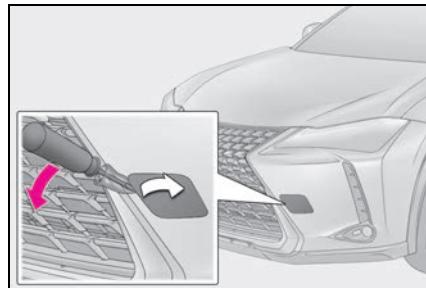
鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



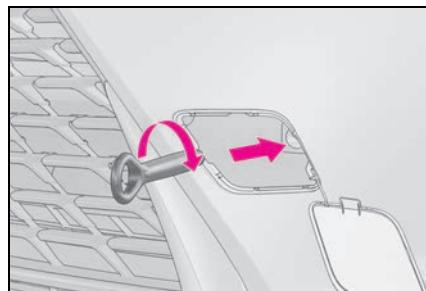
■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

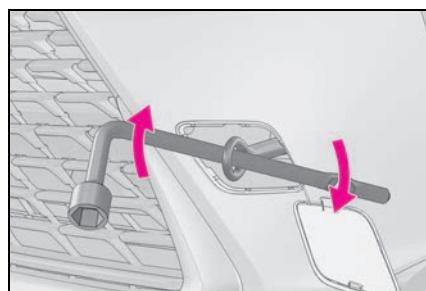
バーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチ★や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

他車にけん引してもらうとき

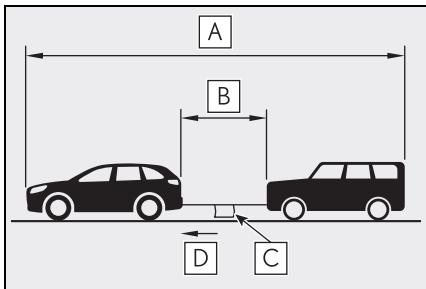
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す (→P.325, 425, 436)

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライ

布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- A** 25m 以内
B 5m 以内
C 白い布
D けん引方向

- 7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

- 8** けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パークリングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.175)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ 他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

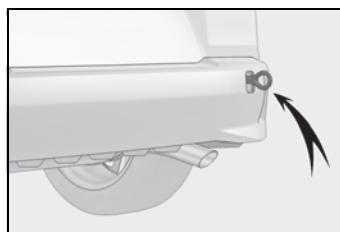
■ ホイールナットレンチについて

ホイールナットレンチ装着車：ラゲージルームに搭載されています。(→P.325, 436)

ホイールナットレンチ非装着車：レクサス販売店で購入することができます。

■ 緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったり、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

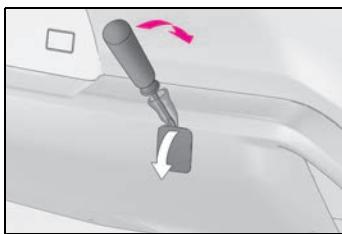


■ 緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す
(→P.325, 425, 436)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
 - 4 ホイールナットレンチ★や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠️ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください
 - ・ 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
 - ・ パワースイッチを OFF にする

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠️ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やポート（トレー ラー）などをけん引しないでください。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

■ 充電警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジンオイル圧力の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。</p>

■ 高水温警告灯※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.453）に従ってください。</p>

* マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合： ●自然要因 → タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。 ●タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。</p> <p>警告灯が約1分間点滅したあとに点灯し、ブザーが鳴らなかつた場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → レクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ ブレーキ警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<p>●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●ABSの異常 ●ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<p>EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常</p> <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>
 (黄色)	

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●VSC（ピークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある</p> <p>→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>ブレーキホールドシステムの異常</p> <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ クリアランスソナー OFF 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>クリアランスソナーの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.418)</p>

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>燃料の残量が約 6.4L 以下になった → 燃料を補給する</p>

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー※)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。</p>

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯※¹ (警告ブザー※²)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する</p>

※¹マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席シートベルト非着用の状態でパワースイッチを ON にした場合、一定時間点灯します。

※²リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用 (いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態) のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ AHS／AHB 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<ul style="list-style-type: none"> ● AHS（アダプティブハイビームシステム）の異常が考えられます。 ● AHB（オートマチックハイビームシステム）の異常が考えられます。 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p>

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキオーバーライドシステムの異常 ● ドライブスタートコントロールの異常 ● ドライブスタートコントロール作動時 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ★に表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>ブザーが鳴らなかつた場合：</p> <p>ブレーキオーバーライドシステム作動時</p> <p>→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 OFF	<p>PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。</p>

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<p>LTA（レントレーシングアシスト）の異常が考えられます。</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p>

■ LDA 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LDA (レーンディバーチャーラート) の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ PDA 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	PDA (プロアクティブドライビングアシスト) の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クルーズコントロール表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ レーダークルーズコントロール表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>次のシステムに異常が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PCS (プリクラッシュセーフティ) ●LDA (レーンディバーチャーアラート) ●後方車両への接近警報 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>次のシステムのいずれかが異常、停止しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PKSB (パーキングサポートブレーキ) ●BSM (ブラインドスポットモニター) ●RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ●安心降車アシスト <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p>

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ハイブリッドシステムの過熱</p> <p>→ 安全な場所に停車し、対処方法 (→P.453) に従ってください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機/バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.423, 436, 442

パンクしていないときは：
パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

► タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

► タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する

数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。（→P.373）

空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警報灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ 応急用タイヤ★に交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警報灯は消灯しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に動かないおそれがある状況

→P.374

 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（ランフラットタイヤ非装着車）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を確認・調整してください。

● タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤがパンクしている場合は応急用タイヤに交換するか、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。

⚠ 警告

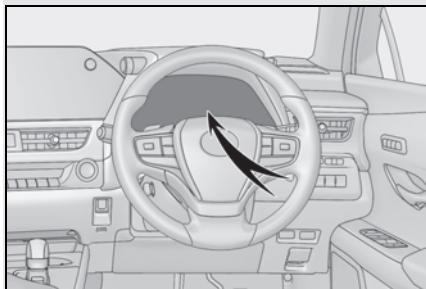
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなることがあります。
- タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合（ランフラットタイヤ装着車）
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 周囲の交通状況にあわせ、できるだけ速やかに減速し、80km/hをこえない速度で走行してください。
- ただちにタイヤ空気圧を確認・調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなることがあります。
- タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合
急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

- タイヤ空気圧警報システムについて
● 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.373）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー*	警告内容
—	あり	<ul style="list-style-type: none"> 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	<ul style="list-style-type: none"> 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

* メッセージを最初に表示したときに作動します。



知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

→P.412

■各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
- PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を

行ってください。

- ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.155）
- ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.159, 277）。画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止

するため、自動的にシフトポジションが切りかわつたり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

- 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたときは

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

- “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

- “ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります”が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

- “ハイブリッドシステム高温 出力制限中です”が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.453

- “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し停車”または“シフトシステム故障 走行を継続できません”が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください”が表示されたときは

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

- “駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください”が表示されたときは

一定時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

- “駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

- “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください”が表示されたときは

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D、S または R にしてください。

■ “停車時はブレーキを踏んでください”が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源をOffしました”が表示されたときは

自動電源OFF機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約5分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”が表示されたときは

不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。

■ “機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があつても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PKSB (パーキングサポートブレーキ)

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ “機能故障 販売店で点検”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS (プリクラッシュセーフティ)

● LDA (レーンディパーチャーアラート)

● LTA (レントレーシングアシスト)

● AHS (アダプティブハイビームシステム) ★

● AHB (オートマチックハイビーム)

● レーダークルーズコントロール

● RSA (ロードサインアシスト)

● 発進遅れ告知

● PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

● BSM (ブラインドスポットモニター)

● RCTA (リヤクロストラフィックアラート)

● 後方車両への接近警報

● 安心降車アシスト

●  クリアランスソナー●  PKSB (パーキングサポートブレーキ)

すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  PCS (プリクラッシュセーフティ)●  LDA (レーンディバーチャーアラート)●  LTA (レントレーシングアシスト)●  AHS (アダプティブハイビームシステム) ★●  AHB (オートマチックハイビーム)●  レーダークルーズコントロール●  RSA (ロードサインアシスト)●  発進遅れ告知●  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)●  BSM (ブラインドスポットモニター)●  RCTA (リヤクロストラフィックアラート)●  後方車両への接近警報●  安心降車アシスト●  クリアランスソナー●  PKSB (パーキングサポートブレーキ)

次の対処法に従ってください。

- ・ 補機バッテリー電圧を確認する
- ・ Lexus Safety System + で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あつた場合には取り除いてください。
(→P.204)
- ・ バックドアが開いていないか確認してください。

センサーが正しく作動していないおそれがあります。
(→P.260, 266, 269, 275)

- ・ BSM (ブラインドスポットモニター)、RCTA (リヤクロストラフィックアラート)、後方車両への接近警報、安心降車アシストで使用するセンサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。
(→P.257)
- ・ クリアランスソナー、PKSB (パーキングサポートブレーキ) で使用するセンサーとカメラに付着物がないか確認し、あつた場合には取り除いてください。
(→P.267)
- ・ センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  PCS (プリクラッシュセーフティ)●  LDA (レーンディバーチャーアラート)●  LTA (レントレーシングアシスト)

ト)

-  AHS (アダプティブハイビームシステム) ★
-  AHB (オートマチックハイビーム)
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA (ロードサインアシスト)
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- ・ エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。
- ・ ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LDA (レーンディバーチャーアラート)
-  LTA (レントレーシングアシスト)
-  AHS (アダプティブハイビームシステム) ★
-  AHB (オートマチックハイビーム)

●  レーダークルーズコントロール

●  RSA (ロードサインアシスト)

●  発進遅れ告知

●  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- ・ 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・ 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  PCS (プリクラッシュセーフティ)

●  LTA (レントレーシングアシスト)

●  レーダークルーズコントロール

●  発進遅れ告知

●  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。 (→P.204)
- ・ 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行

すると表示される場合があります。
車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LTA (レントレーシングアシスト)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

レーダー周辺の温度が作動条件外です。
適切な温度になるまでお待ちください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LTA (レントレーシングアシスト)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あつた場合には取り除いてください。 (→P.267)
- ・ レーダーの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ “AWDシステム高温 高負荷走行を控えてください”または“AWDシステム高温 2WD走行に切替わりました”が表示されたときは (AWD車)

負荷の高い走行状況が続いたときに、メッセージが表示される場合があります。

対処方法 : →P.296

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・ “エンジン冷却水高温” (→P.453)

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 - ・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”
 - ・“ハイブリッドシステム故障”
 - ・“エンジン系故障”
 - ・“バッテリ系故障”
 - ・“アクセル系故障”
 - ・“シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・“Pスイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・“シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・“シフトシステム故障 取扱書確認”
 - ・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
 - ・“バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・“故障のためブレーキ力が低下”
 - ・“充電システム故障”
 - ・“エンジン油圧不足”
- 次のメッセージが表示されたときは、ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。
(→P.58)
 - ・“ハイブリッドシステム停止”
 - ・“エンジン停止”
- “補機バッテリー（始動用）充電不足取扱書を確認してください”が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
 - ・数秒後※に表示が消えたときは：ハイブリッドシステムが作動した状態を約15分以上保持し、補機バッテ

- リーを充電してください。
- ・表示が消えないときは：「補機バッテリーがあがったときは」(→P.448)の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約6秒間表示されます。

- “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
 - ・駆動用電池冷却用吸入口を清掃する(→P.384)
- 駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

- 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

(→P.413)

注意

- “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- “駆動用電池の点検を販売店で受けてください”が表示されたとき

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。
- 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。
- “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください”がひんぱんに表示されるときは
補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリー上がりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されています。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液1本につき、応急修理できるタイヤは1本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

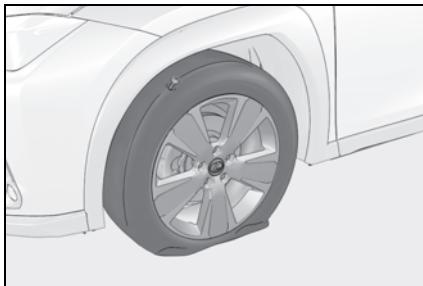
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、
タイヤを応急修理してください。



- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

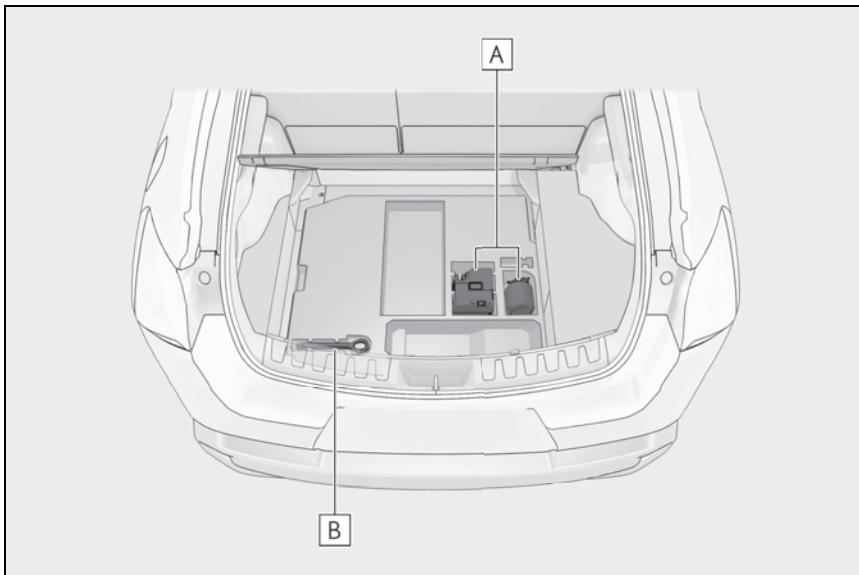
■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キットの位置

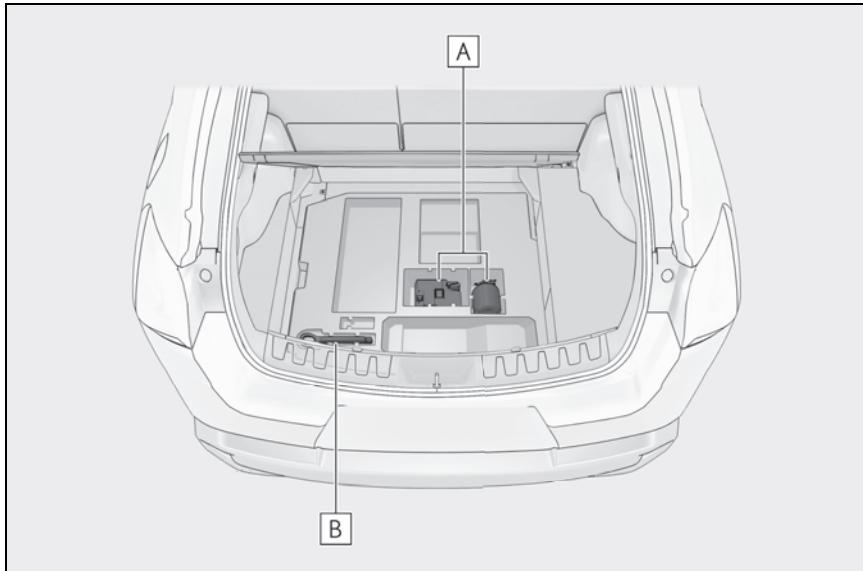
- ▶ アクセサリーコンセント非装着車（FF 車）



A タイヤパンク応急修理キット

B けん引フック

▶ アクセサリーコンセント装着車（FF 車）/AWD 車



■ A タイヤパンク応急修理キット

■ B けん引フック

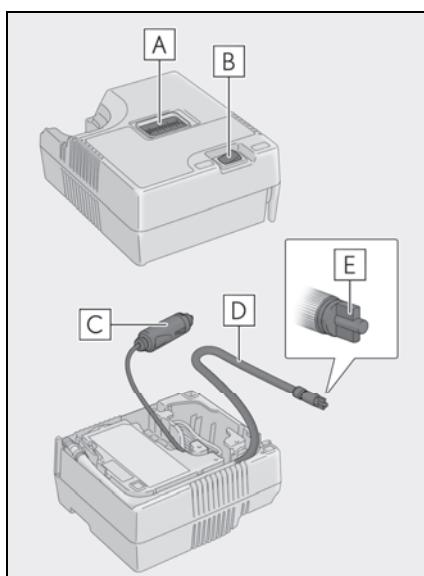
**タイヤパンク応急修理キットの
内容／各部の名称**

■ ボトル



■ A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



- A** 空気圧計
- B** 電源スイッチ
- C** 電源プラグ
- D** ホース
- E** 空気逃がしキャップ

□ 知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-40℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

● 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けれでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

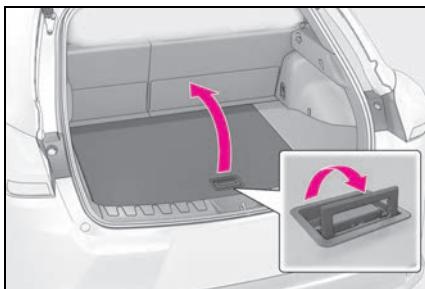
⚠ 警告

■ パンク補修液について

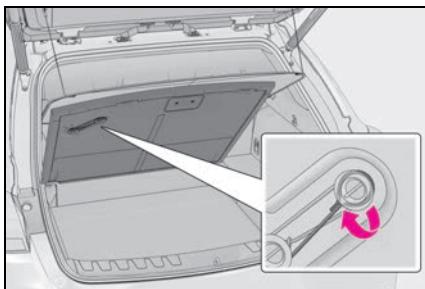
- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

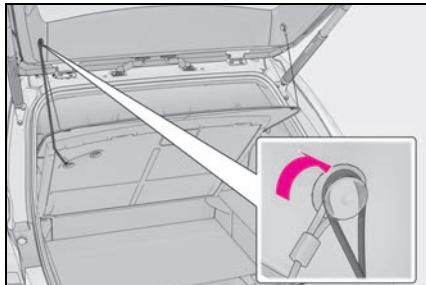
- レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



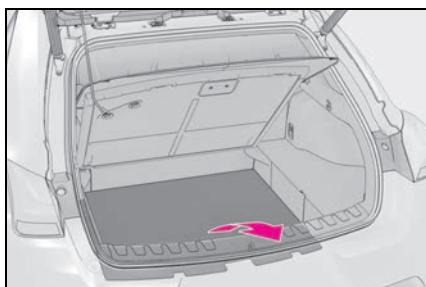
- 留めひもをはずす



3 留めひもをかける

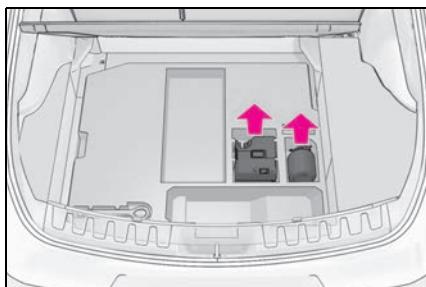


- デッキマットを取りはずす

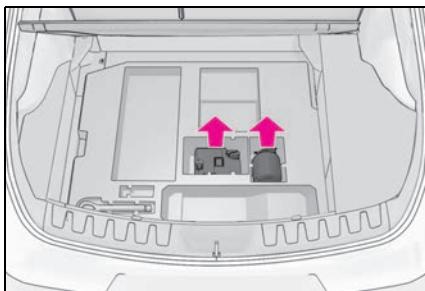


5 応急修理キットを取り出す

- アクセサリーコンセント非装着車(FF車)

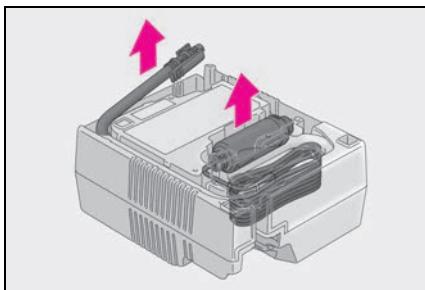


- ▶ アクセサリーコンセント装着車
(FF 車) / AWD 車



応急修理するときは

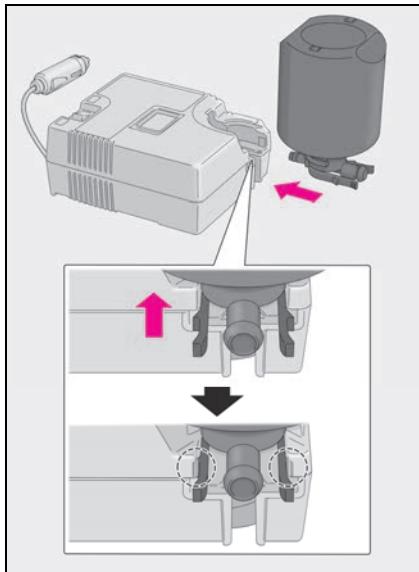
- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す
- 2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



- 3 ボトルをコンプレッサーに接続する

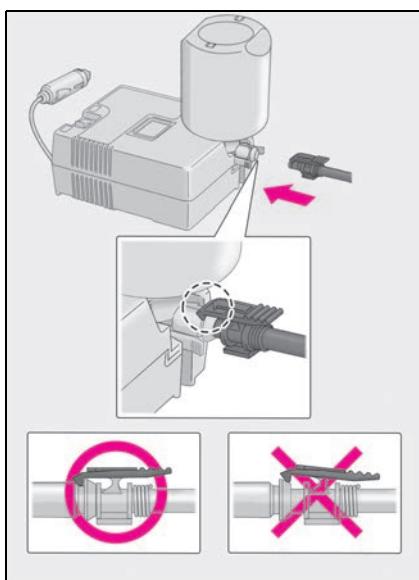
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

い。

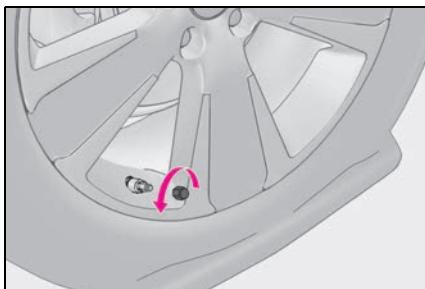


- 4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかりと接続しているか確認してください。

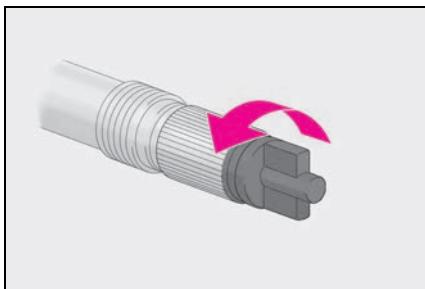


- 5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



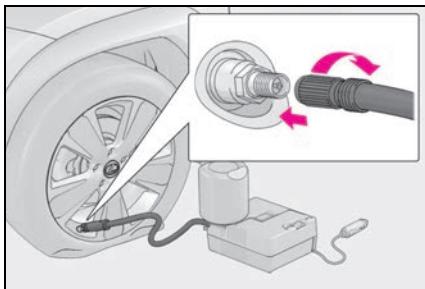
- 6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

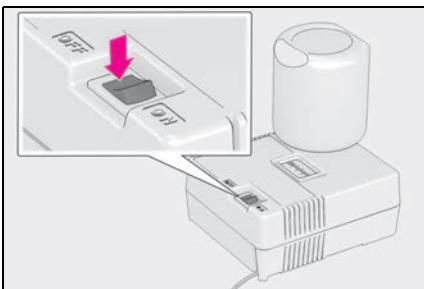


- 7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

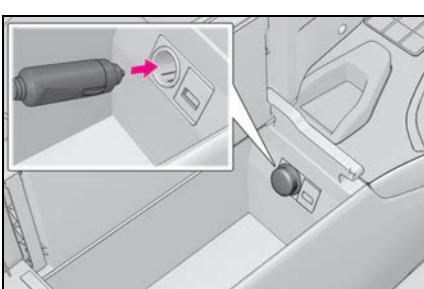


- 8 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



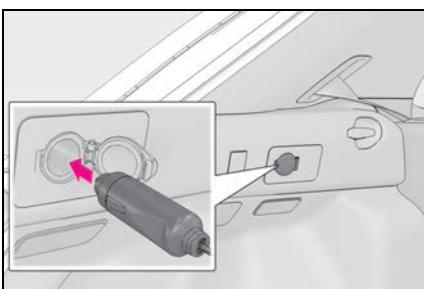
- 9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む
(→P.331)

▶ フロント



▶ リヤ★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

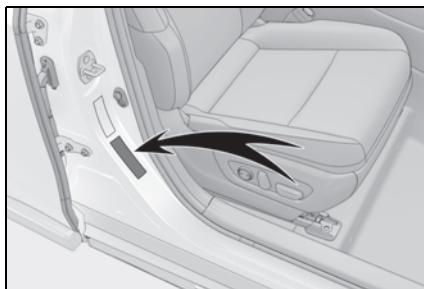


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



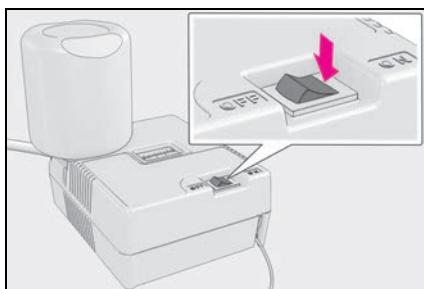
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(\rightarrow P.371)

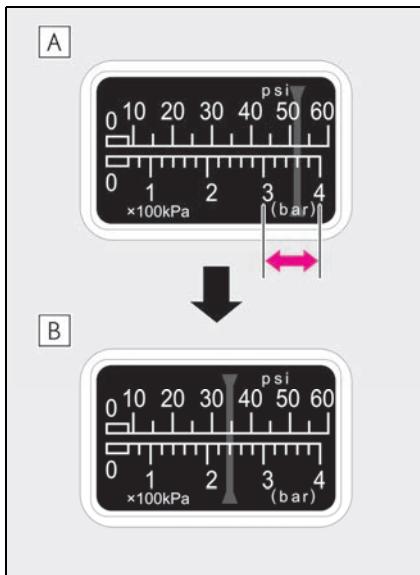


12 ハイブリッドシステムを始動する
(\rightarrow P.162)

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(\rightarrow P.371, 464)

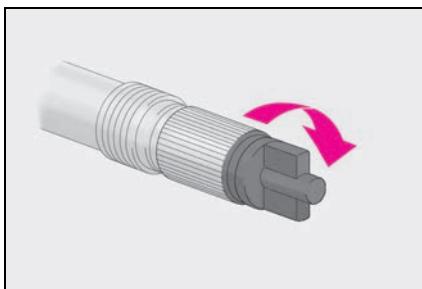
- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

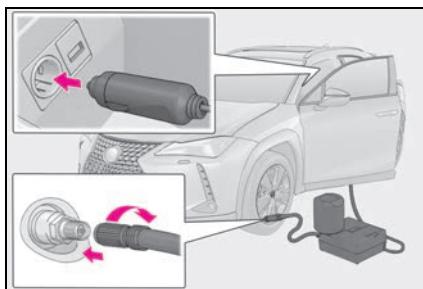


- 18** いつたん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

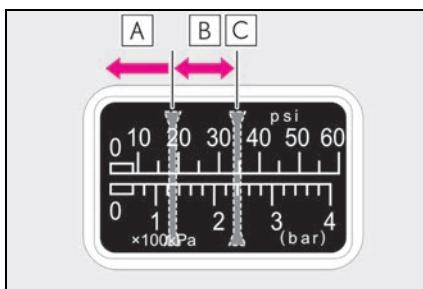
- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

- 20** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続するホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください



- 21** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

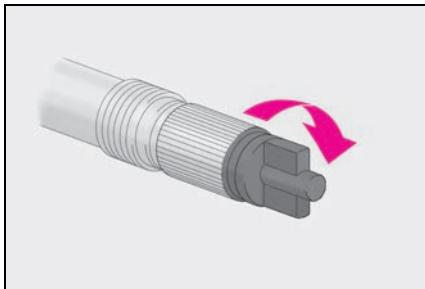
C 空気圧が指定空気圧 (→P.371) の場合：手順 **23** へ

- 22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

- 23** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れ

る可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転する

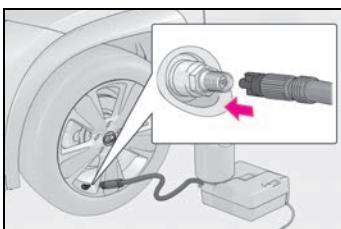
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス販売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

□ 知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

▲ 警告

■ パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 警告

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連續で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- **補修液を均等に広げるための運転について**
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。
- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

● 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

- ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
- ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができない場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかかるないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

 注意

- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明はP.371を参照してください)

⚠️ 警告

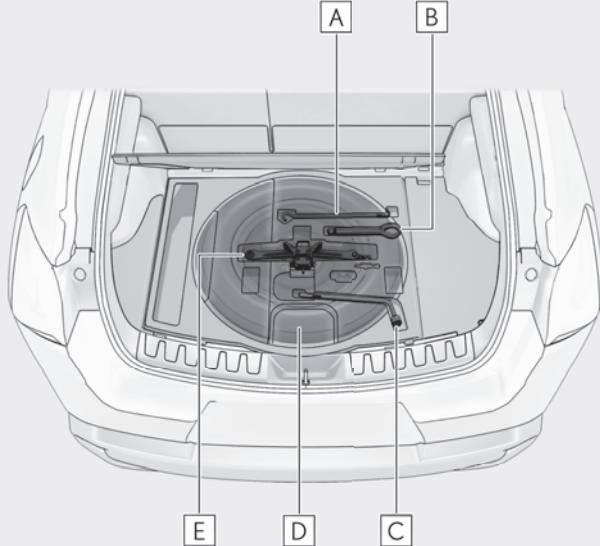
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.397)

工具とジャッキの位置



A ジャッキハンドル

B けん引フック

C ホイールナットレンチ

D 応急用タイヤ

E ジャッキ

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

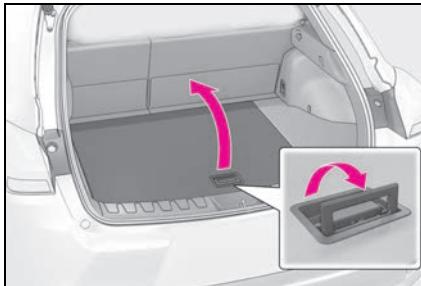
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

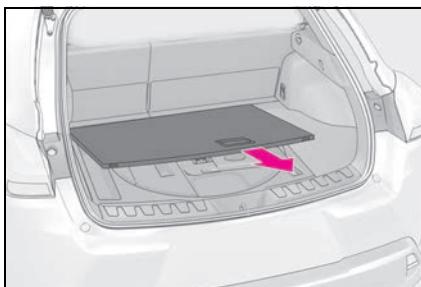
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキを取り出すには

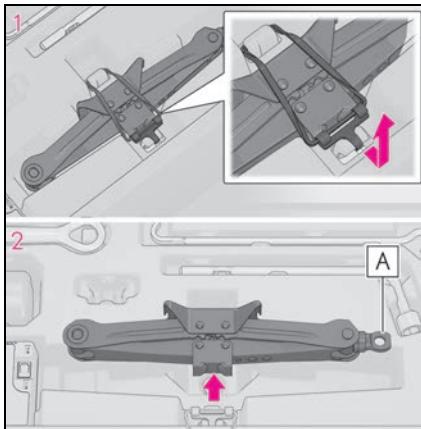
- 1 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



- 2 デッキボードを取りはずす



- 3 ジャッキを取りはずす



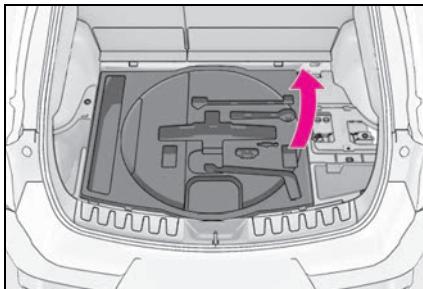
- 1 ゴムバンドをはずす

2 ジヤッキを取り出す

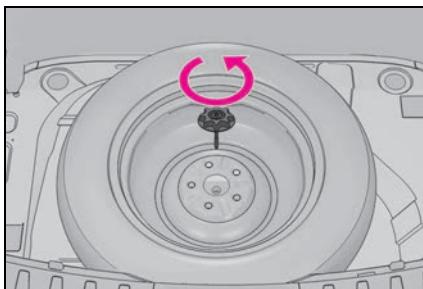
ジヤッキを収納するときは、ジヤッキの**A**部をまわして動かなくなるまで縮めたあと、ゴムバンドで固定する。

応急用タイヤを取り出すには

- 両側のサイドデッキボードを取りはずす (→P.326)
- デッキアンダーボックスを取りはずす



- 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



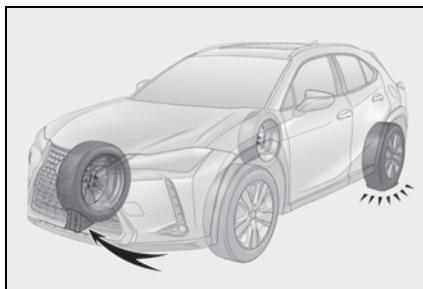
⚠ 警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

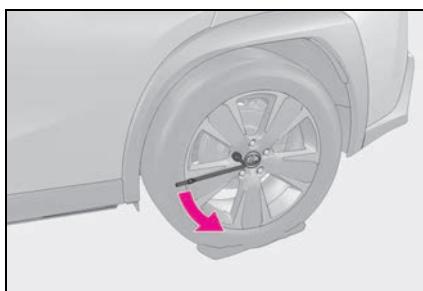
- 輪止め※をする



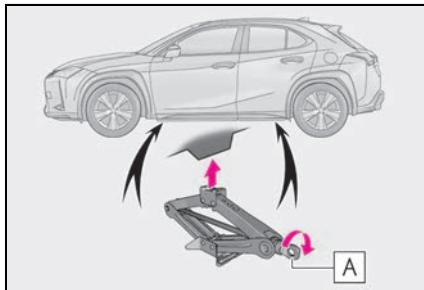
パンクした タイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

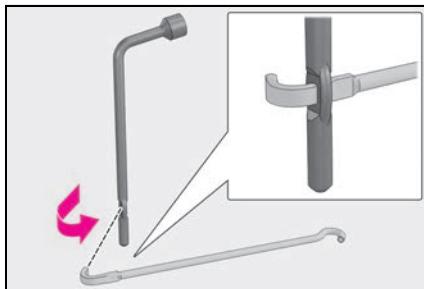
- ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる



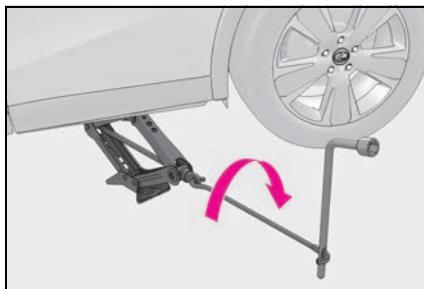
- 3 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりとかける



- 4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



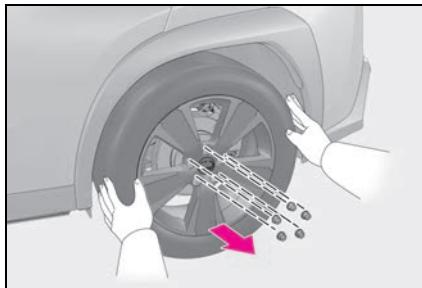
- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に

します。



■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。

締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)

- ・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

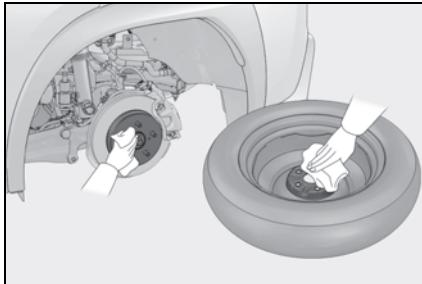
■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.122）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでしまうことがあります。

応急用タイヤを取り付けるには

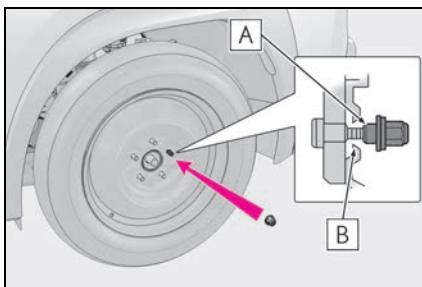
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。

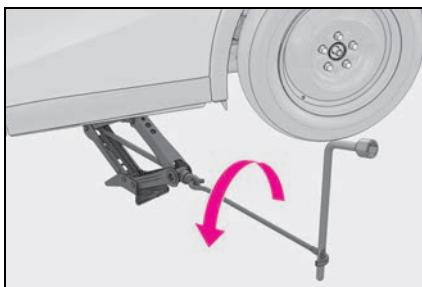


- 2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわします。



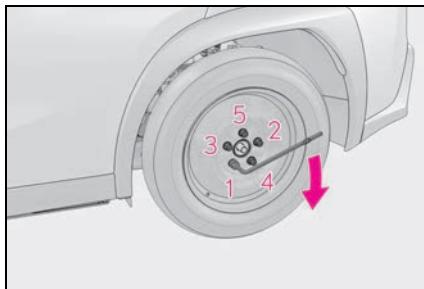
- 3 車体を下げる



- 4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかりと締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

□ 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

- 空気圧を必ず点検してください。
(→P.464)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

- 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する



■ 警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■ 応急用タイヤの取り付け

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
 - ・ ブレーキアシスト
 - ・ VSC
 - ・ TRC
 - ・ NAVI・AI-AVS★
 - ・ レーダークルーズコントロール
 - ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
 - ・ EPS
 - ・ LTA（レーントレーシングアシスト）
 - ・ パックガイドモニター★
 - ・ クリアランスソナー
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）
 - ・ ナビゲーションシステム
 - ・ パノラミックビューモニター（左右確認サポート付き）★
 - ・ BSM（ブラインドスポットモニター）
 - ・ RCTA
 - ・ 安心降車アシスト
 - ・ オートマチックハイビーム
 - ・ アダプティブハイビームシステム★
- また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ・ E-Four（電気式AWDシステム）★

⚠ 警告

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）

ランフラットタイヤ装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。

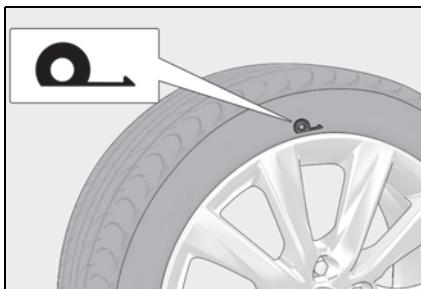
（タイヤについての詳しい説明は P.371 を参照してください）

ランフラットタイヤ

ランフラットタイヤがパンクしたときは、次の点に注意して走行し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

- 80km/h 以下で走行する
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- 160km 以上走行しない

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に  マークが付いています。



□ 知識

■ 高温時などは

160km まで走行できない場合があります。

■ ランフラットタイヤについて

→P.373



注意

■ タイヤを交換するときは

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、交換手順を誤るとタイヤ空気圧警報用のバルブと送信機が損傷するおそれがあります。

■ 段差を乗りこえるときは

タイヤがパンクしているときは、通常にくらべ車高が低くなっているので、注意してください。

■ 液体のパンク修理剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるため自動洗車機を使用しないでください。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。 (→P.446)
- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。 (→P.62)
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※ (→P.164)
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。 (→P.444)
- 駆動用電池の温度が著しく低い (およそ -30 ℃ 以下) 可能性があります。 (→P.58, 163)

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドライトが暗い／ ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。 (→P.448)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。 (→P.448)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかるていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す
(→P.175)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 パワースイッチを ACC^{※1} にする

※2

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

※1 カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。
(→P.465)

※2 ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

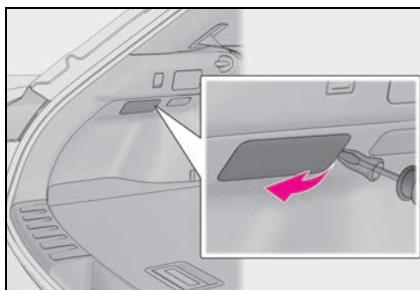
給油扉が開かないときは

給油口オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

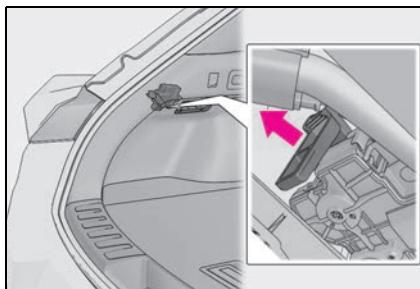
給油扉を開くには

- ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- レバーを引く



電子キーが正常に動かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.125）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

□ 知識

■ 電子キーが正常に動かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.469）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.124）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.125）

⚠ 注意

■ スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

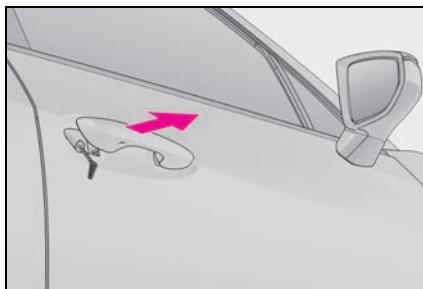
ドアを施錠・解錠するには

■ ドアの解錠

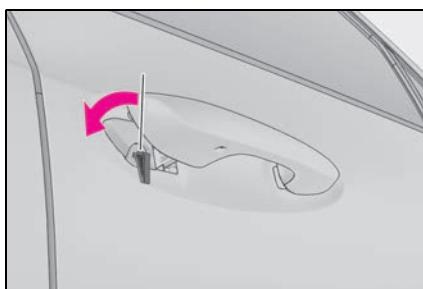
メカニカルキー（→P.99）を使って

次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

- 1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



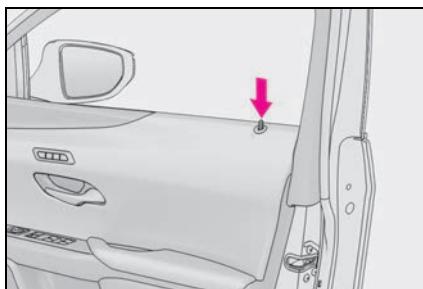
- 2 キーを回してドアを解錠する



- 3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルをもとにもどしたあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアの施錠

- 1 ドアを開けた状態でドアロックボタンを押し下げる

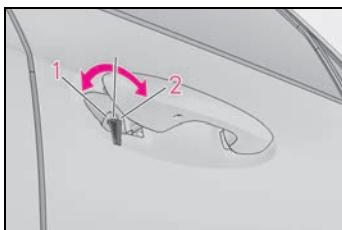


- ▶ フロント席ドア
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
- ▶ リヤ席ドア
- 2 ドアを閉める

□ 知識

■ キーと連動する機能について

カスタマイズの設定変更により、キーと連動してドアガラスとムーンルーフ★の開閉ができます。



- 1 ドアガラスとムーンルーフ★が開く(まわし続ける)
- 2 ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる(まわし続ける)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

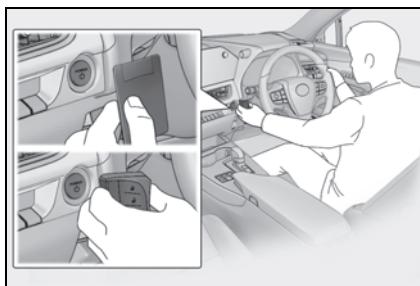
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する。

- 4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

□ 知識

■ ハイブリッドシステムの停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(\rightarrow P.387)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(\rightarrow P.63)

■パワースイッチのモードの切り替え

ハイブリッドシステム始動方法の手順③で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(\rightarrow P.165)

補機バッテリーがあがったときは

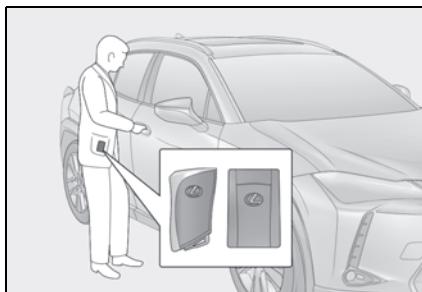
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

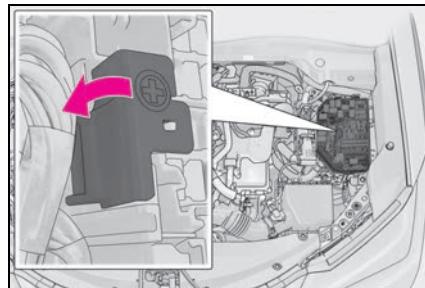
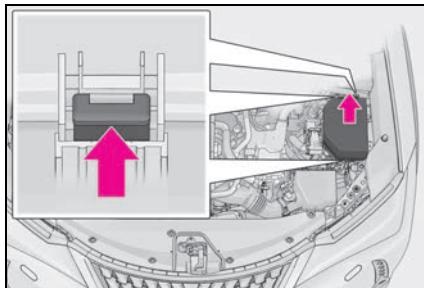
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(\rightarrow P.64)



2 ボンネットを開けて(\rightarrow P.367)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

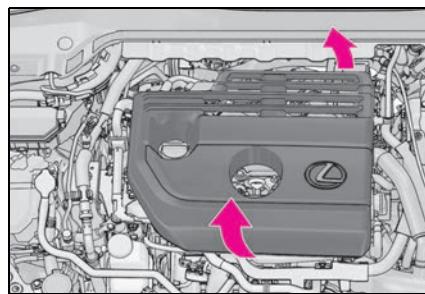
す



- 3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

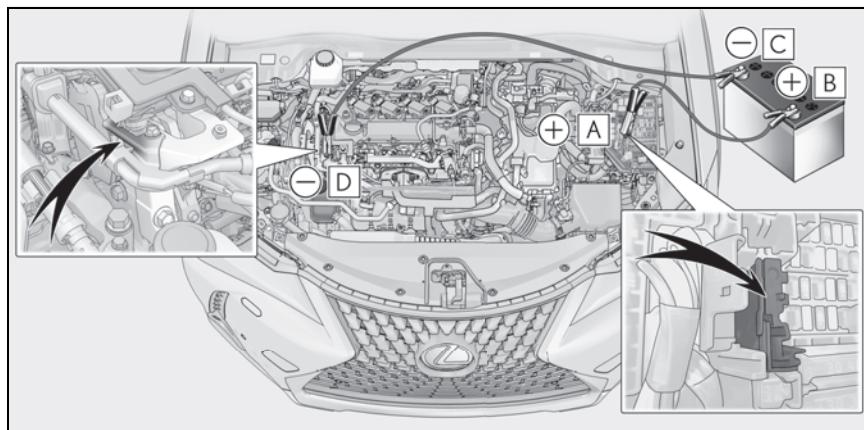
ツメを軽く引きながら、カバーを開けま

- 4 エンジンカバーをはずす



- 5 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子**A**につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子**B**につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子**C**につなぎ、もう一方の端を金属部**D**につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



- A** 救援用端子（自車）
- B** バッテリーの+端子（救援車）
- C** バッテリーの-端子（救援車）
- D** 図に示す金属部

- 6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車の補機バッテリーを充電する
 - 7 パワースイッチがOFFの状態でいずれかのドアを開閉する
 - 8 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONにしてからハイブリッドシステムを始動する
 - 9 READYインジケーターが点灯することを確認する
- 点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。
- 10 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではです
 - 11 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける
- ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

□ 知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプ、エアコンやオーディオなどの電源を切ってください。

- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要的電装品の電源を切ってください。
- ACCカスタマイズがOFFのときは、パワースイッチがOFFの状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。マルチメディアシステムの電源をOFFにしてください。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■補機バッテリーについて

→P.367

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがつてハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがつたときはレクサス販売店で点検を受けてください。また、補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。
- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかつた場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解

錠・施錠を実施してください。

- 補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチをOFFにしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

- 補機バッテリーがあがつた場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

- パワーバックドアシステム★の初期化を行ってください。(\rightarrow P.118)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■補機バッテリーを交換するときは

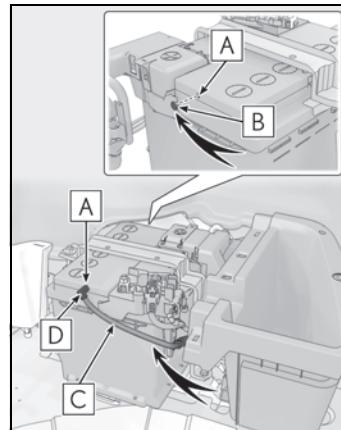
- 一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

- 交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（285A）以上の補機バッテリーを使用してください。

- ・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- ・補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはハイブリッドの始動ができないことがあります。
- ・20時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても

補機バッテリーがあがつて、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

- 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・排気ホースと補機バッテリー排気穴に、エルボが確実に接続されていることを確認してください。
 - ・エルボが接続されていない側の排気穴に、排気穴栓が確実に接続されていることを確認してください。
 - ・エルボ / 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）



A 排気穴

B 排気穴栓

C 排気ホース

D エルボ

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ **補機バッテリー端子をはずすときは必ず一端子を先にはずしてください。** +端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のプラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ **補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

● 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

● 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

● 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

● お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ **補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ **補機バッテリーを交換するときは**

● 液栓がステーに近いと、バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。

● 補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

● 補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に、排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーを充電することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

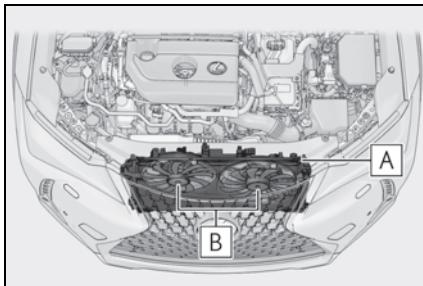
- 水温計（→P.73）の表示がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”または“ハイブリッドシステム 高温 出力制限中です”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 水温計の表示がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してポンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してポンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

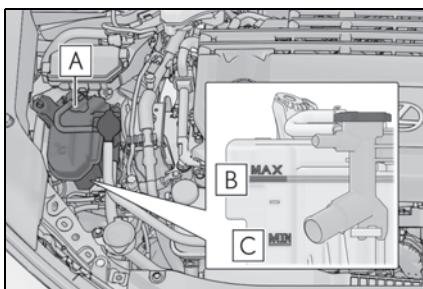
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

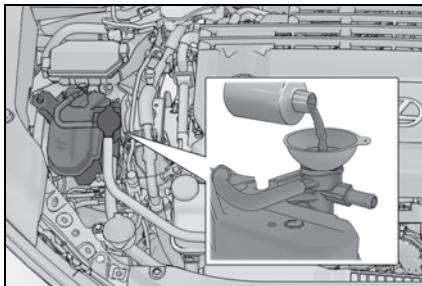
B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



- 6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7** ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

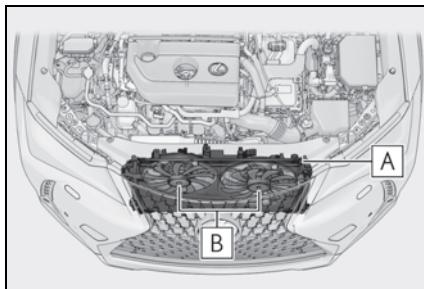
- 8** マルチインフォメーションディスプレイの“エンジン冷却水高温安全な場所に停車して取扱書を確認してください”表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに “ハイブリッドシステム 高温 出力制限中です” が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してポンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

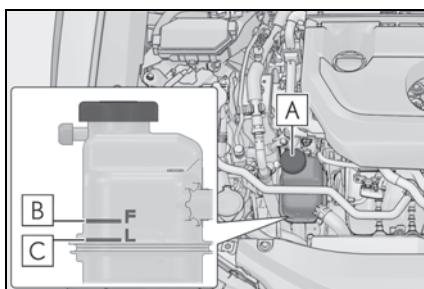
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの “F”（上限）と “L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

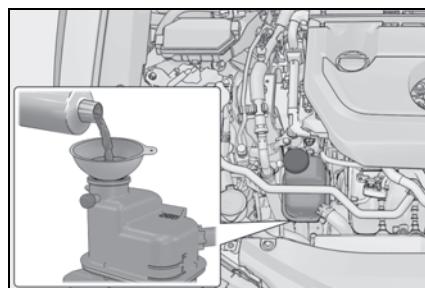
B “F”（上限）

C “L”（下限）

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：

ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、レクサス販売店に連絡してください。



警告

■ エンジルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない



注意

■ 冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなつたときは次の方法で脱出してください。

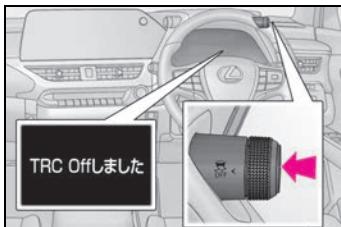
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトポジションを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

□ 知識

■ 脱出しにくいとき

 <スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



⚠ 警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトポジションを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ハイブリッドトランスミッションや他の部品への損傷を避けるために

● タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

● 上記の方法で脱出できなかつた場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 460

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 465

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 482

8-4. フリー／オープンソフトウェア

フリー／オープンソフトウェア情報 483

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
・ 無鉛レギュラーガソリン	
・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）*	43

* エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 *)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル GLV-1 0W-8 — JASO GLV-1, SAE 0W-8 適合： 弊社純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.5	3.9

* エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

JASO GLV-1 規格に合致したオイルをご使用ください。

JASO GLV-1 0W-8 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性を発揮できます。

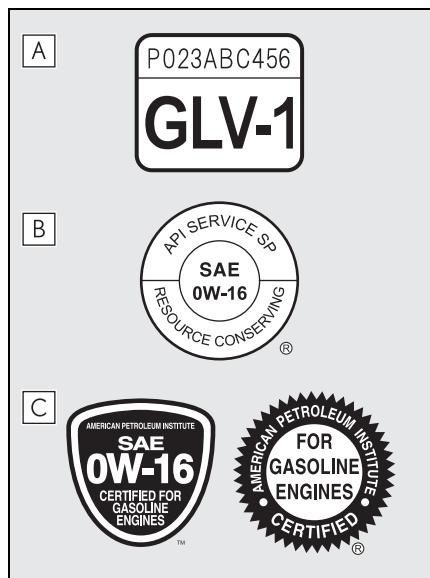
JASO GLV-1 SAE 0W-8 が入手困難な場合は、以下のオイルもご使用いただけます。

0W-16 : API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC 規格 GF-6B

0W-20、5W-30 : API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、

ILSAC 規格 GF-6A

なお、JASO 規格合格油の缶には JASO GLV-1 マークがついています。



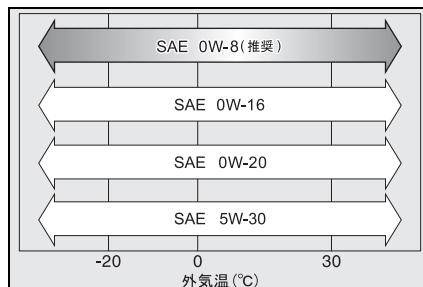
A JASO GLV-1 マーク

B API マーク

C ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-8 で説明します）：

- 0W-8 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-8 の 8 は、高温時の粘度特性を示しています。

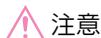
ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリン エンジン	パワーコント ロールユニット
弊社純正スуперロングライフクーラント		
凍結保証温度	6.1	1.6
濃度 30% – 12 °C		
濃度 50% – 35 °C		

ハイブリッドトランスマッision

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正 e- トランスマッisionフルード TE*	3.7

* 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。



注意

■ハイブリッドトランスマッisionフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル (リヤ電気モーター [AWD])

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
弊社純正 e- トランスマッisionフルード TE*	1.4

* 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。



注意

■リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ^{※1}

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ^{※2}	123

^{※1} ブレーキペダルの点検に併せて、エンジン回転時に、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.406 を参照してください）

^{※2} ハイブリッドシステムが作動している状態で、300 N (30.6 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.407 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R17 96H	17 × 6 1/2 J	250 (2.5)	
	225/50R18 95V	18 × 7 J	230 (2.3)	
	225/50RF18 95V			
応急用タイヤ★	T145/90D16 106M	16 × 4 T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	103 (1050)
応急用タイヤ★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯 (単眼ヘッドライト装着車)	21
車内	バニティランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
UX300h	MZAH11	M20A-FXS (2.0L ガソリン)	フロント：1VM	FF (前輪駆動)
	MZAH16		リヤ：1WM	AWD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。（→P.150）

設定を変更するには

■ で設定するには

- 1 センターディスプレイの  を選択する
- 2 “車両カスタマイズ” または “運転支援” を選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

 (作動)・ (非作動) を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

■ で設定するには

- 1 センターディスプレイの  を選択する
- 2 “運転支援” を選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しく

作動・非作動の設定は、選択するたびに切りかわります。

作動状態を選択すると、項目が強調表示されます。

知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

■ について

一部の車両カスタマイズ設定は、 からも設定を変更することができます。

警告

■ センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

はレクサス販売店へお問い合わせください。

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B レクサス販売店で設定変更可能

■ セキュリティ (→P.63)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
侵入センサー	●On ●Off	○	—

■ 先読みエコドライブ (→P.55)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先読みエコドライブ	●する ●しない	○	—

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.73, 80, 86)

言語や単位などの一部の項目は、センターディスプレイの設定に連動してメーター、マルチインフォメーションディスプレイの表示も変更されます。設定の変更については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メーター表示タイプ※1	●タイプ1 ●タイプ2 ●タイプ3	○	—
タコメーター切りかえ	●自動切りかえ ●常時タコメーター ●常時ハイブリッドシステムインジケーター	○	—
REV インジケーター※2	●あり ●なし	○	—
REV インジケーター回転数設定※2	●2000 ~ 6200 r/min	○	—
REV ピーク※2	●あり ●なし	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
EV インジケーター ^{※1}	●あり ●なし	<input type="radio"/>	—
提案サービス ^{※1}	●あり ●あり（停車中のみ） ●なし	<input type="radio"/>	—
制動灯表示灯	●あり ●なし	<input type="radio"/>	—

^{※1}マイセッティングと連動して設定が変更されます。

^{※2}F SPORT

■ ヘッドアップディスプレイ★ (→P.82)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
ヘッドアップディスプレイ表示 [※]	●あり ●なし	<input type="radio"/>	—
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ [※]	●最小 ●標準 ●最大	<input type="radio"/>	—
傾き調整 [※]	●反時計回り／時計回り方向へ回転	<input type="radio"/>	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック (→P.103, 446)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
メカニカルキーによる解錠	●1回で全ドア解錠 ●1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	<input type="radio"/>
車速感応オートドアロック [※]	●あり ●なし	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
シフトポジションをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック） [※]	●あり ●なし	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）※	●あり ●なし	○	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）※	●あり ●なし	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーバックドア★ (→P.111)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
パワーバックドア機能	●あり ●なし	○	—
ハンズフリーパワーバックドアセンサー（キックセンサー）機能	●あり ●なし	○	—
パワースイッチが ACC のときのハンズフリーパワーバックドアセンサー（キックセンサー）作動	●あり ●なし	—	○
ブザー音量	●小 ●中 ●大	○	—
ワイヤレスリモコンのバックドア解除ボタン操作（施錠時ボタン 1 回操作アンロック）	●あり ●なし	—	○
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能設定	●あり ●なし	—	○
ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能設定	●あり ●なし	—	○
パワーバックドア開度調節	●開度 1 ~ 5※	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ バックドアのスイッチ操作で設定します。

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通
(→P.99, 123)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
作動の合図（ブザー音量調整）※	●レベル0（なし）～レベル7	○	○
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかつたときの自動施錠までの時間※	●30秒 ●60秒 ●120秒	—	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム (→P.123)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スマートエントリー＆スタートシステム	●あり ●なし	○	○
解錠されるドアの選択	●全席解錠 ●運転席のみ解錠	○	○
連続ロツク操作の有効回数	●2回 ●無制限	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間	●1.5秒 ●2.0秒 ●2.5秒 ●非作動	—	○
降車オートロツク機能	●あり ●なし	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロツク機能	●あり ●なし	—	○
接近時オートアンロツク機能	●あり ●なし	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.99)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
解錠時の操作 [※]	<ul style="list-style-type: none"> ●1回で全ドア解錠 ●1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠 	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ワイヤレスリモコンの  スイッチでのパワー・バックドアを開くときの操作★	<ul style="list-style-type: none"> ●1回押し続ける ●1回押し ●2回押し ●非作動 	—	<input type="radio"/>

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ポジションメモリー (→P.145)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
降車時の運転席シート前後移動量 [※]	<ul style="list-style-type: none"> ●少なめ ●標準 ●OFF 	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
降車時のステアリング移動	<ul style="list-style-type: none"> ●上下のみ ●前後のみ ●全て作動 ●OFF 	<input type="radio"/>	—
メモリーコール機能★	<ul style="list-style-type: none"> ●運転席ドア ●全ドア 	—	<input type="radio"/>

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアミラー (→P.136)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
オート電動格納作動	<ul style="list-style-type: none"> ●ドアの施錠・解錠と連動 ●パワースイッチと連動 ●OFF 	—	<input type="radio"/>

■ パワーウィンドウ、ムーンルーフ★共通 (→P.139, 142)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
メカニカルキー連動開閉機能	●あり ●なし	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	●あり ●なし	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.181)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ライトセンサーの感度調整 ※	●より暗い ●暗い ●標準 ●明るい ●より明るい	○	○
ワイパー連動ヘッドライト点灯機能	●あり ●なし	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	●パワースイッチを OFF にする ●パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ランプ (→P.181)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
デイタイムランニングランプ	●あり ●なし	—	○
おもてなし照明の制御	●あり ●なし	—	○

■ AHS (アダプティブハイビームシステム) ★ (→P.184)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アダプティブハイビームシステム	●ON ●OFF*	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	●15km/h ●30km/h ●80km/h	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	●ON ●OFF	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	●ON ●OFF	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	●ON ●OFF	—	○
発進時のコーナーリングランプ点灯	●ON ●OFF	—	○
市街地用の配光制御	●ON ●OFF	—	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

* オートマティックハイビームとして作動します。 (→P.187)

■ リヤワイパー (→P.195)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
バックドアを開けたときのリヤワイパー停止	●あり ●なし	—	○
ウォッシャー液を出したときのリヤワイパー作動	●あり ●なし	—	○
シフトポジションを R にしたときのリヤワイパー作動	●1回作動 ●連続作動 ●なし	—	○

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.208)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング*	●遅い ●標準 ●早い	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.221)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンディパーチャーアラート*	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング*	●標準 ●早い	○	—
警報手段*	●ハンドル振動 ●ブザー	○	—
低車速支援*	●ON ●OFF	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール (DRCC) (→P.236)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
加速度設定*	●弱 ●中 ●強	○	—
速度設定 (短押し)*	●1km/h ●5km/h ●10km/h	○	—
速度設定 (長押し)*	●1km/h ●5km/h ●10km/h	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
ガイド文言表示 ※	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—
カーブ速度抑制 ※	●OFF ●弱 ●中 ●強	<input type="radio"/>	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.226)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
プロアクティブドライビングアシスト (PDA) ※	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—
支援感度 ※	●低い ●中間 ●高い	<input type="radio"/>	—
操舵アシスト (SA) ※	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—
減速アシスト (DA) ※	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—
障害物先読みアシスト (OAA) ※	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知 (→P.231)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
先行車 ※	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
信号※	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—
告知タイミング※	●早い ●標準 ●遅い	<input type="radio"/>	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.233)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
ロードサインアシスト	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—
速度標識超過告知方法	●無 ●表示 ●表示とブザー	<input type="radio"/>	—
その他告知方法	●無 ●表示 ●表示とブザー	<input type="radio"/>	—
速度超過告知車速	●10km/h ●5km/h ●2km/h	<input type="radio"/>	—

■ 休憩提案 (→P.223)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
休憩提案	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—

■ ITS Connect★ (→P.250)

機能の内容	カスタマイズ設定	[A]	[B]
支援タイミング	●遅い ●早い	<input type="radio"/>	—
信号情報	●ON ●OFF	<input type="radio"/>	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
道路環境情報	●ON ●OFF	○	—
緊急車両通知	●ON ●OFF	○	—
通信利用型クルーズ	●ON ●OFF	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ BSM (ブライムスポットモニター) (→P.256)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブライムスポットモニター機能	●あり ●なし	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ [※]	●暗い ●明るい	○	—
接近車両を知らせるタイミング (感度) [※]	●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー (→P.267)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能 ^{※1}	●あり ●なし	○	—
クリアランスソナー作動時のブザー音量 ^{※1, 2}	●小 ●中 ●大	○	—

※¹マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※²クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラートの音量調整は連動しています。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) (→P.273)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤクロストラフィックアラート機能	●On ●Off	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラートの音量調整は連動しています。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.277)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能※	●On ●Off	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 安心降車アシスト (→P.263)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	●On ●Off	○	—
ドアミラーインジケーター表示※	●あり ●なし	○	—
接近車両検知の感度※	●低い ●中間 ●高い	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワースイッチ (→P.165)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON / OFF を切りかえる	●On ●Off	○	○

■ ドライブスタートコントロール (→P.159)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後退速度の抑制制御	●あり ●なし ※	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ リヤシートリマインダー (→P.105)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後席置忘れ防止の表示 ※	●あり ●なし	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライブモードセレクトスイッチ (→P.290)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カスタムモード時のパワートレーン制御★	●ECO ●NORMAL ●POWER	○	—
カスタムモード時の NAVI・AI-AVS 制御★	●NORMAL ●SPORT	○	—
カスタムモード時の EPS 制御★	●NORMAL ●SPORT	○	—
カスタムモード時のエアコン作動★	●ECO ●NORMAL	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→P.307)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	●する ●しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる ※	●する ●しない	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ シートヒーター／シートベンチレーター★ (→P.315)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	●-2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	●-2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングヒーター (→P.315)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ステアリングヒーター AUTO 作動時の温度調整 ※1, 2	●-2 (低め) ~ + 2 (高め)	○	○

※1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2 センターディスプレイには “作動時間” と表示される場合がありますが、温度調整の設定項目になります。

■ イルミネーション (→P.318)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
室内灯の消灯までの時間 ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	—
パワースイッチ OFF 後の作動	●あり ●なし	—	○
接近時の照明の点灯	●あり ●なし	—	○
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
車室内足元照明、小物入れ照明の点灯	●あり ●なし	—	○
アウトサイドドアハンドル照明の点灯 [※]	●あり ●なし	—	○
アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間 [※]	●7.5秒 ●15秒 ●30秒 ●OFF	○	—
接近時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	●あり ●なし	—	○
解錠時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	●あり ●なし	—	○
ドアを開けたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	●あり ●なし	—	○
アウトサイドドアハンドル照明の消灯時のフェードアウト	●短い ●長い	—	○
照明色の選択 [※]	●シルキーホワイト ●カスタム	○	—
エリアごと [※]	●エリアごと ●全てのエリア	○	—
輝度の調整 [※]	●0 (OFF) ~ 9	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。



■車両カスタマイズについて

- “車速感応オートドアロック”と“シフトポジションをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）”を両方とも“あり”にした場合、次のように作動します。
 - ・シフトポジションをP以外にすると全ドアが施錠されます。
 - ・全ドアが施錠された状態で発進した場

合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。

- ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。
- “スマートエントリー＆スタートシステム”的設定が“なし”的場合、“解錠されるドアの選択”的設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかつたときの自動施錠が作動したときの合図は、“作

動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき ・ 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの空気圧を変更したとき 	P.376
パワーバックドア★	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時 	P.118
パワーウィンドウ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正常に働かないとき 	P.139
ムーンルーフ★		P.143

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フリー／オープンソフトウェア情報

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.yazaki-group.com/rd-tech/oss/880>

デジタルキー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/>

ITS Connect

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/>

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	486
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	488
アルファベット順さくいん	490
五十音順さくいん	492

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.445）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.445）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.387）
- パワースイッチがONになっていますか？
施錠するときは、パワースイッチをOFFにしてください。（→P.165）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.125）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.107）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.162）
- シフトポジションはPになっていますか？（→P.168）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.124）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.447）
- 補機バッテリーがあがっていますか？（→P.448）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていますか？
ウィンドウロックスイッチが押さ

れていると、運転席以外のパワー ウィンドウは操作できなくなります。（→P.141）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.165）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.488）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.406, 415 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.423）

● 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.436）

● ランフラットタイヤ装着車

なるべく速度を落として慎重に運転し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。（→P.442）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.457）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.63
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.415
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.140, 143
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.63
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.96
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.105
	電子キーを車内に置き忘れている	P.415

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.107
	パーキングブレーキが解除されていない	P.176
	シートベルトを着用していない※	P.409
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.173
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.157
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.241
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.208
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レントレーシングアシスト）を使用している	P.217
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサイニアシスト）が作動した	P.233
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		

状況	原因	詳細
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.267
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.248
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.274
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき		
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき	ITS Connect ★が作動した	P.252
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		

* 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C	(エアコン)	307
ABS	(アンチロックブレーキシステム)	292
ACA	(アクティブコーナリングアシスト)	292
AHS	(アダプティブハイビームシステム)	184
AI-AVS	(アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム)	292
ASC	(アクティブサウンドコントロール)	179
AVS	(アダプティブバリアブルサスペンションシステム)	292
AWD	(オールホイールドライブ)	464
BSM	(ブラインドスポットモニター)	256
ECB	(エレクトロニカリコントロール ドブレーキシステム)	292
EDR	(イベントデータレコーダー)	9
E-Four	(電気式 AWD システム)	292
EPS	(エレクトリックパワーステアリング)	292
EV	(エレクトリックビークル)	166
EV ドライブモード	166
FF		
(フロントエンジンフロントドライ ブ)	464
HUD	(ヘッドアップディスプレイ)	82
ISOFIX	(アイソフィックス／イソフィック ス)	40
ITS Connect	通信利用型レーダークルーズコント ロール	242
LDA	(レーンディバーチャーアラート)	221
LED	(ライトエミッティングダイオード)	392
Lexus Safety System +		
	AHB (オートマチックハイビーム)	187
	AHS (アダプティブハイビームシス テム)	184
	LDA (レーンディバーチャーアラ ート)	221
	LTA (レントレーシングアシ スト)	217
	PCS (プリクラッシュセーフティ)	208
	PDA (プロアクティブドライビング アシスト)	226
	RSA (ロードサインアシスト)	233
	クルーズコントロール	245
	ソフトウェアアップデートを確認す る	199
	ドライバー異常時対応システム	248
	レーダークルーズコントロール	236
	発進遅れ告知機能	231
LTA	(レントレーシングアシスト)	217
PCS		

(プリクラッシュセーフティ) .. 208

PDA

(プロアクティブドライビングアシスト) 226

PKSB 277

操作 278

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)

..... 273

REV インジケーター 76

REV ピーク 77

SRS

(サプリメンタルレストレインツシ

ステム) 32

S-VSC

(ステアリングアシstedビーク

ルスタビリティコントロール) 292

TRC

(トラクションコントロール) .. 292

VSC

(ビーカルスタビリティコントロー

ル) 292

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリーあがりの処置)	448
アームレスト	340
RSA (ロードサインアシスト)	233
ITS Connect	250
アウターミラー (ドアミラー)	
BSM (ブラインドスポットモニター)	256
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	273
安心降車アシスト	263
運転席ポジションメモリー	145
格納のしかた	137
操作	136
ミラーヒーター	308
リバース連動機能	137
アウトサイドドアハンドル照明	318
アクセサリーコンセント	342
アクセサリーソケット	331
アクティブコーナリングアシスト (ACA)	292
アクティブサウンドコントロール (ASC)	179
足元照明	318
アダプティブハイビームシステム (AHS)	184
アラーム	
オートアラーム	63
音さくいん	488
警告ブザー	406, 415
安心降車アシスト	263
アンチロックブレーキシステム (ABS)	292
アンテナ	
スマートエントリー＆スタートシステム	123

い

イージークローザー (バックドア)	116
EV ドライブモード	166
イグニッションスイッチ (パワースイッチ)	162
自動電源 OFF 機能	165
車両を緊急停止するには	398
ハイブリッドシステム始動のしかた	162
モード切りかえ	165
位置交換 (タイヤローテーション)	372
イベントデータレコーダー (EDR)	9
イモビライザーシステム	62
イルミネーテッドエントリーシステム	318
インジケーター (表示灯)	70
表示灯	70
インストルメントパネル照度調整スイッチ	79
インテリアランプ	318
インナーミラー	135

う

ウインカー (方向指示灯)	174
電球 (バルブ) の交換	391, 392
方向指示レバー	174
ワット数	464
ウインドウ	
ウォッシャー	191, 195
パワーウインドウ	139
リヤウインドウデフォッガー	308
ウインドウロックスイッチ	141
ウォッシャー	
液の補充	370
スイッチ	191, 195
タンク容量	463
冬の前の準備・点検	301
動けなくなつたときは (スタック)	457

雨滴感知式ワイパー	191
運転	154
雨の日の運転	154
運転を補助する装置	292
寒冷時の運転	301
正しい運転姿勢	27
手順	154
ハイブリッド車運転のアドバイス	299
運転支援システム情報表示	88
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	409
運転席シートポジションメモリー...	145

え

エアコン	307
曇り取り（フロントガラス）	308
ナノイーX	311
フィルターの清掃	382
フロント席集中送風モード（S-FLOW）	313

エアコン・デフォッガー	308
-------------------	-----

エアバッグ	32
SRS エアバッグ警告灯	407
改造・廃棄	37
警告ブザー	407
作動条件	33
正しい姿勢	27
配置	32

S-FLOW	
フロント席集中送風モード	313

エネルギーモニター	89
-----------------	----

エレクトリックパワーステアリング（EPS）	
機能	292

エンジン	
イモビライザーシステム	62
オーバーヒート	453
タコメーター	73
ハイブリッドシステムが始動できない	443

ハイブリッドシステムの始動方法	162
パワースイッチ（イグニッションスイッチ）	162
ポンネット	367

エンジンオイル	460
警告灯	406
冬の前の準備・点検	301
メンテナンスデータ	460
容量	460
エンジン回転計（タコメーター）	73
エンジンスイッチ（パワースイッチ）	162

自動電源 OFF 機能	165
車両を緊急停止するには	398
モード切りかえ	165
エンジンフード（ポンネット）	367
開け方	367
警告音	107

エンジルーム	
エンジルームから蒸気が出ている ...	453

お

オイル（エンジンオイル）	460
応急用タイヤ	436
空気圧	464
交換方法	436
オーディオシステム連携表示	89
オートアラーム	63
オートエアコン	307
オートドアロック・アンロック機能	107
オートマチックハイビーム	187
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）	183
オーバーヒート	453
オープナー	
給油扉	198
バックドア	110
ポンネット	367

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）	333
お子さまを乗せるとき	39
ウインドウロックスイッチ	141
お子さまの安全のために	39
キーの電池	388
シートベルトの着用	30
ステアリングヒーター／シートヒーターに 関する警告	315
チャイルドシート	40
チャイルドシートの取り付け	40
チャイルドプロテクター	107
発炎筒の取り扱いに関する警告	398
バックドアに関する警告	108
バッテリーに関する警告	452
パワーウィンドウに関する警告	140
ムーンルーフに関する警告	143
オドメーター／トリップメーターディス プレイ	79
ODO TRIP スイッチ	79
表示項目	79

か

カーテンシールドエアバッグ	32
カーペット	364
洗浄	364
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	73
回生ブレーキ	54
外装の電球（バルブ）	391
交換要領	391
ワット数	464
買い物物フック	324
ガス欠になつたとき	58
カスタマイズ機能	465
型式	464
カップホルダー	323
カメラ	
前方カメラ	203

ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォッガー）	308
ガラスの曇り取り	
前方カメラ取り付け部	205
ガレージジャッキ	369
冠水路走行	159
寒冷時の運転	301

き

キー	96
キーナンバープレート	96
キーの構成	96
キーレスエントリー	99, 123
キーをなくした	445
正常に動かない	446
施錠・解錠ができる	446
電子キー	96
電池が切れた	387, 446
ハイブリッドシステムが始動できない	443
メカニカルキー	99
ワイヤレスリモコン	99
キーレスエントリー	
スマートエントリー＆スタートシステム	123
ワイヤレスドアロック	99
きしみやひつかき音が聞こえる（ブレー キパッドウェアインジケーター）	157
キックセンサー	114
給油	
給油扉が開けられない	445
給油のしかた	197
メンテナンスデータ	460
緊急時シートベルト固定機構	30
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）	444
緊急時の対処	
オーバーヒートした	453
キーの電池が切れた	387, 446

キーをなくした	445
警告灯がついた	406
警告メッセージが表示された	415
けん引	401
故障したときは	396
車両を緊急停止する	398
水没・冠水したときは	399
スタッツした	457
電子キーが正常に働かない	446
ハイブリッドシステムが始動できない	443
発炎筒	397
パンクした	423, 436, 442
補機バッテリーがあがつた	448
緊急停止システム	60
緊急ブレーキシグナル	293

く

空気圧（タイヤ）	464
タイヤ空気圧警報システム	373
メンテナンスデータ	464
区間距離計（トリップメーター）	79
駆動用電池	53
警告メッセージ	60
充電について	54
搭載位置	57
冷却用吸入口	60, 384
曇り取り	
前方カメラ取り付け部	205
フロントガラス	308
ミラーヒーター	308
リヤウインドウデフォッガー	308
クラクション（ホーン）	134
クリアランスソナー	267
操作	267
クリアランスランプ（車幅灯）	
スイッチ	181
電球（バルブ）の交換	391

クリップ

フロアマット	26
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	245
レーダークルーズコントロール	236
グローブボックス	322
グローブボックスランプ	322

け

警音器（ホーン）	134
計器類（メーター）	73
警告灯	406
LDA（レーンディバーチャーアラート）表示灯	411
LTA（レントレーシングアラート）表示灯	410
PCS（プリクラッシュセーフティ）	410
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）表示灯	411
運転支援情報表示灯	412
ABS & ブレーキアシスト	408
SRSエアバッグ	407
エンジン	406
クリアランスソナー OFF 表示灯	409
クルーズコントロール表示灯	411
高水温	407
シートベルト非着用	409
スリップ表示灯	408
タイヤ空気圧	407
燃料残量	409
パーキングブレーキ表示灯	408
パワーステアリング	408
ブレーキ	406, 407
ブレーキホールド作動表示灯	408
ペダル誤操作	410
油圧	406
レーダークルーズコントロール表示灯	411

警告ブザー

LDA (レーンディバーチャーアラート)	411
LTA (レーントレーシングアラート)	410
PCS (プリクラッシュセーフティ)	410
PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	411
ABS & ブレーキアシスト	408
SRS エアバッグ	407
エンジン	406
クリアランスソナー	409
クルーズコントロール	411
高水温	407
シートベルト非着用	409
シフトダウン制限	173
車線逸脱警報 (LDA)	221
衝突警報 (PCS)	208
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	241
手放し運転警告 (LDA)	223
手放し運転警告 (PDA)	230
ハイブリッドシステム	406
パワーステアリング	408
半ドア	105
半ドア走行	107
ブレーキ	406, 407
ブレーキホールド	408
ペダル誤操作	410
ボンネット開	107
窓開	140
ムーンルーフ開	143
油圧	406
レーダークルーズコントロール	411
警告メッセージ	415
化粧ミラー (バニティミラー)	331
けん引	
けん引のしかた	401
フック	403

こ

交換

キーの電池	387
タイヤ	436
電球 (バルブ)	391
ヒューズ	389
工具 (ツール)	325, 425, 436
降車オートロック機能	103
航続可能距離	78, 91
後退速度の抑制制御 (ドライブスタートコントロール)	160
後退灯 (バツクアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	391
高電圧部位	57
後方車両への接近警報	261
コーションラベル	57
コーナリングランプ	183
電球 (バルブ) の交換	391
子供専用シート	
取り付け方	41
小物入れ	321
コンソールボックス	322
コンライト (自動点灯・消灯装置)	181

さ

サービスプラグ	57
サイドエアバッグ	32
サイド方向指示灯	174
電球 (バルブ) の交換	391
方向指示レバー	174
サイドミラー (ドアミラー)	136
BSM (ブラインドスポットモニター)	256
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	273
安心降車アシスト	263
運転ポジションメモリー	145
格納のしかた	137

操作	136
ミラーヒーター	308
リバース運動機能	137
サンシェード	
ルーフ	142
サンバイザー	331

し

シート	129, 130
運転ポジションメモリー	145
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	40
調整	129, 130
手入れ	364
パワーアクセスシステム	145
ヘッドレスト	131
メモリーコール機能	147
シートヒーター	315
シートベルト	29
お子さまの着用	29, 30
緊急時シートベルト固定機構	30
高さ調節	31
正しく着用するには	30
着け方、はずし方	30
手入れ	364
妊娠中の方の着用	29
非着用警告灯	409
シートベルト非着用警告灯	409
シートベルトプリテンショナー	31
機能	31
プリテンショナー警告灯	407
シートベンチレーター	315
シートポジションメモリー	145
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）	58
室内灯（インテリアランプ）	318
始動のしかた	162

シフトポジション	168
シフトレバー	168

シフトポジションの切りかえ	168
シフトレンジの切りかえ	172, 173
操作	168

ジャッキ	
ガレージジャッキ	369
車載ジャッキ	325, 425, 436

ジャッキハンドル	325, 425, 436
車幅灯	

電球（バルブ）の交換	391
ランプスイッチ	181

車両型式	464
------	-----

車両仕様（スペック）	460
------------	-----

車両情報表示画面	89
----------	----

車両接近通報装置	55
----------	----

車両データの記録	7
----------	---

車両を緊急停止するには	398
-------------	-----

充電用USB端子	332
----------	-----

瞬間燃費	87, 91
------	--------

仕様（車両仕様）	464
----------	-----

衝撃感知ドアロック解除システム	105
-----------------	-----

初期化

パワーウィンドウ	139
ムーンルーフ	143

初期設定	482
------	-----

助手席シートベルト非着用警告灯	409
-----------------	-----

信号切替り告知機能	231
-----------	-----

侵入センサー（オートアラーム）	65
-----------------	----

す

水温計	73
-----	----

スイッチ	
------	--

EV ドライブモード	166
------------	-----

LTA（レントレーシングアラート）	219
-------------------	-----

ODO TRIP	79
----------	----

TRC OFF	293
---------	-----

VSC OFF	294
---------	-----

アダプティブハイビームシステム	185	レーダークルーズコントロール	236, 238
イグニッション	162	ワイパー	191, 195
インストルメントパネル照度調整	79	スタック	457
ウインドウロック	141	ステアリングアシstedビーカルスタ	
ウインドシールドアイサー	311	ビリティコントロール (S-VSC)	292
ウォッシャー	191, 195	ステアリングヒーター	315
運転席ポジションメモリー	145	ステアリングホイール (ハンドル)	134
ASC (アクティブサウンドコントロール)		位置調整	134
スイッチ	179	運転席ポジションメモリー	145
オートマチックハイビーム	187	ステアリングヒーター	315
クルーズコントロール	245	パワーアクセスシステム	145
シート調整	129, 130	メーター操作スイッチ	86
シートヒーター	315, 316	ストップランプ (制動灯)	
シートベンチレーター	315, 316	緊急ブレーキシグナル	293
シートポジションメモリー	145	電球 (バルブ) の交換	391
車間距離切りかえ (レーダークルーズコ		スノータイヤ (冬用タイヤ)	301
トール)	238	スピードメーター	73
侵入センサー OFF	65	スペアタイヤ (応急用タイヤ)	436
ステアリングヒーター	315, 316	空気圧	371, 464
ドアミラー	136	交換方法	436
ドアロック	106	スペック (車両仕様)	460
ドライブモードセレクト	290	スマートエントリー＆スタートシステム	123
パーキングブレーキ	175	アンテナの位置	123
ハザードランプ	397	カスタマイズ設定	465
パドルシフト	172, 173	緊急始動機能	444
パワーウィンドウ	139	作動範囲	124
パワースイッチ	162	節電機能	124
ハンドルの位置調整	134	電波がおよぼす影響について	128
非常点滅灯 (ハザードランプ)	397	ドアの解錠・施錠	103, 110
VSC OFF	293	ハイブリッドシステムの始動	162
フォグランプ	190	バックドアの施錠・解錠	103
ブレーキホールドスイッチ	177	スモールランプ (車幅灯)	181
方向指示レバー	174	電球 (バルブ) の交換	391
ホーン (警音器)	134	ランプスイッチ	181
ムーンルーフ	142	スリップ表示灯	293
メーター操作	86		
ランプ	181		
リヤウインドウデフォッガー	308		

せ

清掃	360, 364
アルミホイール	361
外装	360
シートベルト	364
内装	364
レーダー	204
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	293
電球（バルブ）の交換	391
セカンダリーコリジョンブレーキ	293
積算距離計（オドメーター）	79
セキュリティインジケーター	62, 63
接近警報（レーダークルーズコントロール）	241
先行車発進告知機能	231
センサー	
LTA（レントレーシングアラート）	217
インナーミラー	135
雨滴感知センサー	192
キックセンサー	114
後側方レーダー	203
侵入センサー	65
前側方レーダー	203
前方カメラ	203
前方レーダー	203
ライトセンサー	182
レーダーセンサー	257
洗車	360
前照灯（ヘッドランプ）	181
オートレベリングシステム	183
電球（バルブ）の交換	391
ライトセンサー	182
ランプ消し忘れ防止機能	182
ランプスイッチ	181

そ

走行時間	89
走行情報表示	86
走行モード（ドライブモード）	290
送信機（タイヤ空気圧警報システム）	373
速度計（スピードメーター）	73

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	174
電球（バルブ）の交換	391, 392
方向指示レバー	174
ワット数	464
タイヤ	371
応急用タイヤ	436
空気圧	381, 464
空気圧警告灯	407
交換	436
チエーン	301
点検	371
パンクしたときは	423, 436, 442
パンク応急修理キット	423
冬用タイヤ	301
ホイールサイズ	464
ランフラットタイヤ	442
ローテーション（位置交換）	372
タイヤが空まわりする（スタックした）	457
タイヤ空気圧	
警告灯	407
タイヤ空気圧警報システム	
IDコードの切り替え	380
IDコードの登録	378
機能について	373
空気圧バルブ／送信機について	375
空気圧表示画面	373

警告灯	407
タイヤ位置の登録	375
タイヤ空気圧の設定	376
タイヤチェーン	301
タコメーター	73
REV インジケーター	76
REV ピーク	77

ち

チーン (タイヤチェーン)	301
チャイルドシート	40
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	51
シートベルトでの固定	49
選択方法	40
チャイルドプロテクター	107
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	175
警告灯	408
警告メッセージ	176
操作	175
冬季の注意	301
未解除走行時警告ブザー	176

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール	242
ツール (工具)	325, 425, 436

て

提案サービス機能	92
ディスプレイ	
センターディスプレイ	86
ヘッドアップディスプレイ	82, 86
マルチインフォメーションディスプレイ	80, 86
デイタイムランニングランプ	182

手入れ	360, 364
アルミホイール	361
外装	360
シートベルト	364
内装	364
レーダー	204
テールランプ (尾灯)	181
電球 (バルブ) の交換	391
ランプスイッチ	181
デジタルキー	100
デッキアンダートレイ	325
デッキフック (荷物固定用フック)	324
デッキボード	326
デフォッガー (リヤウインドウデフォッガー)	308
電気モーター	53, 57
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	391
ワット数	464
点検基準値 (メンテナンスデータ)	460
電子キー	96
作動範囲	124
正常に働かないとき	446
節電機能	124
電池が切れた	446
電池交換	387
電池交換 (キー)	387

と

ドア	103
オートドアロック・アンロック機能	107
降車オートロック機能	103
衝撃感知ドアロック解除システム	105
スマートエントリー＆スタートシステム	123
ドアガラス	139
ドアロックスイッチ	106

ドアロックボタン	106
バックドア	108
ワイヤレスリモコン	103

ドアミラー

BSM（ブラインドスポットモニター）	256
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	
安心降車アシスト	263
格納のしかた	137
操作	136
ミラーヒーター	308
リバース連動機能	137

盗難防止装置

イモビライザーシステム	62
オートアラーム	63
時計	73
トップテザーアンカレッジ	52
トノカバー	328
ドライバー異常時対応システム	248
ドライビングポジションメモリー	

ポジションメモリー	145
メモリーコール機能	147

ドライブスタートコントロール

急発進の抑制制御	159
後退速度の抑制制御	160

ドライブモードセレクトスイッチ

290

トラクションコントロール (TRC)

292

トランスマッision

168	
シフトダウン制限警告ブザー	173
操作	168
パドルシフトスイッチ	172, 173
メンテナンスデータ	462

トリップメーター

79

な

内装

収納装備	321
手入れ	364

ナビゲーションシステム連携表示	82, 88
-----------------	--------

に

ニーエアバッグ	32
---------	----

荷物

積むときの注意	160
テツキフツク	324
荷室内装備	324

ぬ

ぬかるみにはまつた（スタック）	457
-----------------	-----

ね

燃費

瞬間燃費	87, 91
燃費情報	87
平均燃費	87, 91

燃料

給油	197
種類	460
燃料計	73
燃料残量警告灯	409
容量	460

燃料計

73

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	283
-----------------------	-----

パーキングサポートブレーキ（静止物）	281
--------------------	-----

パーキングブレーキ

警告灯	408
警告メッセージ	176
操作	175
冬季の注意	301
未解除走行時警告ブザー	176

パーソナルランプ	318	スイッチ	397
排気ガス	38	電球 (バルブ) の交換	391
ハイビーム (ヘッドラム)	181	挟み込み防止機能	
AHS (アダプティブハイビームシステム)		パワーウィンドウ	139
.....	184	パワーバックドア	118
オートマチックハイビーム	187	フロントシート	129
電球 (バルブ) の交換	391	ムーンルーフ	142
ランプスイッチ	181	発炎筒	397
ハイブリッドシステム	53	バックアップランプ (後退灯)	
EV ドライブモード	166	電球 (バルブ) の交換	391
運転のアドバイス	299	バックドア	108
オーバーヒート	453	イージークローザー	116
回生ブレーキ	54	キックセンサー	114
ガス欠になったとき	58	バックドアハンドル	110
緊急始動機能	444	ハンズフリーパワーバックドア	114
緊急時の停止方法	398	バッテリー (駆動用電池)	
緊急停止システム	60	充電について	54
駆動用電池冷却用吸入口	60, 384	搭載位置	57
警告メッセージ	60	冷却用吸入口	60, 384
高電圧部位	57	バッテリー (補機バッテリー)	
サービスプラグ	57	警告灯	406
先読みエコドライブ	55	搭載位置	367
事故が発生したとき	58	補機バッテリーがあがつた	448
始動できないときは	443	補機バッテリーを交換するとき	451
始動方法	162	パドルシフトスイッチ	172, 173
車両接近通報装置	55	バニティ (化粧用) ミラー	331
充電	54	バニティミラーランプ	
注意	57	装備について	331
特徴	53	ワット数	464
特有の音と振動	55	バルブ (電球)	
パワー (イグニッション) スイッチ	162	交換要領 (外装のバルブ)	391
補機バッテリーがあがつた	448	ワット数	464
メンテナンス・修理・廃車するとき	55	パワーイージーアクセスシステム	145
ハイブリッドシステムインジケーター		パワーウィンドウ	139
.....	77, 85	ウインドウロックスイッチ	141
ハイマウントストップランプ		閉めることができないときは	139
電球 (バルブ) の交換	391	初期化	139
ハザードランプ (非常点滅灯)		操作	139

ドアロック連動ドアガラス開閉機能	140	ステアリングヒーター	315
挟み込み防止機能	139	前方カメラ	205
巻き込み防止	139	ミラーヒーター	308
パワーコントロールユニット	57	非常時給電システム	349
パワースイッチ（イグニッションスイッチ）	162	非常点滅灯（ハザードランプ）	
パワースイッチ		スイッチ	397
自動電源OFF機能	165	電球（バルブ）の交換	391
車両を緊急停止するには	398	ワット数	464
モードの切りかえ	165	尾灯（テールランプ）	181
パワーステアリング	292	電球（バルブ）の交換	391
警告灯	408	ランプスイッチ	181
パンクした	442	ヒューズ	389
応急用タイヤ装着車	436	表示灯	70
タイヤ空気圧警告灯	407	日よけ（サンバイザー）	331
タイヤパンク応急修理キット装着車	423	ヒルスタートアシストコントロール	292
番号灯（ライセンスプレートランプ）			
電球（バルブ）の交換	391		
ランプスイッチ	181		
ハンズフリーパワーバックドア	113, 114		
ハンドル（ステアリングホイール）			
位置調整	134	ブースターケーブルのつなぎ方	448
運転席ポジションメモリー	145	フォグランプ	
ステアリングヒーター	315	スイッチ	181
パワーイージーアクセスシステム	145	電球（バルブ）の交換	391
メーター操作スイッチ	86		
		ブザー	
		休憩提案機能（LDA）	222
		クリアランスソナー	271
		シフトダウン制限	173
		車線逸脱警報機能（LDA）	221
		衝突警報（PCS）	208
		スマートエントリー＆スタートシステム	
		接近警報（レーダークルーズコントロール）	124
ピークルスタビリティコントロール（VSC）	292	手放し運転警告（LDA）	223
PKSB（パーキングサポートブレーキ）		手放し運転警告（PDA）	230
後方接近車両	283	パーキングブレーキ未解除走行時警告	176
静止物	281	発進遅れ告知機能	231
ヒーター		半ドア	105
エアコン・デフォッガー	307	半ドア走行	107
シートヒーター	315	窓開警告	140

ムーンルーフ開警告	143	シートベンチレーター	315
フック		シートポジションメモリー	145
買い物物フック	324	正しい運転姿勢	27
けん引フック	403	調整	129
コートフック	341	手入れ	364
デッキフック	324	パワーイージーアクセスシステム	145
フロアマット固定フック	26	ヘッドレスト	131
フューエルメーター	73	メモリーコール機能	147
フューエルリッド（給油口）		フロントフォグランプ	
給油扉が開かない	445	スイッチ	190
給油のしかた	197	電球（バルブ）の交換	391
冬の前の準備（寒冷時の運転）	301	フロント方向指示灯	174
冬用タイヤ	301	電球（バルブ）の交換	391, 392
ブラインドスポットモニター（BSM）		方向指示レバー	174
	256	ワット数	464
プラスサポート	285		
プリクラッシュセーフティ（PCS）			
機能	208	ヘッドランプ	
PCS警告灯	410	平均車速	89
ブレーキ		平均燃費	87, 91
回生ブレーキ	54	ヘッドアップディスプレイ	82
緊急ブレーキシグナル	293	設定	84
警告灯	406, 407	走行状況表示	82
パーキングブレーキ	175	ナビゲーションシステム連携	82
ブレーキホールド	177	ハイブリッドシステムインジケーター	85
メンテナンスデータ	463	ヘッドランプアシスト	
ブレーキアシスト	292	クリーナー	191
機能	292	電球（バルブ）の交換	391
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる		ライトセンサー	182
	157	ランプ消し忘れ防止機能	182
ブレーキフルード	463	ランプスイッチ	181
ブレーキホールド	177	ヘッドランプオートレベリングシステム	
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）	226		183
フロアマット	26	ヘッドレスト	131
フロントシート		ベンチレーター（シートベンチレーター）	315
運転席ポジションメモリー	145		
シートヒーター	315		



ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	436
メンテナンスデータ	464
ホイールナットレンチ	425, 436
方向指示灯	174
電球 (バルブ) の交換	391, 392
方向指示レバー	174
ワット数	464
ホーン (警音器)	134
補機バッテリー	
交換するとき	451
搭載位置	367
補機バッテリーがあがつた	448
保証	10
ボトルホルダー	323
ボンネット	367
開け方	367
警告メッセージ	107

ま

マイセッティング	150
マルチインフォメーションディスプレイ	80
EV 走行比率	87
運転支援システム情報	88
オーディオシステム連携	89
警告メッセージ	415
始動後走行時間	87
走行情報表示	86
タイヤ空気圧	373
提案サービス機能	92
ドライブインフォメーション	89
ナビゲーションシステム連携	88
燃費グラフ	87
メーター操作スイッチ	86

み

ミラー	
アウターミラー	136
インナーミラー	135
ドアミラー	136
バニティミラー	331
ミラーヒーター	308

む

ムーンルーフ	
初期化	143
操作	142
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能	142
挟み込み防止機能	142

め

メーター (計器類)	73
計器類	73
照度調整	79
時計	73
ハイブリッドシステムインジケーター	77
マルチインフォメーションディスプレイ	80
メーター	
警告灯	406
警告メッセージ	415
表示灯	70
メーター操作スイッチ	86
メカニカルキー	99
メモリーコール機能	147
メンテナンスデータ	460

も

モーター (電気モーター)	57
モーターでの走行 (EV ドライブモード)	166

Φ

ユーザーカスタマイズ機能	465
雪道ですべって動けない（スタックした）	457
油脂類	460

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	181
電球（バルブ）の交換	391
ランプスイッチ	181
ラゲージフック	324
ラジエーター	
オーバーヒート	453
メンテナンスデータ	462
ランプ	

AHS（アダプティブハイビームシステム）	184
インテリアランプ	318
オートマチックハイビーム	187
コーナリングランプ	183
室内灯	318
電球（バルブ）の交換	391
非常点滅灯（ハザードランプ）	397
フロントフォグランプ	190
ヘッドライト（前照灯）	181
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ワインカー）	174
ライトセンサー	182
ランプ消し忘れ防止機能	182
リヤフォグランプ	190
ワット数	464
ランプ消し忘れ防止機能	182
ランフラットタイヤ	373, 442

り

リバース運動機能	137
リヤアームレスト	340
リヤウインドウデフォッガースイッチ	308
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	273
リヤシート	130
リヤ席シートベルト非着用警告灯	409
リヤフォグランプ	
スイッチ	190
電球（バルブ）の交換	391
リヤ方向指示灯	174
電球（バルブ）の交換	391
方向指示レバー	174

る

ルームミラー（インナーミラー）	135
-----------------	-----

れ

冷却水	462
冬の前の準備	301
メンテナンスデータ	462
冷却装置（ラジエーター）	462
オーバーヒート	453
メンテナンスデータ	462
レーダークルーズコントロール	236
接近警報	241
レーダー	203
レーンディバイチャーアラート（LDA）	221
レクサスクライメイトコンシェルジュ	306
レバー	
シフト	168
方向指示	174

ポンネット解除	367
ロック（ドア）	103

ろ

ロードサインアシスト（RSA）	233
ロック	

ウインドウロック	141
スマートエントリー＆スタートシステム	
チャイルドプロテクター	107
ドア	103
バックドア	108
ワイヤレスリモコン	99

わ

ワイパー＆ウォッシャー	
ウォッシャー液の補充	370
フロント	191
リヤ	195
ワイパー停止位置の切りかえ	193
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）	333
ワイヤレスリモコン	99
作動の合図	105
操作	99
電池の交換	387
半ドア警告ブザー	105
ワックス	360
ワット数	464

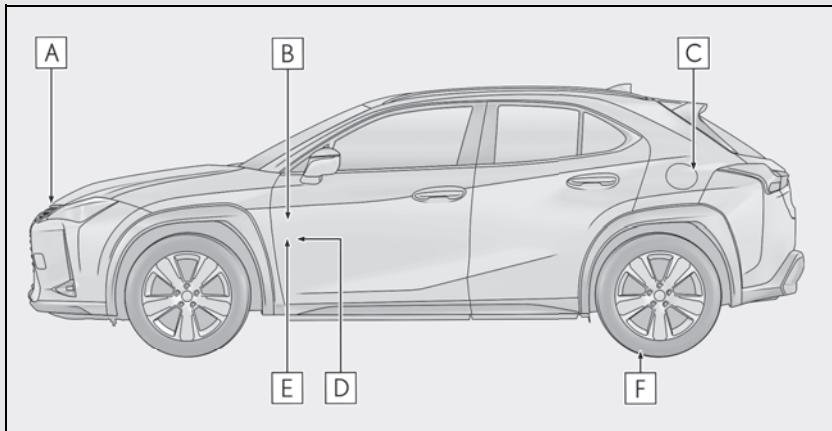
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声対話サービス
- ・ハンズフリー
- ・G-Link
- ・ETC2.0 システム
- ・ドライブレコーダー

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・バックガイドモニター

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.367)
- B** パワーバックドアスイッチ★ (→P.112)
- C** 給油口 (→P.198)
- D** ボンネット解除レバー (→P.367)
- E** 給油口オープナースイッチ (→P.198)
- F** タイヤ空気圧 (→P.464)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料の容量 (参考値)	43L
燃料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン (レギュラー) ※ <p>※ エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン (酸素含有率 3.7% 以下) を使用することができます。 P.460</p>
タイヤが冷えているときの空気圧	P.464
エンジンオイル容量 (参考値)	P.460
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル P.460

「個人情報保護方針」については、<https://lexus.jp> にて掲載しております。

イJ-7



Publication No. M76740
Part No. 01999-76740
Printed in Japan 01-2512 C
UX300h